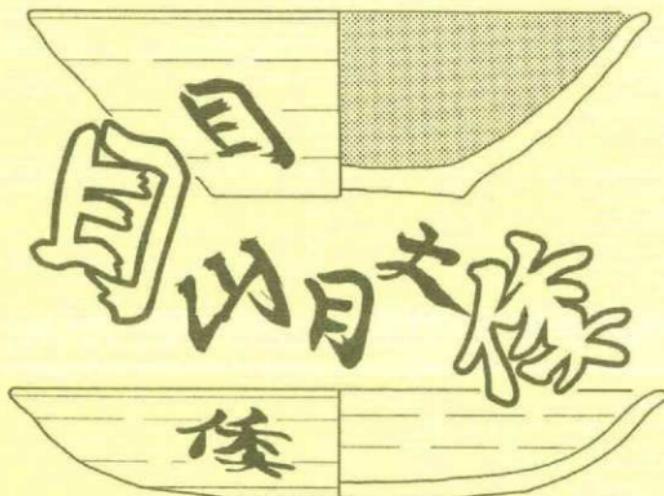


梅之木遺跡Ⅱ

県営畑地帯総合整備事業にともなう
縄文時代・弥生時代・平安時代遺跡の発掘調査報告



2003

山梨県明野村教育委員会
峡北地域振興局農務部

梅之木遺跡Ⅱ

県営畠地帯総合整備事業にともなう
縄文時代・弥生時代・平安時代遺跡の発掘調査報告

2003

山梨県明野村教育委員会
峡北地域振興局農務部

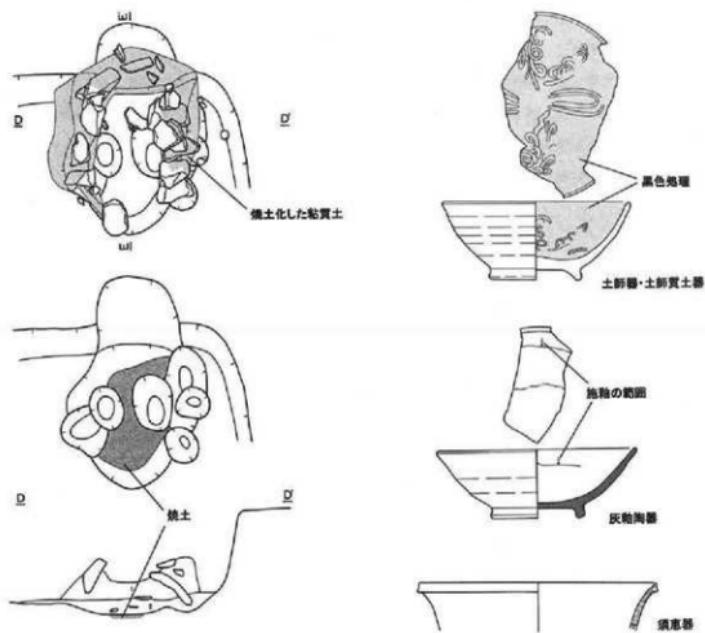
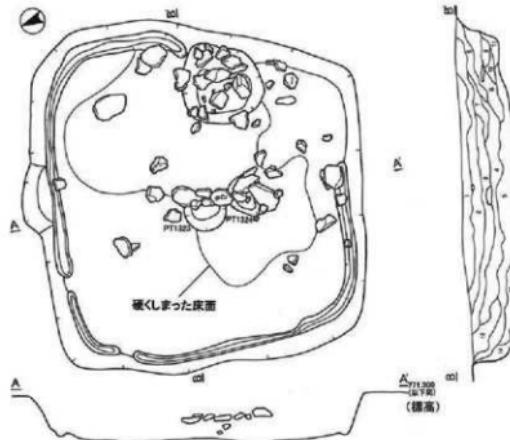
例　　言

- 1 本書は、山梨県北巨摩郡明野村浅尾字梅之木に所在した梅之木遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 本遺跡の現地発掘調査は、平成14年5月14日に着手し、同年9月24日に完了した。
- 3 発掘調査は、明野地区県営畠地帯総合整備事業梅之木工区の施工にともない実施した。事業主体は、山梨県
県北地域振興局農務部である。
- 4 発掘調査は、明野村教育委員会が直管で実施した。調査組織は下記のとおりである。

調査主体 明野村教育委員会教育長 深澤昌仁
調査担当 明野村教育委員会文化財課委員 大山祐吉
調査事務局 明野村教育委員会文化財担当
- 5 本書の執筆、編集は大山があつた。ただし、第6章第3節は原正人氏（駿台甲府中学校教諭、山梨郷土研究会会員）にご執筆いただいた。
- 6 本文中の註は各章末に、参考文献は巻末に掲示した。
- 7 本遺跡の出土品および調査に係る諸記録は明野村教育委員会が保管している。
- 8 本遺跡の調査および報告書作成に際し、次の方々にご指導、ご教示を賜った。記して感謝したい。（五十音順、敬称略）
宇佐美哲也（狹江市教育委員会）、岡安雅彦（安城市教育委員会）、永嶋正春（国立歴史民俗博物館）、保坂
康夫（山梨県埋蔵文化財センター）、平野修（山梨文化財研究所）
- 9 調査参加者（五十音順、敬称略）
秋山高之助、井手研二、井手正美、伊東加代子、伊東典雄、井上町子、長川あい子、小尾嘉子、片山和江、
兼松章子、上村ゆきえ、河手舟子、奥石久美、小林ます子、篠原加代子、篠原初美、篠原啓子、清水小春、
清水貞子、清水さゆり、清水ヤス子、新藤すみ江、新藤道恵、鈴木節夫、筒井つや子、仲澤千代美、中島律子、
西川優子、野田俊夫、藤原和美、藤原喜美子、三井啓介、三井つや子、三井民子、三塚テツ子、皆川禮子、
宮川昌彦、向井直子、森本秀頼、守屋敏子、守屋真弓、山下千代子

凡　　例

- 1 報告書中の地図は、国土地理院発行2万5千分の1地形図「若神子」「蓮崎」、山梨県県北地域振興局農務部
「梅之木工区地形現況平面図」、明野村役場地図を用いた。
- 2 平安時代土器の時期は、「宮ノ前遺跡」蓮崎市教育委員会1992年に掲った。
- 3 図版および觀察表中の遺構覆土色および土器胎土色は、「新版標準土色帳」財團法人日本色彩研究所に掲っ
た。
- 4 遺構番号は『梅之木遺跡』明野村教育委員会2001年から引き継いでいる。
- 5 本文および実測図中の略号「PH」は平安時代の竪穴住居、「HO」は掘立柱建物、「PJ」は縄文時代の竪穴
住居、「PT」はピット、「DK」は土坑を意味する。
- 6 図版中の網掛部等の意味するところは以下のとおりである。



本文目次

例言・凡例

第1章 調査に至る経緯	1
第1節 調査に至る経緯と調査区の設定	1
第2節 調査の経緯	1
第3節 遺跡の概要	1
第2章 遺跡周辺の環境	4
第1節 遺跡周辺の地理環境	4
第2節 遺跡周辺の歴史環境	4
第3章 平安時代の遺構と遺物	9
第1節 積穴住居跡と出土遺物	9
第2節 挖立柱建物	19
第3節 土坑と出土遺物	20
第4節 遺構・遺物観察表	21
第5節 120号住居出土土師器付着物の自然科学分析	108
第4章 繩文時代の遺構と遺物	109
第1節 積穴住居跡と出土遺物	109
第2節 その他の遺構と出土遺物	109
第3節 遺構外出土遺物	110
第4節 遺物観察表	110
第5章 弥生時代の遺構と遺物	129
第1節 上坑と出土遺物	129
第2節 遺構外出土遺物	129
第3節 遺物観察表	129
第6章 まとめ	136
第1節 遺構について	136
第2節 遺物について	137
第3節 明野村・梅之木遺跡出土の墨書き器「目」と「後」について(原 正人)	138

表 目 次

第1表 遺跡地名表	6	第3表 挖立柱建物面積・柱間寸法一覧	23
第2表 平安時代住居面積・主軸方向・竈	23	第4表 土坑・ピット一覧	24

第5表 平安時代の土器・土製品一覧	31	品一覧	134
第6表 金属製品一覧	35	第9表 縄文時代・弥生時代の石器・石製品一覧	135
第7表 石器・石製品一覧	35	第10表 墓書・刻書土器一覧	140
第8表 銀文時代・弥生時代・その他の時代の土器・土製品			

図版目次

第1図 土木工事の範囲と調査の範囲	2	104号住居カマド (1/20)	
第2図 調査区位置図	3	および出土遺物 (1/2)	59
第3図 調査範囲と周辺の地形	5	第30図 106号住居 (1/40)	60
第4図 周辺の道路分布図 (1/100,000)	7	第31図 106号住居カマド (1/20)	
第5図 道路全体図	8	255号土坑 (1/20) および出土遺物 (1/2)	61
第6図 96号住居 (1/40)	36	第32図 106号住居出土遺物 (1/2、6 1/4)	62
第7図 96号住居カマド (1/20) 232号土坑 (1/20)		第33図 107a号住居 (1/40)	63
96号住居出土遺物 (1/2、1 1/4)	37	第34図 107a号住居カマド (1/20)	64
第8図 97号住居 (1/40)	38	第35図 107b号住居 (1/40)	
97号住居カマド (1/20)	39	107b号住居カマド (1/20)	65
第10図 97号住居出土遺物 (1/2)		第36図 107号住居出土遺物 (1/2、3-4 8 1/4)	66
および遺物出土状況 (1/20)	40	第37図 108号住居 (1/40)	67
第11図 239号土坑 (1/20) および出土遺物 (1/2)		第38図 108号住居カマド (1/20)	68
97号住居出土遺物 (1/2)	41	第39図 1293号ピット (1/20) および出土遺物 (1/2)	
第12図 97号住居出土遺物 (1/2、2~6 1/4)	42	108号住居出土遺物 (1/2、6~8 1/4)	69
第13図 97号住居出土遺物 (1/2)	43	第40図 108号住居出土遺物 (1/2、1 1/4)	70
第14図 98号住居 (1/40)	44	第41図 109号住居 (1/40)	71
第15図 98号住居カマド (1/20)	45	第42図 109号住居カマド (1/20)	72
第16図 98号住居出土遺物 (1/2、3-5 1/4)	46	第43図 272号土坑 (1/20) および出土遺物 (1/2)	
第17図 98号住居出土遺物 (1/2)	47	109号住居出土遺物 (1/2、9~12-14 1/4)	73
第18図 99号住居 (1/40) および出土遺物 (1/2)	48	第44図 109号住居出土遺物 (1/2)	74
第19図 100号住居 (1/40)		第45図 110号住居 (1/40)	
100号住居カマド (1/20)	49	110号住居カマド (1/20)	75
第20図 100号住居出土遺物 (1/2)	50	第46図 110号住居出土遺物 (1/2、9 1/4)	76
第21図 101号住居 (1/40)	51	第47図 111号住居 (1/40) 112号住居 (1/60)	77
第22図 258号・246号土坑 (1/20)		第48図 112号住居カマド (1/20) 260号土坑 (1/20)	
101号住居出土遺物 (1/2)	52	112号住居出土遺物 (1/2)	78
第23図 102号住居 (1/40)	53	第49図 113号住居 (1/40)	79
第24図 102号住居カマド (1/20)	54	第50図 113号住居カマド (1/20)	
第25図 102号住居出土遺物 (1/2、4~7 1/4)	55	113号住居出土遺物 (1/2)	80
第26図 103号住居 (1/40) 103号住居カマド (1/20)		第51図 113号住居出土遺物 (1/2、3-6 1/4)	81
および出土遺物 (1/2)	56	第52図 114号住居 (1/40)	82
第27図 105号住居 (1/40)	57	第53図 114号住居カマド (1/20)	83
第28図 105号住居出土遺物 (1/20)		第54図 114号住居出土遺物 (1/2)	84
105号住居カマド (1/20)	58	第55図 114号住居出土遺物 (1/2、2-3-12 1/4)	85
第29図 105号住居出土遺物 (1/2、5 1/4)		第56図 114号住居出土遺物 (1/2)	

115号住居 (1/40).....	86	第82図 繩文3号住居 (1/40).....	115
第57図 115号住居カマド (1/20) 270号土坑 (1/20)		第83図 繩文3号住居炉 (1/20) 埋甃 (1/20)	
115号住居出土遺物 (1/2, 1 1/4).....	87	繩文3号住居出土遺物 (1/3).....	116
第58図 116a号住居および116b号住居 (1/40)	88	第84図 繩文3号住居出土遺物 (1/2, 1-2 1/3).....	117
第59図 116b号住居 (1/40)		第85図 繩文3号住居出土遺物 (1/2).....	118
116号住居カマド (1/20).....	89	第86図 繩文3号住居出土遺物 (1/2).....	119
第60図 116b号住居集石部 (1/20)		第87図 繩文3号住居出土遺物 (1/2).....	120
116号住居出土遺物 (1/2)	90	第88図 繩文4号住居 (1/60)	
第61図 116号住居出土遺物 (1/2, 7-8 1/4).....	91	繩文4号住居 (1/20).....	
第62図 117号住居 (1/40).....	92	繩文4号住居出土遺物 (1/2).....	121
第63図 117号住居 (1/40)		第89図 繩文4号住居出土遺物 (1/2).....	122
117号住居カマド (1/20).....	93	第90図 繩文4号住居出土遺物 (1/2).....	123
第64図 117号住居出土遺物 (1/2, 5-6 1/4).....	94	第91図 繩文4号住居出土遺物 (1/2).....	124
第65図 117号住居出土遺物 (1/2)	95	第92図 繩文4号住居出土遺物 (1/2)	
第66図 118号住居 (1/60).....	96	1号坪設土器 (1/20).....	125
第67図 118号住居 (1/60) 297号土坑 (1/20)	97	第93図 230号土坑 (1/20) および出土遺物 (1/2)	
第68図 118号住居カマド (1/20)		1号築石 (1/20).....	126
および出土遺物 (1/4).....	98	第94図 遺構外出土遺物 (1/2, 17~22 1/1)	127
第69図 118号住居出土遺物 (1/2, 6-9 1/4).....	99	第95図 遺構外出土遺物 (1/2, 1-2 1/1).....	128
第70図 118号住居出土遺物 (1/2, 14 1/4).....	100	第96図 315号・318号土坑 (1/40)	
第71図 119号住居 (1/40) および出土遺物 (1/2).....	101	および出土遺物 (1/2)	130
第72図 120号住居 (1/40)	102	第97図 322号土坑 (1/20)	
第73図 120号住居 (1/40) および出土遺物 (1/2).....	103	および出土遺物 (1/2, 1-3-5 1/4)	131
第74図 120号住居 (1/2, 5~10 1/4)	104	第98図 327号土坑 (1/20) および出土遺物 (1/2)	132
第75図 120号住居出土遺物 (1/2)		第99図 遺構外出土遺物 (1/2, 8-13 1/1)	133
121号住居 (1/40)	105	第100図 時期別遺構分布図	141
第76図 挑立柱建物 (1/80)	106	1期 (9世紀第3四半期~9世紀第4四半期)	141
第77図 平安時代の土坑 (1/40, 1 1/2)	107	2期 (9世紀第4四半期~10世紀第1四半期)	141
第78図 繩文1号住居 (1/40) 繩文1号住居炉	111	3期 (10世紀第2四半期~10世紀第3四半期)	141
第79図 繩文1号住居出土遺物 (1/2)	112	第101図 時期別遺構分布図	142
第80図 繩文1号住居出土遺物 (1/2)		4期 (10世紀第3四半期~10世紀第4四半期)	142
繩文2号住居 (1/40)	113	5期 (10世紀末~11世紀前葉)	142
第81図 繩文2号住居カマド (1/20)		墨書き土器出土位置図	142
繩文2号住居出土遺物 (1/20)			
および出土遺物 (1/2)	114		

写真図版目次

写真図版1 梅之木遺跡全景と金ヶ岳	
梅之木遺跡E1・E2区全景	143
写真図版2 96号住居・100号住居 (左下)・97号住居 (右)・97号住居カマド・墨書き土器出土状況 (左下)・腰帶具出土状況 (右上)・完掘 (右下)	
下)	144
写真図版3 98号住居・カマド (右上)・103号住居 (右下)・101号住居・258号土坑遺物出土状況 (右上)・完掘 (右下)	145
写真図版4 102号住居・カマド (左下)・カマド遺物出土	

状況 (右上)・104号住居カマド (右下)・105号住居・カマド (右上)・106号住居 (右下)	上)・302号土坑 (右下)・獨立柱建物 (左上から22号、23号、24a・b号、27号)・PJ1
.....146	炉・土坑群・PJ2150
写真図版 5 107a号住居・カマド (左下)・107b号住居 (右上)・カマド (右下)・108号住居・カマド (左下)・110号住居 (右上)・カマド (右下)	写真図版 9 PJ3 (左上)・PJ4遺物出土状況・弥生時代の土坑 (右上左から315号、318号、322号、327号)・9世紀後半の出土品・9世紀末から10世紀初頭の出土品 (左下)・10世紀前半から後半の出土品 (右上)・10世紀末から11世紀初頭の出土品151
.....147	
写真図版 6 109号住居・カマド (左下)・完掘 (右上)・111号住居 (右下)・112号住居・カマド (左下)・113号住居 (右上)・カマド (右下)148	写真図版 10 120号住居出土土師器内面状況・赤外線写真 (左下)・主な金属製品・押型文土器・縄文時代中期後半の出土品・縄文4号住居出土接合資料 (左下)・同接合資料 (右上)・弥生時代前期の土器152
写真図版 7 114号住居・カマド (左下)・116a号住居 (左上)・116b号住居 (右下)・118号住居・カマド (右上)・117号住居 (右下)149	
写真図版 8 119号住居・120号住居 (左下)・完掘 (右	

第1章 調査に至る経緯

第1節 調査に至る経緯と調査区の設定

梅之木遺跡は、すでに縄文時代の埋蔵文化財包蔵地として周知されていた。そのため山梨県農務部および駒北土地改良事務所（当時）が明野村浅尾字梅之木地内で計画した明野地区県営畑地帯総合整備事業の施工に先立ち、明野村教育委員会では2回の埋蔵文化財所在確認調査を地中レーダー探査と試掘調査を併用して実施した。平成12年10月1日より平成13年3月30日には茅ヶ岳広域農道以西の平安時代集落跡37,600m²を対象に発掘調査が実施された。詳細は「梅之木遺跡！」（明野村教育委員会 2001）を参照されたい。

本書で報告する発掘調査は、明野村教育委員会が駒北地域振興農務部と調査経費負担協定を締結して、平成14年5月14日より9月24日まで、茅ヶ岳広域農道以東の縄文時代および平安時代の集落跡22,500m²を対象に実施された。対象となった発掘調査の調査の区域は、第2図に示した。調査区の設定は、事前の所在確認調査により遺構が分布することが確認された範囲とした。

第2節 調査の経緯

発掘調査は、平成14年5月14日から開始した。事前の所在確認調査において遺構の分布を完全には把握できなかったため、調査区外では試掘溝を設け遺構分布状況の確認を調査区内の車機による表土剥ぎ作業と併行して実施した（第2図）。表土剥ぎと遺構の分布確認の結果、堅穴住居の集中する地域と堅穴住居がまばらで土坑が集中する地域に分かれることが判明した、そこで調査区南側の2つの区域をE1区・北側の2つの区域をE2区とした。遺構の調査は7月2日から開始した、出土遺物の取り上げや遺構全体圖の作成には光波測量機を用いて記録した。9月24日、最後の遺構の撮影と測量をもって調査を完了した。東に隣接する地域では平成15年度に発掘調査が予定されている。

本調査にかかる事務手続きは以下のとおりである。

縄文文化財発掘調査に関する協定書等

事業者・教育委員会二者協議

埋蔵文化財発掘の通知

埋蔵文化財調査者手帳

周辺の埋蔵文化財包蔵地における

土木工事等について

事業者・教育委員会二者協議

事業者・教育委員会二者協議

埋蔵物発見届

埋蔵物保管証

埋蔵物保管証

埋蔵文化財開削終了報告書

平成14年4月1日

平成14年4月23日

平成14年5月9日付駒北農業5第5-5号

平成14年5月24日付明教文免第26号

平成14年6月6日付明教文免第5-60号

平成14年6月25日

平成14年8月12日

平成15年2月17日付明教文免第15号

平成15年2月17日付明教文免第16号

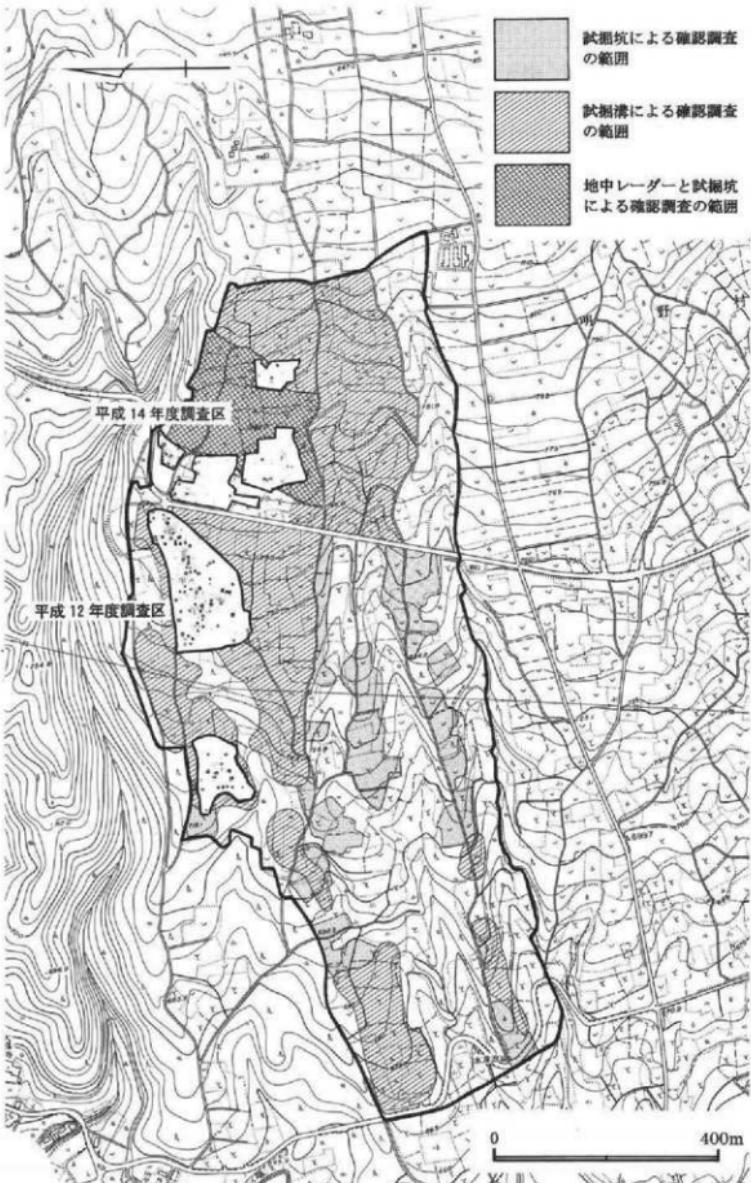
平成15年2月17日付明教文免第17号

平成15年2月17日付明教文免第18号

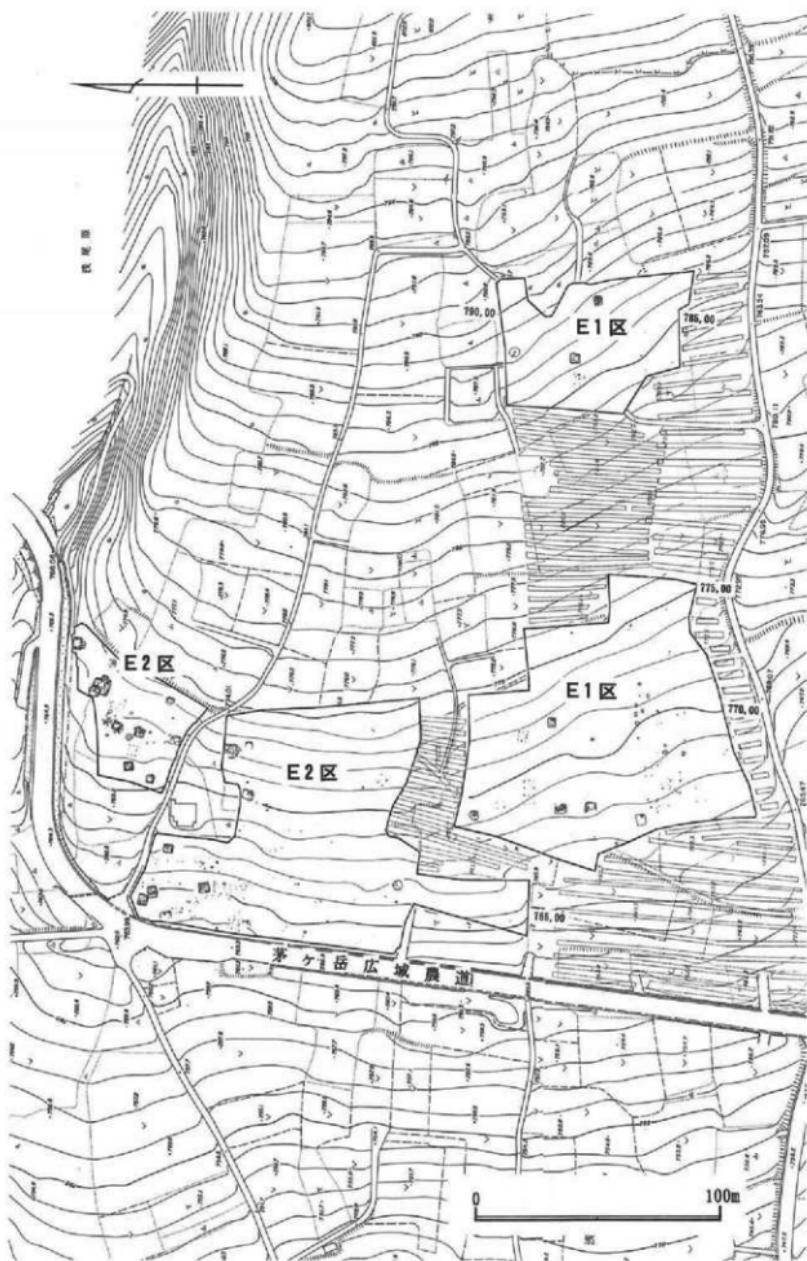
本調査にかかる調査経費の負担は調査経費総額24,000,000円、事業者側負担額20,760,000円、文化財保護部局負担額3,240,000円である。

第3節 遺跡の概要

発掘調査において検出された遺構は、縄文時代の堅穴住居4軒、埋蔵土器1基、集石遺構1基、土坑1基、弥生時代の土坑3基、平安時代の堅穴住居26軒、獨立柱建物7棟、上坑102基、ビット347基である。土坑とビットはその多くが平安時代に属するものと思われる。出土した遺物は、縄文時代の上器、石器、弥生時代の上器、平安時代の土器類、須恵器、灰釉陶器、金属製品、石製品である。本遺跡から出土した土器には「目」、「後」と墨書きされたものがあり県内遺跡での類例がなく特筆される。



第1図 土木工事の範囲と調査の範囲



第2図 調査区位置図 (□は試掘溝)

第2章 遺跡周辺の環境

第1節 遺跡周辺の地理環境

明野村は金ヶ岳と茅ヶ岳の西麓斜面に立地している。北は湯沢川で須玉町に接し、正樂寺川の深い谷と正樂寺川の南の尾根筋により垂崎市穂坂町日之城、三之瀬地区から分けられている。般沢川から正樂寺川までの山麓面積はおよそ22km²で、湯沢川、柳沢川によりさらに分断されている。金ヶ岳と茅ヶ岳の山麓は東に急峻な岩場を形成し亀沢川に落ち込み、西は緩やかな斜面の丘陵地と河岸段丘を形成して塩川に至る。河岸段丘は須玉町仁田平から垂崎市穂坂町にかけてその幅や高さを変えながら南北に延び、丘陵部は岡山に発する小河川や尾根筋に分断され、現在の明野村と垂崎市穂坂町の間で広大な緩斜面を形成している。

遺跡は湯沢川の南に面する尾根筋、標高760mから780m付近に位置する。遺跡周辺の土地利用の現況はほぼ全面が畠地で、荒廃農地にはカヤが茂り湯沢川沿いには松林や雜木林が見られる。

第2節 遺跡周辺の歴史環境

ここでは本遺跡を特徴付ける弥生時代前期と平安時代を中心に歴史環境を概観してみたい。

明野村下内遺跡からは、冉葬墓と思われる壺型土器をともなう上坑1基が検出され、中村道祖神遺跡では水神平式の壺型土器をともなう土坑が検出されている。塙川右岸の旧氾濫原である垂崎市北部の「藤井平」では宮ノ前遺跡から弥生時代前期の水田跡が発見され、稻作が行われていたことが明らかになったとともに明野村下内遺跡出土の冉葬墓との関わりを推測させる遺跡である。八ヶ岳山麓では大泉村寺所遺跡において条痕文土器をともなう土坑が3基検出されている。これらは当時の墓制を解明する上で貴重な資料を提供している。また長坂町御坪遺跡では水神平式土器をともなう竪穴住居が1軒、大泉村金生遺跡では水1式土器および条痕文土器をともなう竪穴住居1軒が検出されている。

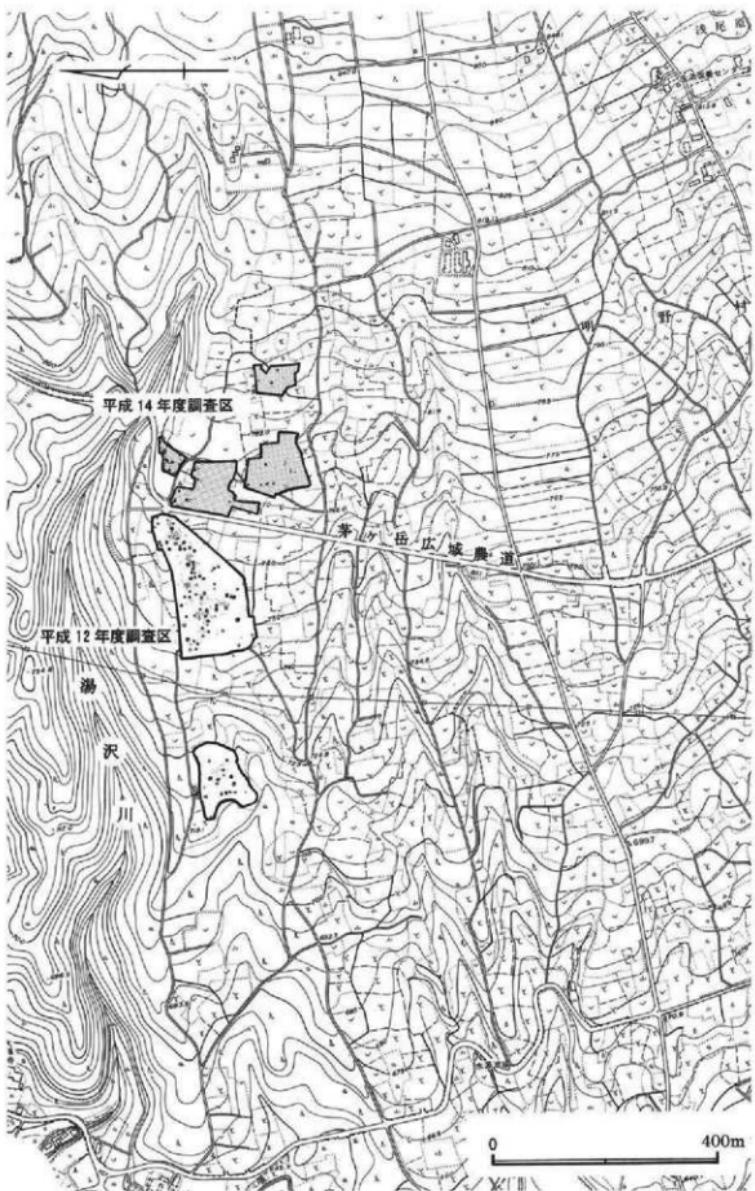
平安時代になると茅ヶ岳山麓の集落遺跡が急増する、本遺跡から北西1kmに位置する明野村古後遺跡では、9世紀後半から10世紀後半にかけての竪穴住居21軒と掘立柱建物2棟が調査されている。西2kmには寺前遺跡がある、9世紀後半から11世紀代の竪穴住居100軒以上と掘立柱建物約20棟が調査されている。本遺跡とともに茅ヶ岳山麓では規模の大きい集落跡で、存続期間も重複するが本遺跡では出土量の少ない灰陶陶器、施釉陶器が多数出土する一方、墨書き土器の出土量においては全く逆の状況であるなど、両者の関連性が注目される。

北東1.5km、標高800mの地点には須玉町上ノ原遺跡がある。9世紀後半から10世紀前半にかけての竪穴住居72軒、掘立柱建物10棟が調査されている。

官衙的性格が強く牧監政跡ともいわれる高根町湯沢遺跡は本遺跡から西へ4kmに位置している。9世紀前半から11世紀までの竪穴住居27軒、掘立柱建物8棟、櫛列4条が検出されている。掘立柱建物は規模が大きくコの字状に配置され、櫛列は中央に門跡をもつていて。

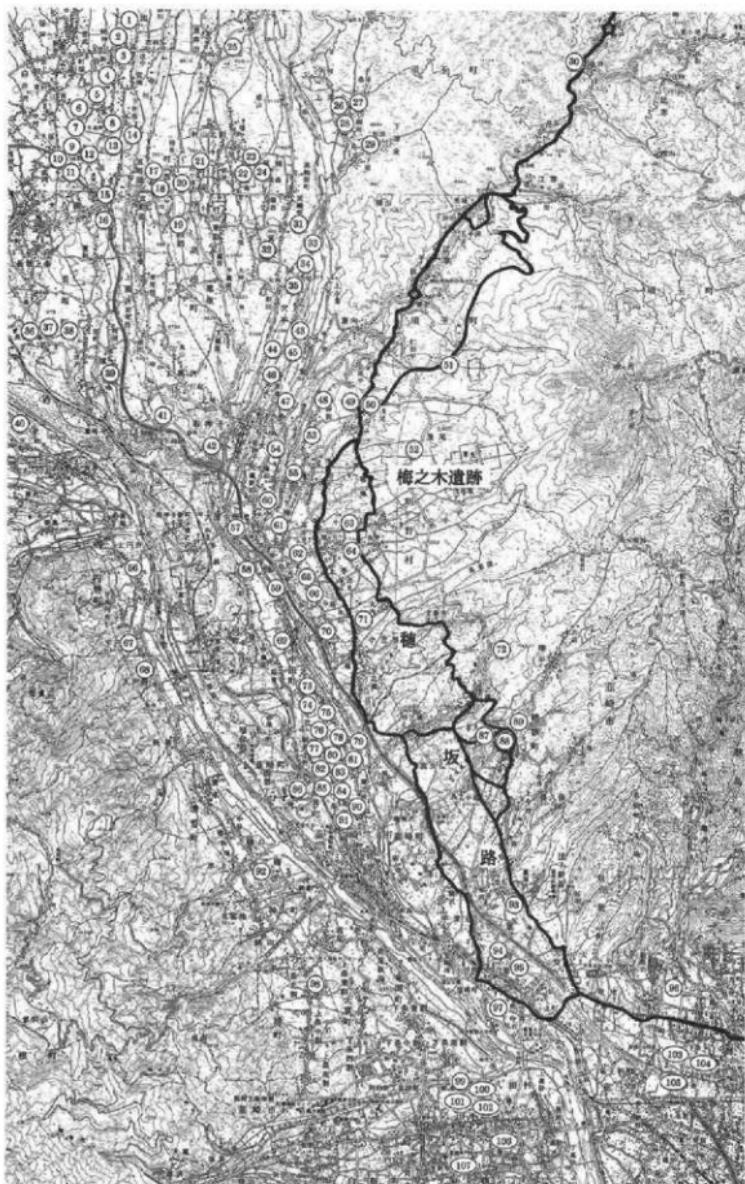
古代の巨麻郡を特徴付けるのが御牧である。八ヶ岳山麓、釜無川右岸、茅ヶ岳山麓に設置された柏前牧、真衣牧、穂坂牧は平安時代のこの地域の開拓と関連付けられるが、武川村官間田遺跡で「牧」と墨書きされた須恵器破片が出土した以外には、牧を具体的に裏付ける資料に乏しい。

茅ヶ岳山麓に置かれた穂坂牧は、貢馬数において最大規模の官牧で、800頭以上の牧馬を飼育していたと推測される。穂坂牧は現垂崎市穂坂町付近が比定されているが、これまでのところ平安時代遺跡の調査に乏しい。

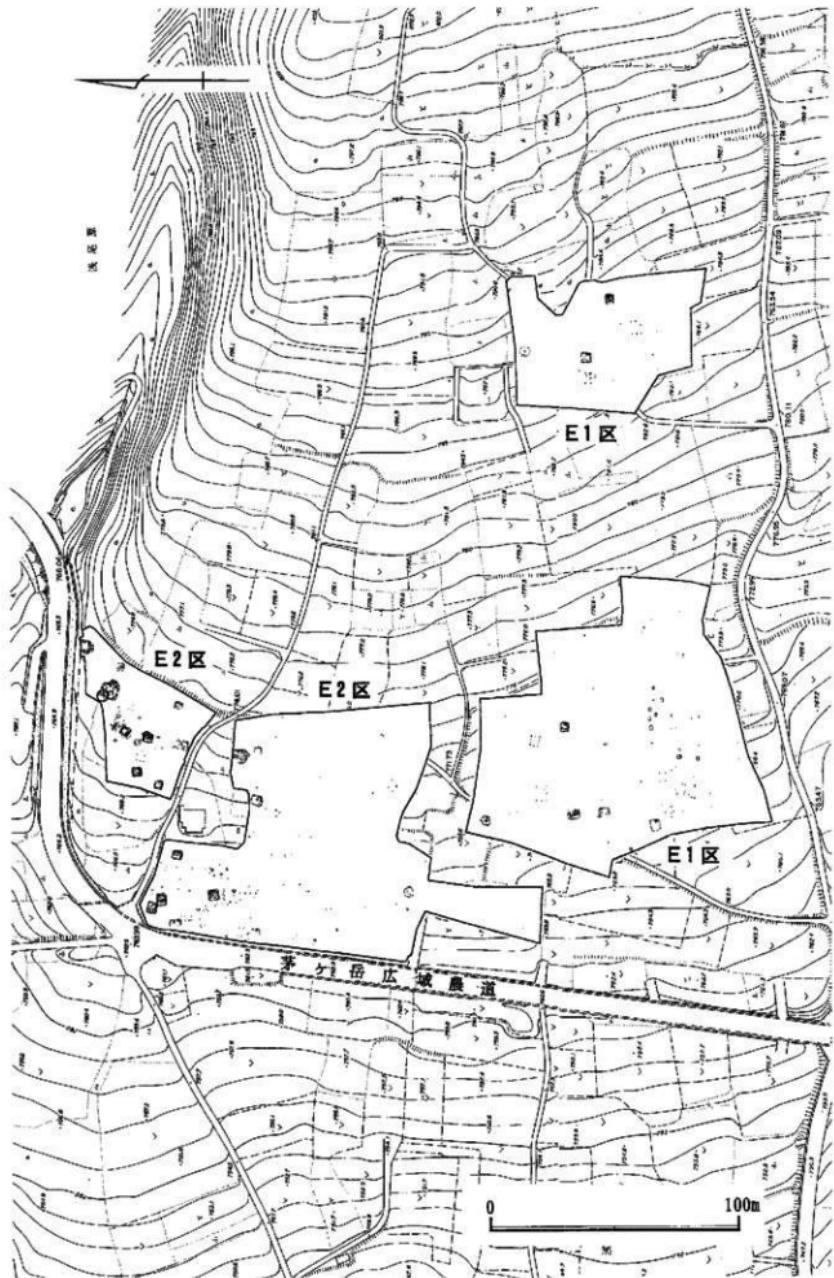


第3図 調査範囲と周辺の地形

第1表 遺跡地名表



第4図 周辺の遺跡分布図 (1/100,000)



第5図 遺跡全体図

第3章 平安時代の遺構と遺物

第1節 壇穴住居跡と出土遺物

本遺跡で検出された平安時代の壇穴住居跡26軒について、以下に報告する。住居床面積は住居実測図の壁下端あるいは周溝の内側でブランメーターを用いて計測した。なお、遺構番号は『梅之木遺跡』(明野村教育委員会 2001)から引き継ぐものとする。

96号住居（第6図、第7図、写真図版2）

位置 E1区東端に位置する。

規模・形態 東西4.0m、南北3.9m、床面積11m²。壇穴は深さ34cmを測る。

カマド 東壁南寄りで焼土と構築材と思われる焼けて硬くしまった粘質土を検出した。また構築材の礫を設置したと思われる小ピットを検出した。原形は留めていない。

施設 硬くしまった床面が住居中央南寄りで検出された。壁沿いで周溝が検出された。住居床面東半分のみに貼り床が認められた。

時期 遺物が少なく断定できないが、宮ノ前VII期、9世紀第3四半期から9世紀第4四半期頃と思われる。

出土遺物 大小保型壺97g、甲斐型甕554g、金属製品3g、繩文土器1,180g。

調査所見 カマド右脇のDK232は床面からの深さは4cmと浅いが甲斐型甕が出土した（第7図1）。貼床は東半分のみ確認できたが、これは住居構築時に緩斜面の影響を受けて東側を掘りすぎたために埋め戻したものと考えられる。

97号住居（第8図～第13図、写真図版2）

位置 E1区東端に位置する。

規模・形態 東西4.0m、南北3.6m、床面積8.8m²。壇穴は深さ72cmを測る。

カマド 東壁南寄りで礫、焼土、掘り込みを検出した。左右の袖石それぞれ2点と支脚石は小ピットにほぼ垂直に立てられており、原位置を留めているが、天井石と思われる平らな細長い石がカマド正面の床面上で検出されるなど、他の石組みは破壊されている。

施設 硬くしまった床面がカマド付近から南壁沿いにかけて検出された。壁沿いで断続的に周溝が検出された。床面下から5基の土坑と2基のピットが検出された。

時期 宮ノ前VII期、9世紀第3四半期から9世紀第4四半期頃と思われる。

出土遺物 甲斐型壺・皿・蓋538g、大小保型壺・皿444g、甲斐型甕4,182g、土師器甕56g、須恵器25g、繩文土器274g、「山」「倭」墨書き土器が床面上で出土している。

調査所見 カマドの真下には床面からの深さ28cmの土坑が検出された。單一の覆土で上層は被熱し焼上化していた。袖石の範囲とほぼ重なる平面位置からカマドにともなう掘り込みと考えられる。床面から検出されたPT1177、DK238はいずれも柱痕は確認されず覆土に焼土が混じる。DK239からは甲斐型甕の破片とともに滑石製の丸輪が出土している。床面下の土坑からの出土である。本遺跡の他の住居と比べて床面下の土坑の数が多い住居である。

98号住居（第14図～第17図、写真図版3）

位置 E1区中央北寄り、23号掘立柱建物の南に位置する。

規模・形態 東西3.8m、南北3.3m、床面積8.6m²。竪穴は深さ62cmを測る。

カマド 東壁南寄りで礫、焼土、掘り込みを検出した。両袖石の跡6点と支脚石は原位置を留めていると思われるが、カマド自体は原形を保っていない。

施設 硬くしまった床面が住居中央から南壁寄りで検出された。周溝が壁沿いで検出された。

時期 宮ノ前VII期、9世紀第3四半期から9世紀第4四半期頃と思われる。

出土遺物 甲斐型坏・皿30g、大小久保型坏・皿279g、土師器坏・皿16g、甲斐型壺1,581g、ロクロ整形壺395g、須恵器21g、繩文土器50g。

調査所見 床面に土坑・ピットの検出されない住居。カマドは袖石と支脚石が原位置を留めるものの構築材として用いられた焼土化した粘質土が袖石周辺に部分的に残るだけであり、天井石と思われる細長い石がカマド覆土上で検出されたことから入為的に破壊されたものと思われる。床面は貼床により構築されている、掘り方は西壁側がより深く掘り込まれている。

99号住居（第18図）

位置 E 1区西端に位置する。

規模・形態 耕作により削平され平而形は確認できなかった。

カマド 焼土と小礫、小ピットを確認した。

施設 カマドの北西に周溝の一部が検出された。

時期 遺物が少なく断定はできないが宮ノ前X期、10世紀第3四半期から10世紀第4四半期頃と推測される。

出土遺物 甲斐型坏・皿135g、土師器壺51g、灰釉陶器22g。

調査所見 壁、床面ともに失われていた。カマドは袖石を設置したと思われる小ピットの他に焚口正面にも細い溝状の掘り込みが検出された。

100号住居（第19図、第20図、写真図版2）

位置 E 1区西端に位置する。

規模・形態 西側約1/3は削平されていた。南北4.3m、床面積は推定15.5m²。竪穴は深さ12cmを測る。

カマド 南東隅で礫、焼土、掘り込みを検出した。原形は留めていない。

施設 硬くしまった床面が住居東壁から中央にかけて検出された。周溝が北壁から東壁にかけて検出された。床面から3基の土坑が検出された。

時期 宮ノ前X期、10世紀第3四半期から10世紀第4四半期頃と思われる。

出土遺物 甲斐型坏・皿272g、大小久保型坏・皿33g、土師器坏・皿88g、土師器壺33g、灰釉陶器91g、繩文土器41g。

調査所見 床面で2基の上坑が検出された、DK234は住居の硬くしまった床面が底面にまで及んでおり、掘り込まれた状態で機能していた施設と考えられる。DK236は住居裏土の観察により裏土上面から掘り込んでいないことを確認したため、住居とともに機能した施設と考えられる。DK235は住居の床面下まで削平されており新旧関係は不明である。カマドは構築材と思われる礫が焼土の周辺で検出されたが、原位置を保つ袖石は検出されなかった。貼床は検出されず地山を床面としている。

101号住居（第21図、第22図、写真図版3）

位置 E 1区西端に位置する。

規模・形態 表上剥ぎ作業時に遺構確認面を見誤り、東壁及び床面の一部を破壊してしまった。南北4.6m、床面積は推定18.5m²。竪穴は深さ20cmを測る。

カマド 表上剥ぎ作業時に破壊してしまったため、南東角付近で焼土を検出するのみであった。

施設 硬くしまった床面が住居中央から南壁にかけて検出された。周溝が壁沿いで検出された。土坑が床面上で2基、床面下で3基検出された。ピットが3基検出された。

時期 宮ノ前X期、10世紀第3四半期から10世紀第4四半期頃と思われる。

出土遺物 甲斐型環・皿301g、灰釉陶器11g、金属製品36g、縄文土器30g。墨書き土器が1点出土している。

調査所見 床面北西部のDK246は上面に床面は見られなかった。中央のDK247は床面上で検出された、PT1260との切り合いは覆土の觀察からDK247がPT1260を切っていると判断した。DK257・263はどちらも床面下で検出された、上面に床面があり覆土は地山と同質の黄褐色土ということから床下土坑と判断した。DK258は覆土中から完形の杯と金属製品2点が出土した、杯は器面に摩滅など食器として使用された痕跡は見られないことから、未使用のまま意図的に埋められたものと考えられる。平面位置がDK247とはほぼ重なることから同一の遺構とも考えられたが全く異質の覆土であることから別の遺構と判断した。床面は貼床により構築されている。掘り方は西側がやや深くなっている。

102号住居（第23図～第25図、写真図版4）

位置 E 1区西北角に位置する。

規模・形態 北壁と床面の一部が重機による攪乱を受けている。東西3.5m、南北3.0m、床面積7.7m²。竪穴は深さ48cmを測る。

カマド 東壁南寄りで礫、焼土、掘り込み、小ピットを検出した。左側の補石が1点のみ直立していたが原位置は保っていない。カマドは原形を留めていない。

施設 硬くしまった床面は検出されなかった。周溝は南壁、西壁沿いの一部と北壁、東壁沿いに検出された。土坑が床面上で1基検出された。ピットが床面上で1基、床面下で1基検出された。

時期 宮ノ前IX期、10世紀第2四半期から10世紀第3四半期頃と思われる。

出土遺物 甲斐型環・皿79g、大小久保型環・皿34g、土師器環・皿168g、甲斐型甕1,341g、縄文土器120g。

調査所見 床面中央のDK271の底面からは甲斐型甕の底部が出土した（第25図8）。PT1296は覆土觀察からDK271に切られていると判断した。カマドは構築材と思われる礫が周辺で出土したが、数が少ないとから多くは住居外へ持ち出されたようである、カマド上面から扁平で大型の礫が2点出土している、カマドを破壊、埋め戻した後に再度天井石を置いたものと思われる。貼床は検出されず地山を床面としている。

103号住居（第26図、写真図版3）

位置 E 2区西端に位置する。

規模・形態 生居西側2/3が削平されている。南北2.9m、床面積は不明。

カマド 東壁南寄りで拳大の礫3点、焼土、構築材の礫を設置したと思われる小ピットを検出した。

施設 硬くしまった床面がカマド正面で検出された。周溝が北東隅、北壁沿いの一部で検出された。南東隅で浅い掘り込みを検出した。

時期 遺物が限られるため推定できない。

出土遺物 大小久保型環・皿19g、甲斐型甕137g、ロクロ整形甕244g。

調査所見 遺構検出時に既に床面が露出し、壁面も失われており、西側2/3は床面下まで削平されていた。カ

マド中央の礫は小ビット内に直立しており、支脚石と考えられるが原位置を保っているとは言い難い。南東隅の掘り込みからはロクロ整形甕が出土した（第26図1）。貼床は検出されず地山を床面としている。

104号住居（第29図、写真図版4）

位置 E2区北西、105号住居の東に位置する。

規模・形態 削平され、カマドのみ残存していた住居のため不明。

カマド 焼土、掘り込み、小ビットを検出。

時期 遺物が限られるため推定できない。

出土遺物 甲斐型壺・皿7g、土師器甕27g、灰釉陶器47g、縄文土器6g。

調査所見 壁も床面も削平され一切残っておらず、カマドのみの検出であった。

105号住居（第27図～第29図、写真図版4）

位置 E2区北西、104号住居の西に位置する。

規模・形態 東西4.1m、南北4.2m、床面積12.8m²。竪穴は最大で深さ48cmを測る。

カマド 東壁南東隅寄りで礫、焼土、焼土化した粘質土、掘り込み、小ビットを検出した。袖石は原位置を保たず、カマドも原形を留めていない。

施設 硬くしまった床面が住居中央からカマド正面にかけて検出された。周溝が北壁から東壁沿いに、南壁から西壁沿いの一部に検出された。土坑が床面下で1基、ビットが床面上で1基、床面下で3基検出した。

時期 宮ノ前X期、10世紀第3四半期から10世紀第4四半期頃と思われる。

出土遺物 甲斐型壺・皿569g、大小久保型壺・皿39g、土師器甕・皿3g、甲斐型甕11g、土師器甕11g、灰釉陶器191g、多孔石1点6,000g。

調査所見 DK249は住居を切る単独の土坑である。住居北西隅のPT1266は周溝の途切れる壁際にあることから出入口施設の可能性もある。北東隅から中央にかけての床面上には、住居全体の覆土とは異質の褐色土が検出された、出入口のスロープとも考えたが、踏み固めたようなしまりではなく、硬くしまった床面がこの褐色土の下にも広がっており、住居の壁土もしくは屋根土が崩落したものと考えられる。またこの褐色土は周溝に切られる検出状況だったが、これは周溝に板材などの構築材が残っている段階で褐色土が崩落したものと推測される。完形の灰釉陶器段皿が東壁北寄りの壁面に貼りつくように出土した。床面は貼床により構築されている。

106号住居（第30図～第32図、写真図版4）

位置 E2区西端に位置する。

規模・形態 西半分は床面下まで削平されている。南北4.4m、床面積は推定17.6m²。竪穴は深さ20cmを測る。

カマド 東壁南東隅寄りで拳大から人頭大の礫、焼土、小ビットを検出した。カマドは原形を留めていない。

施設 残存している床面のほぼ全面にわたって硬くしまった床面が検出された。周溝が北壁沿いに検出された。床面上で土坑が1基、床面下でビットが2基検出された。

時期 宮ノ前X期、10世紀第3四半期から10世紀第4四半期頃と思われる。

出土遺物 甲斐型壺・皿344g、大小久保型壺・皿167g、土師器甕・皿142g、甲斐型甕・鉢708g、灰釉陶器24g、縄文土器90g。墨書き土器が1点出土している。

調査所見 東壁沿いのDK255は焼土の混じる单一の覆土で拳大の礫8点と土師器甕が出土した（第31図1）。床面は貼床により構築されており、非常に硬くなっている。

107号住居（第33図～第36図、写真図版5）

位置 E2区西端、109号住居と重複する。

規模・形態 東西4.4m、南北3.8m、床面積12.7m²。竪穴は最大で深さ60cmを測る。

壁面・周溝を共有する上下2面の床面とカマドが2基検出された。以下上面の新しい住居を107a号住居、下面の古い住居を107b号住居として報告する。

出土遺物 甲斐型壺・皿474g、大小久保型壺・皿96g、土師器壺・皿225g、甲斐型甕2,552g、ロクロ整形甕4g、灰釉陶器29g、繩文土器225g。「十」墨書き土器が出土している。

施設 南壁沿いで2基のピット（PT1269、PT1270）を検出した、出入口施設の可能性もあるが搅乱の底面でかろうじて検出されたものでa、bどちらの住居にともなうものは判断できない。

107a号住居

カマド 西壁南寄りで礎、焼上、掘り込み、小ピットを検出した。カマドは原形を留めていない。

施設 硬くしまった床面が住居北西隅を除く全面で検出された。床面上で土坑が1基、ピットが1基検出された。

時期 宮ノ前VII期、9世紀第3四半期から9世紀第4四半期頃と思われる。

調査所見 西壁南寄りのカマドは拳大の礎が2点の他は、構築材と思われる礎は出土していない。焼土から約5cm程浮いた状態ではばら形の甲斐型皿と甲斐型甕の破片が出土した（36図1、4、8）、これらは支脚石を抜き取ったと思われる小ピットの真上で出土しており、二次焼成をうけていない。以上の2点からカマドを破壊、機能が停止した後に置かれた土器と思われる。

107b号住居

カマド 東壁南寄りで焼土、小ピットを検出した。

施設 硬くしまった床面が住居中央からカマド正面にかけて検出された。床面上のカマド右脇で土坑が1基検出された。床面下で土坑が1基検出された。

時期 遺物が限られ確定できないが、107a号住居と大きな時期差は無く、宮ノ前VII期、9世紀第3四半期から9世紀第4四半期頃と思われる。

調査所見 107a号住居床面で検出されたPT1268を調査したところ、壁面に焼土層が確認された。カマドの存在が想定される位置だったので、107a号住居の調査終了後にさらに掘り下げたところ本住居の床面を検出した。上下床面の比高差は約5cmである。カマド右脇の土坑から「十」墨書き土器が出土した（36図7）、107a号住居裏土から同一個体と思われる土器片が出土している（36図6、9）。

108号住居（第37図～第40図、写真図版5）

位置 E2区北西、107号住居、109号住居の東に位置する。

規模・形態 東西3.4m、南北3.9m、床面積9.3m²。竪穴は深さ52cmを測る。

カマド 東壁南東隅寄りで礎、焼土、掘り込みを検出した。両袖石および支脚石は原位置を保っている。

施設 壁沿いで周溝が検出された。床面下で土坑が4基、ピットが5基検出された。

時期 宮ノ前VII期、9世紀第3四半期から9世紀第4四半期頃と思われる。

出土遺物 甲斐型壺・皿285g、大小久保型壺・皿320g、甲斐型甕1,969g、ロクロ整形甕313g、土師器甕180g、灰釉陶器28g、繩文土器98g。「山」墨書き1点のほか2点の墨書き土器が出土している。

調査所見 カマド左脇床面下で検出されたPT1293から「山」字の墨書きがある甲斐型甕が正位で出土した。カマ

ドは袖石に焼土化した粘質土が付着しているが原形を留めていない。カマド前面では天井石と思われる扁平で細長い礫が狭口をふさぐような状態で出土した。

109号住居（第41図～第44図、写真図版6）

位置 E 2 区西端、107号住居と重複する。

規模・形態 東西4.6m、南北3.7m、床面積14.1m²。竪穴は最大で深さ52cmを測る。

カマド 東壁南寄りで砾、焼土、掘り込み、小ピットを検出した。袖石、支脚石は原位置を保っている。

塗道部が壁の外に大きく張り出す。

施設 硬くしまった床面が西壁からカマド正面にかけて検出された。南壁を除く三方の壁沿いで周溝が検出された。床面上で土坑が1基検出された。床下で土坑が5基、ピットが7基検出された。

時期 宮ノ前Ⅶ期、9世紀第4四半期から10世紀第1四半期頃と思われる。

出土遺物 甲斐型壺・皿262g、大小久保型壺・皿89g、土師器壺・皿70g、甲斐型壺2,338g、ロクロ整形壺138g、土師器壺・羽釜115g、須恵器392g、灰釉陶器54g、繩文土器220g。「乙」墨書き土器が1点出土している。

調査所見 床面で検出されたDK272は出土した甲斐型壺がカマド内から出土した破片と接合しており、住居の廃棄時には開口していたものと思われる。カマド内には人頭大の礫が多く出土したが、カマド解体後に再度積みなおされた構築材と思われる。床面は貼り床によって構築されている。

110号住居（第45図、第46図、写真図版5）

位置 E 2 区中央、104号住居の東に位置する。

規模・形態 東西3.7m、南北4.5m、床面積14.0m²。竪穴は最大で深さ40cmを測る。

カマド 東壁南寄りで拳大の礫、焼土、小ピットを検出した。カマドは原形を留めていない。

施設 壁沿いで部分的に周溝が検出された。床面上で土坑が4基検出された。

時期 宮ノ前Ⅶ期、9世紀第3四半期から9世紀第4四半期頃と思われる。

出土遺物 甲斐型壺・皿95g、大小久保型壺・皿494g、黒色処理耳皿63g、土師器壺・皿5g、甲斐型壺1,828g、須恵器59g、鉄製品3g、鉄滓98g、繩文土器265g。「目」墨書き土器のほか1点の墨書き土器が出土している。

調査所見 大小久保型壺・皿の出土量が多い住居。床面中央で検出されたDK250は上面に床が貼られておらず、底面が硬くしまっており、覆土は住居のものとは異なり10mmの大の焼土が混じっていた。貼床は検出されず地山を床面としている。角釘と思われる鉄製品1点3g、鉄滓4点98gが出土している。

111号住居（第47図、写真図版6）

位置 E 2 区中央、112号住居の南に位置する。

規模・形態 西半分は床面下まで削平されている。南北2.8m。竪穴は最大で深さ40cmを測る。

カマド 検出されなかった。

施設 壁沿いで周溝が検出された。

時期 遺物が限られており不明。

出土遺物 土師器壺40g、繩文土器106g。

調査所見 カマドや柱穴を持たない遺構であり、遺物も少なく時期は不明であるが隅丸方形の平面プランや本遺跡の状況から平安時代の遺構と判断した。

112号住居（第47図、写真図版6）

位置 E 2区中央、111号住居の北に位置する。

規模・形態 東西5.0m、南北5.4m、床面積23.9m²。堅穴は深さ28cmを測る。

カマド 北東隅で窯、焼土、小ピットを検出した。支脚石は原位置を保っているが、原形を留めていない。

施設 硬くしまった床面が住居中央から南西隅にかけて検出された。壁沿いで周溝が部分的に検出された。床面で土坑が2基検出された。東壁際でピットが2基検出された。

時期 慢乱をうけており断定はできないが、宮ノ前Ⅷ期、10世紀末から11世紀前半頃と思われる。

出土遺物 甲斐型壺・皿15g、大小久保型壺・皿1g、土器器皿・皿14g、土器器皿346g、繩文土器330g。

調査所見 小型機による擾乱をうけており、北壁、西壁の全面と南壁の一部が失われている。遺構確認面での擾乱もひどく、セクションベルトによる覆土観察は省略した。床面の一部も擾乱をうけている。東壁際の2基のピット(PT1286、PT1287)は出入口施設と思われる。カマドの位置から調査当初は北側に住居が重複する可能性も考えられたが、重複する住居もなく、カマドの主軸も本住居の中心を向いていることから本遺跡で唯一の北東隅にカマドをもつ住居であると判断した。

113号住居（第49図～第51図、写真図版6）

位置 E 2区中央、114号住居の南に位置する。

規模・形態 東西3.4m、南北3.2m、床面積8.6m²。堅穴は深さ32cmを測る。

カマド 東壁南寄りで窯、焼土、小ピットを検出した。焚口正面に溝状の掘り込みを検出した。右側の袖石1点が原位置を保っていた。

施設 硬くしまった床面がカマド正面以外のはば全面で検出された。壁沿いで周溝が検出された。床面で土坑が1基、ピットが3基検出された。

時期 宮ノ前Ⅷ期、9世紀第3四半期から9世紀第4四半期頃と思われる。

出土遺物 甲斐型壺・皿195g、大小久保型壺・皿184g、甲斐型壺2,305g、ロクロ整形壺47g、灰釉陶器3g、繩文土器252g。

調査所見 北東隅の壁と床面が擾乱をうけている。床面で検出された土坑、ピットは全て南壁沿いに作られている。カマド内では支脚石の上に甲斐型壺、その上に甲斐型壺の底部が覆うように出土した、これらは二次焼成をうけていない。

114号住居（第52図～第56図、写真図版7）

位置 E 2区北部、27号掘立柱建物の西に隣接する。

規模・形態 東西3.6m、南北3.8m、床面積10.1m²。堅穴は深さ40cmを測る。

カマド 東壁南寄りで窯、焼土、掘り込み、小ピットを検出した。焚口正面に溝状の掘り込みを検出した。袖石、支脚石および天井石の一部は原位置を保っていた。

施設 硬くしまった床面がカマド正面から北西隅にかけて検出された。南壁を除く三方の壁沿いに周溝が検出された。床面上で土坑を3基、ピットを1基、床面下で土坑を1基、ピットを6基検出した。

時期 宮ノ前Ⅷ期、9世紀第3四半期から9世紀第4四半期頃と思われる。甲斐型皿は手持ちヘラ削り調整のものが多いが甲斐型壺は内面に暗文をもつものがほとんどである。これらの点から宮ノ前Ⅷ期でも後半段階であると思われる。

出土遺物 甲斐型壺・皿・蓋619g、大小久保型壺・皿583g、甲斐型壺3,477g、ロクロ整形壺82g、土器器皿

21 g、須恵器235 g、灰釉陶器445 g、網文土器416 g、弥生土器41 g。砾石1点108 g、金属製品12 g。「火カ」1点の他に3点の墨書き土器が出土している。

調査所見 北東隅のDK289は上面に貼り床は認められなかったが、上面は硬くしまっていることから床下土坑と判断した。床面は貼り床によって構築されており、掘り方は西側がやや深く掘り込まれている。金属製品の刀子が1点出土している。

115号住居（第56図）

位置 E 2区北側、113号住居の東に位置する。

規模・形態 東壁を除く三方の壁が失われており、面積は不明。竪穴は深さ40cmを測る。

カマド 南西隅部で礫、焼土、小ピットを検出した。構築材と思われる礫は原位置を保っておらず、カマドの破壊後1ヶ所にまとめられているように思われる。

施設 硬くしまった床面がカマド正面から住居中央にかけて検出された。南北それぞれの壁沿いと思われる位置で周溝が検出された。床面上で土坑を1基、東壁沿いの床面上でピットを2基検出した。

時期 遺物が少なく断定できないが宮ノ前VII期～Ⅷ期、9世紀第3四半期から10世紀第1四半期頃と思われる。

出土遺物 甲斐型壺・皿159 g、土師器壺・皿10 g、甲斐型甕・鉢19 g、ロクロ整形甕9 g、網文土器475 g、弥生土器9 g。

調査所見 南北の壁は床面上まで削平されているが床面に周溝が検出されたので範囲を推定することができた。西壁は床面下まで搅乱をうけており範囲を確認することはできなかった。DK270は覆土観察から本住居を切る遺構ではなく住居埋没時には開口していたものと思われる、上面から甲斐型鉢の口縁部が出土している（57図1）。

116号住居（第58図～第61図、写真図版7）

位置 E 2区北側、27号掘立柱建物の東に接続する。

壁面の一部と周溝の一部、カマドを共有する上下2面の床面が2基検出された。以下上面の新しい住居を116a号住居、下面の古い住居を116b号住居として報告する。

カマド 東壁南寄りで礫、焼土、掘り込みを検出した。礫は原位置を保っていない。

出土遺物 甲斐型壺・皿766 g、大小久保壺・皿28 g、土師器壺・皿11 g、甲斐型甕1,322 g、ロクロ整形甕4 g、須恵器366 g、灰釉陶器91 g、鐵滓17 g、網文土器956 g、弥生土器130 g、磨石311 g。墨書き土器が6点、鉄滓が1点出土している。

116a号住居

規模・形態 東西4.3 m、南北4.2 m、床面積10.4 m²。竪穴は深さ64 cmを測る。

施設 硬くしまった床面が北東隅から住居中央にかけて検出された。南東隅を除く壁沿いで周溝が検出された、南壁から西壁にかけての周溝は116b号住居と共有する。床面上でピットが2基検出された。

時期 宮ノ前IX期、10世紀第2四半期から10世紀第3四半期頃と思われる。

調査所見 住居中央の覆土中には同一レベルで隼大から人頭大の礫が南北に並んで出土したが覆土観察からは別遺構の掘り込みは確認されなかった。北壁中央に張り出しを確認した、覆土観察から別遺構とは考えられず、出入口施設と思われるが床面にピットは検出されなかった。116b号住居の床面上に5 cm程の貼床を構築し北壁および東壁の一部を拡張して作られた住居と考えられる。

116 b 号住居

規模・形態 東西3.6m、南北3.6m、床面積9.1m²。堅穴は深さ68cmを測る。

施設 硬くしまった床面は検出されなかった。カマド右脇に浅い掘り込みを持つ20cm大の礫の集中が検出された。南東隅を除く壁沿いで周溝を検出した。床面下で土坑が2基検出された。

時期 遺物が少なく断定はできないが、116 a 号住居と壁面の一部やカマド、周溝を共用することから時期差は想定されず、宮ノ前IX期、10世紀第2四半期から10世紀第3四半期頃と思われる。

調査所見 116 a 号住居の床面を検出したところ、北壁および東壁沿いには貼り床が見られなかった、当初想定施設かとも思われたが5cm程の貼り床を下げたところ、段差に沿って周溝が検出されたことからこれらは抜張前の古い住居の壁面と周溝であることが確認された。カマドや南壁から西壁とその周溝は116 a と共に共有する。

117号住居（第62図～第65図、写真図版7）

位置 E 2区北端、26号掘立柱建物の西に隣接する。

規模・形態 東西3.7m、南北3.8m、床面積10.2m²。堅穴は深さ32cmを測る。

カマド 東壁中央南寄りで焼土、掘り込み、小ピットを検出した。

施設 硬くしまった床面がカマド正面からほぼ全面にわたって検出された。北壁沿いから西壁沿いに周溝が検出された。床面上で土坑が6基、壁面でピットが2基、床面下で土坑が1基、ピットが2基検出された。

時期 宮ノ前VII期、9世紀第3四半期から9世紀第4四半期頃と思われる。

出土遺物 甲斐型壺・皿141g、大小久保型壺・皿35g、甲斐型甕2,594g、ロクロ整形甕407g、土師器甕69g、磨石・円石888g、弥生土器35g、縄文土器1,060g。

調査所見 床面上において焼土と大型の炭化材が出土した。床面が焼上化した部分もわずかながらあるものの、焼失住居と考えるには炭化材の出土量が少なく思われる。壁面で検出された2基のピット(PT1319、1320)は覆土観察から住居の壁面を掘り込んでいることが確認され、本住居の柱穴と思われる。床面で確認されたDK300、DK301はともに焼土粒子を多く含む單一の覆土であった。カマドは袖石や火井石などの礫は全く出土せず、焼上上で甲斐型甕やロクロ整形甕の破片が出土した。これらの土器は二次焼成を受けていない。

118号住居（第66図～第70図、写真図版7）

位置 E 2区北端、26号掘立柱建物の北に隣接する。

規模・形態 東西7.5m、南北6.8m、床面積36.6m²。堅穴は最大で深さ60cmを測る。

カマド 南壁東寄りで礫、焼土、小ピットを検出した。袖石の一部と支脚石は原位置を保っている。支脚石の上には扁平な礫が置かれていた。

施設 硬くしまった床面がカマド正面から「C」字状に検出された。南壁を除いた壁沿いで周溝が検出された。カマド正面と西壁沿いの周溝の内側に溝が検出された。床面上で土坑が5基、ピットが7基、床面下でピットが3基検出された。

時期 宮ノ前VI期、10世紀末から11世紀前葉頃と思われる。

出土遺物 甲斐型壺・皿34g、大小久保型壺・皿4g、土師器壺・皿238g、甲斐型甕57g、土師器甕・羽釜854g、須恵器24g、灰釉陶器50g、金床石9,700g、鉄製品92g、鉄鋤2,144g、弥生土器14g、縄文土器2,514g。

調査所見 東壁中央北寄りから南壁に張り出しをもつ住居であり、覆土観察やカマド正面と西壁内側の溝が咽、深さとともに周溝とは異なる点などから重複の可能性は考えられない。張り出し部床面で検出された2基の土坑はともに床が貼られ、また底面が硬くしまっていることから開口した状態で機能し、機能停止後に埋め戻さ

れたものと思われる。床面で検出されたピットのうちの5基(PT1330、PT1332、PT1335、PT1338、PT1343)は柱穴と考えられる、同様の配列は120号住居でも見られる。カマド正面の溝はカマド主軸とほぼ直交する方向に施されていることからカマドを意識した間仕切り溝と思われる。覆土中から鉄製品3点92gと鉄滓61点2,144gが出土している。カマド左端からは鉄分の付着する平石が床面から5cm上で出土しており(68図)、また鉄滓の付着した土師器片(69図3)が出上している。住居中央の床面は強く被熱してあたかも上器片がはがれるかのようであった。これらの点から平石は金床石であり被熱した床面は鍛冶場と考えられ、本住居は鍛冶遺構であると推測される。壁面が被熱している上流・ピットは見られなかった。

119号住居(第71図、写真図版8)

位置 E2区北側、115号住居の東に位置する。

規模・形態 住居西側約1/3が削平されている。南北3.1m、床面積は推定で7.7m²。豊穴は深さ20cmを測る。カマド 南東隅で焼土、小ピットを検出した。

施設 住居中央で硬くしまった床面を検出した。北壁沿いの一部で周溝を検出した。床面上で土坑を1基、ピットを2基検出した。

時期 遺物が少なく不明。

出土遺物 甲斐型壺・皿1g、甲斐型甕173g、土師器壺107g、鉄滓64g、弥生土器14g、縄文上器485g。鉄滓は3点出土している。

120号住居(第72図～第75図、写真図版8)

位置 E2区北端、118号住居の北東に位置する。

規模・形態 東西の壁の一部と北壁が調査区外に及んでいる。東西5.2m、床面積は推定で21.0m²。豊穴は深さ52cmを測る。

カマド 調査を行った範囲内には検出されなかった。

施設 住居中央で硬くしまった床面を検出した。東壁沿いの一部で周溝を検出した。床面上で土坑を7基、ピットを4基、床面下で土坑を2基検出した。

時期 宮ノ前M期、10世紀末から11世紀前葉頃と思われる。

出土遺物 甲斐型壺・皿15g、土師器壺・皿247g、土器片甕・羽釜2,125g、灰釉陶器42g、鉄滓1,272g、縄文土器3,160g。

調査所見 床面上で焼土と大型の炭化材が出土した。焼失住居とするには炭化材の出土量が少なく思われる。DK302は底面が硬くしまっており、開口した状態で機能していたと思われるが、覆土が被熱していることから途中まで埋め戻された段階でも何らかの機能を持っていたと考えられる。床面上で検出されたピット4基(PT1334、PT1336、PT1337、PT1339)は配列から柱穴と思われるが、同様の配列は118号住居でも見られる。覆土中から鉄滓が42点1,272g出土している。また羽口と思われる土製品が1点出土している(75図1)。これらの点から本住居は鍛冶遺構と考えられ、焼土と炭化材の出土は鍛冶施設にともなうものであると推測される。壁面が被熱している土坑・ピットは見られなかった。覆土中から付着物のある土師器小皿が出土した、永嶋正春氏(国立歴史民俗博物館)により漆紙文書の可能性のご指摘をうけ赤外線撮影による分析を行った。

121号住居(第75図)

位置 E2区北端、118号住居の北に位置する。

規模・形態 南東隅部と床面の一部を除いて削平されている。柱穴は深さ16cmを測る。

カマド 南東隅部の床面で焼土を検出したが、範囲がせまくカマドとは断定できない。

施設 硬くしまった床面を検出した。壁沿いの一部で窓溝を検出した。床面下で土坑を1基検出した。

時期 遺物が少なく不明。

出土遺物 土師器甕130g、縄文上器390g。

第2節 挖立柱建物

本遺跡では掘立柱建物7棟が検出された。柱間寸法は第3表に記載した。建物面積は、四隅の柱穴の中心を結ぶ直線に囲まれる範囲とした。出土遺物を欠くため、その時期は不明であるが、遺跡全体の状況から平安時代に属するものと考えられる。

掘立柱建物は2、3棟がまとまって検出される傾向が認められる。ここに報告する掘立柱建物以外にもビットがまとまって検出された箇所があった。本来はさらに多くの掘立柱建物が存在していたものと考えられる。

22号掘立柱建物（第76図、写真図版8）

位置 E1区東端、97号住居の南西に位置する。

規模 東西2間もしくは3間、南北2間、建物面積19.1m²。

調査所見 南東隅は削平されている。出土遺物がなく、時期は不明である。

23号掘立柱建物（第76図、写真図版8）

位置 E1区中央、98号住居の北に位置する。

規模 東西3間、南北2間、建物面積11.5m²。

調査所見 近傍の掘立柱建物（24a、24b、25号）の柱穴は直径20cm前後であるが本遺構の柱穴は直径30cm前後と比較的大きく、やや異なる印象を受ける。出土遺物がなく、時期は不明である。

24a号掘立柱建物（第76図、写真図版8）

位置 E1区北寄り、101号住居の北東に位置する。

規模 1間四方もしくは東西1間、南北2間、建物面積10.9m²。

調査所見 調査当初は24b号掘立柱建物を含めて1棟の建物と考えたが、柱穴列にわずかながらズレが生ずるので別の建物と判断した。出土遺物がなく、時期は不明である。

24b号掘立柱建物（第76図、写真図版8）

位置 E1区北寄り、101号住居の北に位置する。

規模 1間四方もしくは東西1間、南北2間、建物面積12.8m²。

調査所見 西側のやや外側にはPT1095があるが他の柱穴と直径、断面形状ともに違いが大きいので本遺構からは除外した。出土遺物がなく、時期は不明である。

25号掘立柱建物（第76図、写真図版8）

位置 E1区北寄り、102号住居の南に位置する。

規模 1間四方、建物面積6.3m²。

調査所見 出土遺物がなく、時期は不明である。

26号掘立柱建物（第76図、写真図版8）

位置 E 2 区北側117号住居の東に位置する。

規模 東西 2間以上、南北 2間、耕作によると思われる削平により東半分を失っている。

調査所見 出土遺物がなく、時期は不明である。

27号掘立柱建物（第76図、写真図版8）

位置 E 2 区北寄り、114号住居の東、116号住居の西に位置する。

規模 2間四方、建物面積11.4m²。

調査所見 出土遺物がなく、時期は不明である。

第3節 土坑と出土遺物（第77図）

住居に関連せず単独で検出された土坑29基のうち出土遺物から平安時代の遺構と確認されるものは2基で、ほかに10基が形状や位置などから平安時代に属するものと推測される。これらのうち11基を図示した。

220号土坑

位置 E 1 区西側南寄りに位置する。

規模・形態 長軸1.9m、短軸1.1mの楕円形。深さは12cmを測る。

時期 甲斐型壺・皿の破片が1点出土している。細片のため時期は不明である。

221号土坑

位置 E 1 区西側南寄り、220号土坑の北に位置する。

規模・形態 長軸2.0m、短軸1.3mの楕円形。深さは28cmを測る。

時期 甲斐型壺・皿の破片が2点出土している。細片のため時期は不明である。

222号土坑

位置 E 1 区西側南寄り、221号土坑の東に位置する。

規模・形態 直径0.9mの円形。深さは16cmを測る。

時期 甲斐型壺・皿の破片が2点出土している。細片のため時期は不明である。

223号土坑

位置 E 1 区西側南寄りに位置する。

規模・形態 長軸1.8m、短軸1.3mの楕円形。深さは8cmを測る。

時期 出土遺物がなく、時期は不明である。

224号土坑

位置 E 1 区西側南寄り、DK223の東に位置する。

規模・形態 長軸1.4m、短軸0.8mの楕円形。深さは12cmを測る。

時期 出土遺物がなく、時期は不明である。

225号土坑

位置 E 1 区西側南寄り、DK223の東に位置する。

規模・形態 長軸1.7m、短軸1.1mの楕円形。深さは20cmを測る。

時期 出土遺物がなく、時期は不明である。

226号土坑

位置 E 1 区西側南寄り、DK225の東に位置する。

規模・形態 長軸1.5m、短軸1.0mの楕円形。深さは20cmを測る。

時期 出土遺物がなく、時期は不明である。

227号土坑

位置 E 1 区西側南寄り、224号土坑の南に位置する。

規模・形態 直径0.7mの円形。深さは12cmを測る。

時期 出土遺物がなく、時期は不明である。

228号土坑

位置 E 1 区西側南寄り、227号土坑の東に位置する。

規模・形態 長軸1.7m、短軸1.1mの楕円形。深さは16cmを測る。

時期 出土遺物がなく、時期は不明である。

229号土坑

位置 E 1 区西側南寄り、228号土坑の東に位置する。

規模・形態 直径1.1mの円形。深さは16cmを測る。

時期 出土遺物がなく、時期は不明である。

249号土坑

位置 E 2 区北西、105号住居を切っている。

規模・形態 直径1.0mの円形。深さは90cmを測る。

調査所見 105号住居の検出時には確認できなかったが、住居覆土の掘削途中で確認した。覆土中から無平な蝶と甲斐型环の破片（77図1）が出土した。

時期 宮ノ前X期、10世紀第3四半期から10世紀第4四半期頃と思われる。

第4節 遺構・遺物観察表

第3章第3節までに報告した遺構とその出土遺物の観察所見を報告する。観察表は以下のとおりである。

第2表 住居面積・主軸方向一覧

第3表 振立柱建物面積・柱間寸法一覧

第4表 土坑・ビット一覧

第5表 平安時代の土器・土製品一覧

第6表 金属製品一覧

第7表 石器一覧

【第1類】 第8類より粒度組成がやや粗く、微小な白色粒子（石英、斜長石、カリ長石などの鉱物粒子）が容易に観察できる。赤色粒子（褐鐵鉱の濃集部分）が混じるが第8類ほど目立たない。器面の手ざわりはややざらつく。

【第2類】 第1類よりさらに粒度組成が粗く、径1mm程度の鉱物粒子が多量に混じるのが観察できる。赤色粒子は第8類と同類に混じるかやや少ない。器面の手ざわりは非常にざらつく。内外面のロクロ整形が粗雑で、ナデ痕が明瞭に観察される例が多い。

【第3類】 第2類と同様の胎土質だが、径3mm程度の礫が混じる。赤色粒子は第8類と同程度に混じる。器面のナデ調整は丁寧。ヘラ削りのタイミングが第8類より遅く、自然乾燥がかなり進んだ時点で施しているようである。同時期の第8類と比較して、口径の割に底径が大きく、器高が低い。全体に扁平な印象を与える。非常に密で丁寧に暗文を施している。体部、底部のヘラ削りは第8と同様であるが、底部周縁の輪郭が非常にシャープである。第8類よりも赤みが強い色調。

【第4類】 第8類と同等程度のキメ細かく緻密な胎土だが、微小な白色粒子が容易に観察できる。赤色粒子が混じるが第8類ほど目立たない。径3mmを超える大粒の礫が混じることもある。色調はよい橙色から黒褐色。器壁が厚手な例もある。

【第5類】 第8類より粒度組成が粗い胎土でやや砂っぽい。赤色粒子、微小な白色粒子とともに混じるが、第1類、第2類、第4類ほど目立たない。内外面のロクロ整形が粗雑で、ナデ痕が明瞭に観察される例が多い。色調は黄橙色を示すことが多い。

【第6類】 キメの細かい砂っぽい胎土で、第5類をさらに粗粒にした胎土質である。鉱物粒子は第2類ほど多く混じらない。赤色粒子が混じるが第8類ほど目立たない。整形は粗雑で、ヘラ削りに稚拙な印象を受ける。器壁は厚手で、口縁部の玉縁のつくりも第8類と異なる。体部、底部はヘラ削りを施す。黄橙色か淡い赤褐色の色調。内面を黒色に処理する例もある。

【第7類】 今のところ大小久保遺跡2号住居層のみが確認できた。キメ細かく緻密な胎土だが、微小な鉱物粒子がやや混じる。わずかだが径2mm程度の礫も混じる。器壁は厚手で、口径に対して底径が非常に大きい。底部はヘラ削り。底部周縁直近の体部下半しかヘラ削りしない。したがって体部下半のヘラ削りは非常に中途半端な印象をうける。この種のヘラ削りは大小久保遺跡で散見される。非常に密な暗文を施す。

【第8類】 典型的な甲斐型环・壺の胎土。キメ細かく緻密で、微小な赤色粒子が混じる。

【第9類】 ロクロ整形、底部糸切、内面の黒色処理を特徴とする、信濃の环を模倣したと考えられる。「信州系」と通称される。大小久保遺跡で焼成構造が確認されている。内面はナデ、ヘラ磨きにより調整され、黒色処理されることが多い。底部は回転糸切痕を残し未調整である。径1cm程度の鉱物粒子を多量に含む胎土で、乳白色、黄褐色、赤褐色、黒褐色の色調を示す。

第2表 平安時代住居面積・主軸方向一覧

住居番号	面積(m ²)	主軸方向
96号住居	11.0	N-90°-E
97号住居	8.8	N-89°-E
98号住居	8.6	N-92°-E
99号住居	不明	不明
100号住居	15.5	N-98°-E
101号住居	18.5	N-90°-E
102号住居	7.7	N-91°-E
103号住居	不明	N-84°-E
104号住居	不明	不明
105号住居	12.8	N-85°-E
106号住居	17.6	N-90°-E
107号住居	12.7	N-105°-E
108号住居	9.3	N-100°-E
109号住居	14.1	N-86°-E

住居番号	面積(m ²)	主軸方向
110号住居	14.0	N-109°-E
111号住居	不明	N-94°-E
112号住居	23.9	N-102°-E
113号住居	8.6	N-103°-E
114号住居	10.1	N-86°-E
115号住居	不明	N-96°-E
116a号住居	10.4	N-110°-E
116b号住居	9.1	N-110°-E
117号住居	10.2	N-122°-E
118号住居	36.6	N-112°-E
119号住居	7.7	N-113°-E
120号住居	21.0	N-98°-E
121号住居	不明	不明

第3表 据立柱建物面積・柱間寸法一覧

遺構番号	建物面積	ピット番号	柱間(m)
22号 据立 柱 建 物	不明	PT-1026	1.80
		1025	4.85
		1021	1.85
		1022	1.70
		1031	
	23号 据立 柱 建 物	PT-1112	1.50
		1111	1.50
		1110	1.44
		1119	1.10
		1118	1.30
		1117	1.73
		1116	1.63
		1115	1.10
		1114	1.10
		1113	1.28
		1112	
		1101	3.90
		1100	2.80
24a号 据立 柱 建 物	10.9m ²	1105	3.85
		1105	2.80
		1103	
		1103	2.80
		1101	
	12.8m ²	PT-1096	2.05
		1095	1.95
		1094	3.14
		1099	1.90
		1098	
		1098	1.95
		1097	
		1097	3.30
		1096	

遺構番号	建物面積	ピット番号	柱間(m)
25号 据立 柱 建 物	6.3m ²	PT-1106	2.30
		1107	2.90
		1107	
		1108	2.20
		1109	2.70
		1106	
26号 据立 柱 建 物	11.4m ²	PT-1276	2.05
		1275	
		1275	2.30
		1274	
		1274	2.30
		1273	
		1273	1.80
		1278	
		1278	1.95
		1279	
27号 据立 柱 建 物	11.4m ²	PT-1344	1.50
		1345	
		1345	1.50
		1346	
		1346	2.20
		1347	
		1347	1.50
		1348	
		1348	1.50
		1349	

第4表 土坑・ビット一覧 (単位=cm)

標識番号	原色	濃度	大きさ	位置	備考(遺物など)
P12764	---	---	29	21	97号室内 床面下に露出
P12765	---	---	25	21	97号室内 床面下に露出
P12766	---	---	7	33	102号室内 床面下に露出
P12767	---	---	25×20	19	102号室内 床面下に露出
P12768	---	---	27×25	17	107号室内 床面下に露出
P12769	---	---	16	30	107号室内 床面下に露出
P12770	---	---	16	30	107号室内 床面下に露出
P12771	---	---	8	49	108号室内 床面下に露出
P12772	---	---	20	11	108号室内 床面下に露出
P12773	---	---	16	70	115号室内 床面下に露出
P12774	---	---	16	70	115号室内 床面下に露出
P12775	---	---	31×37	10	126号室内 床面下に露出
P12776	---	---	16	30	126号室内 床面下に露出
P12777	---	---	16	30	126号室内 床面下に露出
P12778	---	---	24	23	26号室内 土器片
P12779	---	---	24	23	26号室内 土器片
P12780	---	---	28	3	28号室内 土器片
P12781	---	---	24	70	103号室内 床面下に露出
P12782	---	---	44	145	105号室内 床面下に露出
P12783	---	---	44	145	105号室内 床面下に露出
P12784	---	---	33	105	105号室内 床面下に露出
P12785	---	---	33	105	105号室内 床面下に露出
P12786	---	---	33	105	105号室内 床面下に露出
P12787	---	---	33	105	105号室内 床面下に露出
P12788	---	---	33	105	105号室内 床面下に露出
P12789	---	---	23	24	28号室内 土器片
P12790	---	---	44	26	103号室内 床面下に露出
P12791	---	---	24	24	28号室内 土器片
P12792	---	---	24	24	28号室内 土器片
P12793	---	---	24×23	23	103号室内 床面下に露出
P12794	---	---	24×23	23	103号室内 床面下に露出
P12795	---	---	24×23	23	103号室内 床面下に露出
P12796	---	---	36×28	14	108号室内 床面下に露出
P12797	---	---	36×28	14	108号室内 床面下に露出
P12798	---	---	36×28	14	108号室内 床面下に露出
P12799	---	---	17×22	9	103号室内 床面下に露出
P12800	---	---	20	7	103号室内 床面下に露出
P12801	---	---	20	7	103号室内 床面下に露出
P12802	---	---	30	40	105号室内 床面下に露出
P12803	---	---	33	13	105号室内 床面下に露出
P12804	---	---	45×33	20	103号室内 床面下に露出
P12805	---	---	39	12	103号室内 床面下に露出
P12806	---	---	31	11	107号室内 床面下に露出
P12807	---	---	43	7	113号室内 床面下に露出
P12808	---	---	33	143	111号室内 床面下に露出
P12809	---	---	33	143	111号室内 床面下に露出
P12810	---	---	30	20	111号室内 床面下に露出
P12811	---	---	30	20	111号室内 床面下に露出
P12812	---	---	28×36	18	111号室内 床面下に露出
P12813	---	---	22	5	E-2
P12814	---	---	19	6	E-2
P12815	---	---	16	19	111号室内 床面下に露出
P12816	---	---	49	4	113号室内 床面下に露出
P12817	---	---	49×41	29	111号室内 床面下に露出
P12818	---	---	65	39	111号室内 床面下に露出
P12819	---	---	65	39	111号室内 床面下に露出
P12820	---	---	20	70	111号室内 床面下に露出
P12821	---	---	18×20	24	112号室内 床面下に露出
P12822	---	---	18×20	24	112号室内 床面下に露出
P12823	---	---	48	9	116号室内 床面下に露出
P12824	---	---	45	8	116号室内 床面下に露出
P12825	---	---	38×22	21	E-2
P12826	---	---	23×18	12	E-2

登録番号	年月日	機種名	位置	機器(属性など)
P1327	10YR 3.5-10YR 4/3-200%	10YR 4/3-200%	26×16	1.5分野門 床面下で搬出
P1328	10YR 3.5-10YR 4/2-200%	10YR 4/2-200%	15	1.8 -2
P1329	10YR 3.5-10YR 4/3-200%	10YR 4/3-200%	21	6 1.8分野門 床面下で搬出
P1330	10YR 3.5-10YR 4/3-200%	10YR 4/3-200%	17	4.8 1.8分野門 床面下で搬出
P1331	10YR 3.5-10YR 3/2-200%	10YR 4/2-200%	20	26 1.8分野門 床面下で搬出
P1332	10YR 3.5-10YR 3/2-200%	10YR 4/2-200%	25	51 1.8分野門 床面下で搬出
P1333	10YR 3.5-10YR 3/2-200%	10YR 4/2-200%	44	1.1 1.8分野門 床面下で搬出
P1334	10YR 3.5-10YR 2-200%	10YR 3.5-200%	42	45 1.2分野門 床面下で搬出
P1335	10YR 3.5-10YR 3-200%	10YR 3.5-200%	19	4.8 1.2分野門 床面下で搬出
P1336	10YR 3.5-10YR 3-200%	10YR 3.5-200%	23	4.8 1.2分野門 床面下で搬出
P1337	10YR 3.5-10YR 3-200%	10YR 3.5-200%	25	4.8 1.2分野門 床面下で搬出
P1338	10YR 3.5-10YR 4/3-200%	10YR 3.5-200%	26	4.8 1.2分野門 床面下で搬出
P1339	10YR 3.5-10YR 4/3-200%	10YR 4/3-200%	26	4.8 1.2分野門 床面下で搬出
P1340	10YR 3.5-10YR 3-200%	10YR 4/2-200%	36	4.7 1.2分野門 床面下で搬出
P1341	10YR 3.5-10YR 3-200%	10YR 4/2-200%	16	9 1.2分野門 床面下で搬出
P1342	10YR 3.5-10YR 3-200%	10YR 4/2-200%	21	17 1.2分野門 床面下で搬出
P1343	10YR 3.5-10YR 3-200%	10YR 4/2-200%	26	14 1.2分野門 床面下で搬出
P1344	10YR 3.5-10YR 4-200%	10YR 4-200%	26	1.8 1.2分野門 床面下で搬出
P1345	10YR 3.5-10YR 4-200%	10YR 4-200%	23	10 1.2分野門 床面下で搬出
P1346	10YR 3.5-10YR 4-200%	10YR 4-200%	10	10 1.2分野門 床面下で搬出
P1347	10YR 3.5-10YR 4-200%	10YR 4-200%	16	17 1.2分野門 床面下で搬出
P1348	10YR 3.5-10YR 4-200%	10YR 4-200%	16	17 1.2分野門 床面下で搬出
P1349	10YR 3.5-10YR 4-200%	10YR 4-200%	19	15 1.2分野門 床面下で搬出
P1350	10YR 3.5-10YR 4-200%	10YR 4-200%	21	17 1.2分野門 床面下で搬出
P1351	10YR 3.5-10YR 4-200%	10YR 4-200%	18	14 1.2分野門 床面下で搬出
P1352	10YR 3.5-10YR 4-200%	10YR 4-200%	18	14 1.2分野門 床面下で搬出
P1353	10YR 3.5-10YR 4-200%	10YR 4-200%	19	14 1.2分野門 床面下で搬出
P1354	10YR 3.5-10YR 4-200%	10YR 4-200%	23	1.1 1.2分野門 床面下で搬出
P1355	10YR 3.5-10YR 4-200%	10YR 4-200%	3.1×27	2.4 1.2分野門 床面下で搬出
P1356	10YR 3.5-10YR 4-200%	10YR 4-200%	3.1×29	2.4 1.2分野門 床面下で搬出
P1357	10YR 3.5-10YR 4-200%	10YR 4-200%	3.1×30	2.4 1.2分野門 床面下で搬出
P1358	10YR 3.5-10YR 4-200%	10YR 4-200%	3.1×31	2.4 1.2分野門 床面下で搬出
P1359	10YR 3.5-10YR 4-200%	10YR 4-200%	3.1×32	2.4 1.2分野門 床面下で搬出
P1360	10YR 3.5-10YR 4-200%	10YR 4-200%	3.1×33	2.4 1.2分野門 床面下で搬出
P1361	10YR 3.5-10YR 4-200%	10YR 4-200%	3.1×34	2.4 1.2分野門 床面下で搬出
P1362	10YR 3.5-10YR 4-200%	10YR 4-200%	3.1×35	2.4 1.2分野門 床面下で搬出
P1363	10YR 3.5-10YR 4-200%	10YR 4-200%	3.1×36	2.4 1.2分野門 床面下で搬出
P1364	10YR 3.5-10YR 4-200%	10YR 4-200%	3.1×37	2.4 1.2分野門 床面下で搬出
P1365	10YR 3.5-10YR 4-200%	10YR 4-200%	3.1×38	2.4 1.2分野門 床面下で搬出
P1366	10YR 3.5-10YR 4-200%	10YR 4-200%	3.1×39	2.4 1.2分野門 床面下で搬出
P1367	10YR 3.5-10YR 4-200%	10YR 4-200%	3.1×40	2.4 1.2分野門 床面下で搬出
P1368	10YR 3.5-10YR 4-200%	10YR 4-200%	3.1×41	2.4 1.2分野門 床面下で搬出
P1369	10YR 3.5-10YR 4-200%	10YR 4-200%	3.1×42	2.4 1.2分野門 床面下で搬出
P1370	10YR 3.5-10YR 4-200%	10YR 4-200%	3.1×43	2.4 1.2分野門 床面下で搬出
P1371	10YR 3.5-10YR 4-200%	10YR 4-200%	3.1×44	2.4 1.2分野門 床面下で搬出
P1372	10YR 3.5-10YR 4-200%	10YR 4-200%	3.1×45	2.4 1.2分野門 床面下で搬出
P1373	10YR 3.5-10YR 4-200%	10YR 4-200%	3.1×46	2.4 1.2分野門 床面下で搬出
DK231	10YR 3.5-10YR 2-2-200%	10YR 4/3-200%	168×160	1.5分野門 床面下で搬出
DK232	10YR 3.5-10YR 2-2-200%	10YR 4/2-200%	53	12 1.5分野門 床面下で搬出
DK233	10YR 3.5-10YR 2-2-200%	10YR 4/2-200%	37	14 1.5分野門 床面下で搬出
DK234	10YR 3.5-10YR 2-2-200%	10YR 4/2-200%	33	14 1.5分野門 床面下で搬出
DK235	10YR 3.5-10YR 2-2-200%	10YR 4/2-200%	35	13 1.5分野門 床面下で搬出
DK236	10YR 3.5-10YR 2-2-200%	10YR 4/2-200%	42	60 1.5分野門 床面下で搬出
DK237	10YR 3.5-10YR 2-2-200%	10YR 4/2-200%	31	2.5 1.5分野門 床面下で搬出
DK238	10YR 3.5-10YR 2-2-200%	10YR 4/2-200%	30	26 1.5分野門 床面下で搬出
DK239	10YR 3.5-10YR 2-2-200%	10YR 4/2-200%	94	4 1.5分野門 床面下で搬出
DK240	10YR 3.5-10YR 2-2-200%	10YR 4/2-200%	35	26 1.5分野門 床面下で搬出
DK241	10YR 3.5-10YR 2-2-200%	10YR 4/2-200%	36	27 1.5分野門 床面下で搬出
DK242	10YR 3.5-10YR 2-2-200%	10YR 4/2-200%	37	14 1.5分野門 床面下で搬出
DK243	10YR 3.5-10YR 2-2-200%	10YR 4/2-200%	30	23 1.5分野門 床面下で搬出
DK244	10YR 3.5-10YR 2-2-200%	10YR 4/2-200%	74	4 1.5分野門 床面下で搬出
DK245	10YR 3.5-10YR 2-2-200%	10YR 4/2-200%	82	15 1.5分野門 床面下で搬出
DK246	10YR 3.5-10YR 2-2-200%	10YR 4/2-200%	66	19 1.5分野門 床面下で搬出
DK247	10YR 3.5-10YR 2-2-200%	10YR 4/2-200%	53	10 1.5分野門 床面下で搬出

地圖編號	圖上名	位置	大至		備註
			度	分	
DK254	10YR 4.3-10YR 3/2.20US X.4.1-10YR 4/6.20US X.4.1	北緯10度4分3秒至10度4分6秒止，東經2度20分X.4.1至2度20分X.4.1止。	80	19	E. 2.6%
DK257	10YR 4.3-10YR 4/2.5.20US X.4.1-10YR 4/3.10US X.4.1	北緯10度4分3秒至10度4分25秒止，東經2度5分20秒X.4.1至3度10秒X.4.1止。	35	13	E. 2.6%
DK259	10YR 4.3-10YR 4/3.5.20US X.4.1-10YR 4/4.10US X.4.1	北緯10度4分3秒至10度4分35秒止，東經2度5分20秒X.4.1至3度10秒X.4.1止。	80	21	E. 2.6%
DK261	10YR 3.3-10YR 4/3.5.20US X.4.1-10YR 4/2.20US X.4.1	北緯10度3分3秒至10度4分35秒止，東經2度5分20秒X.4.1至3度10秒X.4.1止。	103	20	E. 2.6%
DK267	10YR 3.3-10YR 4/2.5.20US X.4.1-10YR 4/3.10US X.4.1	北緯10度3分3秒至10度4分25秒止，東經2度5分20秒X.4.1至3度10秒X.4.1止。	64	33	E. 2.6%
DK268	10YR 3.3-10YR 4/2.5.20US X.4.1-10YR 4/3.5.20US X.4.1	北緯10度3分3秒至10度4分25秒止，東經2度5分20秒X.4.1至3度5分20秒X.4.1止。	108×88	32	E. 2.6%
DK269	10YR 3.3-10YR 4/2.5.20US X.4.1-10YR 4/4.10US X.4.1	北緯10度3分3秒至10度4分25秒止，東經2度5分20秒X.4.1至4度10秒X.4.1止。	98×84	32	E. 2.6%
DK270	10YR 4.2-10YR 4/6.20US X.4.1-10YR 4/7.3.20US X.4.1	北緯10度4分2秒至10度4分20秒止，東經2度6分20秒X.4.1至7度3分20秒X.4.1止。	76	20	E. 2.6%
DK271	10YR 4.2-10YR 4/7.3.20US X.4.1-10YR 4/8.10US X.4.1	北緯10度4分2秒至10度4分20秒止，東經2度6分20秒X.4.1至8度10秒X.4.1止。	93×70	30	E. 2.6%
DK272	10YR 3.2-10YR 4/8.10US X.4.1-10YR 4/9.20US X.4.1	北緯10度3分2秒至10度4分20秒止，東經2度6分20秒X.4.1至9度20秒X.4.1止。	87×67	26	E. 2.6%
DK274	10YR 3.2-10YR 4/9.20US X.4.1-10YR 4/10.30US X.4.1	北緯10度3分2秒至10度4分20秒止，東經2度6分20秒X.4.1至10度30秒X.4.1止。	102×74	22	E. 2.6%
DK275	10YR 2.2-10YR 4/6.20US X.4.1-10YR 4/7.3.20US X.4.1	北緯10度2分2秒至10度4分20秒止，東經2度6分20秒X.4.1至7度3分20秒X.4.1止。	103×90	31	E. 2.6%
DK276	10YR 2.2-10YR 4/7.3.20US X.4.1-10YR 4/8.10US X.4.1	北緯10度2分2秒至10度4分20秒止，東經2度6分20秒X.4.1至8度10秒X.4.1止。	62×44	10	E. 2.6%
DK278	10YR 2.2-10YR 4/8.10US X.4.1-10YR 4/9.20US X.4.1	北緯10度2分2秒至10度4分20秒止，東經2度6分20秒X.4.1至9度20秒X.4.1止。	83×28	10	E. 2.6%
DK279	10YR 2.2-10YR 4/9.20US X.4.1-10YR 4/10.30US X.4.1	北緯10度2分2秒至10度4分20秒止，東經2度6分20秒X.4.1至10度30秒X.4.1止。	107×50	17	E. 2.6%
DK280	10YR 2.2-10YR 4/10.30US X.4.1-10YR 4/11.40US X.4.1	北緯10度2分2秒至10度4分20秒止，東經2度6分20秒X.4.1至11度40秒X.4.1止。	120×50	17	E. 2.6%
DK281	10YR 3.1-10YR 4/10.30US X.4.1-10YR 4/11.40US X.4.1	北緯10度3分1秒至10度4分20秒止，東經2度6分20秒X.4.1至11度40秒X.4.1止。	56	11	E. 2.6%
DK282	10YR 3.1-10YR 4/11.40US X.4.1-10YR 4/12.50US X.4.1	北緯10度3分1秒至10度4分20秒止，東經2度6分20秒X.4.1至12度50秒X.4.1止。	55	15	E. 2.6%
DK283	10YR 3.1-10YR 4/12.50US X.4.1-10YR 4/13.50US X.4.1	北緯10度3分1秒至10度4分20秒止，東經2度6分20秒X.4.1至13度50秒X.4.1止。	75×48	13	E. 2.6%
DK284	10YR 4.1-10YR 4/13.50US X.4.1-10YR 4/14.50US X.4.1	北緯10度4分1秒至10度4分20秒止，東經2度6分20秒X.4.1至14度50秒X.4.1止。	290×50	11	E. 2.6%
DK285	10YR 4.1-10YR 4/14.50US X.4.1-10YR 4/15.50US X.4.1	北緯10度4分1秒至10度4分20秒止，東經2度6分20秒X.4.1至15度50秒X.4.1止。	117	44	E. 2.6%
DK286	10YR 4.1-10YR 4/15.50US X.4.1-10YR 4/16.50US X.4.1	北緯10度4分1秒至10度4分20秒止，東經2度6分20秒X.4.1至16度50秒X.4.1止。	64	43	E. 2.6%
DK287	10YR 4.1-10YR 4/16.50US X.4.1-10YR 4/17.50US X.4.1	北緯10度4分1秒至10度4分20秒止，東經2度6分20秒X.4.1至17度50秒X.4.1止。	77	17	E. 2.6%
DK288	10YR 4.1-10YR 4/17.50US X.4.1-10YR 4/18.50US X.4.1	北緯10度4分1秒至10度4分20秒止，東經2度6分20秒X.4.1至18度50秒X.4.1止。	71	14	E. 2.6%
DK289	10YR 4.1-10YR 4/18.50US X.4.1-10YR 4/19.50US X.4.1	北緯10度4分1秒至10度4分20秒止，東經2度6分20秒X.4.1至19度50秒X.4.1止。	60	10	E. 2.6%
DK290	10YR 4.1-10YR 4/19.50US X.4.1-10YR 4/20.50US X.4.1	北緯10度4分1秒至10度4分20秒止，東經2度6分20秒X.4.1至20度50秒X.4.1止。	131×100	10	E. 2.6%
DK291	10YR 4.1-10YR 4/20.50US X.4.1-10YR 4/21.50US X.4.1	北緯10度4分1秒至10度4分20秒止，東經2度6分20秒X.4.1至21度50秒X.4.1止。	66	9	E. 2.6%
DK292	10YR 4.1-10YR 4/21.50US X.4.1-10YR 4/22.50US X.4.1	北緯10度4分1秒至10度4分20秒止，東經2度6分20秒X.4.1至22度50秒X.4.1止。	45	25	E. 2.6%
DK293	10YR 3.3-10YR 4/22.50US X.4.1-10YR 4/23.50US X.4.1	北緯10度3分3秒至10度4分20秒止，東經2度6分20秒X.4.1至23度50秒X.4.1止。	86	23	E. 2.6%
DK294	10YR 3.3-10YR 4/23.50US X.4.1-10YR 4/24.50US X.4.1	北緯10度3分3秒至10度4分20秒止，東經2度6分20秒X.4.1至24度50秒X.4.1止。	60	8	E. 2.6%
DK295	10YR 3.3-10YR 4/24.50US X.4.1-10YR 4/25.50US X.4.1	北緯10度3分3秒至10度4分20秒止，東經2度6分20秒X.4.1至25度50秒X.4.1止。	60	5	E. 2.6%
DK296	10YR 3.3-10YR 4/25.50US X.4.1-10YR 4/26.50US X.4.1	北緯10度3分3秒至10度4分20秒止，東經2度6分20秒X.4.1至26度50秒X.4.1止。	53	23	E. 2.6%
DK297	10YR 3.3-10YR 4/26.50US X.4.1-10YR 4/27.50US X.4.1	北緯10度3分3秒至10度4分20秒止，東經2度6分20秒X.4.1至27度50秒X.4.1止。	60	17	E. 2.6%
DK298	10YR 3.3-10YR 4/27.50US X.4.1-10YR 4/28.50US X.4.1	北緯10度3分3秒至10度4分20秒止，東經2度6分20秒X.4.1至28度50秒X.4.1止。	81	23	E. 2.6%
DK299	10YR 3.3-10YR 4/28.50US X.4.1-10YR 4/29.50US X.4.1	北緯10度3分3秒至10度4分20秒止，東經2度6分20秒X.4.1至29度50秒X.4.1止。	40	9	E. 2.6%
DK300	10YR 3.3-10YR 4/29.50US X.4.1-10YR 4/30.50US X.4.1	北緯10度3分3秒至10度4分20秒止，東經2度6分20秒X.4.1至30度50秒X.4.1止。	34	12	E. 2.6%
DK301	10YR 3.3-10YR 4/30.50US X.4.1-10YR 4/31.50US X.4.1	北緯10度3分3秒至10度4分20秒止，東經2度6分20秒X.4.1至31度50秒X.4.1止。	73	11	E. 2.6%
DK302	10YR 3.3-10YR 4/31.50US X.4.1-10YR 4/32.50US X.4.1	北緯10度3分3秒至10度4分20秒止，東經2度6分20秒X.4.1至32度50秒X.4.1止。	63×51	7	E. 2.6%
DK303	10YR 3.3-10YR 4/32.50US X.4.1-10YR 4/33.50US X.4.1	北緯10度3分3秒至10度4分20秒止，東經2度6分20秒X.4.1至33度50秒X.4.1止。	51×51	32	E. 2.6%
DK304	10YR 3.3-10YR 4/33.50US X.4.1-10YR 4/34.50US X.4.1	北緯10度3分3秒至10度4分20秒止，東經2度6分20秒X.4.1至34度50秒X.4.1止。	92	24	E. 2.6%
DK305	10YR 3.3-10YR 4/34.50US X.4.1-10YR 4/35.50US X.4.1	北緯10度3分3秒至10度4分20秒止，東經2度6分20秒X.4.1至35度50秒X.4.1止。	90	13	E. 2.6%
DK306	10YR 3.3-10YR 4/35.50US X.4.1-10YR 4/36.50US X.4.1	北緯10度3分3秒至10度4分20秒止，東經2度6分20秒X.4.1至36度50秒X.4.1止。	53	10	E. 2.6%
DK307	10YR 3.3-10YR 4/36.50US X.4.1-10YR 4/37.50US X.4.1	北緯10度3分3秒至10度4分20秒止，東經2度6分20秒X.4.1至37度50秒X.4.1止。	72	43	E. 2.6%
DK308	10YR 3.3-10YR 4/37.50US X.4.1-10YR 4/38.50US X.4.1	北緯10度3分3秒至10度4分20秒止，東經2度6分20秒X.4.1至38度50秒X.4.1止。	72	18	E. 2.6%
DK309	10YR 3.3-10YR 4/38.50US X.4.1-10YR 4/39.50US X.4.1	北緯10度3分3秒至10度4分20秒止，東經2度6分20秒X.4.1至39度50秒X.4.1止。	34	30	E. 2.6%
DK310	10YR 3.3-10YR 4/39.50US X.4.1-10YR 4/40.50US X.4.1	北緯10度3分3秒至10度4分20秒止，東經2度6分20秒X.4.1至40度50秒X.4.1止。	73	11	E. 2.6%
DK311	10YR 3.3-10YR 4/40.50US X.4.1-10YR 4/41.50US X.4.1	北緯10度3分3秒至10度4分20秒止，東經2度6分20秒X.4.1至41度50秒X.4.1止。	118×56	11	E. 2.6%
DK312	10YR 3.3-10YR 4/41.50US X.4.1-10YR 4/42.50US X.4.1	北緯10度3分3秒至10度4分20秒止，東經2度6分20秒X.4.1至42度50秒X.4.1止。	63×51	7	E. 2.6%
DK313	10YR 3.3-10YR 4/42.50US X.4.1-10YR 4/43.50US X.4.1	北緯10度3分3秒至10度4分20秒止，東經2度6分20秒X.4.1至43度50秒X.4.1止。	51×51	32	E. 2.6%
DK314	10YR 3.3-10YR 4/43.50US X.4.1-10YR 4/44.50US X.4.1	北緯10度3分3秒至10度4分20秒止，東經2度6分20秒X.4.1至44度50秒X.4.1止。	118×56	11	E. 2.6%
DK315	10YR 3.3-10YR 4/44.50US X.4.1-10YR 4/45.50US X.4.1	北緯10度3分3秒至10度4分20秒止，東經2度6分20秒X.4.1至45度50秒X.4.1止。	51×51	32	E. 2.6%
DK316	10YR 3.3-10YR 4/45.50US X.4.1-10YR 4/46.50US X.4.1	北緯10度3分3秒至10度4分20秒止，東經2度6分20秒X.4.1至46度50秒X.4.1止。	118×56	11	E. 2.6%
DK317	10YR 3.3-10YR 4/46.50US X.4.1-10YR 4/47.50US X.4.1	北緯10度3分3秒至10度4分20秒止，東經2度6分20秒X.4.1至47度50秒X.4.1止。	51×51	32	E. 2.6%
DK318	10YR 3.3-10YR 4/47.50US X.4.1-10YR 4/48.50US X.4.1	北緯10度3分3秒至10度4分20秒止，東經2度6分20秒X.4.1至48度50秒X.4.1止。	118×56	11	E. 2.6%
DK319	10YR 3.3-10YR 4/48.50US X.4.1-10YR 4/49.50US X.4.1	北緯10度3分3秒至10度4分20秒止，東經2度6分20秒X.4.1至49度50秒X.4.1止。	83×71	19	E. 2.6%
DK320	10YR 3.3-10YR 4/49.50US X.4.1-10YR 4/50.50US X.4.1	北緯10度3分3秒至10度4分20秒止，東經2度6分20秒X.4.1至50度50秒X.4.1止。	50	30	E. 2.6%
DK321	10YR 3.3-10YR 4/50.50US X.4.1-10YR 4/51.50US X.4.1	北緯10度3分3秒至10度4分20秒止，東經2度6分20秒X.4.1至51度50秒X.4.1止。	69×67	38	E. 2.6%
DK322	10YR 3.3-10YR 4/51.50US X.4.1-10YR 4/52.50US X.4.1	北緯10度3分3秒至10度4分20秒止，東經2度6分20秒X.4.1至52度50秒X.4.1止。	74×50	27	E. 2.6%
DK323	5YR 4.3-5YR 4/52.50US X.4.1-5YR 4/53.50US X.4.1	北緯5度3分3秒至5度4分30秒止，東經4度30秒至5度30秒止。	154×10	30	E. 2.6%
DK324	5YR 4.3-5YR 4/53.50US X.4.1-5YR 4/54.50US X.4.1	北緯5度3分3秒至5度4分30秒止，東經4度30秒至5度30秒止。	87	33	E. 2.6%

平安時代の土器・土製品一覧

第6表 金属製品一覧

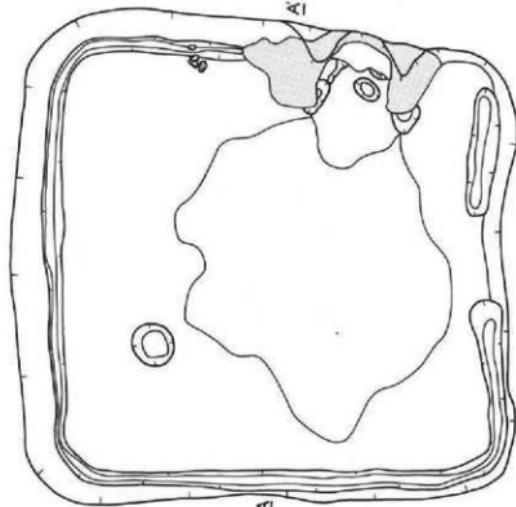
図版番号	出土地點	種別	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	材質	重量(g)	特徴、出土位置、など
7図3	96号住	釘?	6.8	6.2	5.2	鉄	3	カマド内より出土、角釘か
22図1	101号住	舞	12.5	2.8	0.4	鉄	25	木質付着、床下DK258より出土
22図2	101号住	刀子	11.3	1.3	0.5	鉄	11	片開型、床下DK258より出土
56図3	114号住	刀子	14.3	1.5	0.5	鉄	12	両開型
65図6	117号住	釘?	5	1.2	0.8	鉄	2	上端部欠損、DK293内より出土、角釘か
70図1	118号住	釘?	4.4	0.5	0.6	鉄	2	角釘か
70図2	118号住	刀子	5.5	0.9	0.5	鉄	3	両開型
70図3	118号住	鉄滓	8.4	7.3	2.6		222	楕形滓
70図4	118号住	鉄滓	3.7	5.0	1.0		16	
70図5	118号住	鉄滓	3.6	3.7	1.8		37	
70図6	118号住	鉄滓	5.5	6.8	2.7		88	
70図7	118号住	鉄滓	6.8	5.7	3.3		126	
70図8	118号住	鉄滓	4.7	6.1	1.6		65	楕形滓
70図9	118号住	鉄滓	4.6	7.0	1.8		54	楕形滓
70図10	118号住	鉄滓	2.8	3.2	1.1		6	
70図11	118号住	鉄滓	6.1	6.3	2.5		95	
70図12	118号住	鉄滓	4.6	6.1	1.3		44	楕形滓
70図13	118号住	鉄滓	4.2	3.8	1.6		17	
70図14	118号住	鐵鍋			0.5	鉄	87	推定口径31.6cm
75図2	120号住	鉄滓	5.8	6.9	1.9		110	楕形滓
75図3	120号住	鉄滓	6.4	5.1	2.6		82	
75図4	120号住	鉄滓	4.7	6.2	1.9		81	
75図5	120号住	鉄滓	4.9	7.4	2.3		156	
75図6	120号住	鉄滓	5.0	4.9	2.5		104	楕形滓
75図7	120号住	鉄滓	4.1	4.6	2.1		39	楕形滓
99図16	表掛	錢貨				銅	2	寛永通宝、「新寛永」、文錢

第7表 石器・石製品一覧

図版番号	種別	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	石質	重量(g)	特徴、出土位置など
11図1	腰帶只(丸柄)	2.3	3.2	0.6	滑石	9	97号住床下DK239より出土
29図5	多孔石	24.5	13.3		凝灰岩	6000	105号住床面に約10cmより出土、石棒片か
48図1	砾石	(9.2)	7.2	7.7	凝灰岩	695	表面に磨痕
56図2	砾石	8.5	3.7	2.2	凝灰質流紋岩	108	左右側面に縦状痕あり、114号住礫土より出土
61図11	磨石	7.0	6.1	4.8	砂岩	311	表面、両側面、裏面の一部に磨痕、116号住礫土より出土
65図4	磨石	11.8	7.2	3.7	砂岩	408	表面・裏面に磨痕、117号住礫土より出土
65図5	凹石	9.5	6.9	4.7	安山岩	480	表面裏面に凹み、117号住礫土より出土
68図1	金床石	(42.4)	20.0	8.6	砂岩	9700	表面に鉄錆付着、表面・裏面の一部に磨痕
74図13	砾石	6.7	2.8	1.3	ホルンフェルス	38	表面、右側面、裏面に縦状縫、120号住床下より出土

A

A'

DK232
(G.V.M.) A'

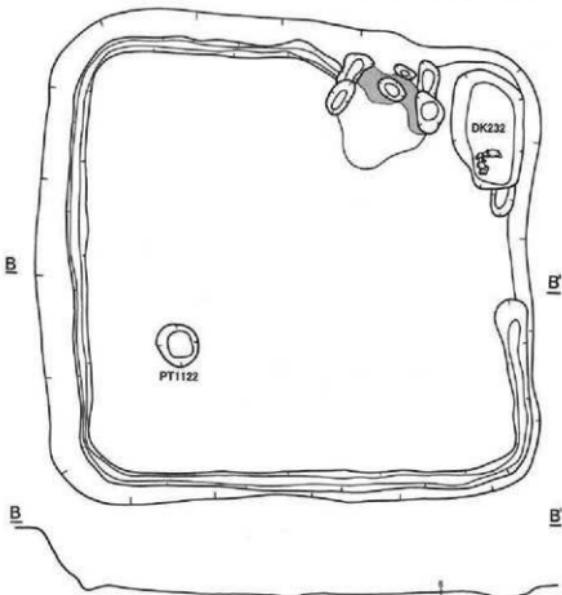
A



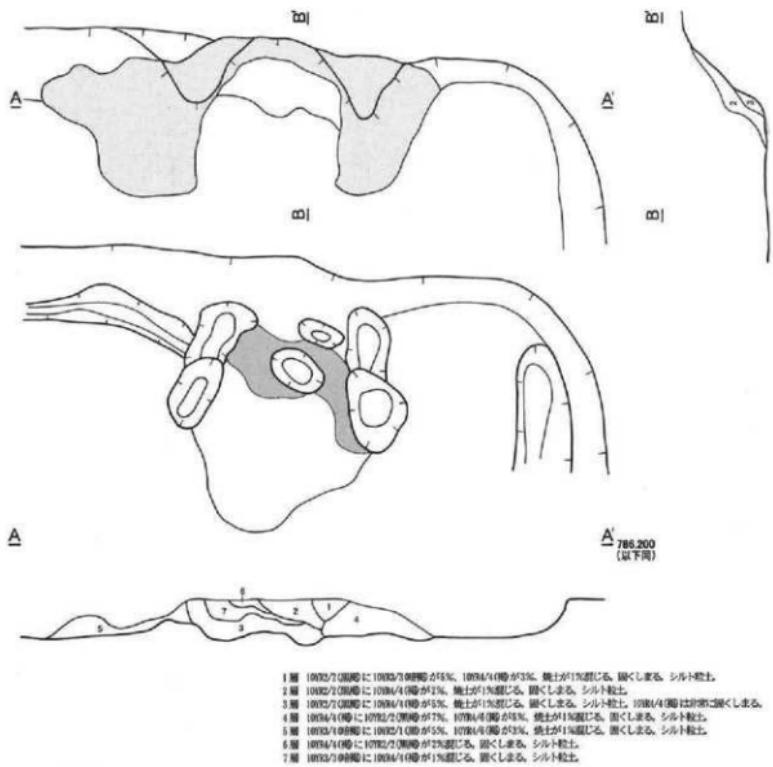
- 1層 指紋洗浄時に DK232/100% が1回洗る。しまる。シルト粒土。
- 2層 DK232/100% に DK232/100% が1回洗る。しまる。シルト粒土。
- 3層 DK232/100% - DK232/100% が7%, DK232/100% が2回洗る。しまる。シルト粒土。
- 4層 DK232/100% に DK232/100% が1%, 粘土粒土が1回洗る。よくこする。シルト粒土。
- 5層 DK232/100% に DK232/100% が7%, DK232/100% が1%, 粘土粒土が1回洗る。しまる。シルト粒土。
- 6層 高温浴 DK232/100% に DK232/100% が5%, DK232/100% が2回洗る。非常によくこする。シルト粒土。
- 7層 DK232/100% に DK232/100% が3回洗る。しまる。シルト粒土。

B

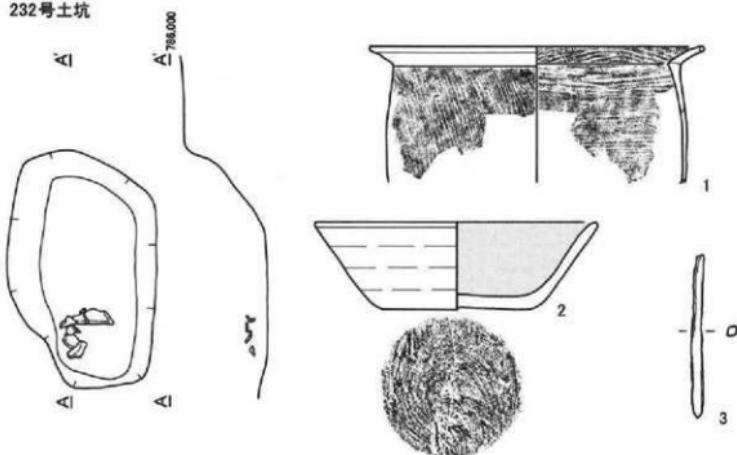
B'



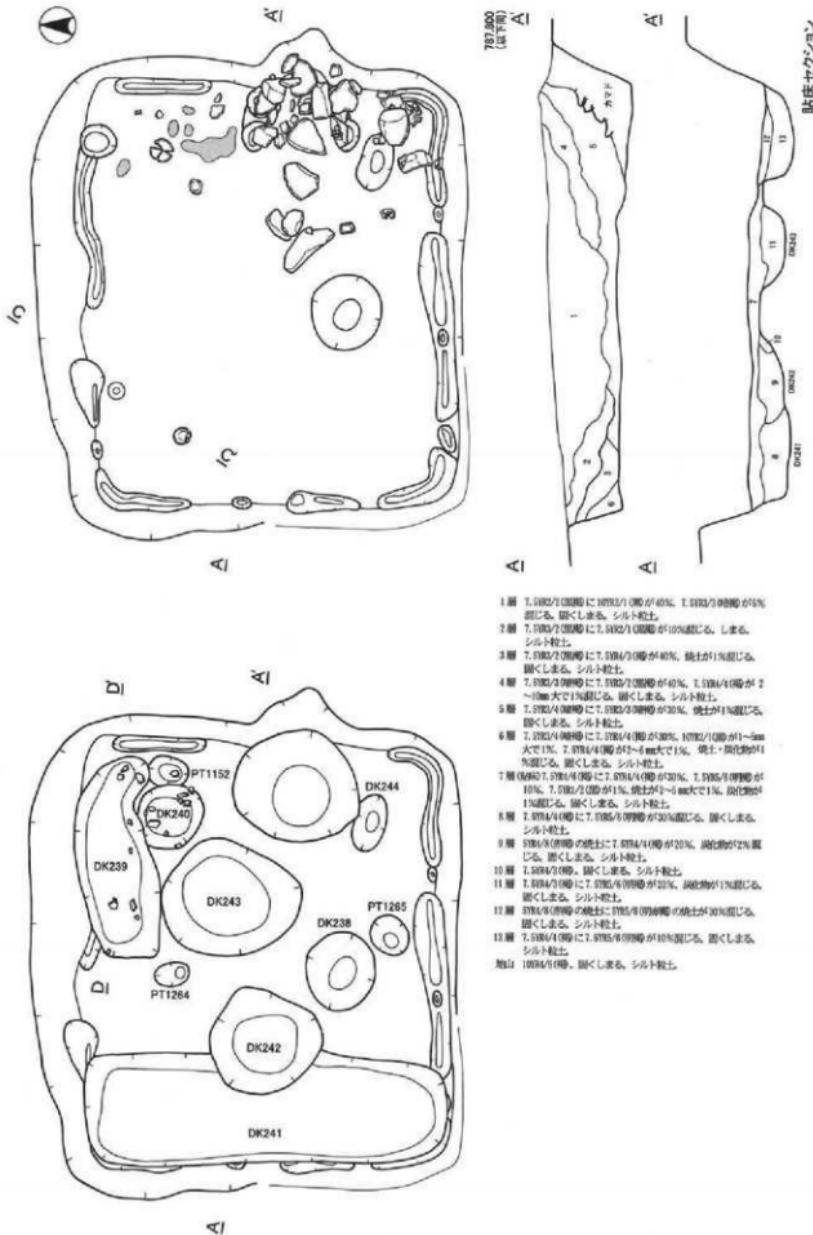
第6図 96号住居 (1/40)



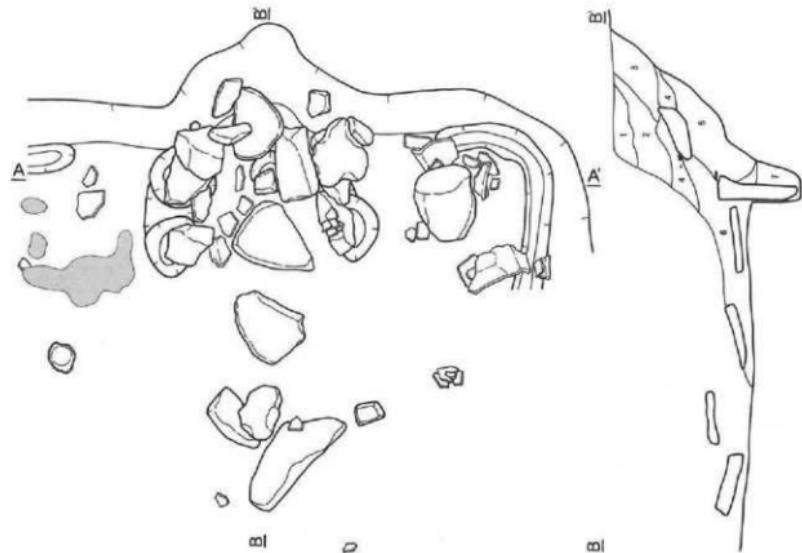
232号土坑



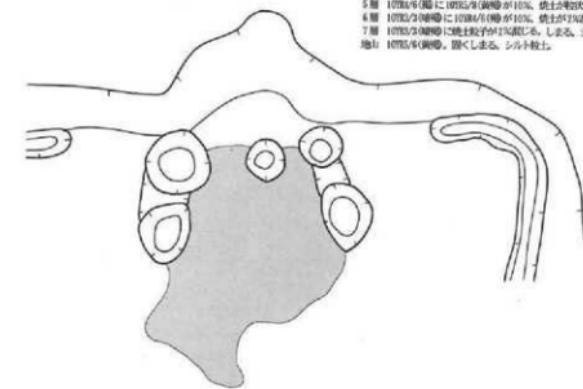
第7図 96号住居カマド (1/20) 232号土坑 (1/20) 96号住居出土遺物 (1/2, 1 1/4)



第8図 97号住居 (1/40)



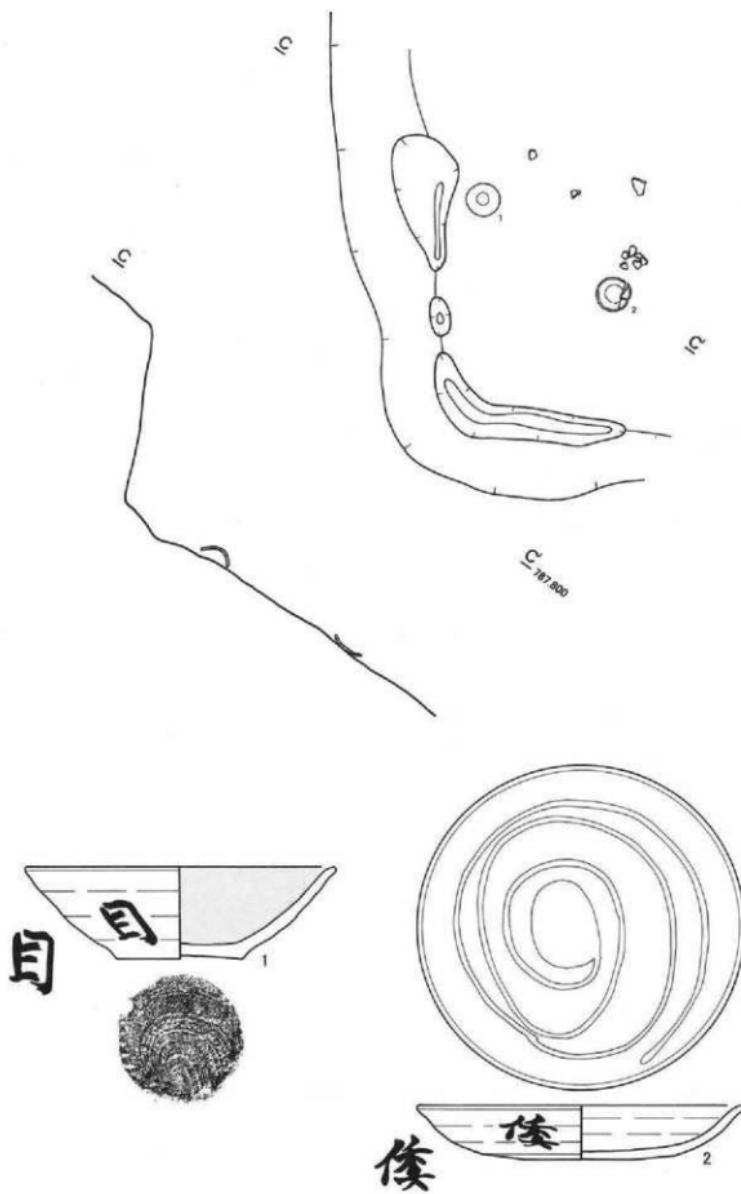
- 1層 10m/4(層)に 10%3/3(薄層)が10%混じる。シルト粒土。
 2層 10m/4(層)に 10%2/3(薄層)が20%、砂土が1%混じる。固くしまる。シルト粒土。
 3層 10m/4(層)に 10%3/3(薄層)が10%、砂土が1%混じる。固くしまる。シルト粒土。
 4層 10m/4(層)に 10%4/3(薄層)が20%、砂土が1%混じる。固くしまる。シルト粒土。
 5層 10m/5(層)に 10%5/5(薄層)が10%、砂土が1%混じる。10mm大で25%混じる。シルト粒土。
 6層 10m/2(層)に 10%6/5(薄層)が10%、砂土が1%混じる。しまる。シルト粒土。
 7層 10m/2(層)に 10%7/5(薄層)が10%混じる。しまる。シルト粒土。
 地山 10m/5(層) 固くしまる。シルト粒土。



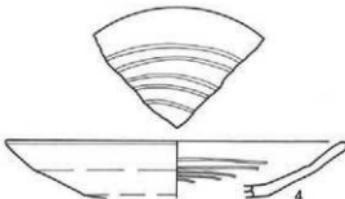
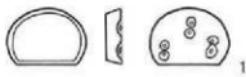
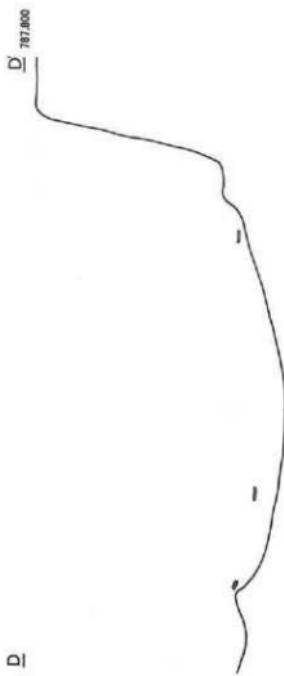
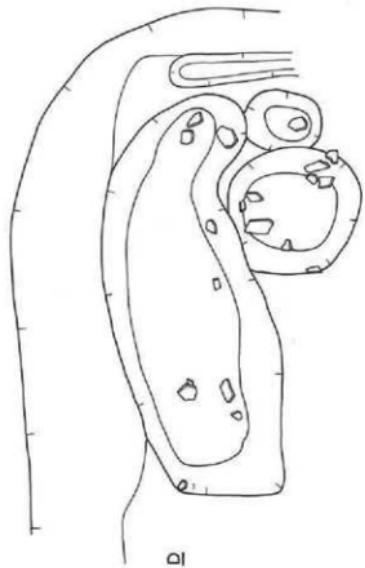
A'—
767.800
(以下同)



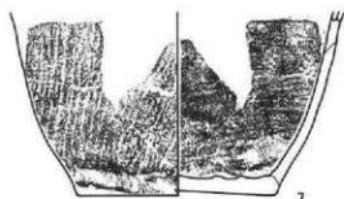
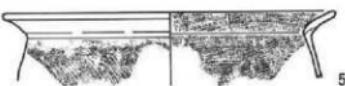
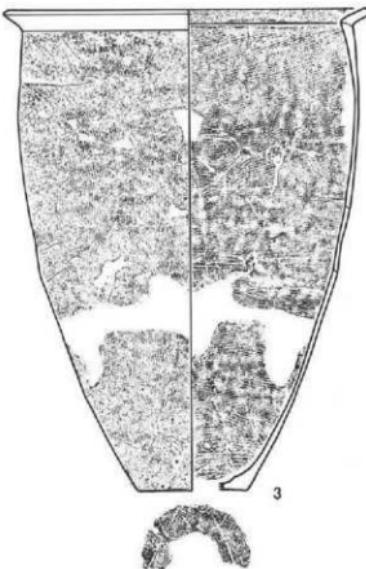
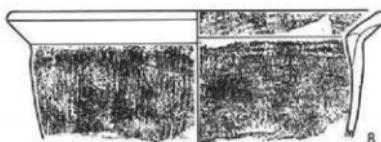
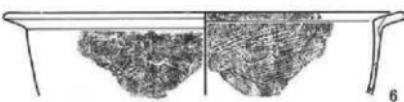
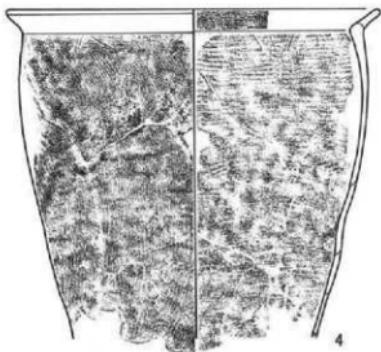
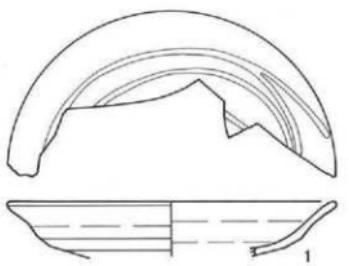
第9図 97号住居カマド (1/20)



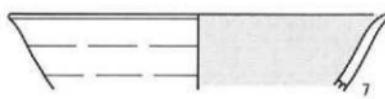
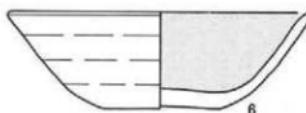
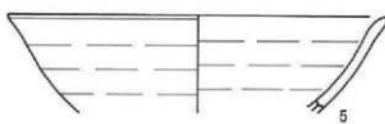
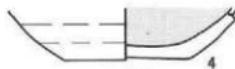
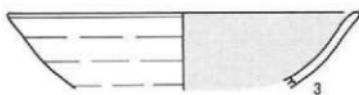
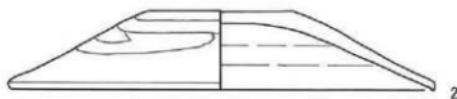
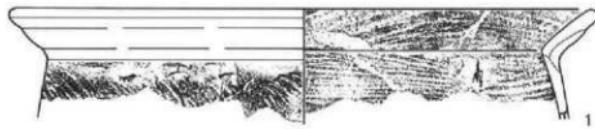
第10図 97号住居出土遺物 (1/2) よび遺物出土状況 (1/20)



第11図 239号土坑 (1/20) および出土遺物 (1/2) 97号住居出土遺物 (1/2)

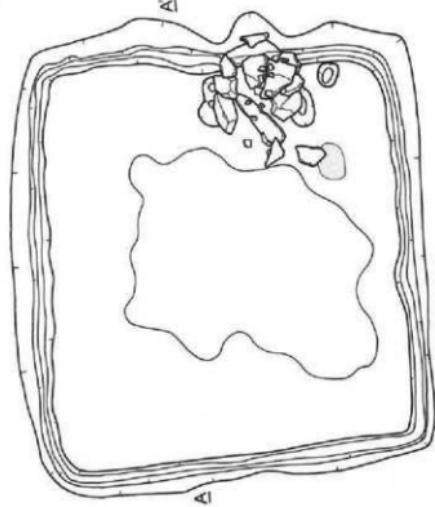


第12図 97号住居出土遺物 (1/2、2~6 1/4)



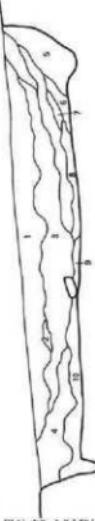
第13図 97号住居出土遺物 (1/2)

△



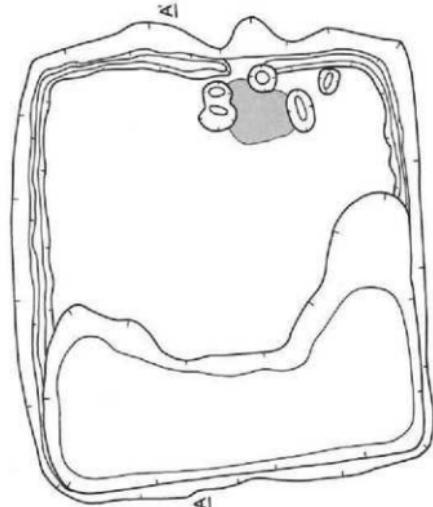
771480前

△



- 1層 10m2/1(隙間に)に10%を隙間が10%, 7.5m2/10時が5%, 地土が5~10mmで充満する。固くしまる。シルト粘土。
 2層 10m2/1(隙間に)に10%を隙間が10~15mmで充満する。しまる。シルト粘土。
 3層 10m2/1(隙間に)に10%を隙間が10~15mmで充満する。地土が5~10mmで充満する。10m2/1(隙間に)が10%を隙間が10%を隙間。しまる。シルト粘土。
 4層 10m2/1(隙間に)に10%を隙間が10~15mmで充満する。地土が5~10mmで充満する。シルト粘土。
 5層 10m2/1(隙間に)に10%を隙間が10~15mmで充満する。地土が5~10mmで充満する。しまる。シルト粘土。
 6層 10m2/1(隙間に)に10%を隙間が10~15mmで充満する。地土が5~10mmで充満する。しまる。シルト粘土。
 7層 10m2/1(隙間に)に10%を隙間が10~15mmで充満する。地土が5~10mmで充満する。しまる。シルト粘土。
 8層 10m2/1(隙間に)に10%を隙間が10~15mmで充満する。地土が5~10mmで充満する。しまる。シルト粘土。
 9層 10m2/1(隙間に)に10%を隙間が10~15mmで充満する。地土が5~10mmで充満する。しまる。シルト粘土。
 10層 10m2/1(隙間に)に10%を隙間が10~15mmで充満する。地土が5~10mmで充満する。しまる。シルト粘土。
 11層 10m2/1(隙間に)に10%を隙間が10~15mmで充満する。地土が5~10mmで充満する。固くしまる。シルト粘土。
 地り 10m2/1(隙間に)。固くしまる。シルト粘土。

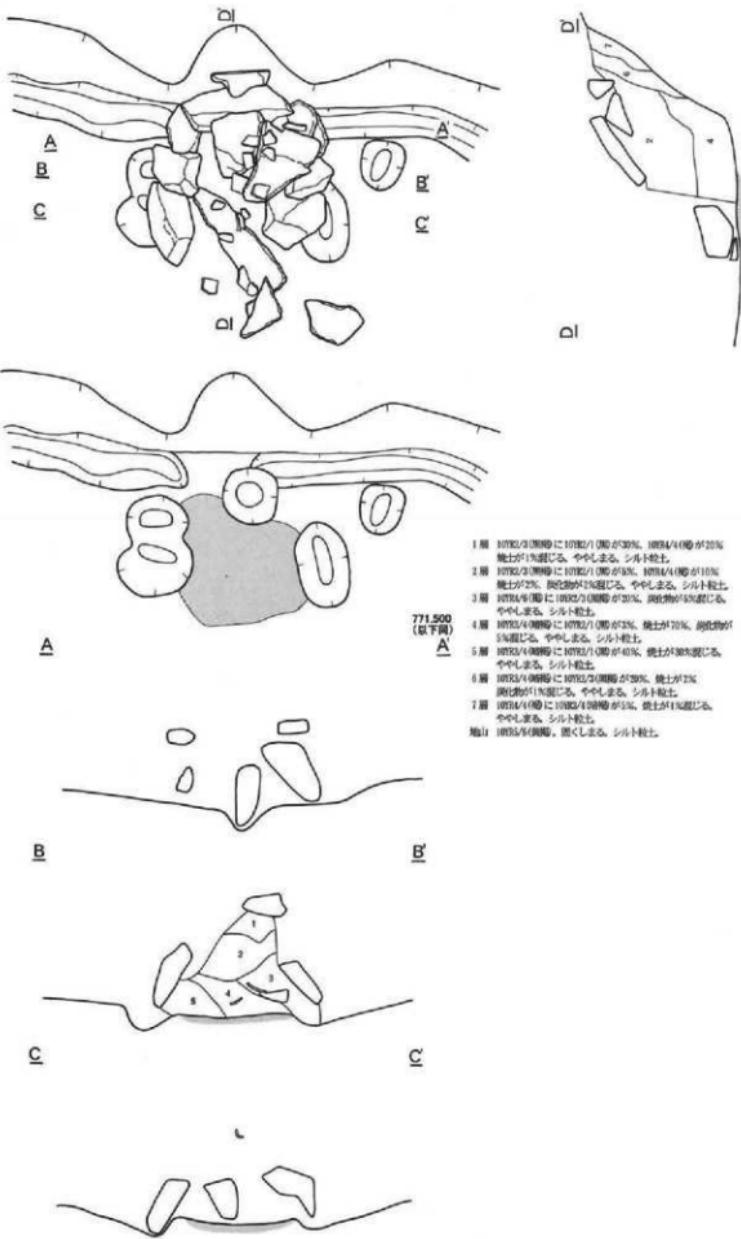
△



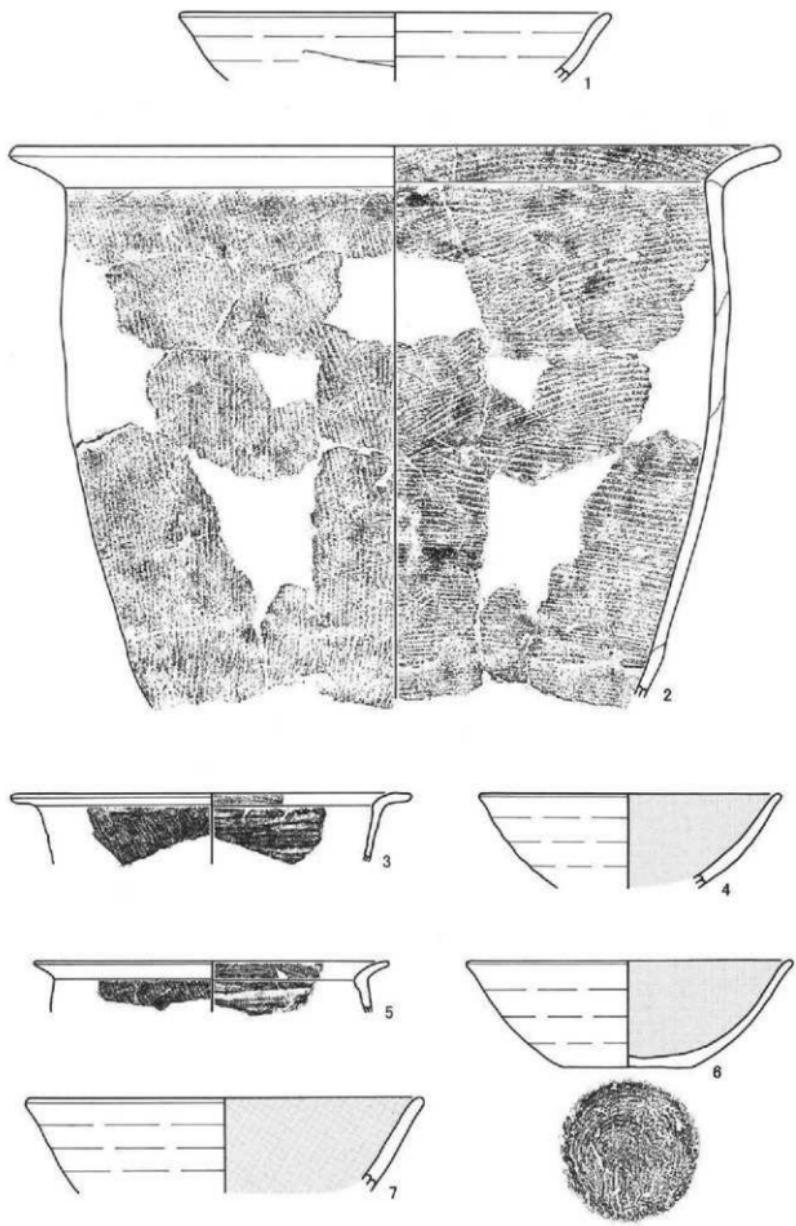
△



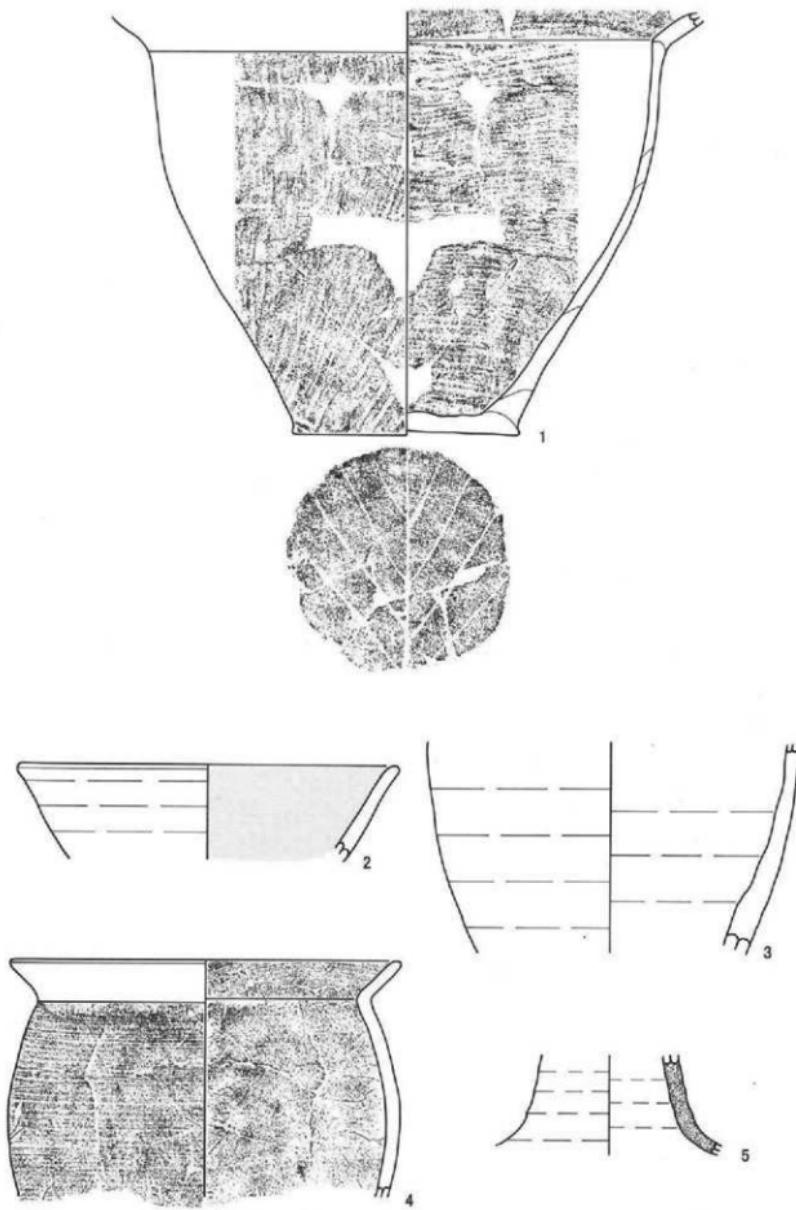
第14図 98号住居 (1/40)



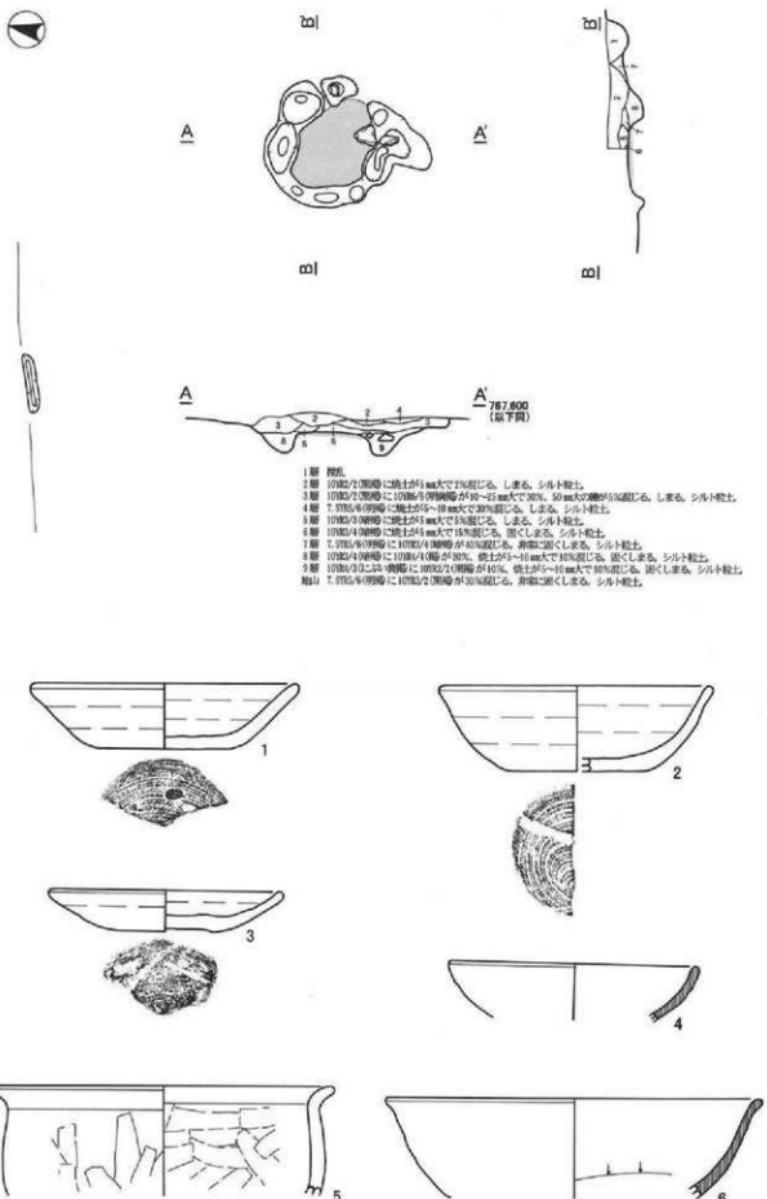
第15図 98号住居カマド (1/20)



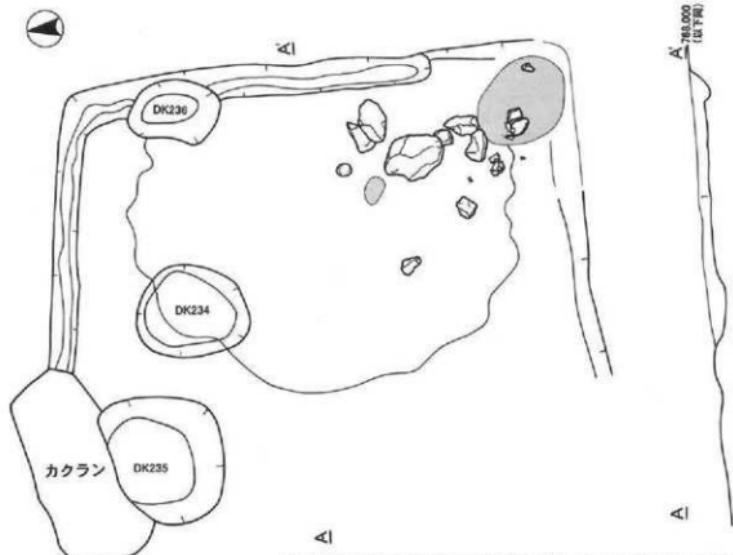
第16図 98号住居出土遺物 (1/2, 3+5 1/4)



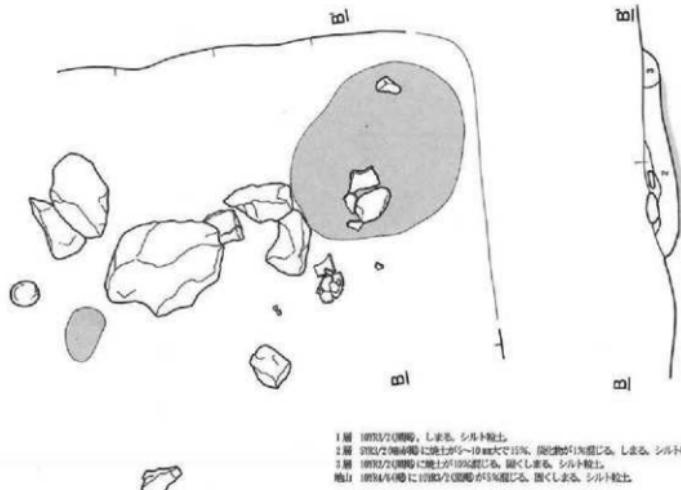
第17図 98号住居出土遺物 (1/2)



第18図 99号住居 (1/40) および出土遺物 (1/2)

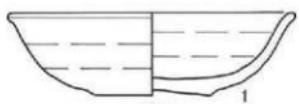


1層 100m/2(地盤)に100m/2(地盤)が並び、T.石礫(10mm)が2%、炭化物・粘土が1%混じる。固くしまる。シルト粘土。
地盤 100m/1(地盤)に100m/1(地盤)が2%混じる。非常に固くしまる。シルト粘土。

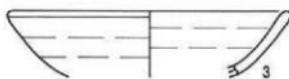


1層 100m/2(地盤)、しまる。シルト粘土。
2層 30m/2(地盤)に地盤(10-10mm)で1%、炭化物が1%混じる。しまる。シルト粘土。
3層 100m/2(地盤)に地盤(10mm)で1%、固くしまる。シルト粘土。
地盤 100m/4(地盤)に100m/2(地盤)が2%混じる。固くしまる。シルト粘土。

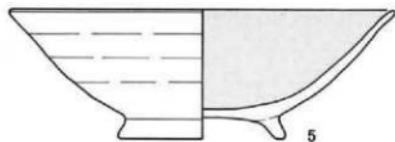
第19図 100号住居 (1/40) 100号住居カマド (1/20)



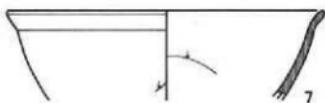
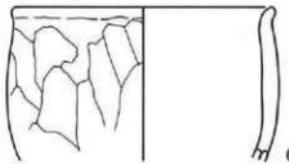
2



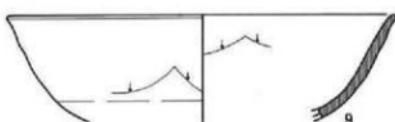
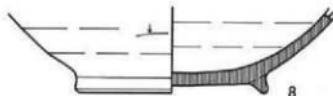
3



5



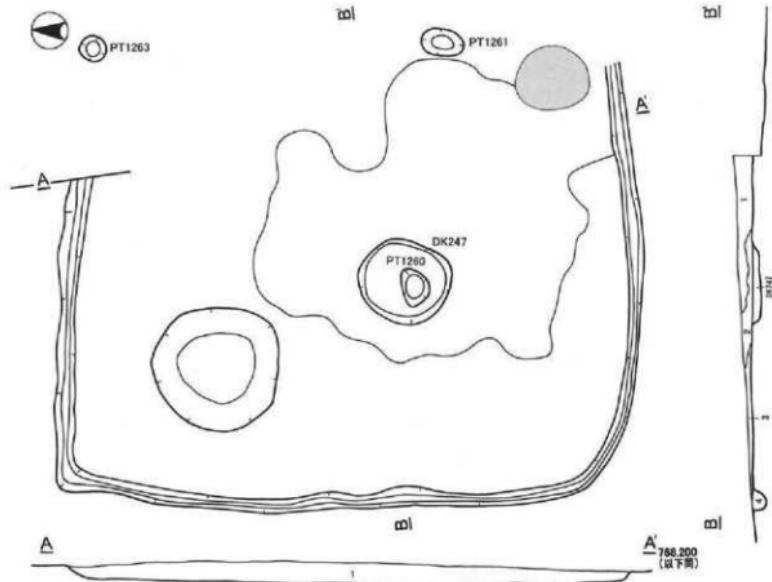
7



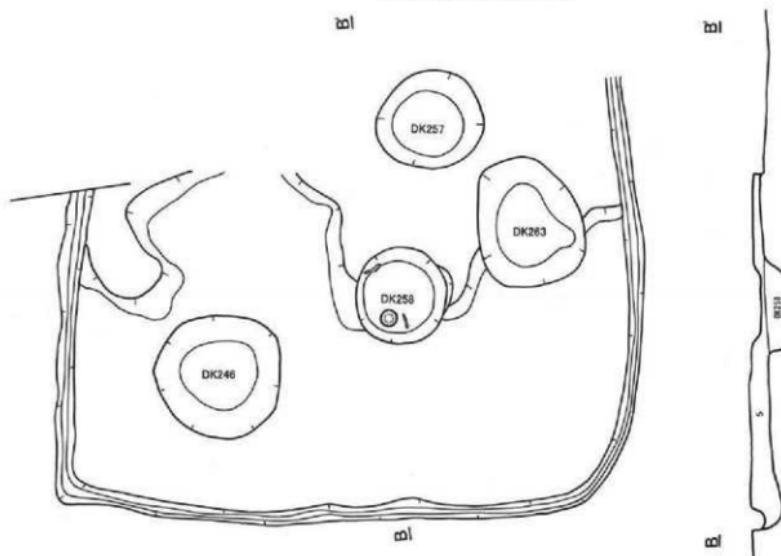
9



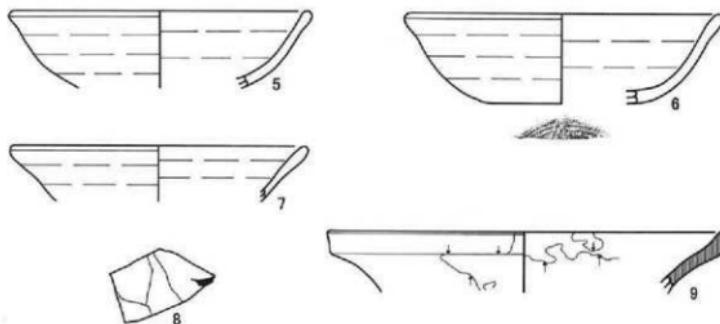
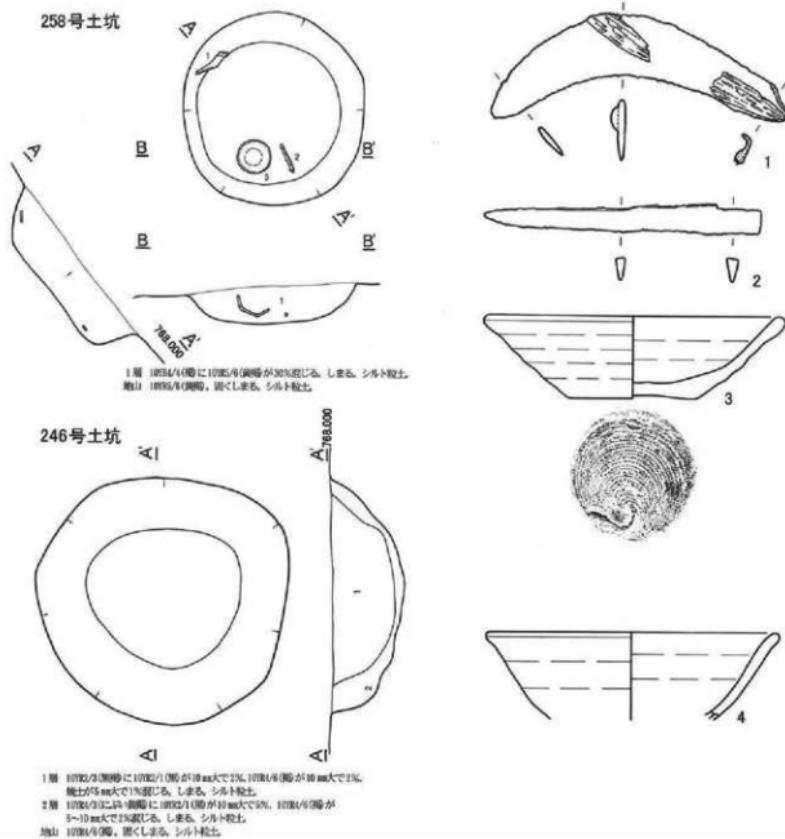
第20圖 100号住居出土遺物 (1/2)



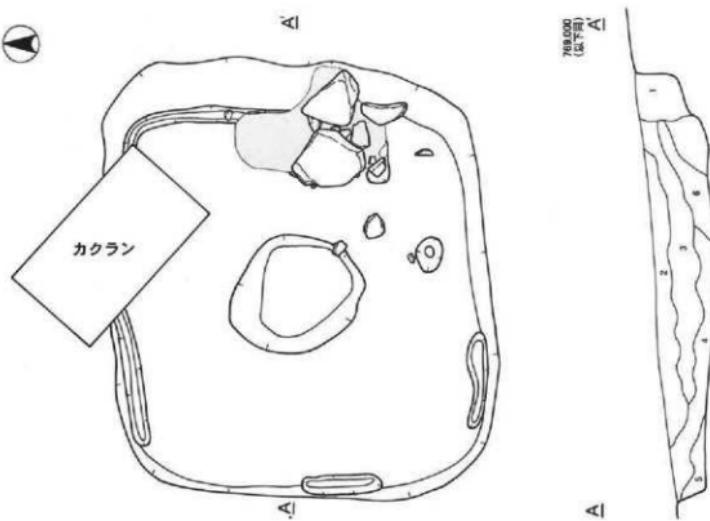
- 1層 1078.2/3(深場)に1078.1/0層が5%、焼土・焼化物が1%混じる。固くしまる。シルト粘土。
- 2層 1078.4(深場)に1078.1/0層が10%、焼土・焼化物が1%混じる。固くしまる。シルト粘土。
- 3層 1078.4(深場)に1078.1/0層が10%混じる。固くしまる。シルト粘土。
- 4層 1078.4(深場)に1078.1/0層が10%混じる。固くしまる。シルト粘土。
- 5層 1078.4(深場)に1078.1/0層が10%混じる。固くしまる。シルト粘土。
- 地山 1078.4(深場)。非常に固くしまる。シルト粘土。



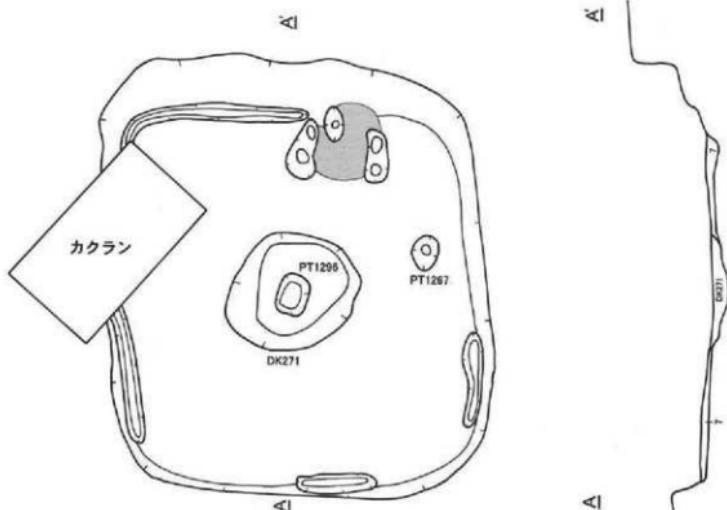
第21図 101号住居 (1/40)



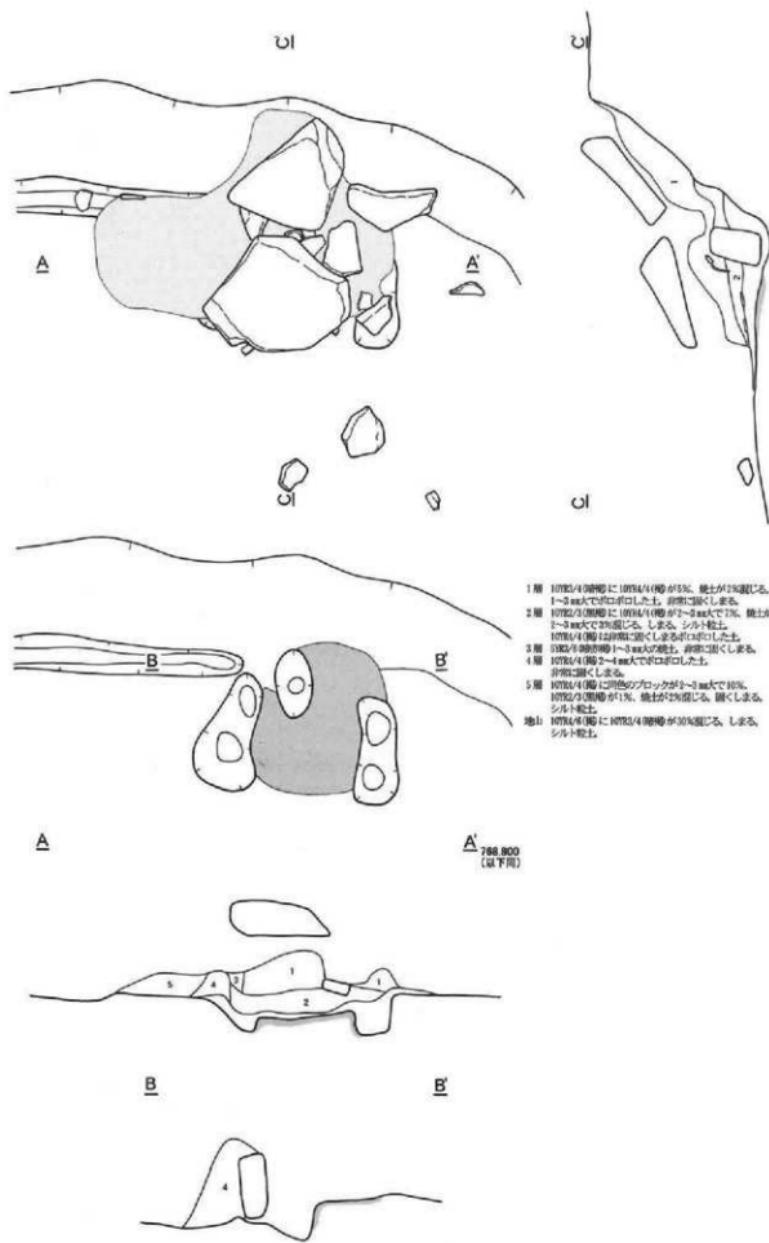
第22図 258号・246号土坑 (1/20) 101号住居出土遺物 (1/2)



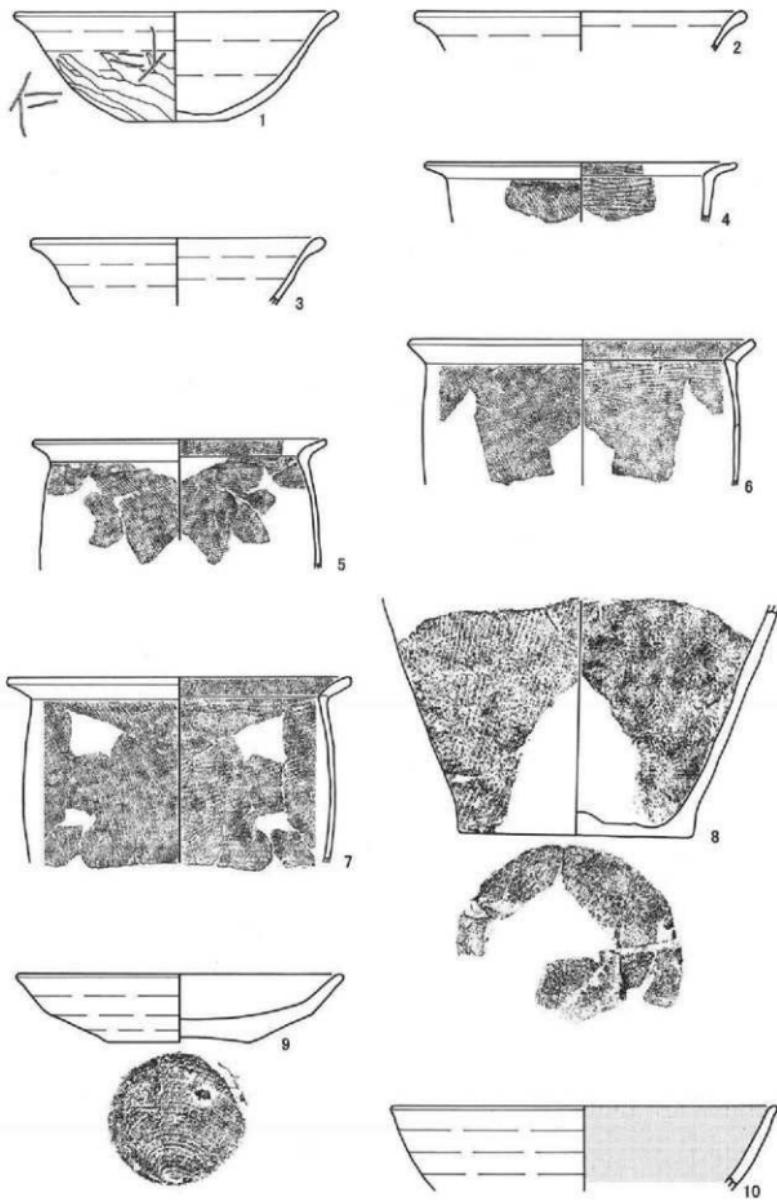
1層 地盤
2層 1092/1(0%)に1092/4(0%)が30%、他土が7%、既往物が10%混じる。しまる。シルト粘土
3層 1092/1(0%)に1092/4(0%)が10%、他土が1%、既往物が3%混じる。しまる。シルト粘土
4層 1092/1(0%)に1092/6(0%)が30%、他土が1%、既往物が3%混じる。しまる。シルト粘土
5層 1092/6(0%)に1092/1(0%)が30%、既往物が1%混じる。しまる。シルト粘土
6層 1092/4(0%)に1092/1(0%)が10%、他土・既往物が3%混じる。ややしまる。シルト粘土
7層 1092/6(0%)に1092/1(0%)が10%混じる。固くしまる。シルト粘土
地山 1092/6(0%)に1092/4(0%)が30%混じる。しまる。シルト粘土



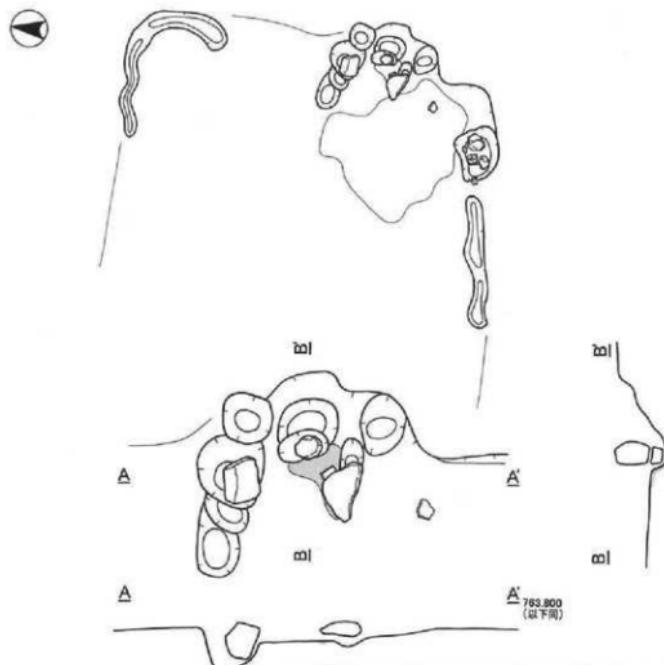
第23図 102号住居 (1/40)



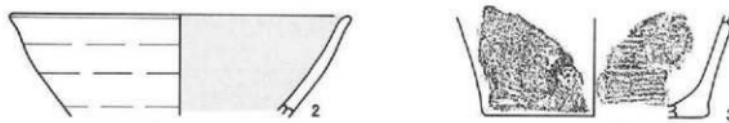
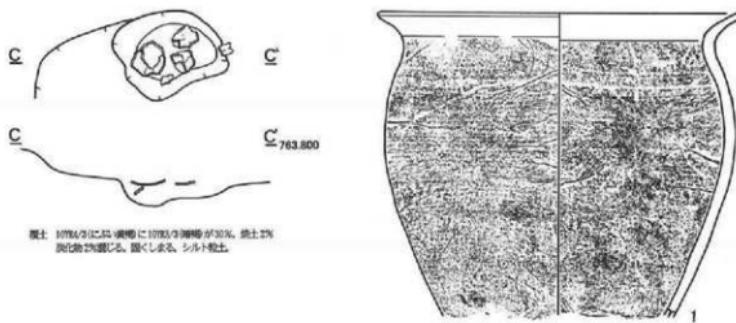
第24図 102号住居カマド (1/20)



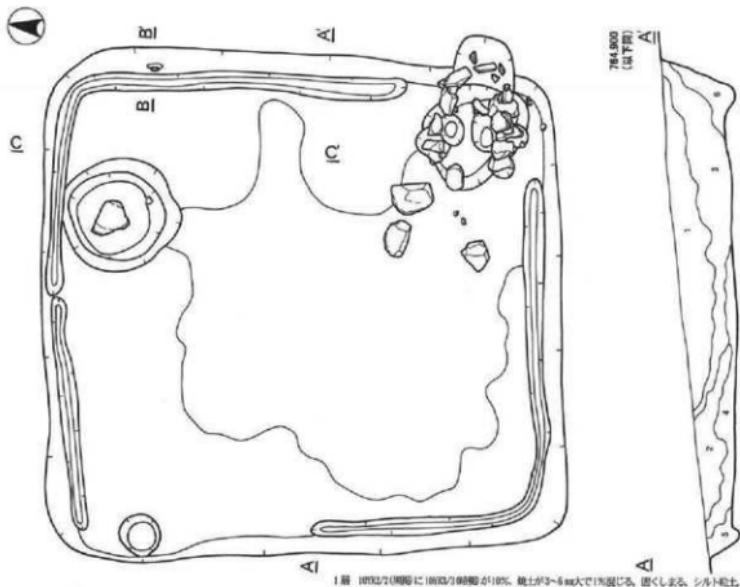
第25図 102号住居出土遺物 (1/2、4~7 1/4)



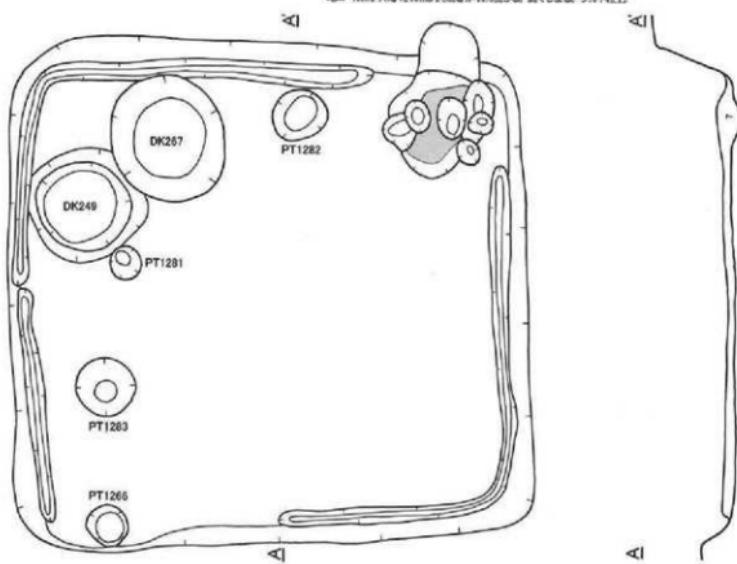
概土 7.700/198号に1.000/200号が30%、1.000/100号が10%、粘土が1%である。固くしまる。シルト粘土。



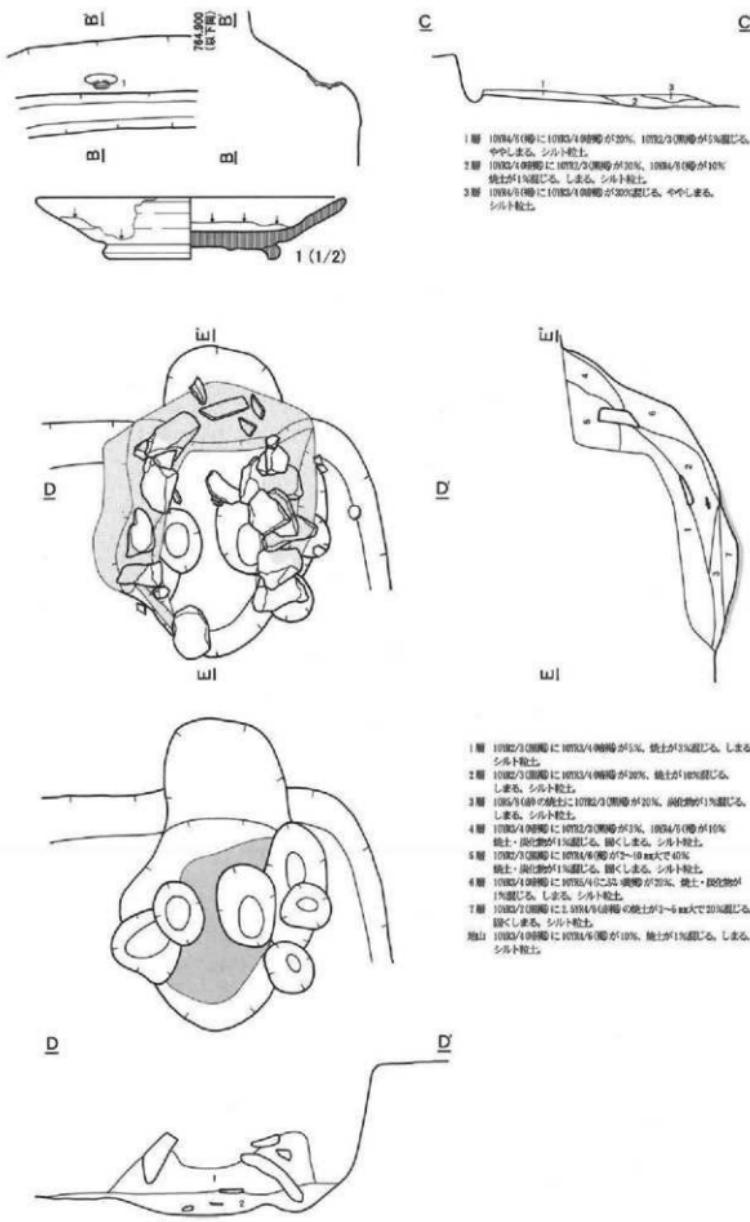
第26図 103号住居 (1/40) 103号住居カマド (1/20) および出土遺物 (1/2)



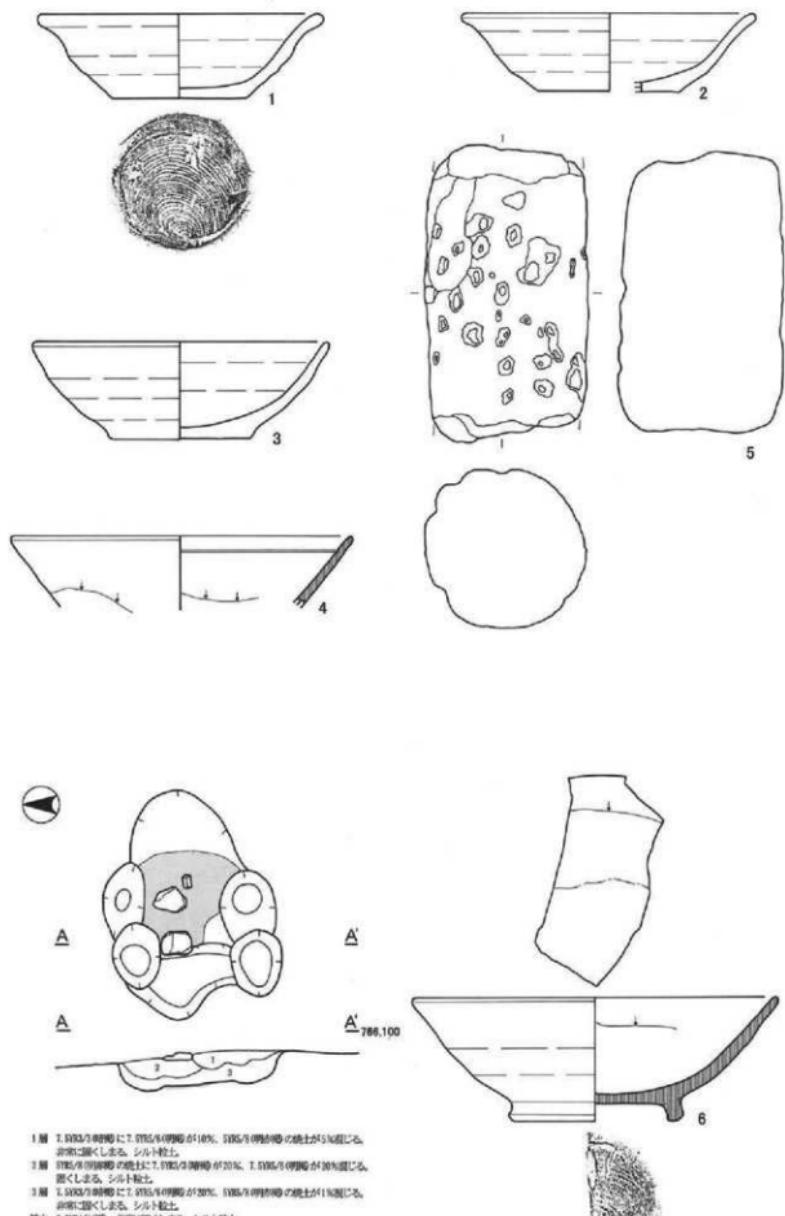
- 1層 10532/10540に10533/10540が10%、粘土が3~6mm大で10%混じる。固くしまる。シルト粘土。
- 2層 10532/10540に10535/10540が10%混じる。しまる。シルト粘土。
- 3層 10532/10540に10536/10540が15%混じる。しまる。シルト粘土。
- 4層 10532/10540に10537/10540が5%混じる。しまる。シルト粘土。
- 5層 10532/10540に10538/10540が3%混じる。固くしまる。シルト粘土。
- 6層 10532/10540に10539/10540が15%混じる。しまる。シルト粘土。
- 7層 地盤 10532/10540が10%混じる。固くしまる。シルト粘土。



第27図 105号住居 (1/40)



第28図 105号住居遺物出土状況 (1/20) 105号住居カマド (1/20)



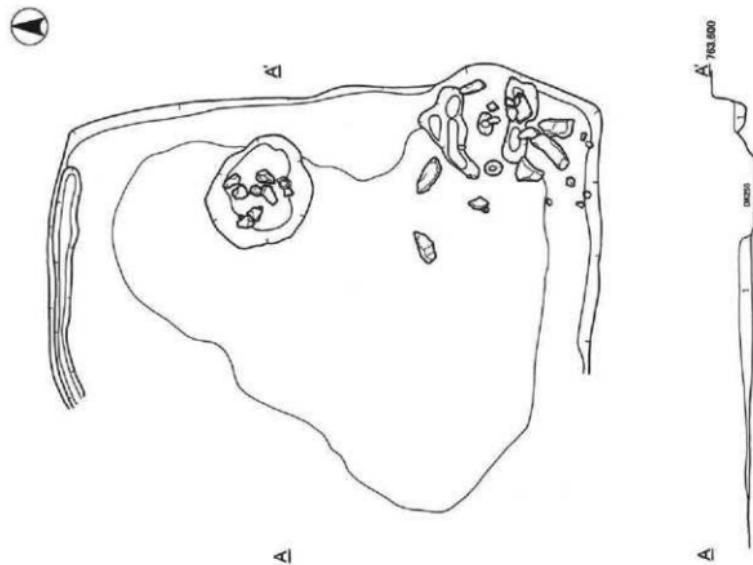
1層 1,003/10明鏡に7.005/10明鏡が10%、105号住居跡の統計から見じる
非常な濃くしまる。シルト粘土。

2層 105号住居跡の底に7.005/10明鏡が20%、1,005/10明鏡が30%見じる
濃くしまる。シルト粘土。

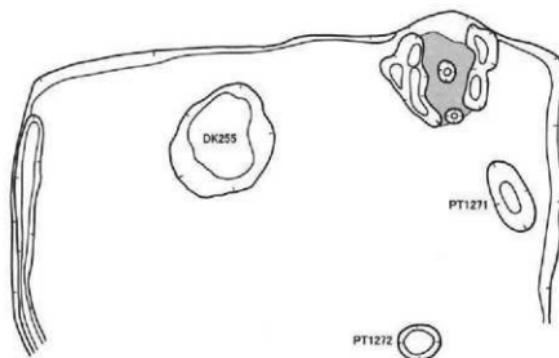
3層 1,003/10明鏡に7.005/10明鏡が5%、105号住居跡の統計から見じる
非常な濃くしまる。シルト粘土。

地山 1,004/10厚、非常な濃くしまる。シルト粘土。

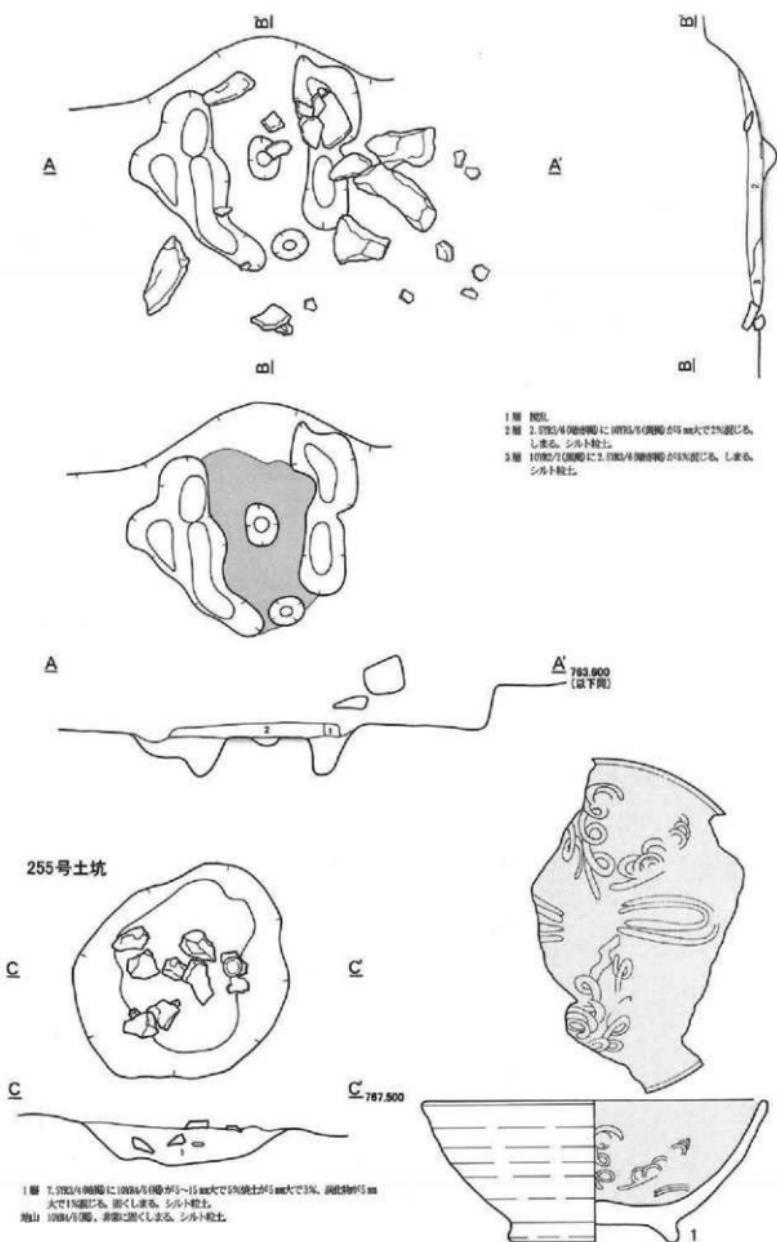
第29図 105号住居出土遺物 (1/2, 5 1/4) 104号住居カマド (1/20) および出土遺物 (1/2)



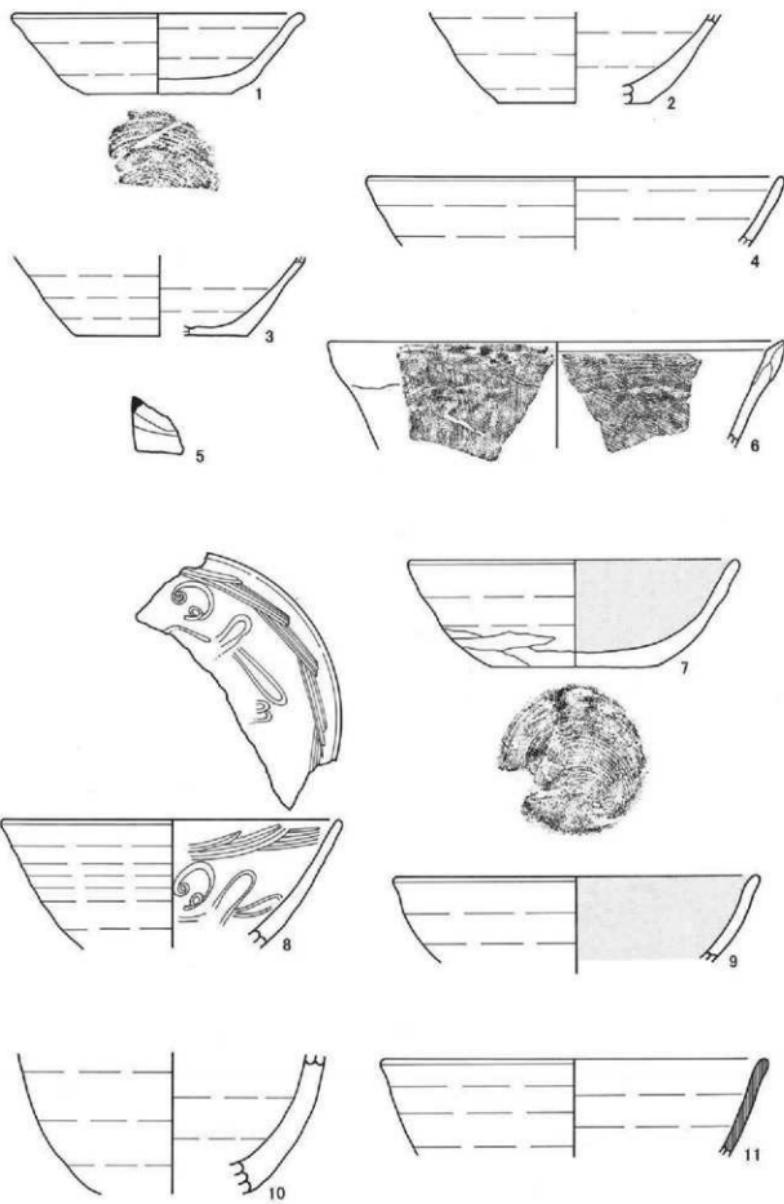
1層 106号室に106号床跡が1ヶ所ある。床面は固くしまる。
2層 106号室に106号2号床跡が1ヶ所ある。床面は固くしまる。シルト粘土
地山 106号室。床面は固くしまる。シルト粘土。



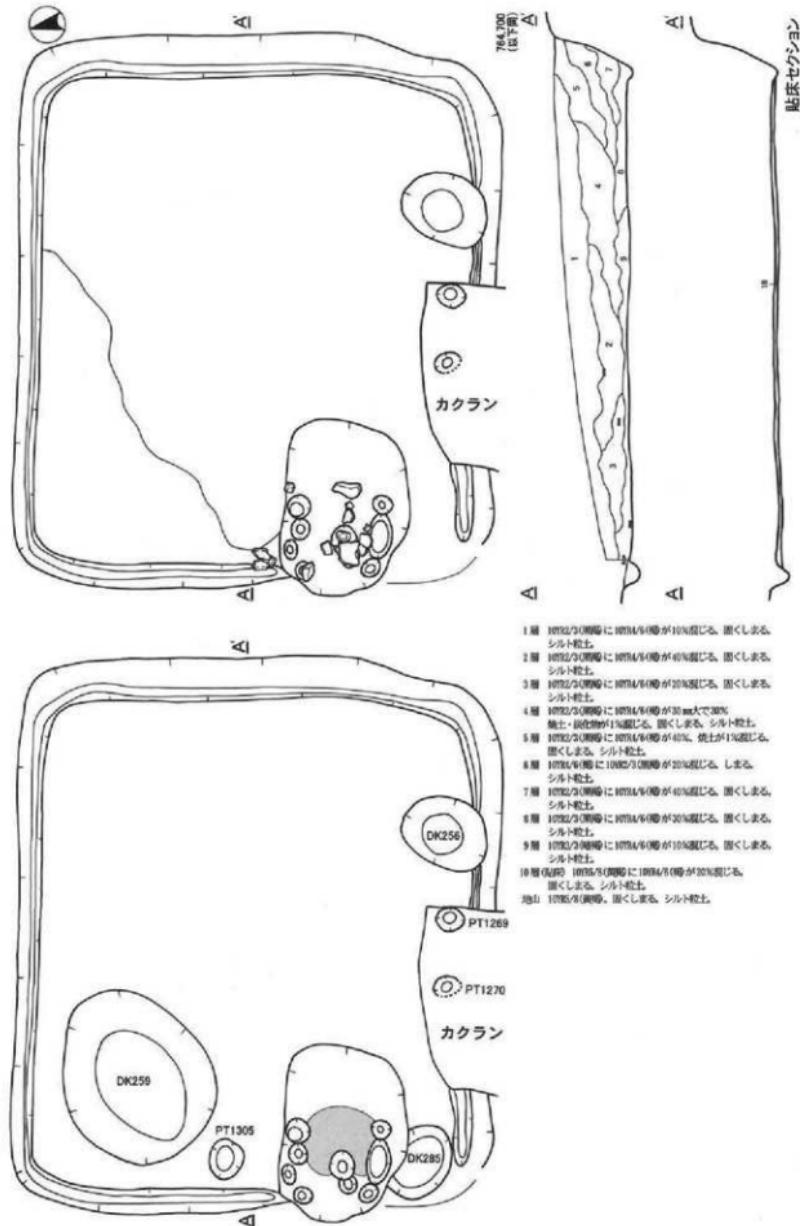
第30図 106号住居 (1/40)



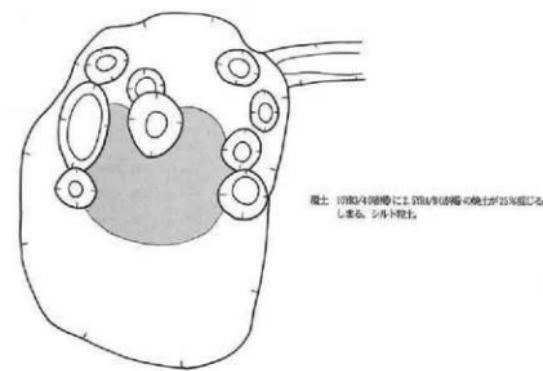
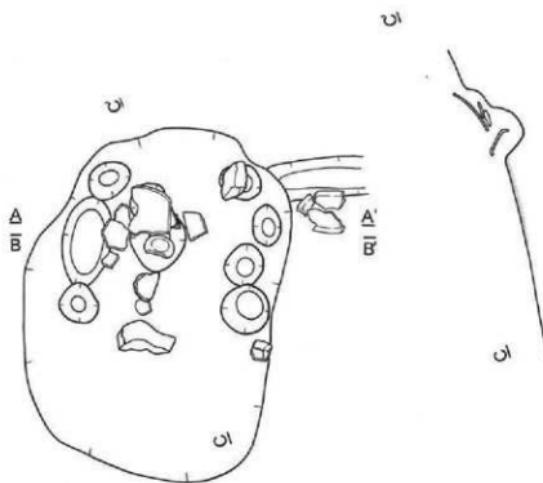
第31図 106号住居カマド (1/20) 255号土坑 (1/20) および出土遺物 (1/2)



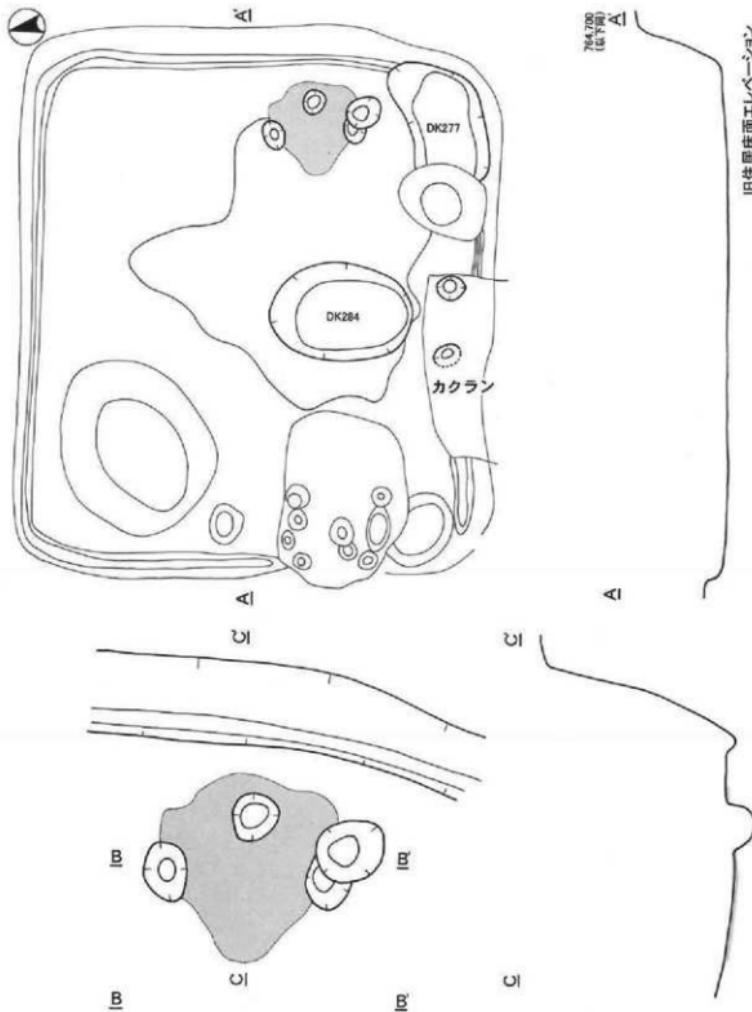
第32図 106号住居出土遺物 (1/2, 6 1/4)



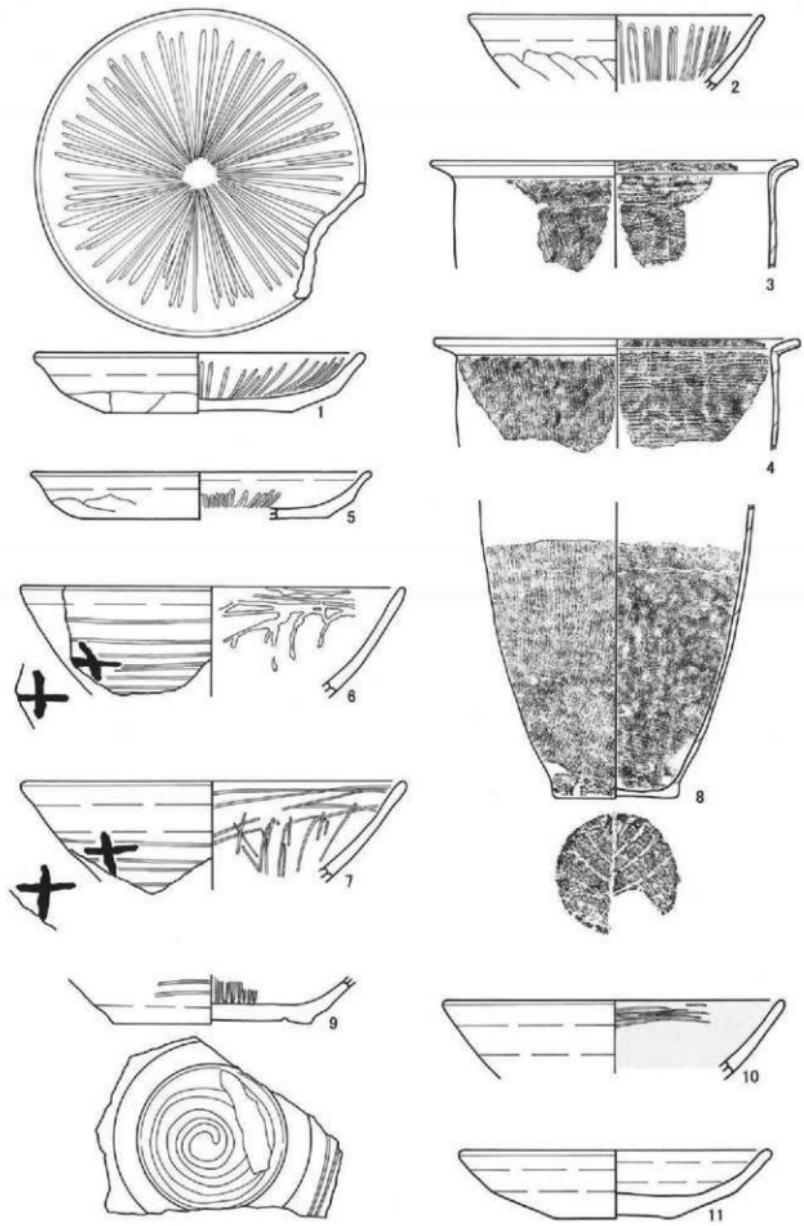
第33図 107a号住居 (1/40)



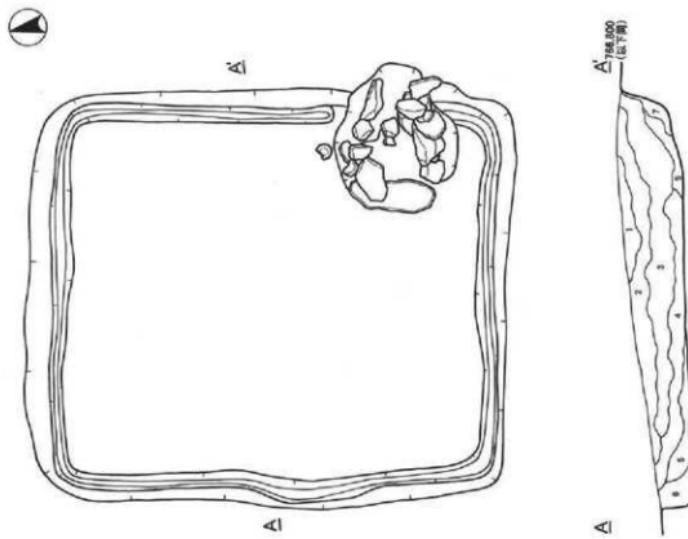
第34図 107a号住居カマド (1/20)



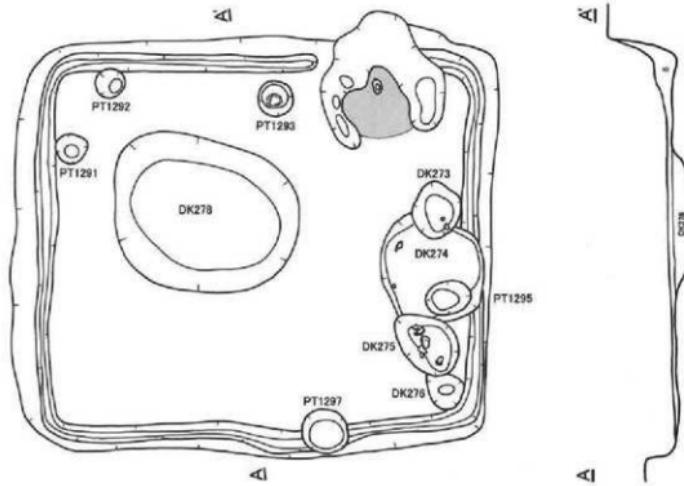
第35図 107b号住居 (1/40) 107b号住居カマド (1/20)



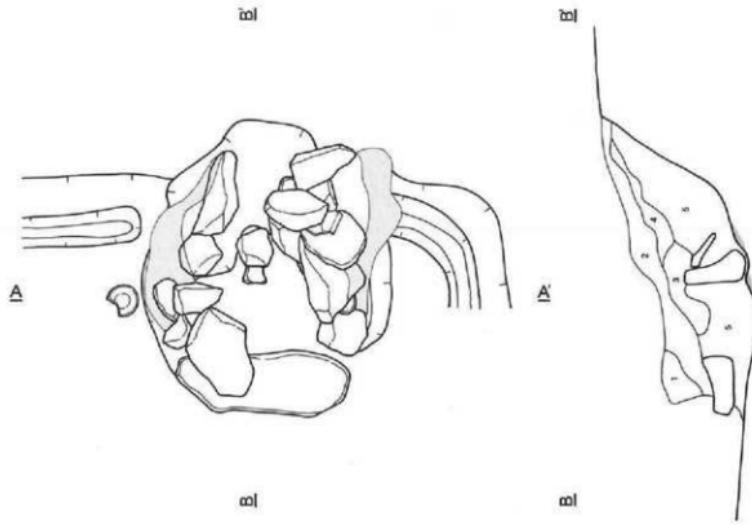
第36図 107号住居出土遺物 (1/2、3-4-8 1/4)



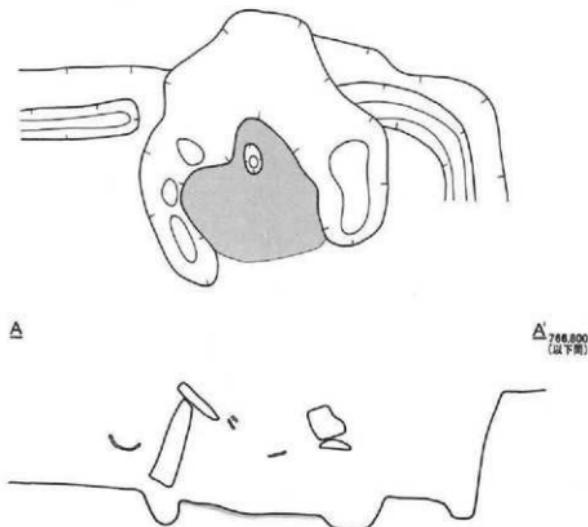
- 1層 1078/4(間)に1093/3(間)が30%重じる。固くしまる。シート乾土。
- 2層 1078/2(間)に1078/4(間)が20%重じる。固くしまる。シート乾土。
- 3層 1078/2(間)に1078/4(間)が10%。乾土が13%重じる。シート乾土。
- 4層 1078/2(間)に1078/4(間)が5%。乾土・既存物の1%重じる。シート乾土。
- 5層 1078/4(間)に1093/3(間)が20%重じる。固くしまる。シート乾土。
- 6層 1078/4(間)に1093/3(間)が10%重じる。固くしまる。シート乾土。
- 7層 1078/4(間)に1093/3(間)が5%重じる。固くしまる。シート乾土。
- 8層 1078/4(間)に1078/2(間)が3%重じる。固くしまる。シート乾土。
- 地1 1078/2(間)に1088/2(間)が30%重じる。井戸口固くしまる。シート乾土。



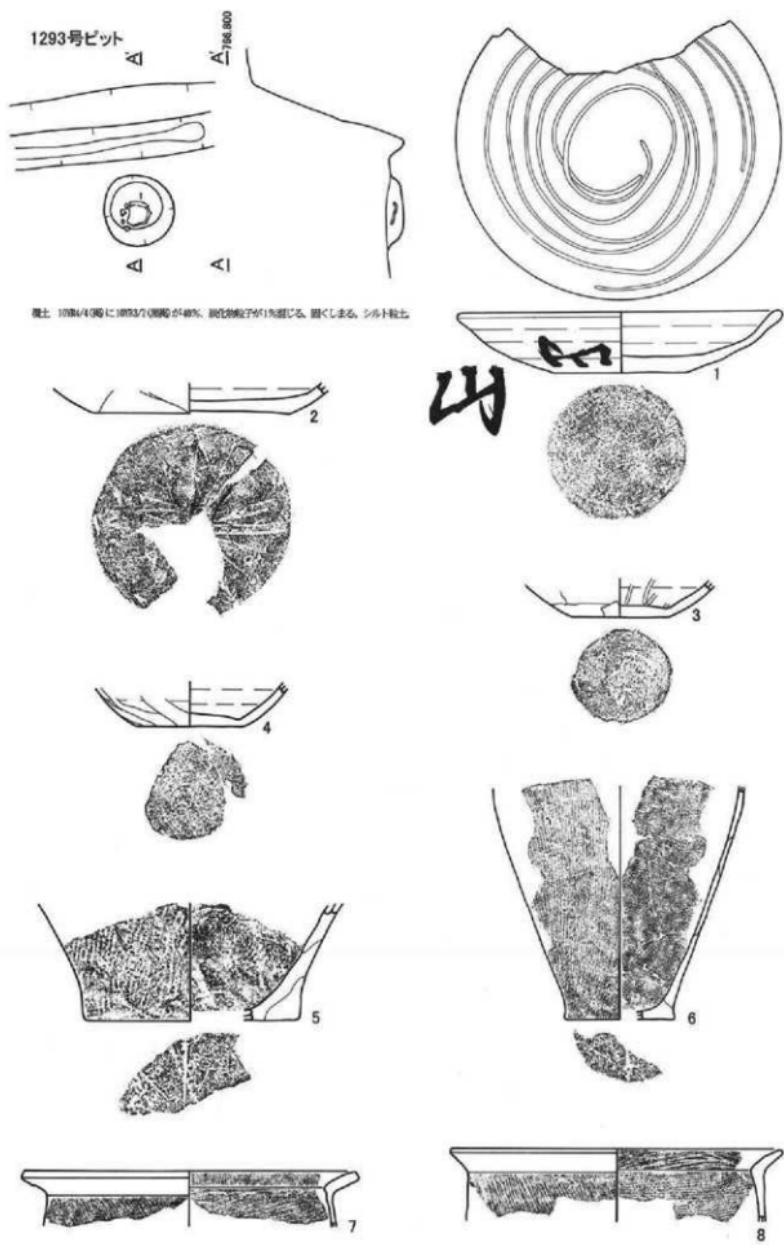
第37図 108号住居 (1/40)



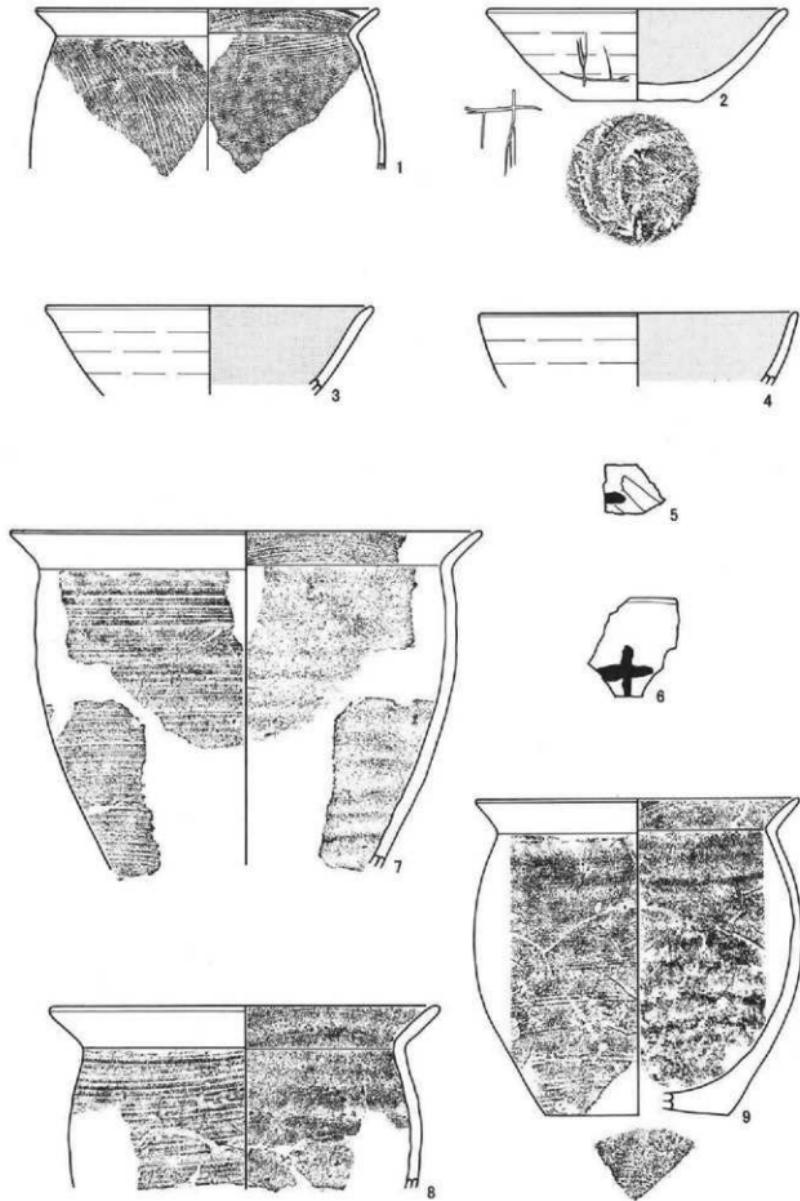
- 1種 108号(クモ類)に、IRB64/1(8)のコロロした土が1~3mm大で5%, 細土が1%混じる。固くしまる。シルト粒土
 2種 108号(クモ類)に、IRB64/1(8)のコロロした土が1~3mm大で2%, 細土・微細物が1%混じる。固くしまる。シルト粒土
 3種 108号(クモ類)に、IRB64/1(8)のコロロした土が1~3mm大で1%, 細土が1%混じる。固くしまる。シルト粒土
 4種 108号(クモ類)に、IRB64/1(8)のコロロした土が1~3mm大で1%, 細土が1%混じる。固くしまる。シルト粒土
 5種 108号(クモ類)に、施土が2~5mm大で5%, IRB64/1(8)が3%混じる。固くしまる。シルト粒土



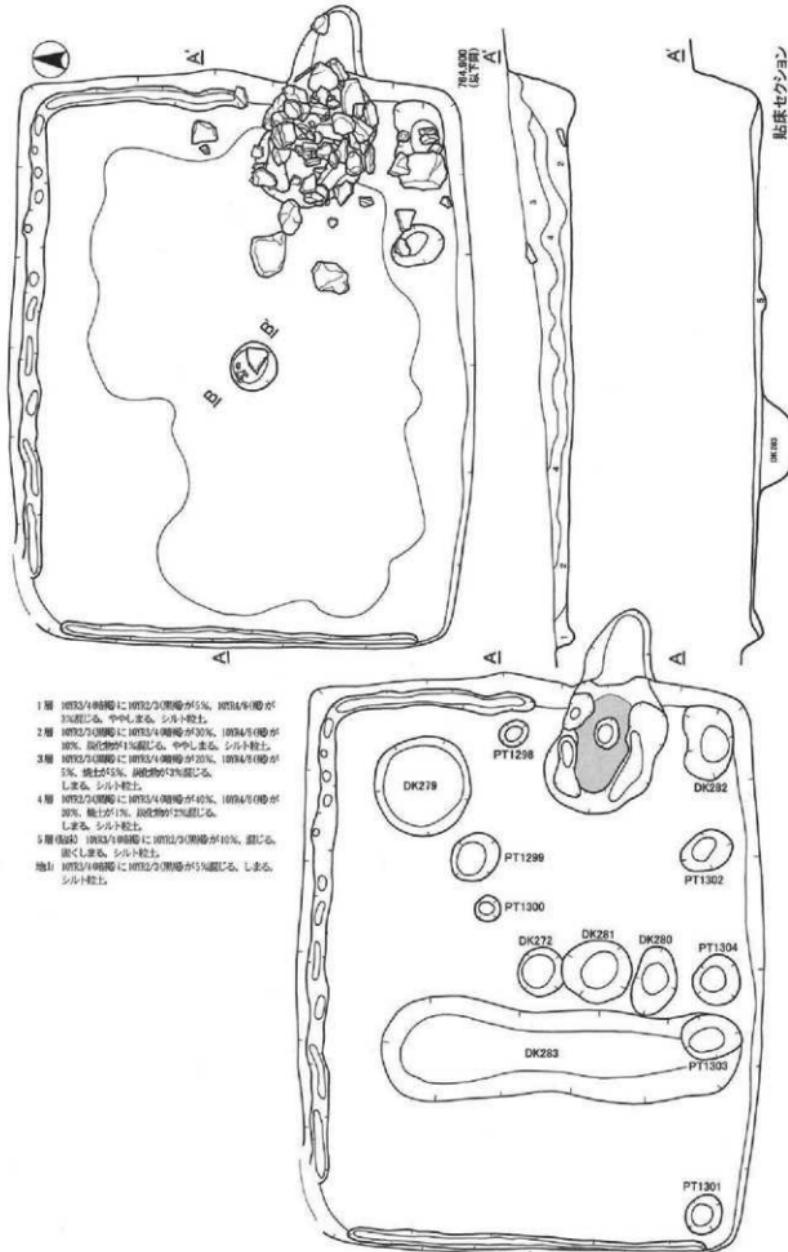
第38図 108号住居カマド (1/20)



第39図 1293号ピット (1/20) および出土遺物 (1/2) 108号住居出土遺物 (1/2, 5~8 1/4)

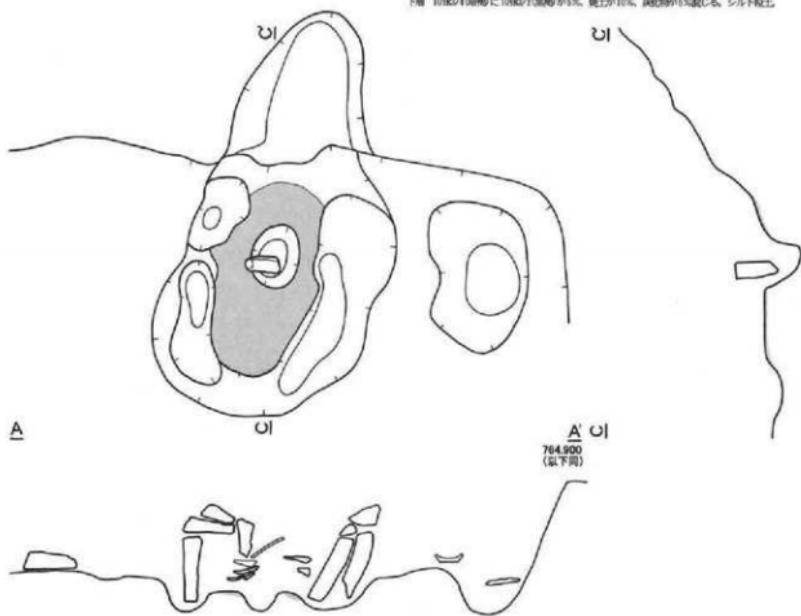
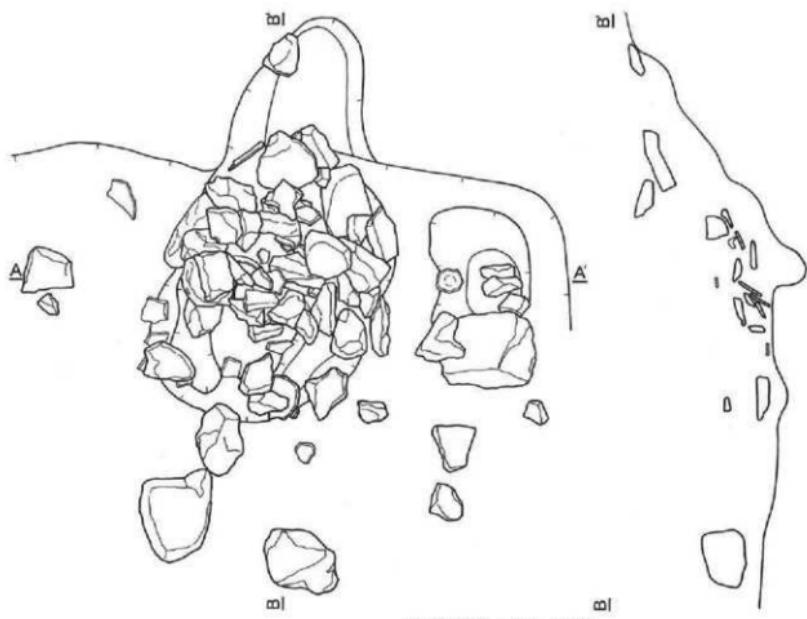


第40圖 108號住居出土遺物 (1/2、1 1/4)



- 1層 DK32/1の部屋に DK32/2の面積が5%、DK34/1の面積が3%面積じる。やむしまる。シルト粒土。
- 2層 DK32/1の部屋に DK32/4の面積が30%、DK34/1の面積が30%、他の部屋が13%面積じる。やむしまる。シルト粒土。
- 3層 DK32/3の部屋に DK32/4の面積が20%、DK34/1の面積が5%、他の部屋が15%、DK34/2の面積じる。やむしまる。
- 4層 DK32/2の部屋に DK32/4の面積が40%、DK34/1の面積が30%、他の部屋が10%、DK34/2の面積じる。やむしまる。シルト粒土。
- 5層 階段 DK32/1の部屋に DK32/2の面積が10%、面積じる。固くしまる。シルト粒土。
- 地山 DK32/1の部屋に DK32/2の面積が15%面積じる。やむしまる。シルト粒土。

第41図 109号住居 (1/40)



第42図 109号住居カマド (1/20)

272号土坑

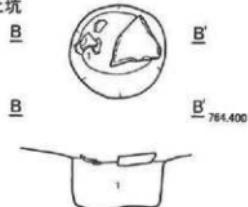
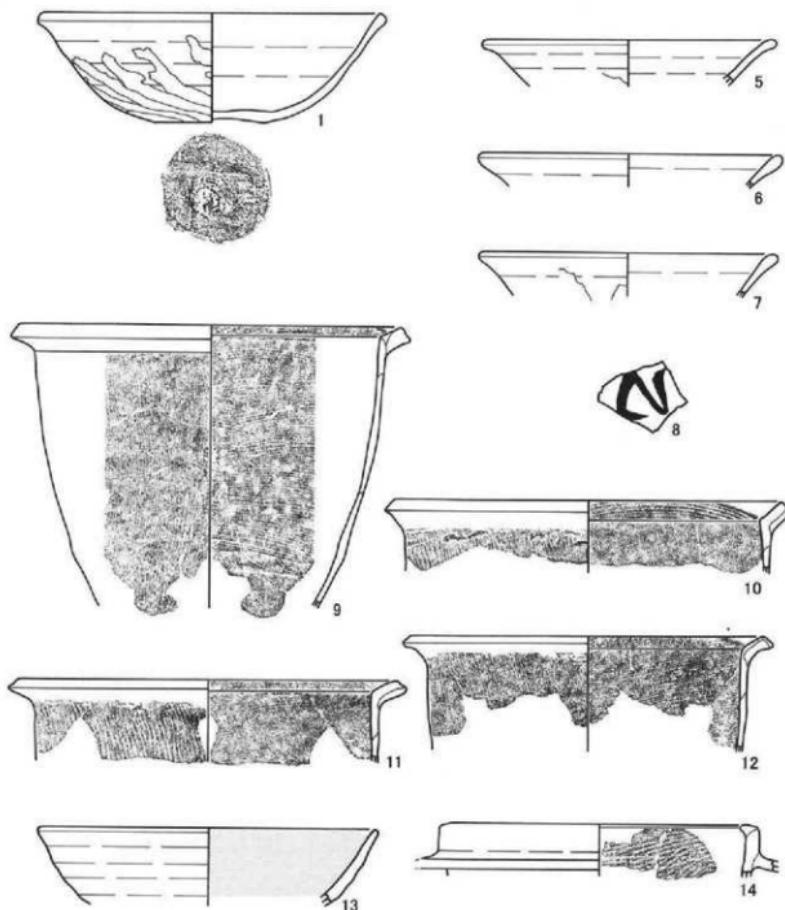
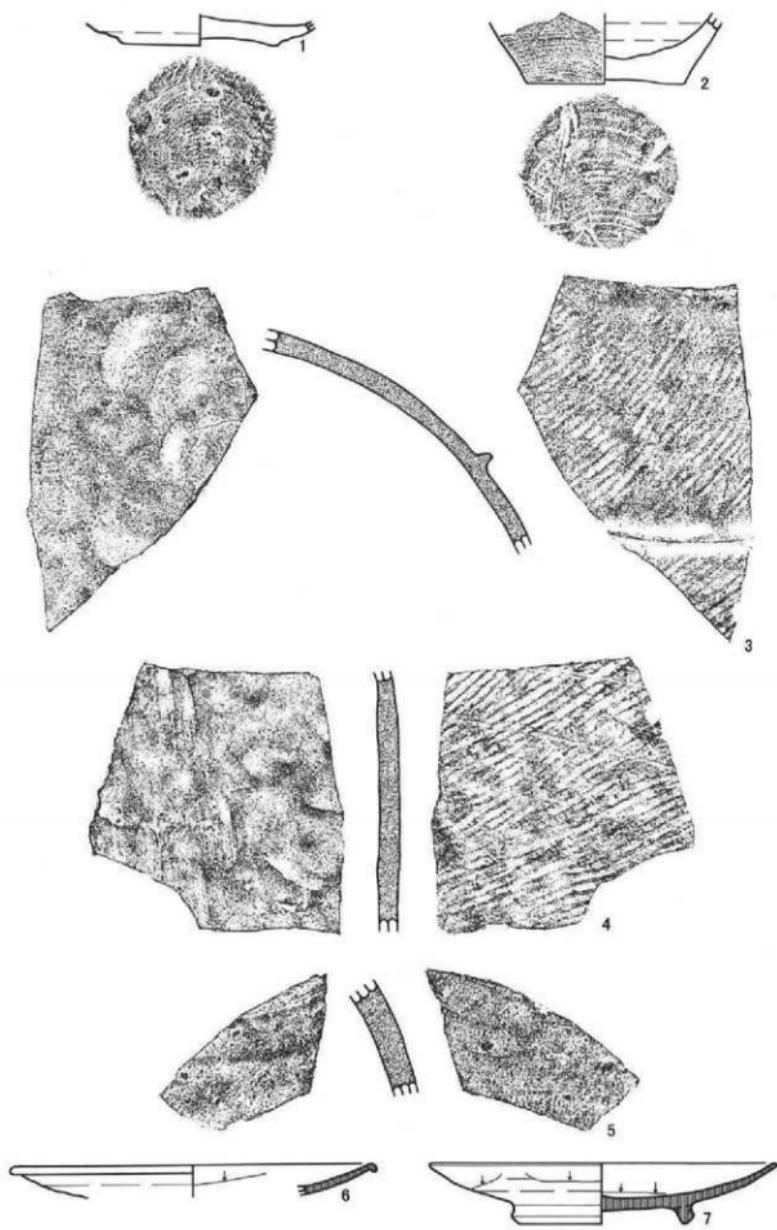


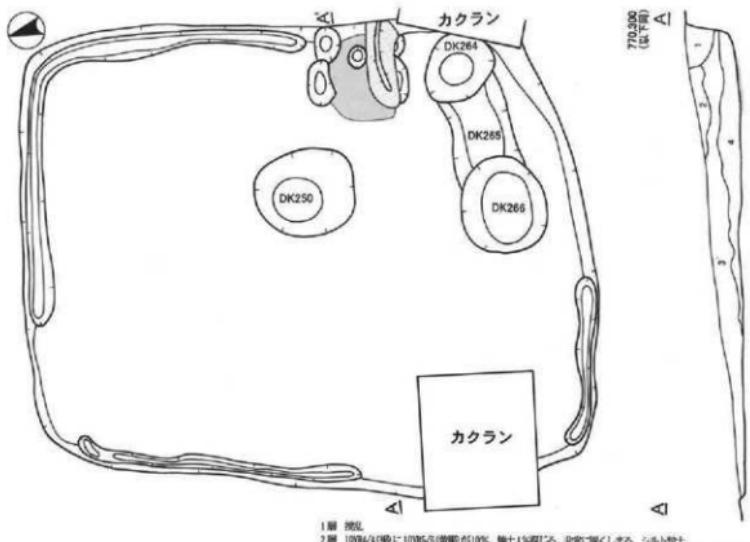
図1 272号土坑に用意された跡が20cm、焼土が約30cmで充満する。シルト粘土。



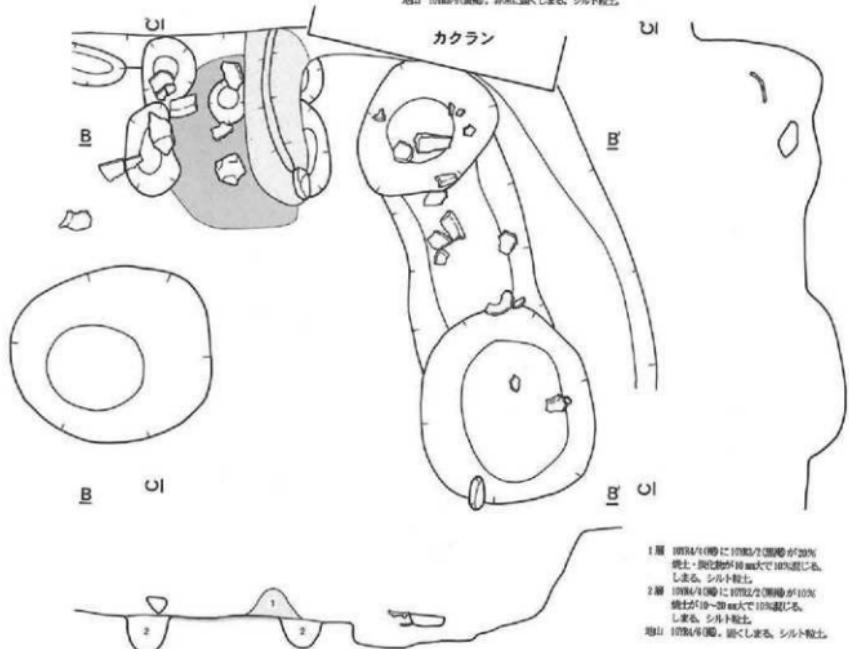
第43図 272号土坑 (1/20) および出土遺物 (1/2) 109号住居出土遺物 (1/2, 9~12・14 1/4)



第44图 109号住居出土遗物 (1/2)

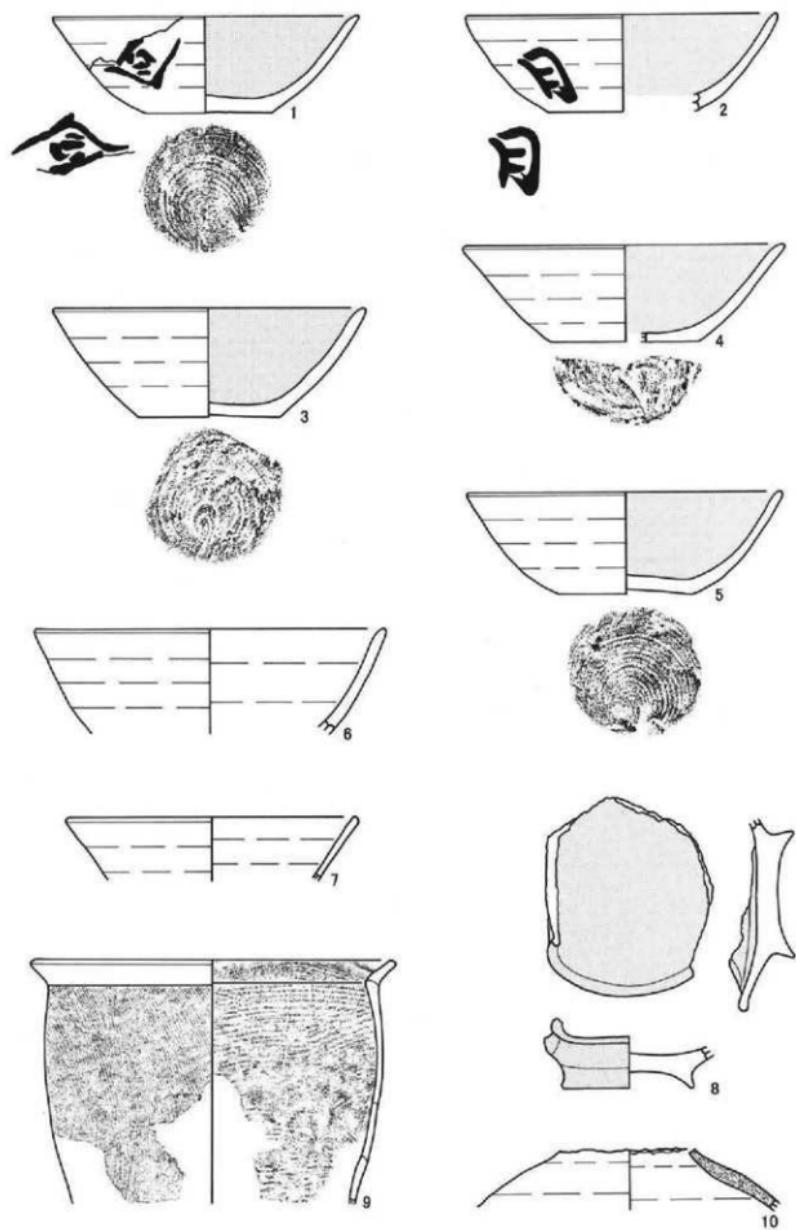


- 1層 洗面
2層 100%（100%に100%）洗面が10%、施土1%隣じる。洗面隣接する。
3層 100%（100%に100%）洗面が10%～30%大きさで切らし、施土隣接する。
4層 100%（100%に100%）洗面が10%～30%大きさで切らし、施土隣接する。洗面隣接する。
床面 100%（100%に100%）洗面が30%隣じる。隣くしまる。シルト粒土。
地山 100%（100%）洗面が隣接する。隣くしまる。シルト粒土。

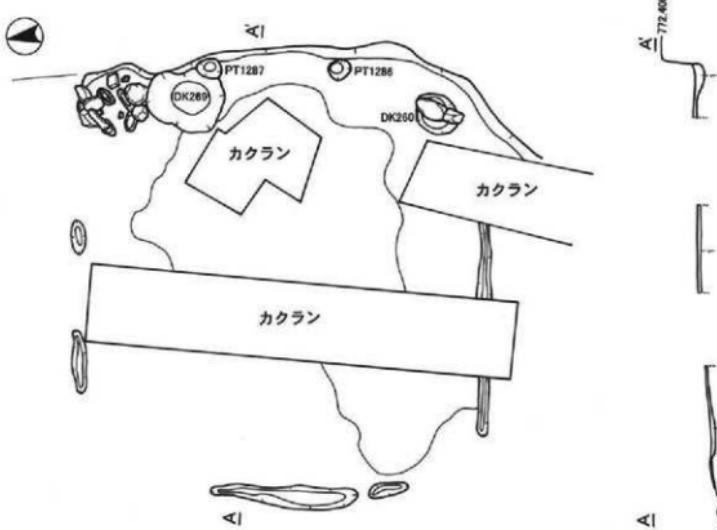
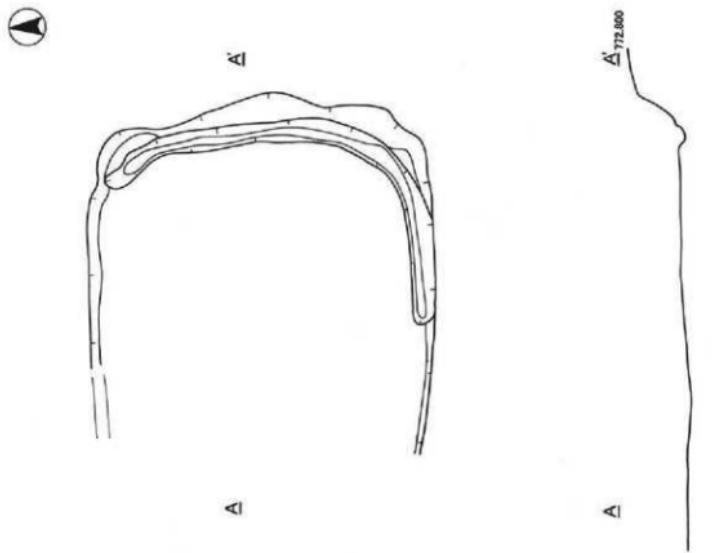


- 1層 100%（100%に100%）洗面が30%
施土・隣接する。隣接する。
2層 100%（100%に100%）洗面が10%
施土が10～20%大きさで10%隣じる。
隣接する。シルト粒土。
地山 100%（100%）隣接する。隣くしまる。シルト粒土。

第45図 110号住居 (1/40) 110号住居カマド (1/20)

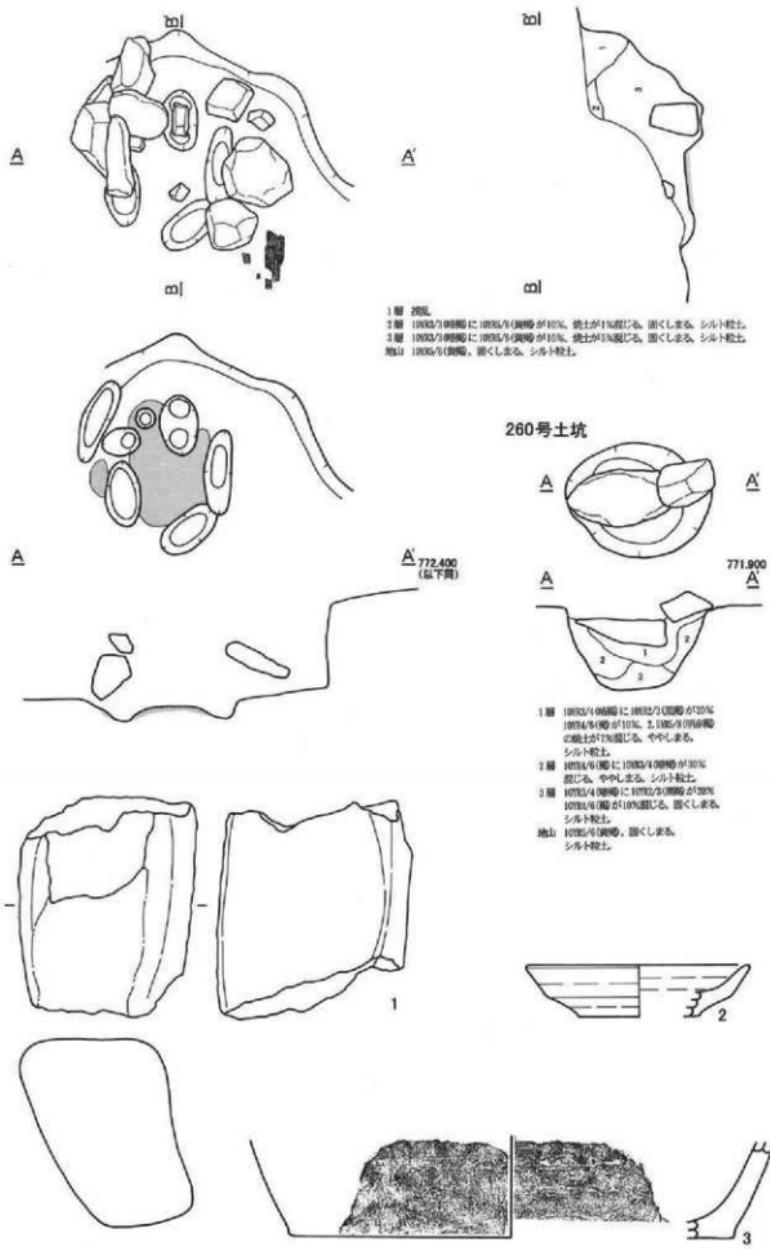


第46圖 110号住居出土遺物 (1/2、9 1/4)

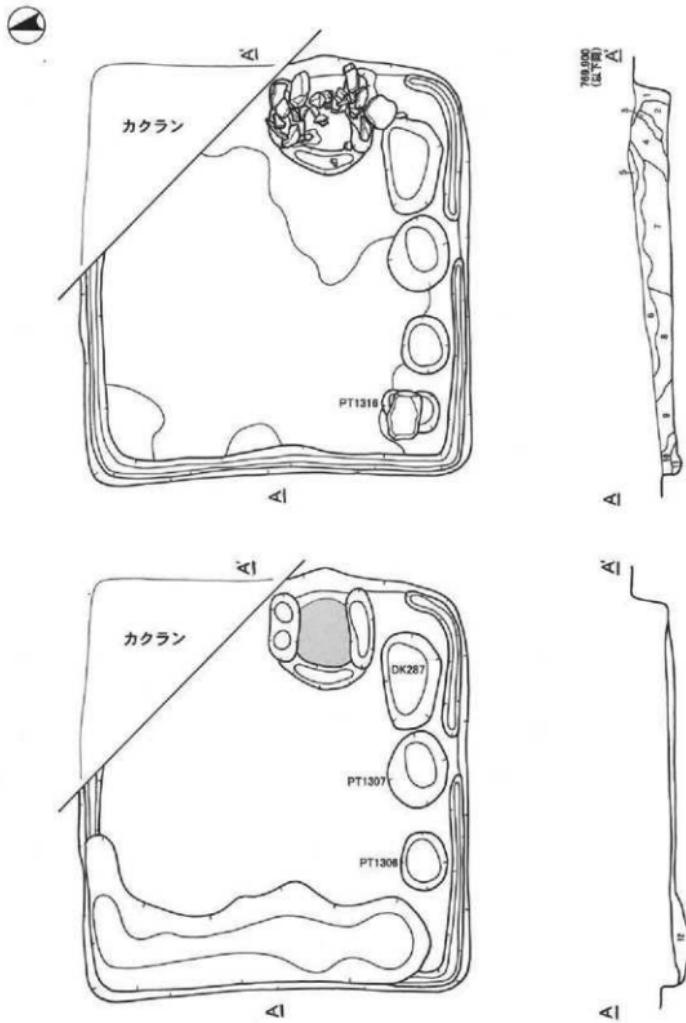


1層(側壁) 1085/4(に)に2-3階に 1185/4(壁)が70%, 1082/2(間隔)が10%同じ。固くしまる。シルト粘土。
地山 1085/4(に)に2-3階に 1185/4(壁)が70%, 1082/2(間隔)が10%同じ。固くしまる。シルト粘土。

第47図 111号住居 (1/40) 112号住居 (1/60)

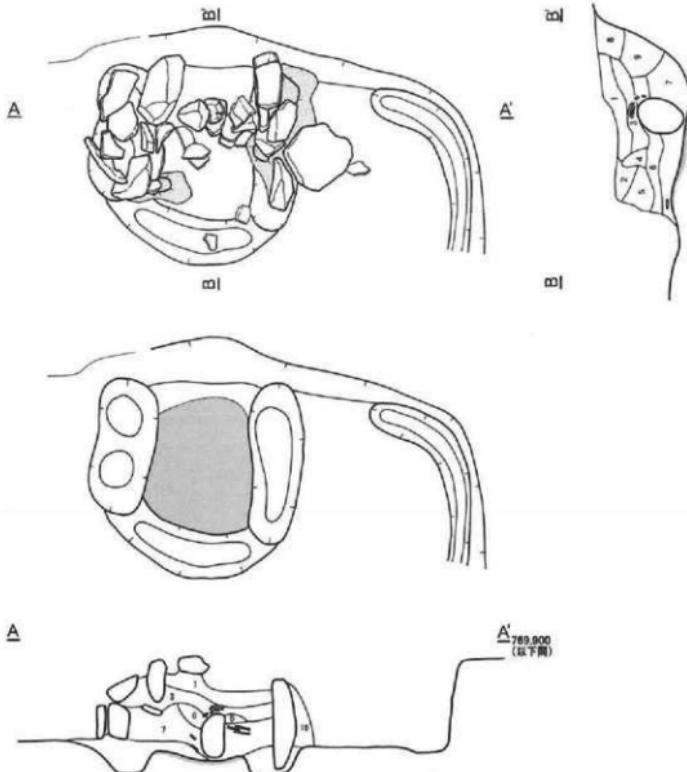


第48図 112号住居カマド (1/20) 260号土坑 (1/20) 112号住居出土遺物 (1/2)

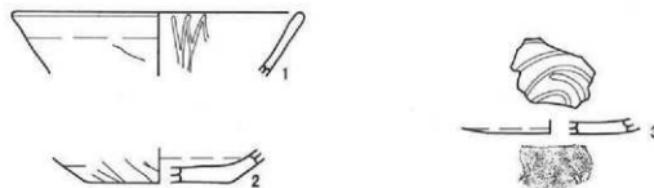


- 1層 地図
 2層 HIR02/4/08階に100W/1個が4~2mmまで2%、焼土が4%を超える。固くしまる。シルト粘土
 3層 HIR02/4/08階に100W/1個が4~2mmまで75%を超える。固くしまる。シルト粘土
 4層 HIR02/3/08階に100W/1個が4~1.5mmまで2%、焼土が4%を超える。固くしまる。シルト粘土
 5層 HIR02/3/08階に100W/1個が5%を超える。固くしまる。シルト粘土
 6層 HIR02/3/08階に100W/1個が4~3mmまで2%、焼土・固化的物が4%を超える。固くしまる。シルト粘土
 7層 HIR02/3/08階に100W/1個が4~10mmまで5%、焼土・固化的物が4%を超える。固くしまる。シルト粘土
 8層 HIR02/3/08階に100W/1個が4~4mmまで2%、焼土・固化的物が4%を超える。固くしまる。シルト粘土
 9層 HIR02/3/08階に100W/1個が4~1mmまで1%を超える。固くしまる。シルト粘土
 10層 HIR02/3/08階に100W/1個が4~3mmまで2%を超える。固くしまる。シルト粘土
 11層 HIR03/4/08階に100W/4個が4%を超える。固くしまる。シルト粘土
 12層 廊下部 100W/4個に100W/4個が4%を超える。非常口固くしまる。シルト粘土
 地上 100W/4個に100W/4個が4%を超える。固くしまる。シルト粘土

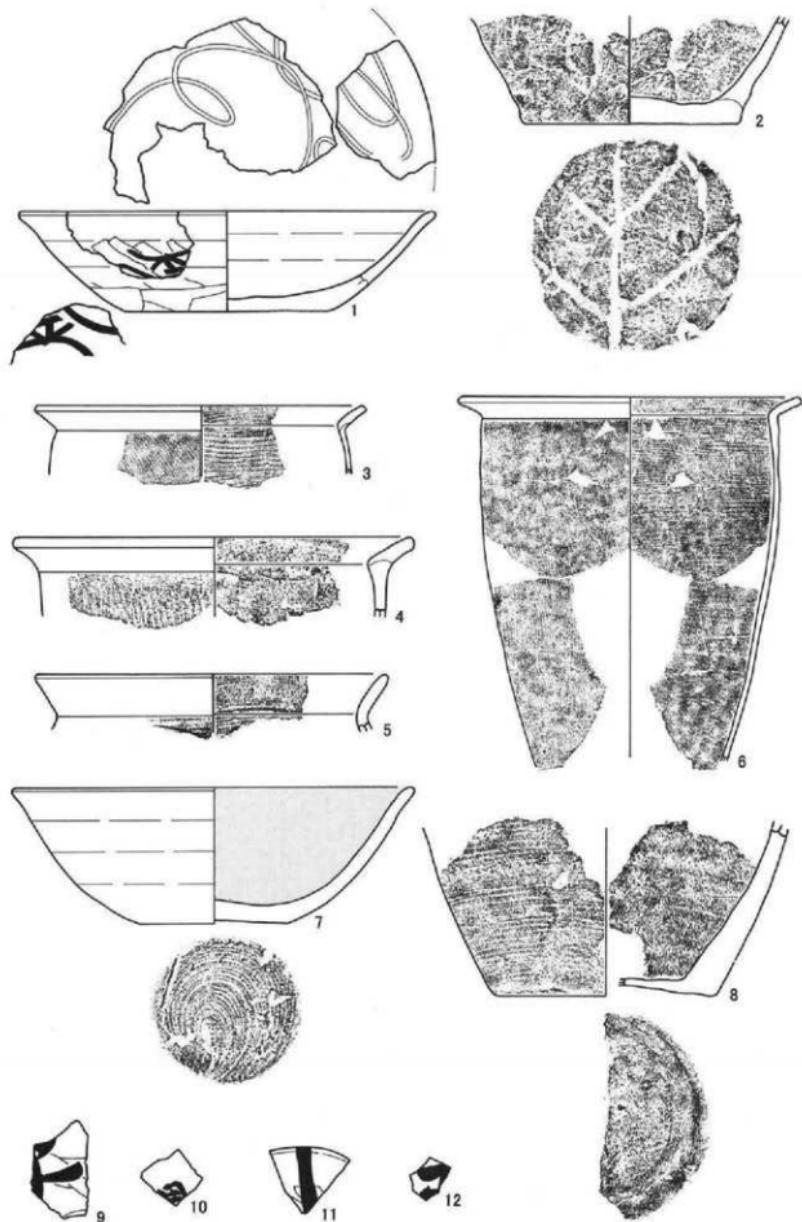
第49図 113号住居 (1/40)



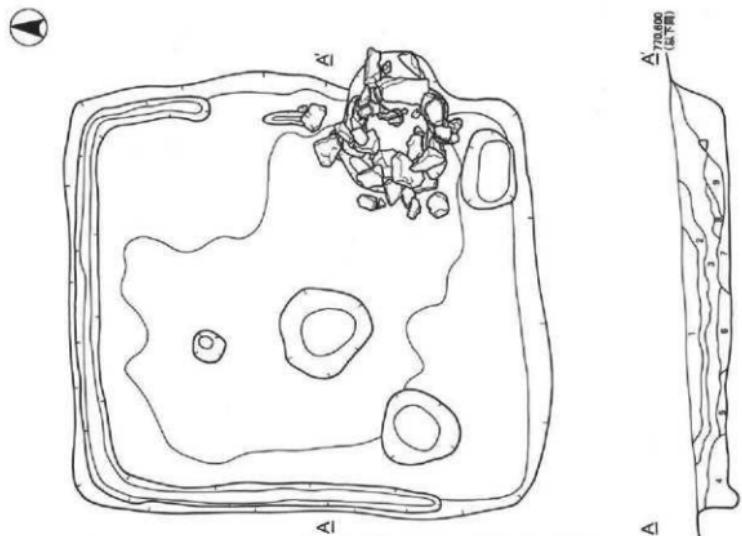
- 1層 1083/2の隙間に1084/1/6号の内口が凸出した土台1~3mm大で3%、1082/1/6号が1%出る。固くしまる。シルト粘土
 2層 1083/2の隙間に1084/1/6号が1~2mm大で1%、1082/1/6号が1%。地力が1%出る。固くまる。シルト粘土
 3層 1083/2の隙間に1084/1/6号の内口が凸出した土台1~3mm大で2%、地力が1%出る。固くしまる。シルト粘土
 4層 1083/2の隙間に1084/1/6号の内口が凸出した土台1~3mm大で2%、地力が1%出る。固くしまる。シルト粘土
 5層 1083/2の隙間に1084/1/6号が1mm大で3%、地力が1%出る。固くしまる。シルト粘土
 6層 1083/1/6号に1084/1/6号が3%、地力が1%出る。固くしまる。シルト粘土
 7層 1083/1/6号に1084/1/6号が3%、地力が1%出る。固くしまる。シルト粘土
 8層 1084/1/6号に1083/1/6号が3%、地力が1%出る。固くしまる。シルト粘土
 9層 1082/2/1の隙間に1084/1/6号が1%、地力が2%出る。固くしまる。シルト粘土
 10層 1084/1/6号の内口が凸出した3~5mm大的土。固くしまる。シルト粘土



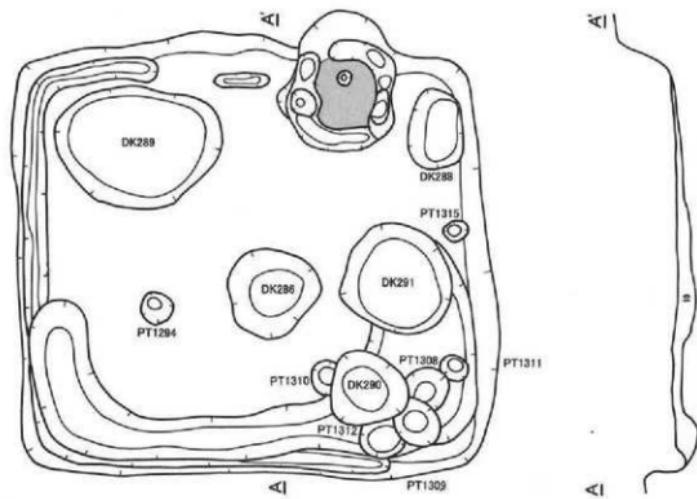
第50図 113号居住カマド (1/20) 113号住居出土遺物 (1/2)



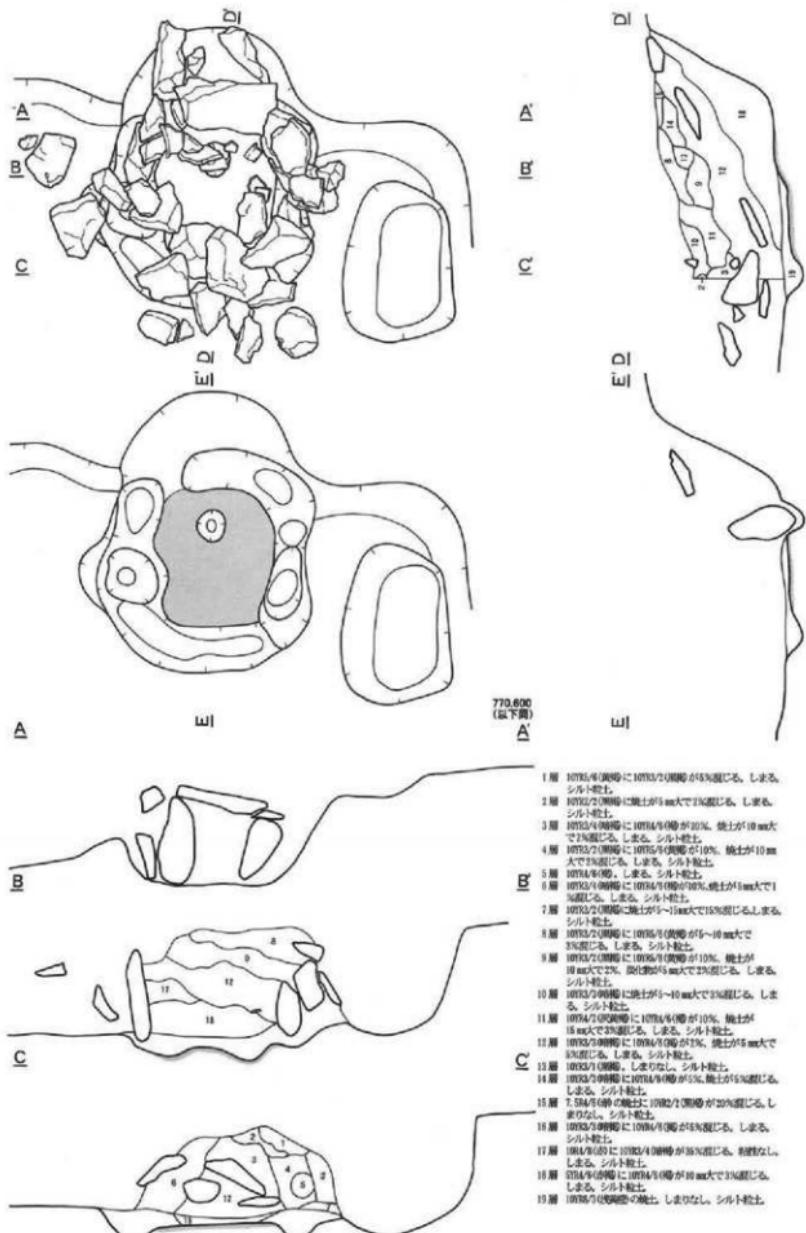
第51図 113号住居出土遺物 (1/2, 3-6 1/4)



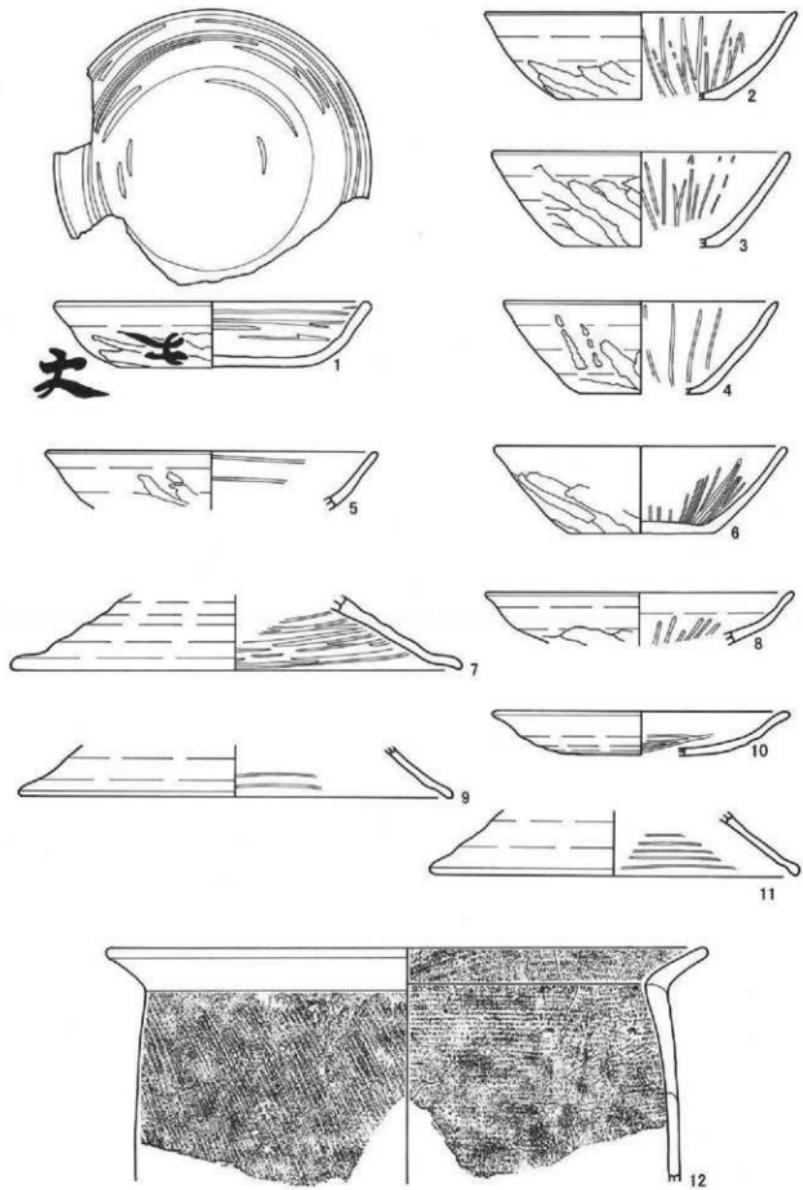
- 1層 1083/2(固密)に地土が10mmまで1%屈む。しまる。シルト粘土
 2層 1082/3(固密)に 1083/2(固密)が5%, 地土が5mmまで1%屈む。しまる。シルト粘土
 3層 1083/4(固密)に 1083/2(固密)が5%, 1085/5(固密)が1~2mmまで1%屈む。しまる。シルト粘土
 4層 1082/4(固密)に 1084/4(固密)が5%, しまる。シルト粘土
 5層 1084/4(固密)に 1083/2(固密)が10%屈む。しまる。シルト粘土
 6層 1084/4(固密)に 1085/5(固密)が10%屈む。地土が5mmで1%屈む。しまる。シルト粘土
 7層 1084/4(固密)に 1085/5(固密)が10%屈む。地土が5mmで1%屈む。しまる。シルト粘土
 8層 1084/4(固密)に 1085/5(固密)が10%屈む。しまる。シルト粘土
 9層 1085/5(固密)に 1082/3(固密)が10%屈む。しまる。シルト粘土
 10層 1085/5(固密)に 1083/2(固密)が10%屈む。地土・地盤が1%屈む。非圧縮屈み。シルト粘土
 地上 1085/5(固密)に 1083/2(固密)が10~50mmで10%屈む。深くしまる。シルト粘土



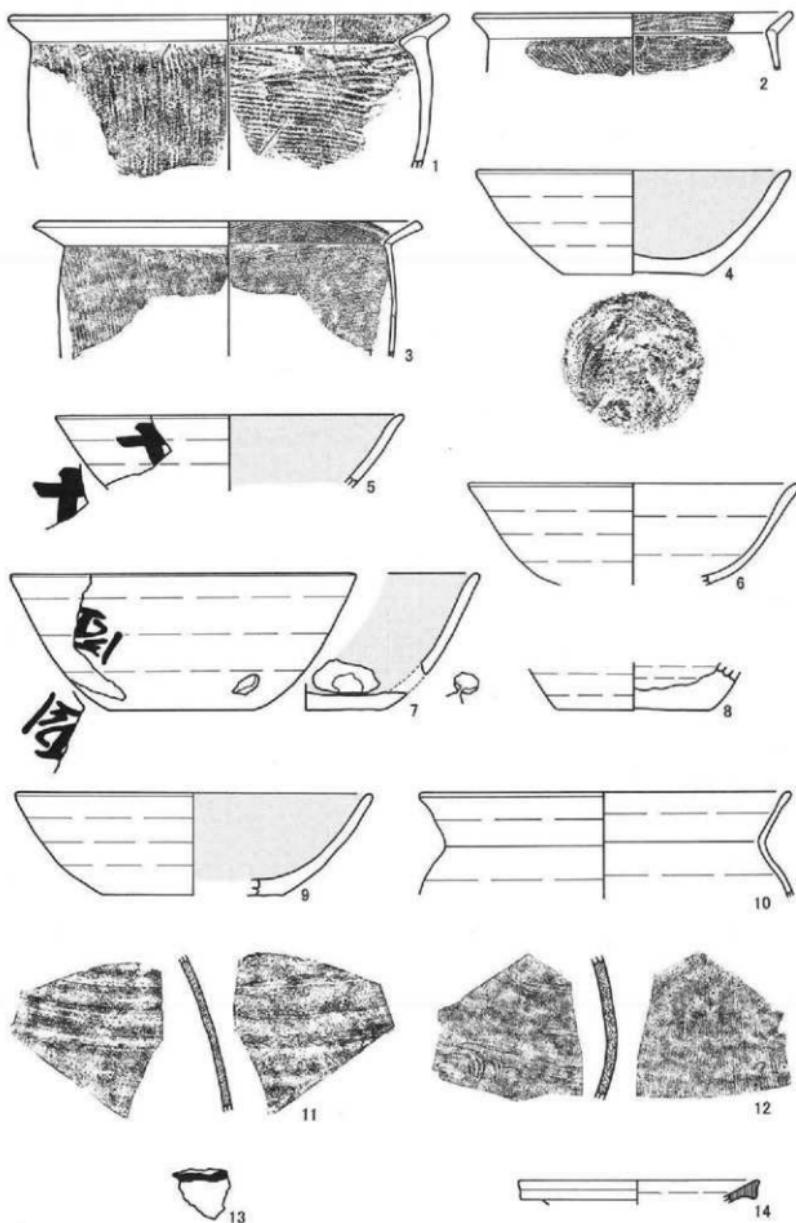
第52図 114号住居 (1/40)



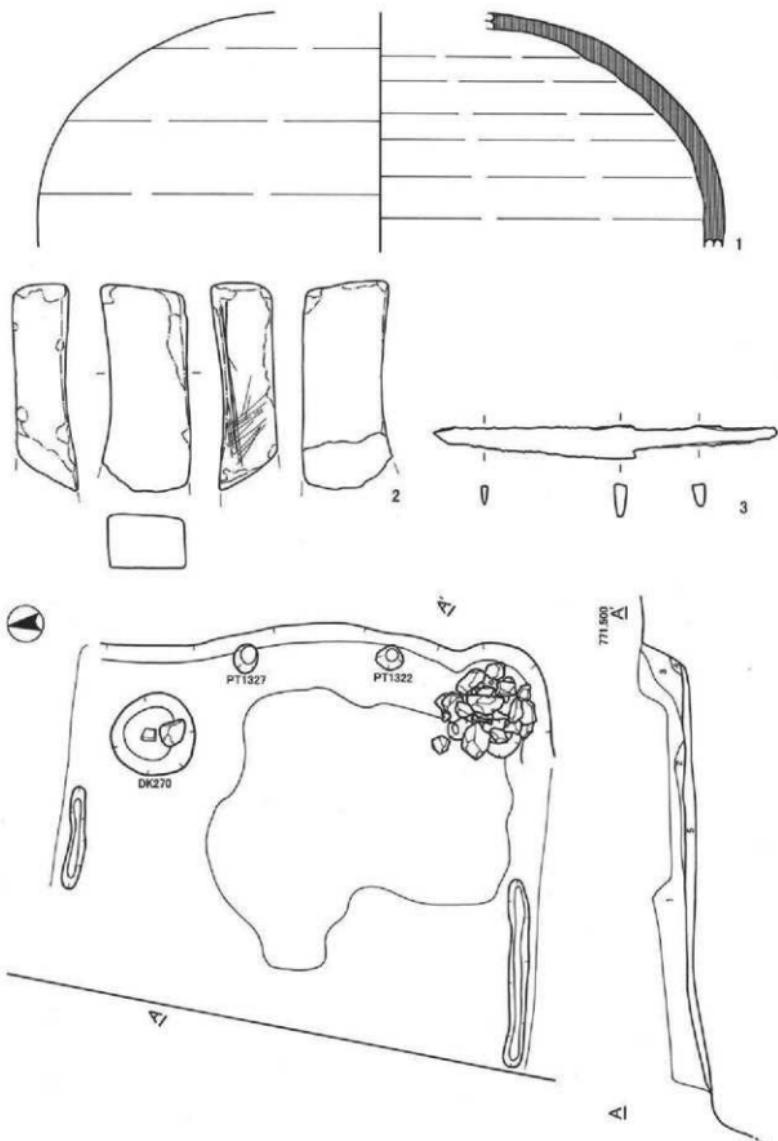
第53回 114号住居カマド (1/20)



第54図 114号住居出土遺物 (1/2)

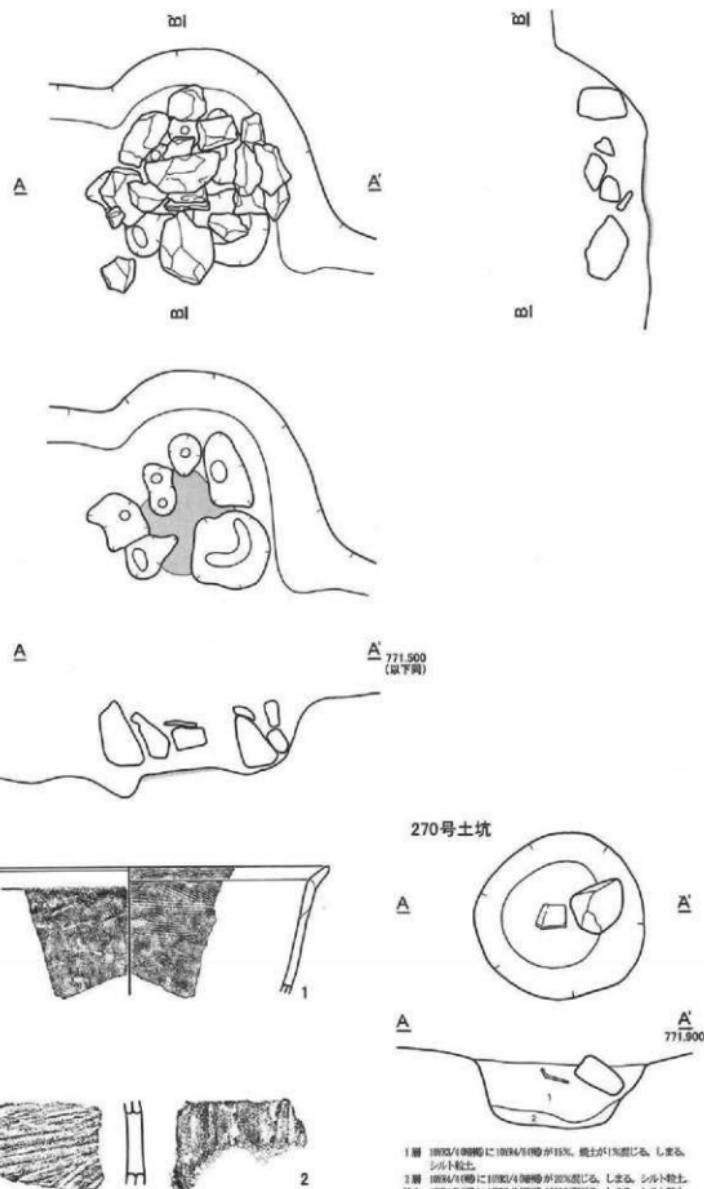


第55図 114号住居出土遺物 (1/2、2・3・12 1/4)



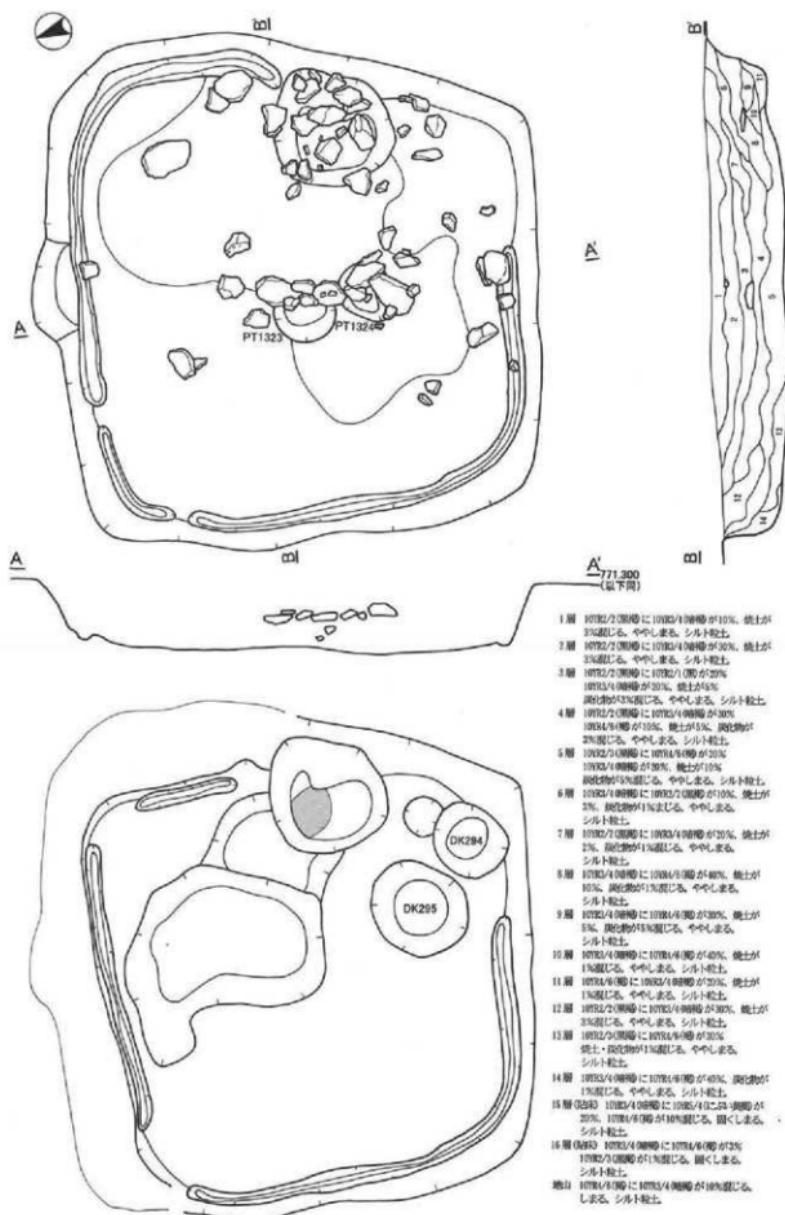
- 1号 1982/1(10月)に1982/1(9月)が30%、1982/1(8月)が10%、粘土・焼物割りを記す。しまる。シルト粘土。
 - 2号 1982/1(10月)に1982/1(9月)が30%、ややしまる。シルト粘土。
 - 3号 1982/1(10月)に1982/1(9月)が30%、他上が10%、焼物割りを記す。しまる。シルト粘土。
 - 4号 1982/1(10月)に1982/1(9月)が30%、焼土上に記す。しまる。シルト粘土。
 - 5号 地山 1982/1(9月)に1982/1(8月)が30%、四くしまる。シルト粘土。
- 地山 1982/1(9月)に1982/1(8月)が30%、ややしまる。シルト粘土。

第56図 114号住居出土遺物 (1/2) 115号住居 (1/40)

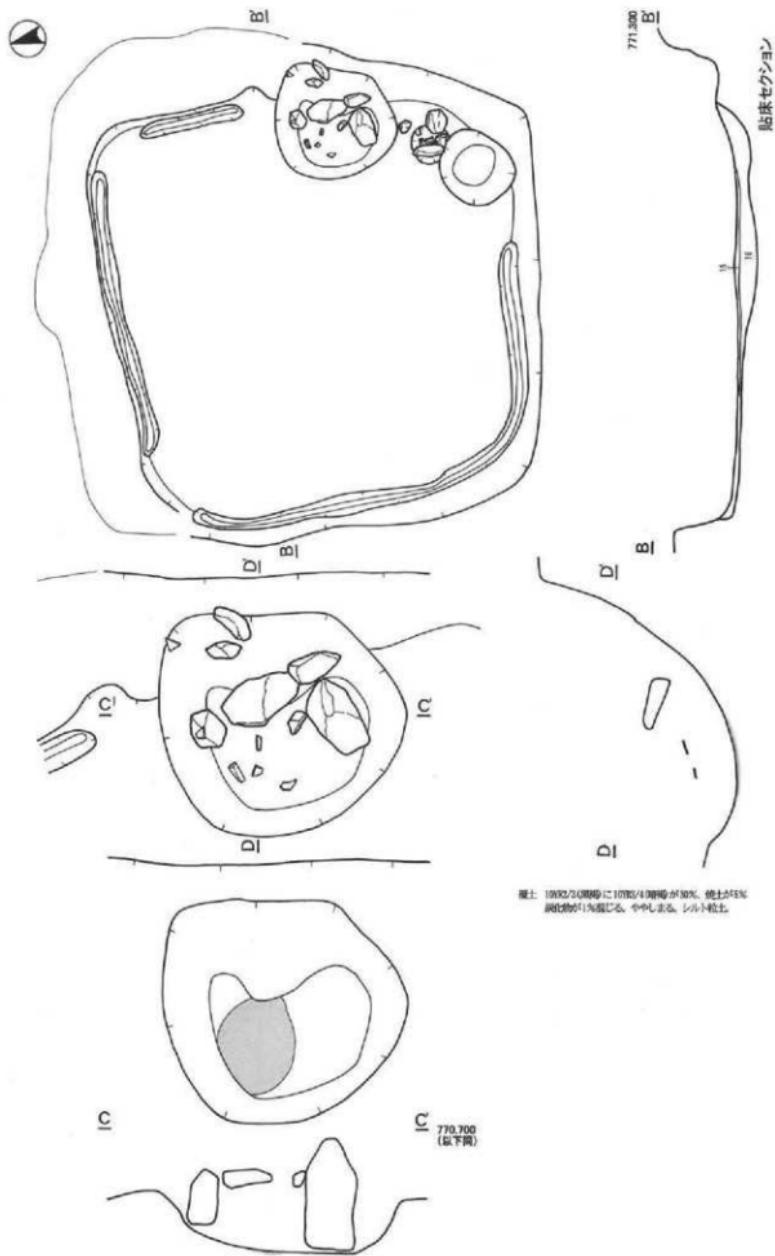


第57図 115号住居カマド (1/20) 270号土坑 (1/20)

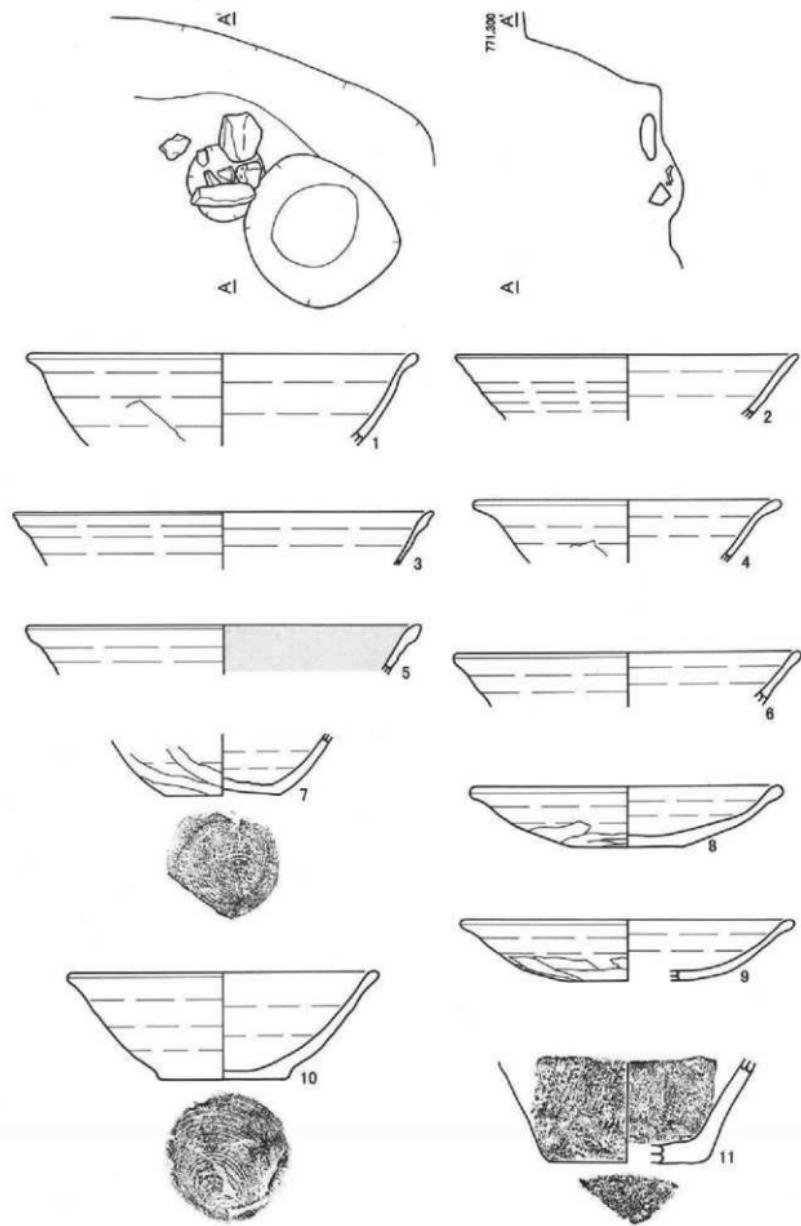
115号住居出土遺物 (1/2, 1 1/4)



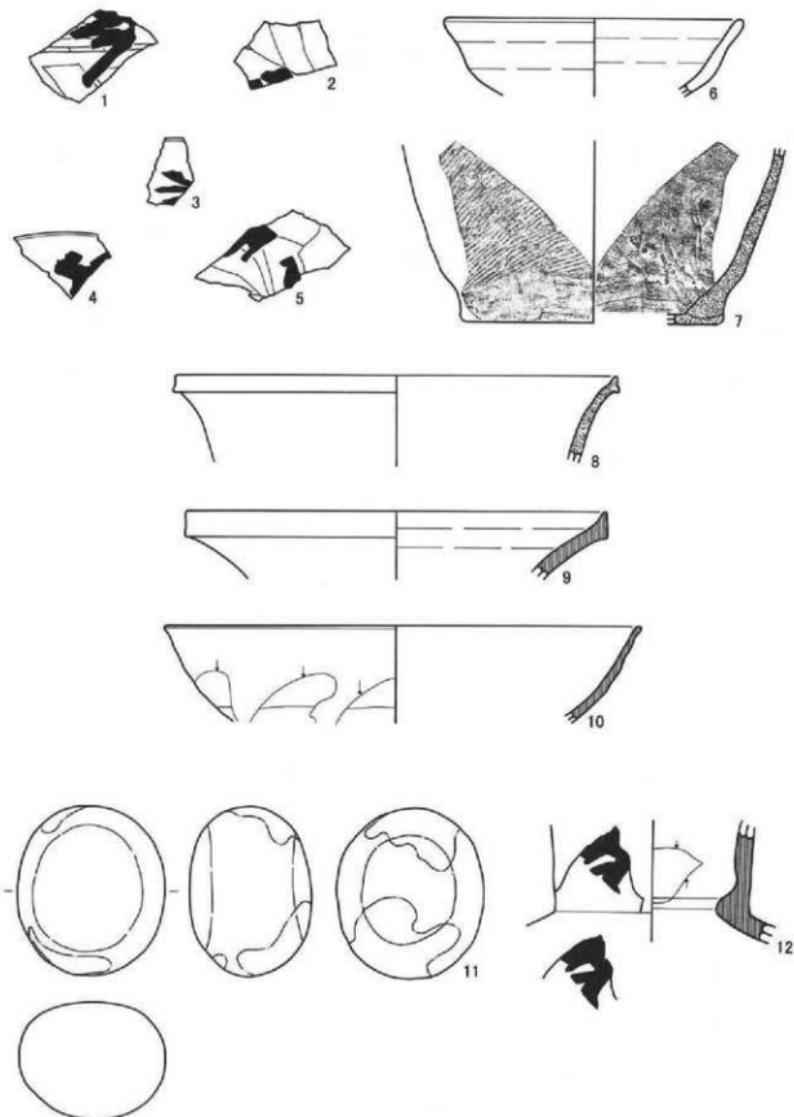
第58図 116a号住居および116b号住居 (1/40)



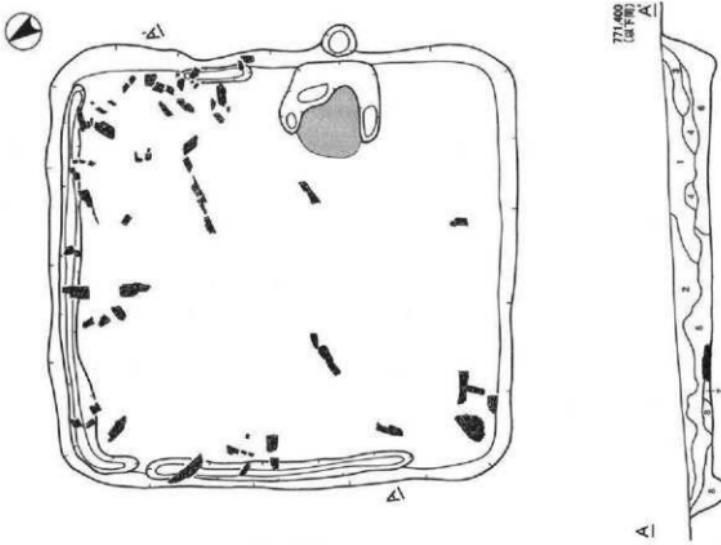
第59図 116b号住居 (1/40) 116号住居カマド (1/20)



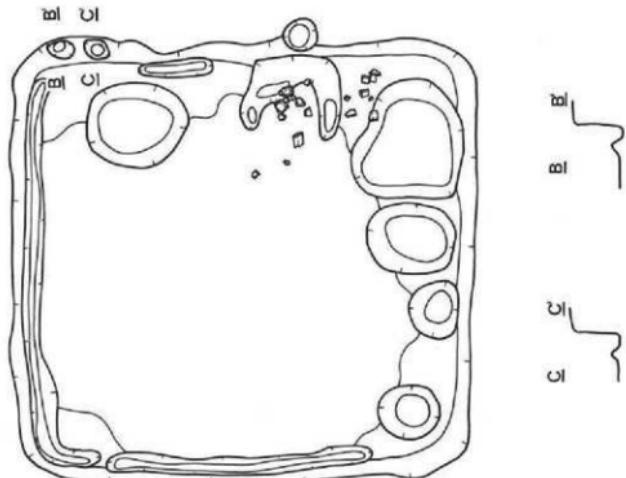
第60圖 116b号住居集石部 (1/20) 116号住居出土遺物 (1/2)



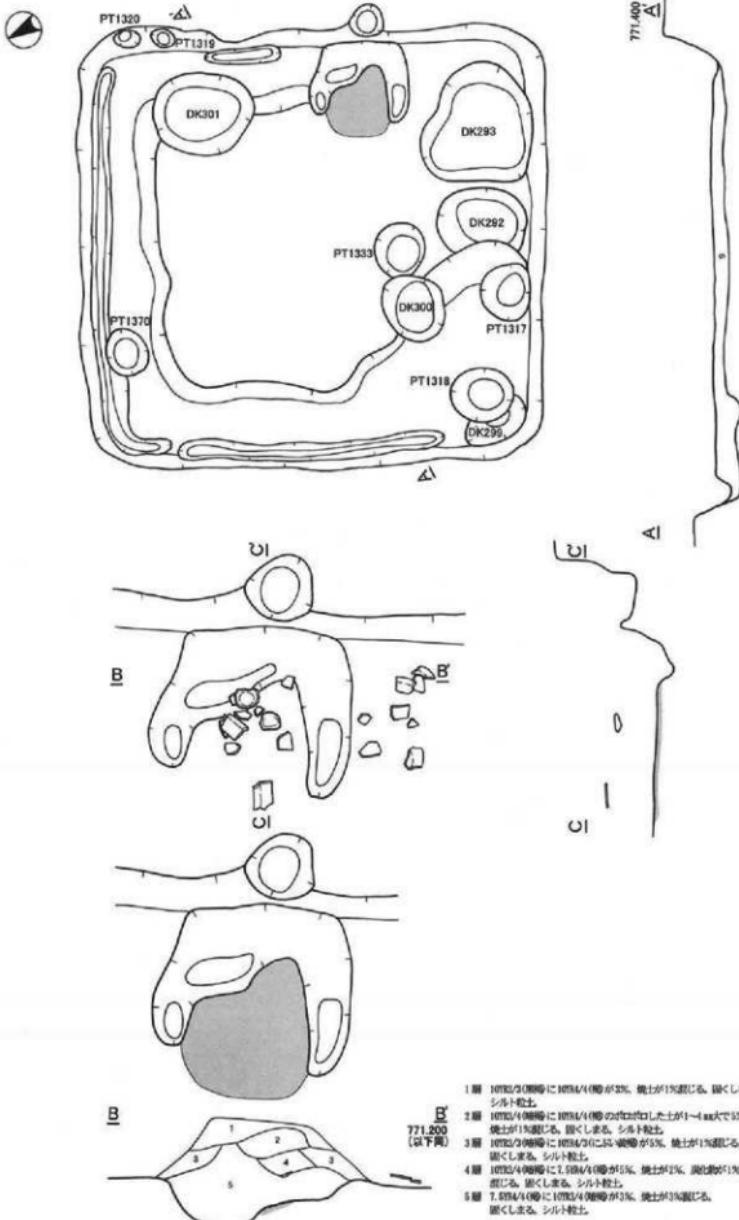
第61图 116号住居出土遗物 (1/2, 7·8 1/4)



- 1層 H032/3(裏)側にH034/6(壁)が5~10mm大で5%、地土から~30mm大で10%混じる。固くしまる。シルト粘土。
 2層 H032/2(裏)側にH033/4(壁)が10%混じる。固くしまる。シルト粘土。
 3層 H032/2(裏)側にH031/4(2.5m)、地盤が20mm大で5%、地土が1~2cmで10%混じる。固くしまる。シルト粘土。
 4層 H032/2(裏)側にH031/5(壁)が5mm大で2%、腐植物が10mm大で10%混じる。固くしまる。シルト粘土。
 5層 H032/2(裏)側にH031/7(壁)が10%、地土が1~2cmで10%混じる。固くしまる。シルト粘土。
 6層 H032/2(裏)側にH031/4(壁)が15%、地土が30mm大で2%、腐植物が~30mm大で10%混じる。固くしまる。シルト粘土。
 7層 H032/2(裏)側にH031/4(壁)が5%混じる。しまる。シルト粘土。
 8層 7.382/2(裏)側にH031/4(壁)が30~35mm大で10%、10mm以下(壁)が10%混じる。しまる。シルト粘土。
 9層 基礎の10mm厚(裏)側にH031/4(壁)が30~35mm大で10%、10mm以下(壁)が10%混じる。非粘土固くしまる。シルト粘土。
 地山 H031/4(壁)。固くしまる。シルト粘土。

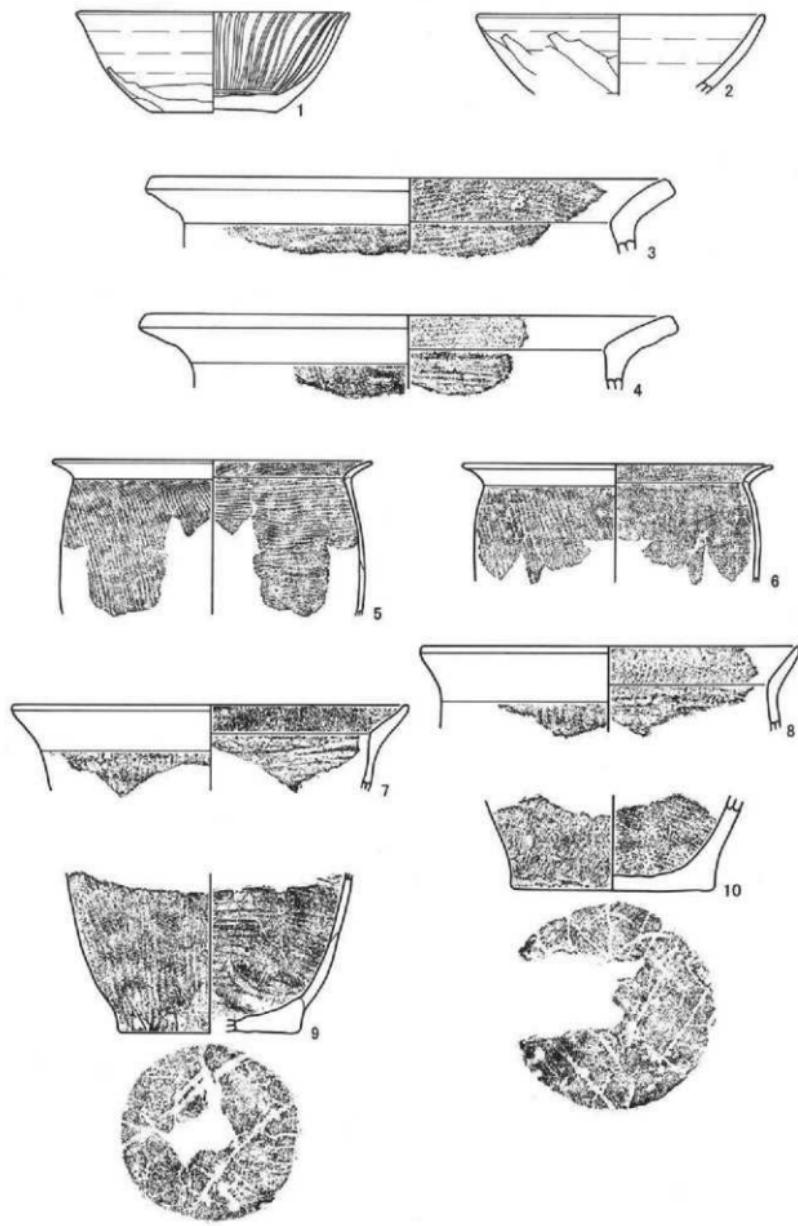


第62図 117号住居 (1/40)

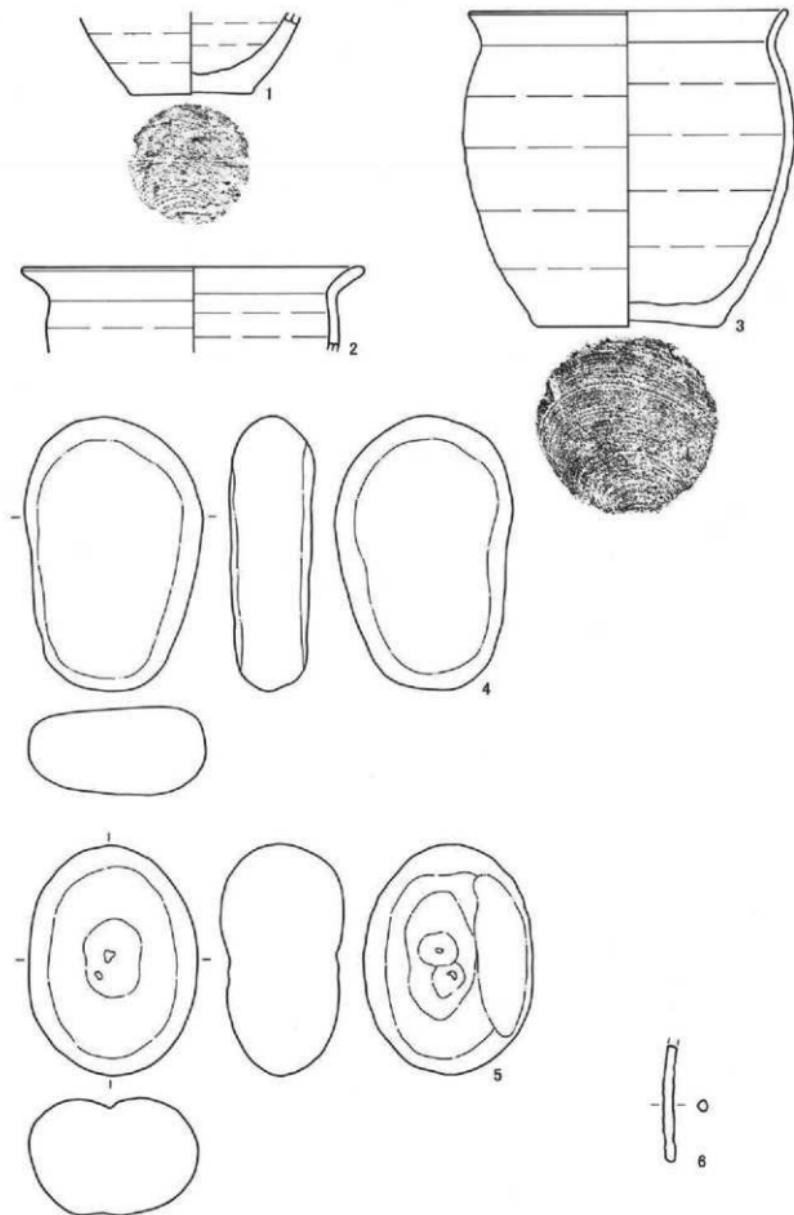


- 1層 1082/30箇所に 1053/4箇所が 3%、便土が1箇所じる。図くしまる。
シルト便土。
- 2層 1070/40箇所に 1053/4箇所の内中空した土が1~4mmで5%
便土が1箇所じる。図くしまる。シルト便土。
- 3層 1072/50箇所に 1053/3箇所で、便土が3%、便土が1箇所じる。
図くしまる。シルト便土。
- 4層 1052/40箇所に 1053/4箇所が 5%、便土が1%、便土が1%
便土が1箇所じる。図くしまる。シルト便土。
- 5層 1,053/4箇所に 1053/4箇所が 3%、便土が1箇所じる。
図くしまる。シルト便土。

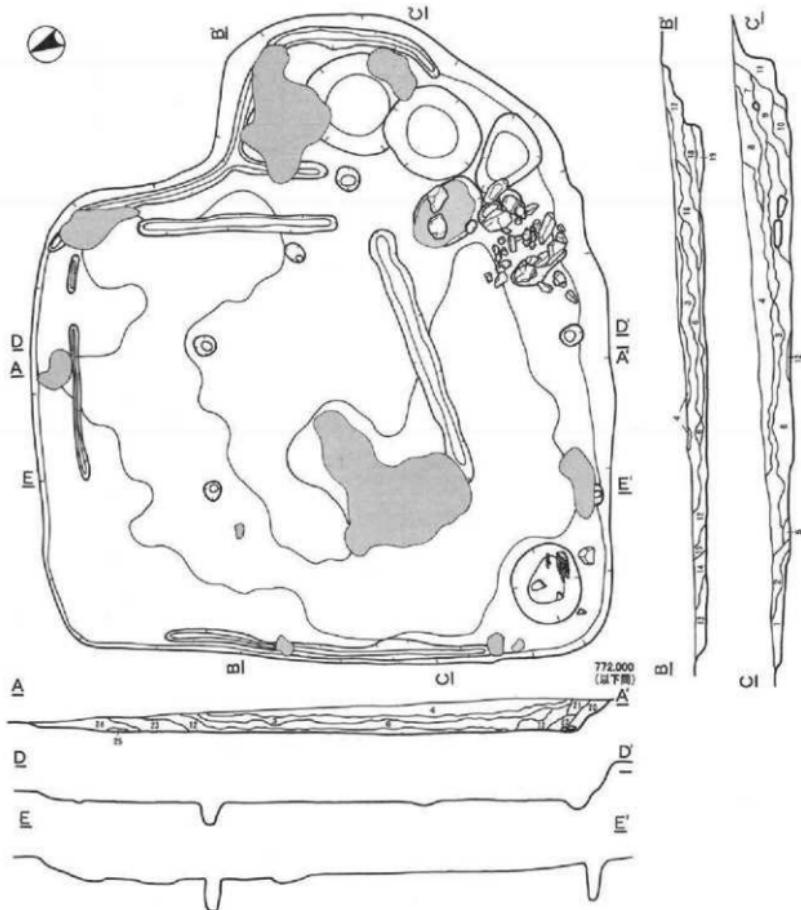
第63図 117号住居 (1/40) 117号住居カマド (1/20)



第64図 117号住居出土遺物 (1/2、5・6 1/4)

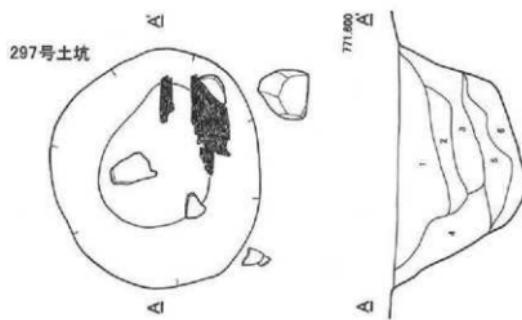
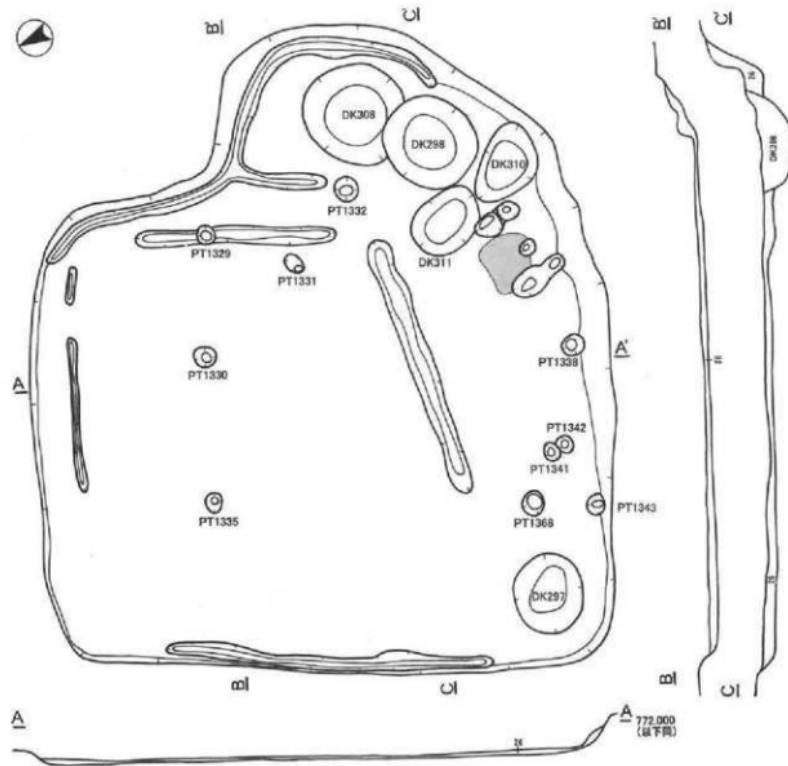


第65図 117号住居出土遺物 (1/2)



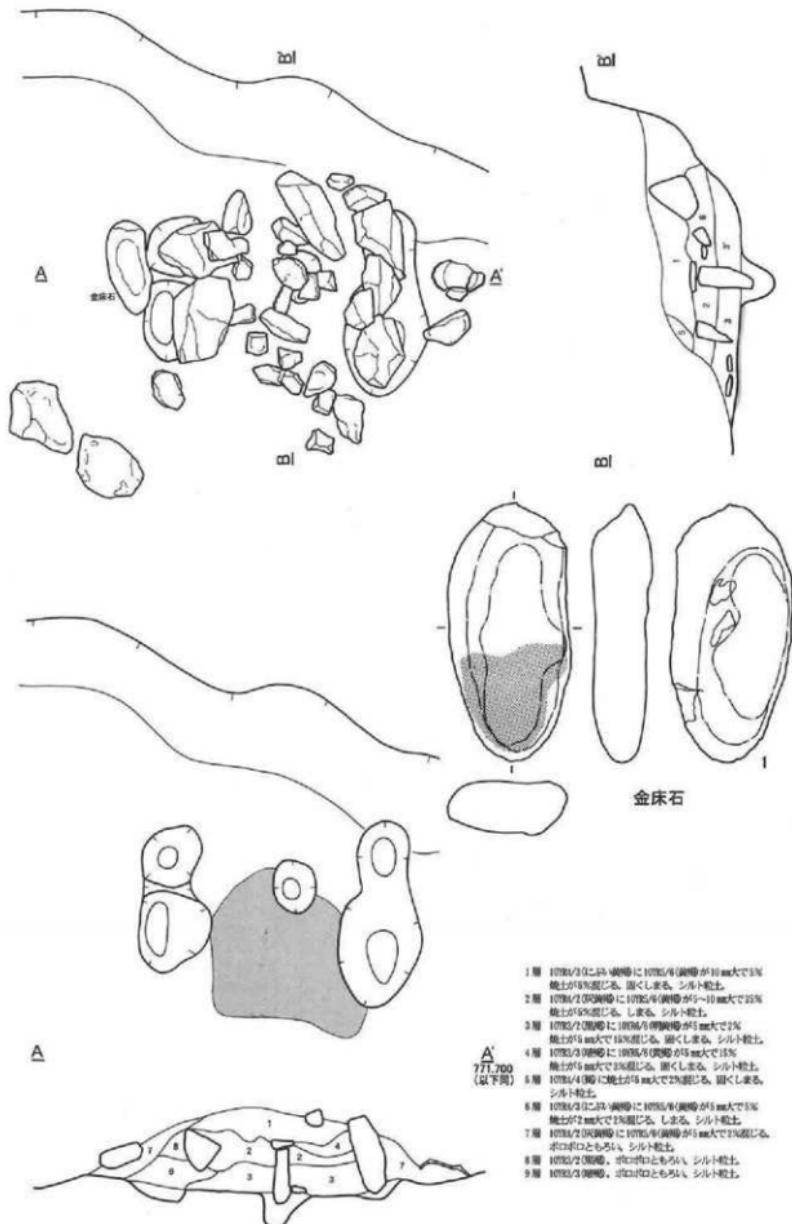
- 1層 10m以深に岩相2(砂岩)が10%、粘土が30mmまで3%で出現する。固くしまる。シルト粘土。
- 2層 10m以深に岩相2(砂岩)が15%で出現する。固くしまる。シルト粘土。
- 3層 10m以深に岩相2(砂岩)が15%で出現する。固くしまる。シルト粘土。
- 4層 10m以深に岩相2(砂岩)が30%、10m以深の砂岩層が3%まで3%で出現する。固くしまる。シルト粘土。
- 5層 10m以深に岩相2(砂岩)が30%、10m以深の砂岩層が3%まで3%で出現する。固くしまる。シルト粘土。
- 6層 10m以深に岩相2(砂岩)が30%、10m以深の砂岩層が3%まで3%で出現する。固くしまる。シルト粘土。
- 7層 10m以深に岩相2(砂岩)が30%、10m以深の砂岩層が3%まで3%で出現する。固くしまる。シルト粘土。
- 8層 10m以深に岩相2(砂岩)が30%、10m以深の砂岩層が3%まで3%で出現する。固くしまる。シルト粘土。
- 9層 10m以深に岩相2(砂岩)が30%、10m以深の砂岩層が3%まで3%で出現する。固くしまる。シルト粘土。
- 10層 10m以深に岩相2(砂岩)が30%、10m以深の砂岩層が3%まで3%で出現する。固くしまる。シルト粘土。
- 11層 10m以深に岩相2(砂岩)が30%、10m以深の砂岩層が3%まで3%で出現する。固くしまる。シルト粘土。
- 12層 10m以深に岩相2(砂岩)が30%、10m以深の砂岩層が3%まで3%で出現する。固くしまる。シルト粘土。
- 13層 10m以深に岩相2(砂岩)が30%、10m以深の砂岩層が3%まで3%で出現する。固くしまる。シルト粘土。
- 14層 10m以深に岩相2(砂岩)が30%、10m以深の砂岩層が3%まで3%で出現する。固くしまる。シルト粘土。
- 15層 10m以深に岩相2(砂岩)が30%、10m以深の砂岩層が3%まで3%で出現する。固くしまる。シルト粘土。
- 16層 10m以深に岩相2(砂岩)が30%、10m以深の砂岩層が3%まで3%で出現する。固くしまる。シルト粘土。
- 17層 10m以深に岩相2(砂岩)が30%、10m以深の砂岩層が3%まで3%で出現する。固くしまる。シルト粘土。
- 18層 10m以深に岩相2(砂岩)が30%、10m以深の砂岩層が3%まで3%で出現する。固くしまる。シルト粘土。
- 19層 10m以深に岩相2(砂岩)が30%、10m以深の砂岩層が3%まで3%で出現する。固くしまる。シルト粘土。
- 20層 10m以深に岩相2(砂岩)が30%、10m以深の砂岩層が3%まで3%で出現する。固くしまる。シルト粘土。
- 21層 10m以深に岩相2(砂岩)が30%、10m以深の砂岩層が3%まで3%で出現する。固くしまる。シルト粘土。
- 22層 10m以深に岩相2(砂岩)が30%、10m以深の砂岩層が3%まで3%で出現する。固くしまる。シルト粘土。
- 23層 10m以深に岩相2(砂岩)が30%、10m以深の砂岩層が3%まで3%で出現する。固くしまる。シルト粘土。
- 24層 10m以深に岩相2(砂岩)が30%、10m以深の砂岩層が3%まで3%で出現する。固くしまる。シルト粘土。
- 25層 10m以深に岩相2(砂岩)が30%、10m以深の砂岩層が3%まで3%で出現する。固くしまる。シルト粘土。
- 26層 10m以深に岩相2(砂岩)が30%、10m以深の砂岩層が3%まで3%で出現する。固くしまる。シルト粘土。
- 27層 10m以深に岩相2(砂岩)が30%、10m以深の砂岩層が3%まで3%で出現する。固くしまる。シルト粘土。
- 28層 10m以深に岩相2(砂岩)が30%、10m以深の砂岩層が3%まで3%で出現する。固くしまる。シルト粘土。
- 29層 10m以深に岩相2(砂岩)が30%、10m以深の砂岩層が3%まで3%で出現する。固くしまる。シルト粘土。
- 地山 10m以深に岩相2(砂岩)が30%で出現する。固くしまる。シルト粘土。

第56図 118号住居 (1/60)

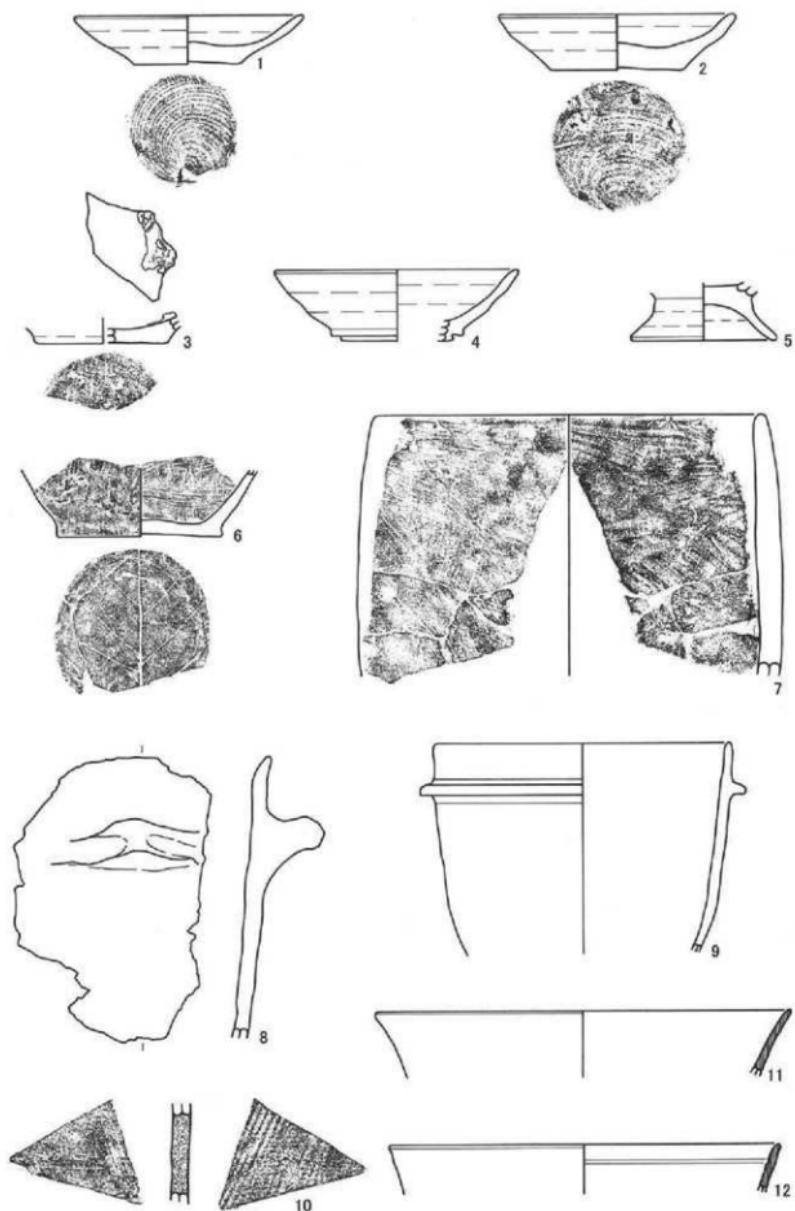


1層 10132/3(開削)に 10133/4(開削)が10%、他土・段状物が5%混じる。ややしまる。シルト粘土。
 2層 10132/3(開削)に 10133/4(開削)が10%、他土が10%、段状物が5%混じる。ややしまる。シルト粘土。
 3層 10132/3(開削)に 10133/4(開削)が10%、他土が30%、段状物が5%混じる。ややしまる。シルト粘土。
 4層 10132/3(開削)に 10133/4(開削)が20%、他土が10%、段状物が5%混じる。ややしまる。シルト粘土。
 5層 10132/3(開削)に 10133/4(開削)が50%、段状物が30%混じる。ややしまる。シルト粘土。
 地山 10133/4(開削)に 10133/4(開削)が20%、段状物が5%混じる。ややしまる。シルト粘土。

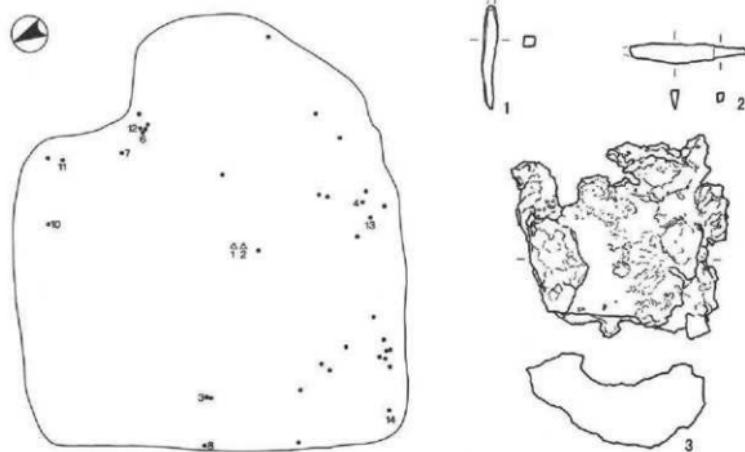
第67図 118号住居 (1/60) 297号土坑 (1/20)



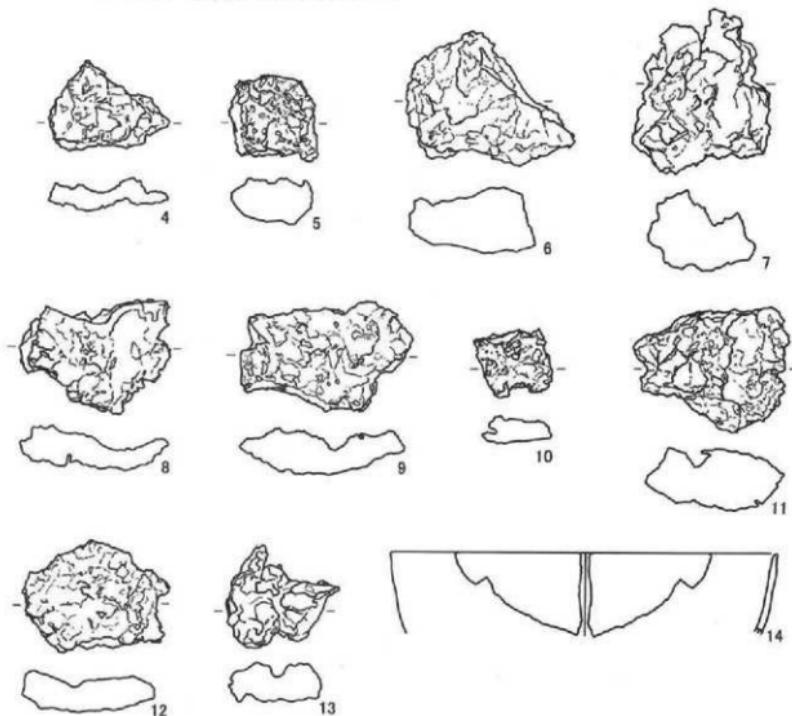
第68図 118号住居カマド (1/20) および出土遺物 (1/4)



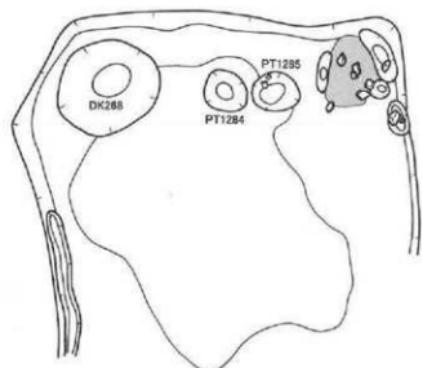
第69圖 118號住居出土遺物 (1/2、6·9 1/4)



PH118 出土鉄製品・鉄滓分布図(1/80)



第70図 118号住居出土遺物(1/2、14 1/4)



△

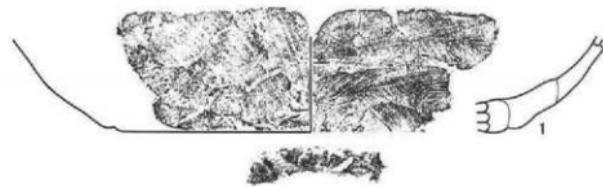


△

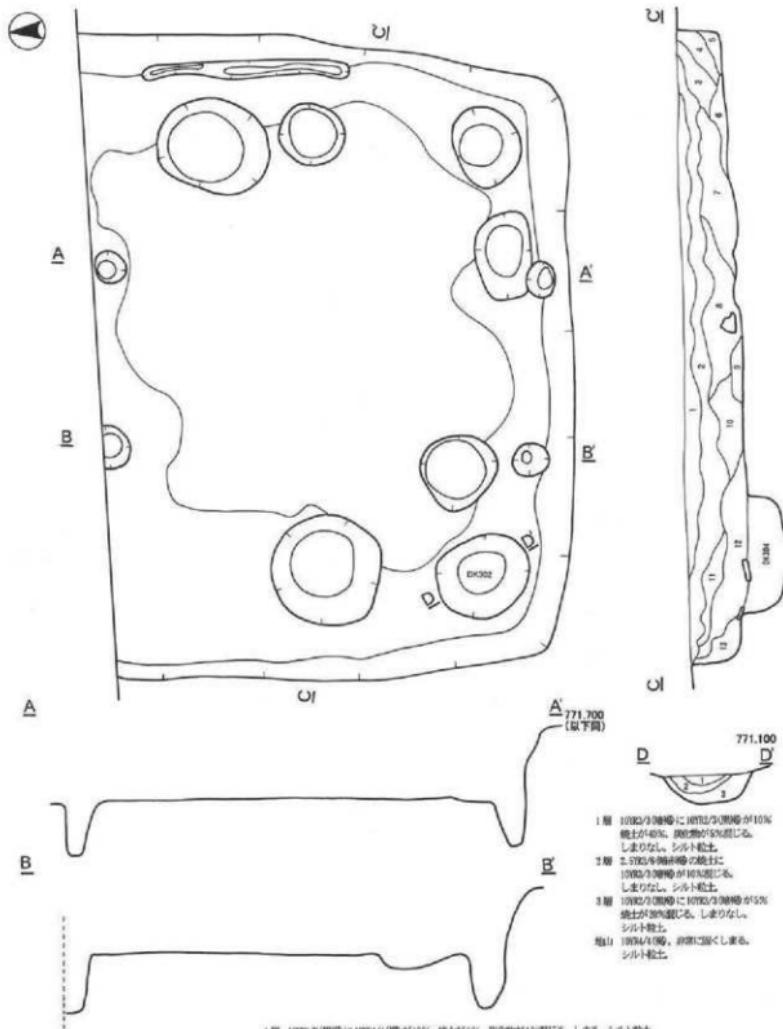
△

772.700

1層 100cm時幅にM121/3(縦)が3%混じる。しまる。シート社土
2層 100cm時幅にM121/3(縦)が2%混じる。細くしまる。シート社土
地山 100cm時幅にM121/3(縦)が3%混じる。細くしまる。シート社土

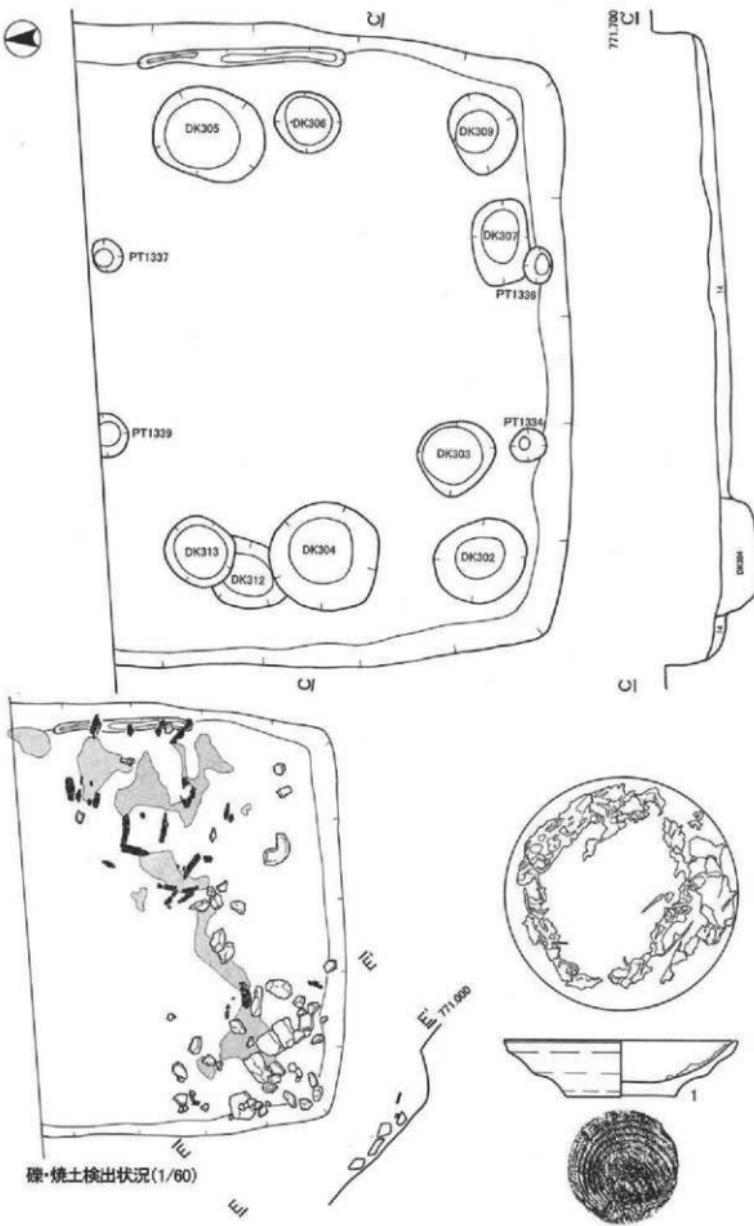


第71図 119号住居 (1/40) および出土遺物 (1/2)

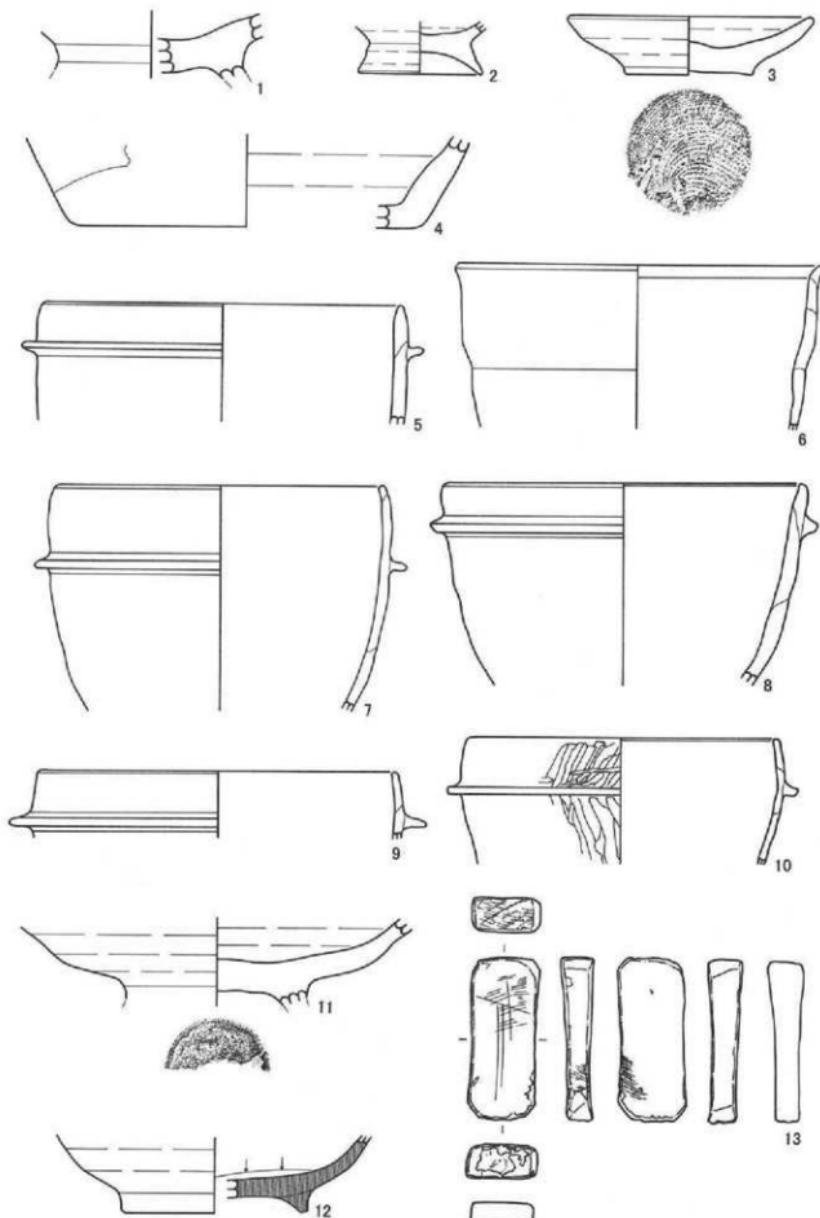


- 1層 1032/2(開削)に1032/3(開削)が10%。焼土が5%、開削部が10%認める。しまる。シルト粘土。
 2層 1032/2(開削)に1032/3(開削)が10%。焼土が5%、開削部が10%認める。しまる。シルト粘土。
 3層 1032/2(開削)に1032/3(開削)が10%。焼土が5%、開削部が10%認める。しまる。シルト粘土。
 4層 1032/2(開削)に1032/3(開削)が10%。焼土が5%、開削部が10%認める。しまる。シルト粘土。
 5層 1032/2(開削)に1032/3(開削)が10%。焼土が5%、開削部が10%認める。しまる。シルト粘土。
 6層 1032/2(開削)に1032/3(開削)が10%。焼土が5%、開削部が10%認める。ややくしまる。シルト粘土。
 7層 1032/2(開削)に1032/3(開削)が10%。焼土が5%、開削部が10%認める。しまる。シルト粘土。
 8層 1032/2(開削)に1032/3(開削)が10%。焼土が5%、開削部が10%認める。ややくしまる。シルト粘土。
 9層 1032/2(開削)に1032/3(開削)が10%。焼土が5%、開削部が10%認める。しまる。シルト粘土。
 10層 1032/2(開削)に1032/3(開削)が10%。焼土が5%、開削部が10%認める。固くしまる。シルト粘土。
 11層 1032/2(開削)に1032/3(開削)が10%。焼土が5%、開削部が10%認める。しまる。シルト粘土。
 12層 1032/2(開削)に1032/3(開削)が10%。焼土が5%、開削部が10%認める。ややくしまる。シルト粘土。
 13層 1032/2(開削)に1032/3(開削)が10%。焼土が5%、開削部が10%認める。ややくしまる。シルト粘土。
 14層 1032/2(開削)に1032/3(開削)が10%。焼土が5%、開削部が10%認める。固くしまる。シルト粘土。
 地山 1032/4(開削)に1032/4(開削)が10%認める。固くしまる。シルト粘土。

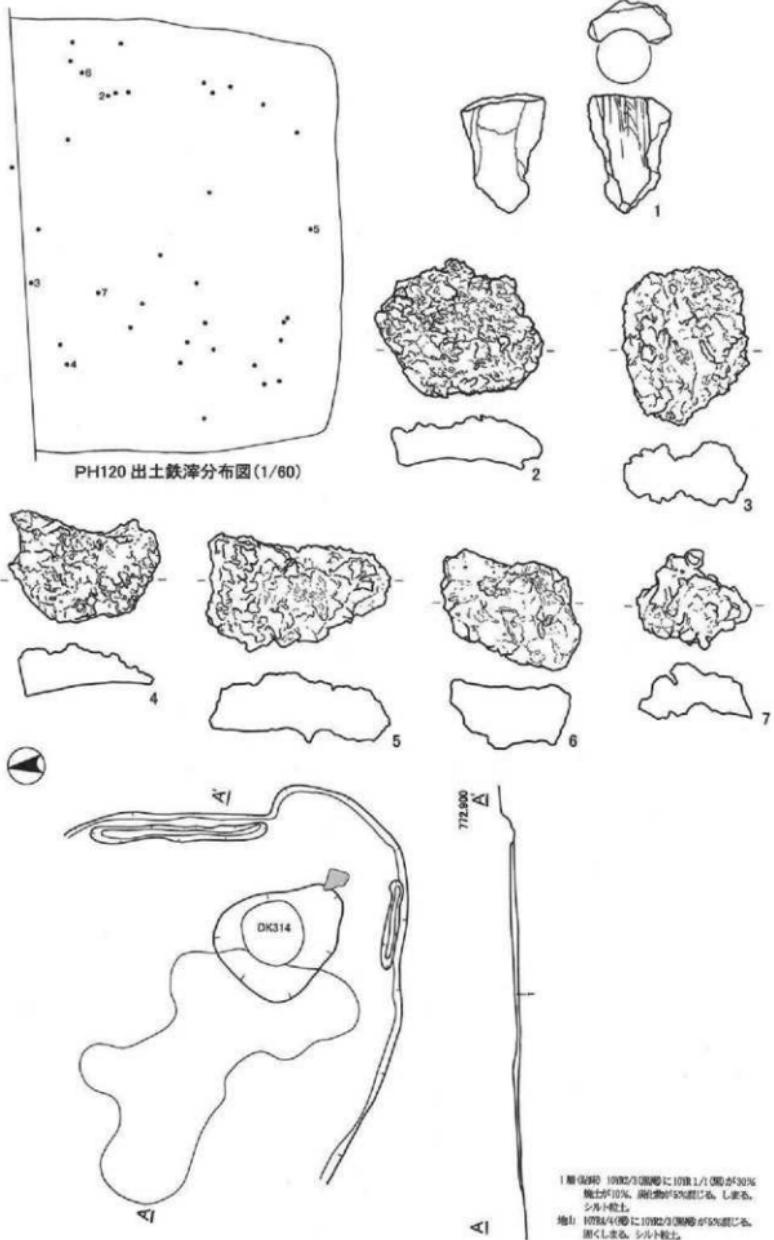
第72図 120号住居 (1/40)



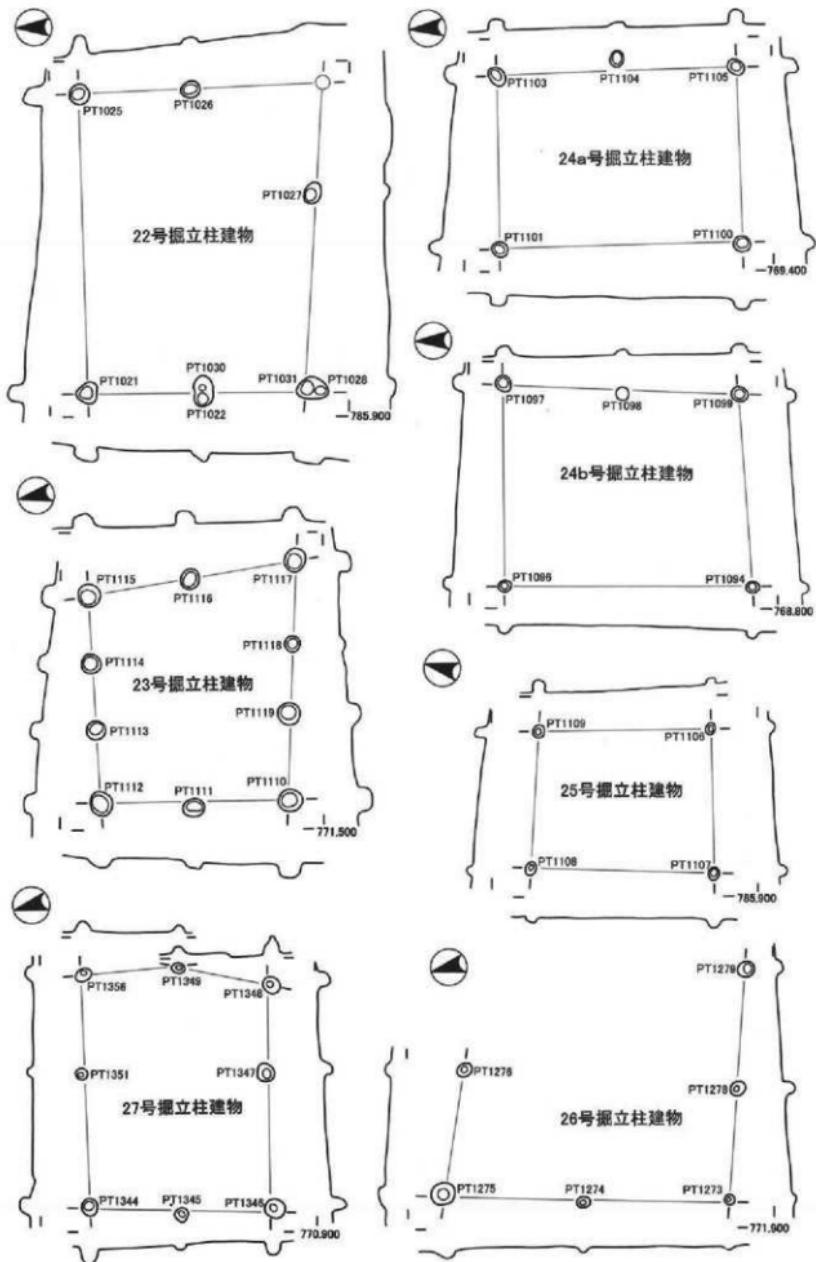
第73図 120号住居 (1/40) および出土遺物 (1/2)



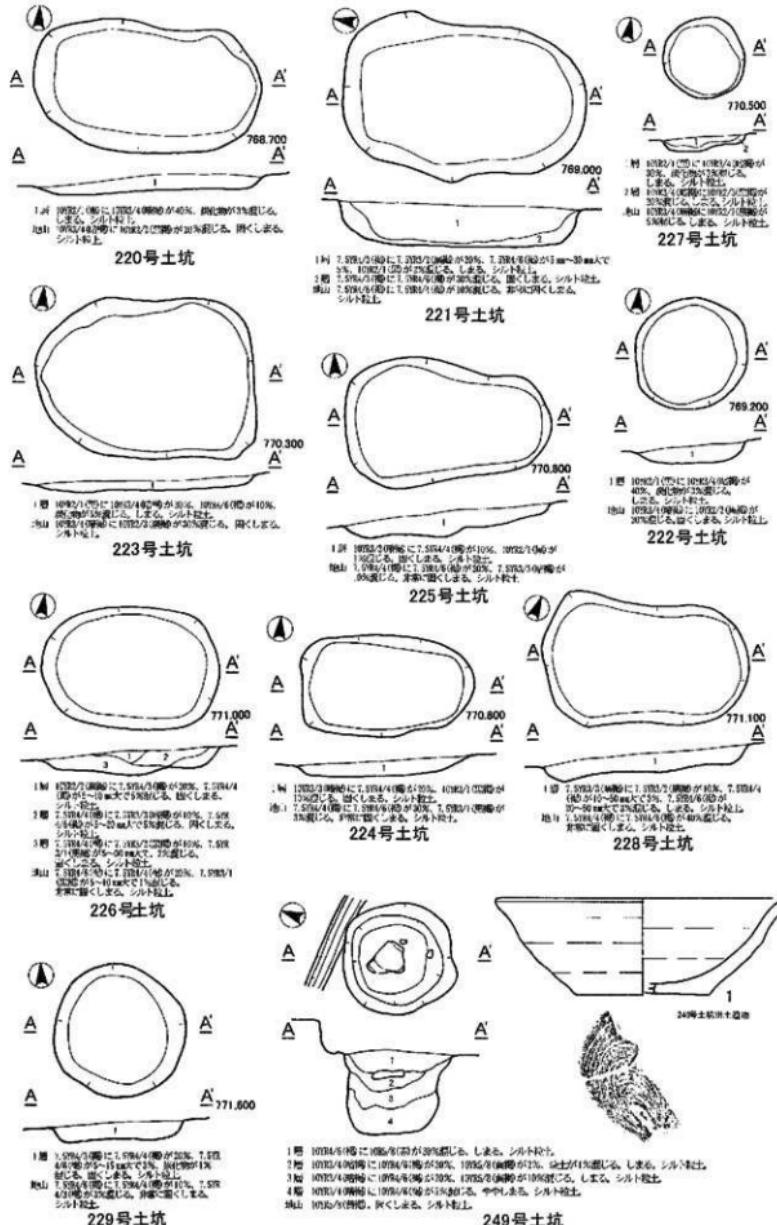
第74図 120号住居 (1/2, 5~10 1/4)



第75図 120号住居出土遺物 (1/2) 121号住居 (1/40)



第76図 掘立柱建物 (1/80)



第77図 平安時代の土坑 (1/40, 1 1/2)

第5節 120号住居出土土師器付着物の自然化学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

1.はじめに

山梨県北巨摩郡明野村浅尾字梅之木に所在する梅之木遺跡は、茅ヶ岳西麓の標高760m～780mの山麓斜面に位置している。本遺跡は平安時代後半、9世紀中頃～11世紀初頭の聚落跡とされており、堅穴住居跡や掘立柱建物跡、土坑などが検出されている。

本報告は、当遺跡から出土した不明物質が付着した土師器小皿について、不明物質に文字等が書かれているかを検証するために実施した赤外線撮影の成果報告である。

2. 資料

撮影対象資料は、梅之木遺跡から出土した土師器小皿の内面に付着した不明物質である。

3. 分析

赤外線撮影は、株式会社東都文化財研究所の協力を得た。なお、赤外線撮影は、暗室状態下において、文化財用赤外線ビジョンカメラシステム (IRRS-100) およびデジタルカメラ (DFC-707) を用いて実施する。

4. 結果

土師器内面の赤外線撮影状況を写真図版10に示す。また、当図版には比較資料として通常撮影状況も合わせて示した。土器や木製品などに顔料や墨などで文字等が描かれている資料に対し赤外線撮影を行うと、これらは赤外線を吸収し黒く写る。今回はこの原理を応用し、土師器内面付着物における文字の有無の検証を行った。

赤外線撮影の結果、土師器内面の口縁部周辺の付着物が認められない部分は黒く写った。一方、付着物部分には、文字と考えられるような痕跡は検出されなかった。なお、土師器内面の口縁部周辺の黒色部分は、土器表面に塗布された何らかの顔料に反応したためと考えられる。

第4章 縄文時代の遺構と遺物

第1節 壁穴住居跡と出土遺物

本遺跡で検出された縄文時代の壁穴住居跡4軒について、以下に報告する。住居床面積は住居実測図の壁下端あるいは周溝の内側でブランメーターを用いて計測した。

縄文1号住居（第78図～第80図、写真図版8）

位置 E 1区東端に位置する。

規模・形態 耕作によると思われる削平をうけており不明。

施設 石円炉を検出した。ピットを3基検出した。

時期 曽利V新式期と思われる。

調査所見 削平をうけて壁面が失われている。炉石も一部が不自然に浮き上がっていることから床面まで削平されているようである。3基のピット以外に柱穴は検出されなかった。炉の南側で深鉢の底部が正位で出土したが、これは擾乱をうけて浮き上がりてしまった埋甕とも考えられる。

縄文2号住居（第80図、第81図、写真図版8）

位置 E 1区中央に位置する。

規模・形態 直径4.1mの円形。床面積12.9m²。壁穴は深さ32cmを測る。

施設 住居中央北寄りで炉を検出した。床面でピットを3基検出した。

時期 曽利IV新式頃と思われる。

調査所見 床面で検出されたピット（PT1288、PT1289、PT1290）の床面からの深さは25cm、24cm、26cmである。炉内には礫は見られなかったが、住居中央北寄りの位置で覆土中に焼土が混じっていたという点から炉と判断した。住居西寄りの床面から10cm上で深鉢が出土した。

縄文3号住居（第82図～第87図、写真図版9）

位置 E 2区北端、118号住居に切られる。

規模・形態 直径6.0mの円形。床面積9.9m²。壁穴は最大で深さ32cmを測る。

施設 住居中央東寄りで炉を検出した。壁沿いで周溝を検出した。床面でピットを6基検出した。西の壁沿いで埋甕（第83図2）を検出した。

時期 曽利IV古式期から曾利IV新式期頃と思われる。

調査所見 118号住居の西壁および床面に切られている。炉は底面が被熱、焼土化しており覆土中からは拳大の礫が出土している。床面で検出された6基のピット（PT1356、PT1357、PT1358、PT1359、PT1360、PT1361）の深さは24cm、31cm、61cm、29cm、26cm、24cmであり、このうちPT1358の1基が直径も大きく深い。これらの6基のピットが柱穴であると思われる。

縄文4号住居（第88図～第92図、写真図版9）

位置 E 2区北端、118号住居に切られる。

規模・形態 平面形は不明。検出面から床面までの深さは最大で18cmを測る。

施設 石圓炉を検出した。床面でピットを6基検出した。

時期 曽利III式期と思われる。

調査所見 地山とはほとんど変わらない覆土であったため遺構の確認に手間取り、壁面の検出ができなかった。が、四方に石を持つ石圍炉で北東側と南東側が割れている。底面が被熱、焼上化している。床面から出土したピット(PT1365、PT1366、PT1367、PT1369、PT1370、PT1371)の深さは77cm、87cm、74cm、73cm、18cm、60cmである。PT1370は117号住居に切られているため残りが悪いが、縄文4号住居の床面からの推定値は54cmになる。床面上約3cmから15cmで16点の黒曜石と4点の白色石英が出土した。黒曜石2点と4点、白色石英4点がそれぞれ接合している(89図3・4、90図9~12、91図18~21)。本住居からは石器や木製品の出土がなく右器製作場とは考えられず、多くの剝片や石核が住居の東側に半円形に分布していることから壁に沿って意図的に置かれたものと推測される。また117号住居覆土中から石質の酷似する黒曜石が1点出土しておりこれも岡示した。(91図17)

第2節 その他の遺構と出土遺物

1号埋設土器(第92図)

位置 E2区北側、116号住居の南に位置する。

規模・形態 長軸38cm、短軸30cm、深さ22cmの橢円形の掘り込み。

時期 曽利V新式期頃と思われる。

調査所見 土器は正位に埋設されている。底部は欠失しており上面が削平されているため口縁部の状況は不明。周辺に住居の存在を想定させる柱穴や炉址は検出されなかつたが耕作によると思われる削平を受けているため、屋外埋設土器であるとは断定できない。

236号土坑(第93図)

位置 E1区西端中央に位置する。

規模・形態 直径1.1mの円形。深さは62cmを測る。

時期 曽利IV式頃と思われる。

調査所見 覆土上層で深鉢の底部と拳大の礫が出土した。

1号集石(第93図)

位置 E2区北側、116号住居の南に位置する。

規模・形態 長軸1.1m、短軸76cmの橢円形。深さは22cmを測る。

時期 出土遺物がなく、時期は不明である。

第3章 遺構外出土遺物

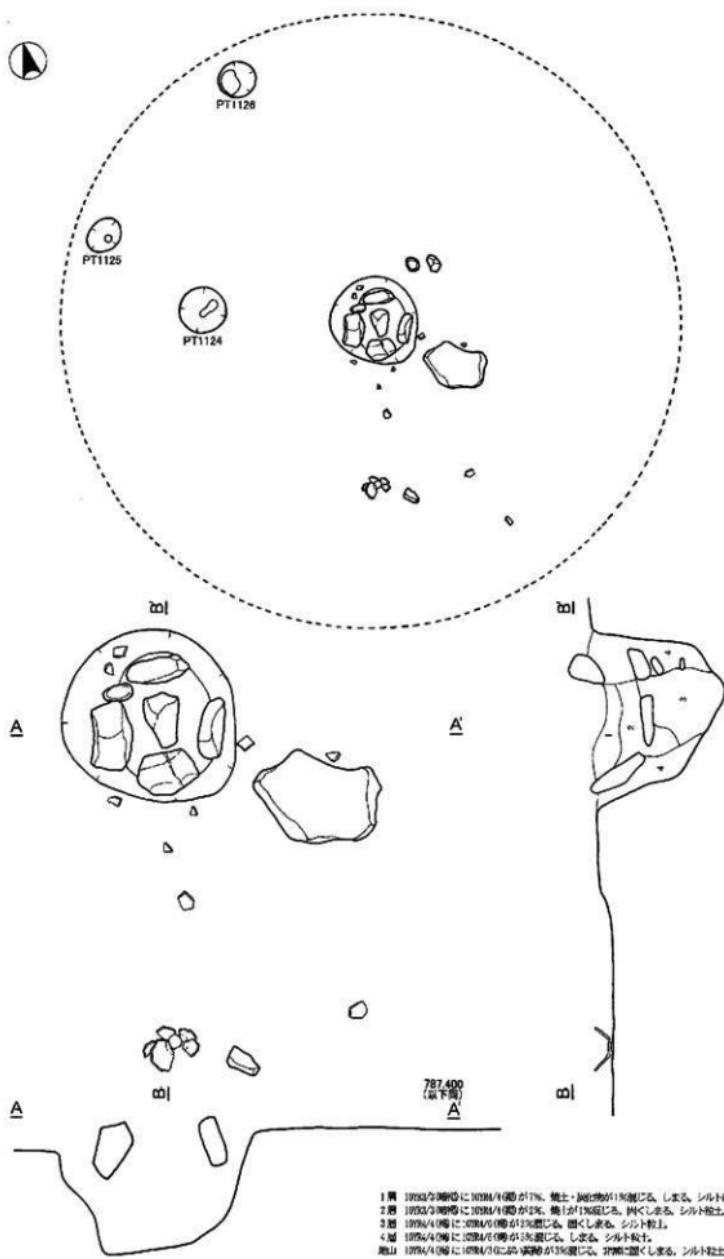
縄文時代のものと思われる遺構外出土遺物を報告する。94図1~10は縄文時代早期の押型文土器である、すべてE2区北側からの出土であることから、E2区内の時期不明の遺構には当該期のものも存在する可能性がある。

第4節 遺物観察表

第4章第3節までに報告した出土遺物の観察所見を報告する。観察表は以下のとおりである。

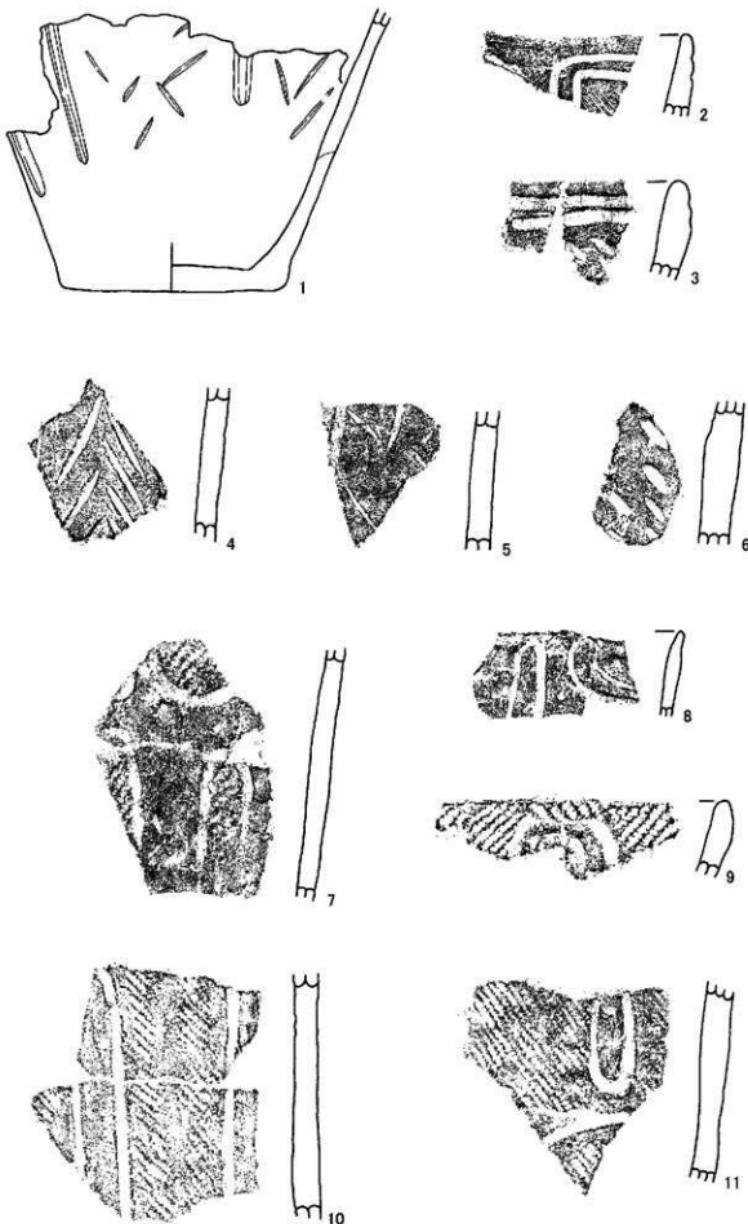
第8表 縄文時代・弥生時代・その他の時代の上器・上製品一覧

第9表 縄文時代・弥生時代の石器一覧

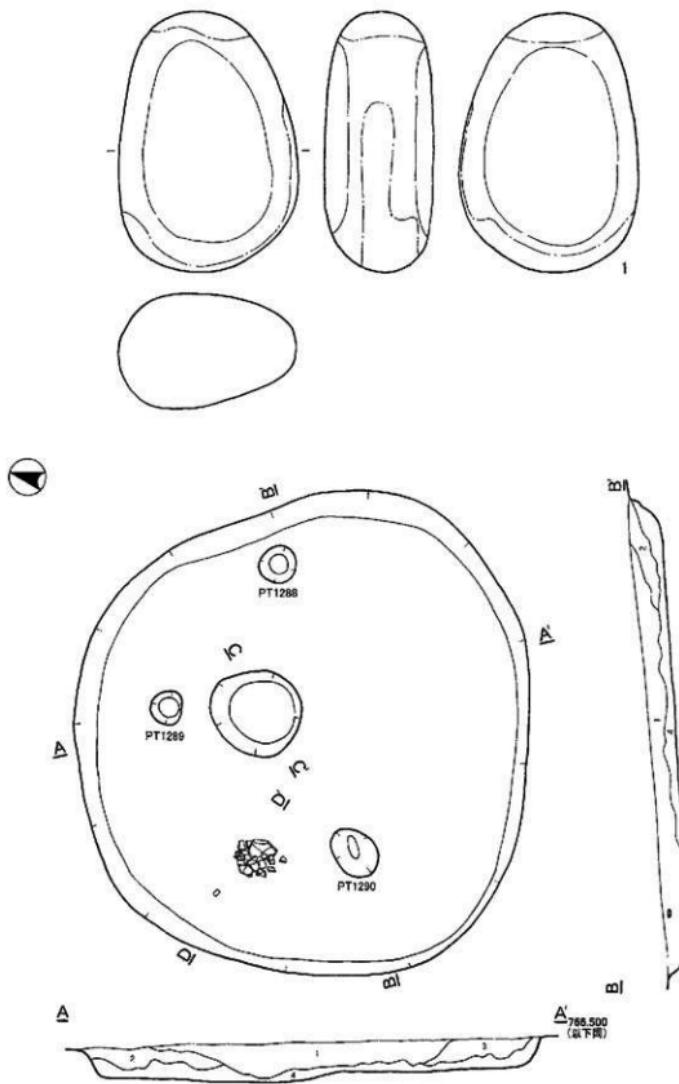


- 1層 100%の箇所に100%の箇所が7%、粘土・焼成物が1%混じる。しまる。シルト粘土。
 - 2層 100%の箇所に100%の箇所が2%、燒け付けて成じる。焼くしまる。シルト粘土。
 - 3層 100%の箇所に100%の箇所が1%混じる。固くしまる。シルト粘土。
 - 4層 100%の箇所に100%の箇所が3%混じる。しまる。シルト粘土。
- 地山 100%に100%の箇所が3%混じる。非常に固くしまる。シルト粘土。

第78図 縄文1号住居 (1/40) 縄文1号住居炉



第79圖 條文1號住居出土遺物 (1/2)



1男 1098/3に良い焼印に1098/5(総が10%, 1093/4(総が20%, 総)が1%, 説文が1%に混じる)

聞くします。シルト付。

2番 100%4/3にぶん換算にすると5/6(約が20%, 100%)4/9(約が10%混入)が混入する。シルト料+
3番 100%4/3にぶん換算が20%混入する。既存の土を用いることによる影響。

3回 10月24/5回目に10月5/6(実際)が3036回になる。因くしめる。シルト教士
4回 10月24/4回目に10月4/5(実際)が3035回になる。因も、ハリを除く。

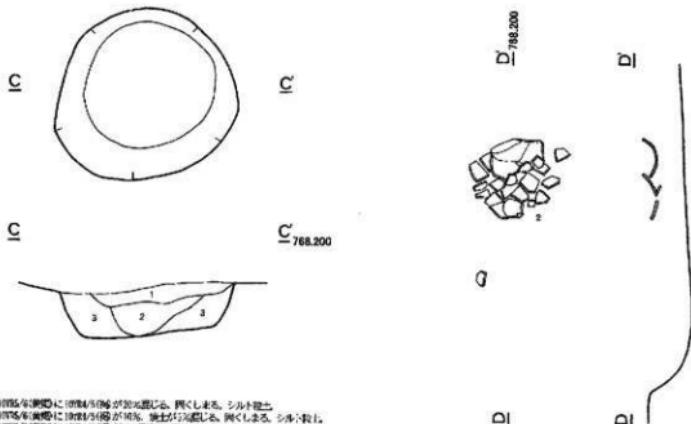
45 100%44%に100%6%が30%以上となる。シルト粒上
46 100%41%に100%9%が30%以上となる。粘土を含む。シルト粒上

細かい事務に専念する事から如きは既に心地よい慣習となつてゐる。

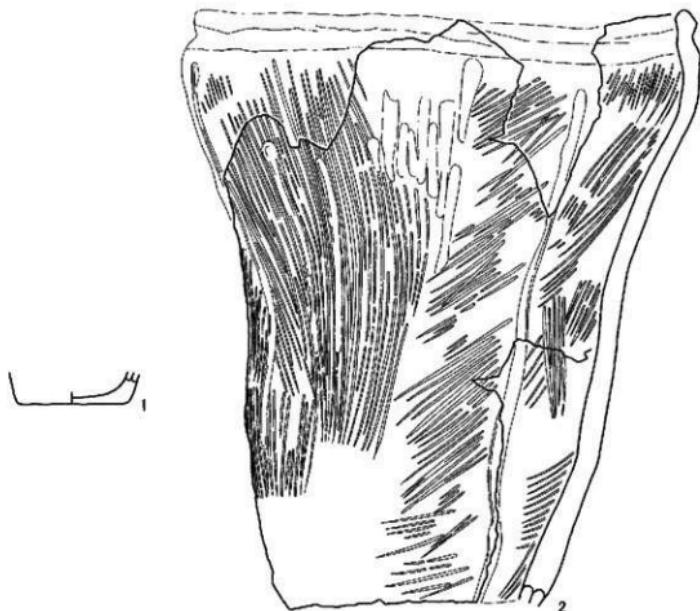
図10-2000年版、開いたるシルト地

第80図 繰文1号住居

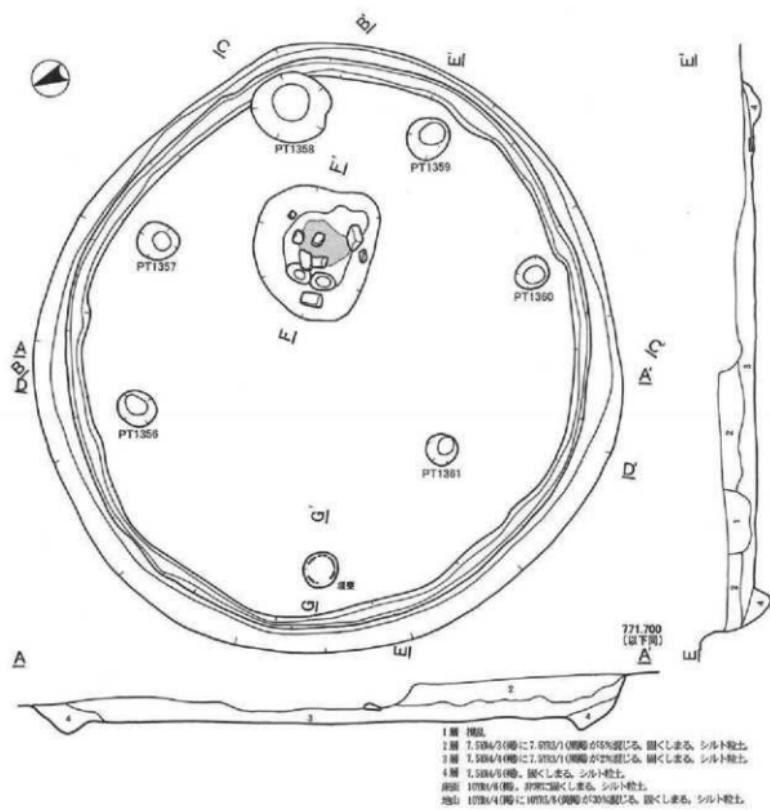
第80図 縄文1号住居出土遺物 (1/2) 縄文2号住居 (1/40)



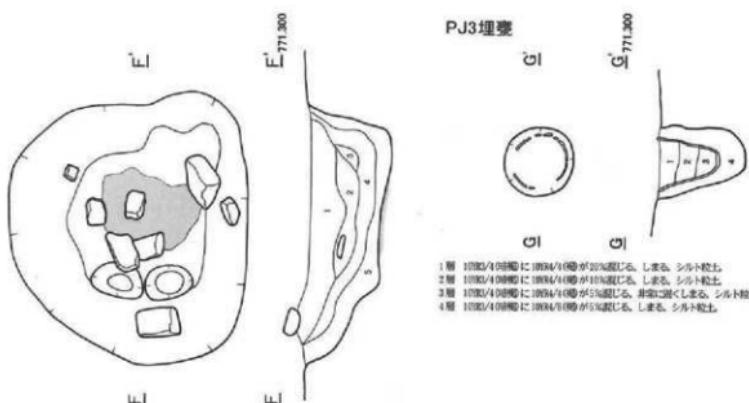
1号 純正住居炉に油類を含む灰が散在。焼くしまる。シルト粘土
2号 1975年発掘に油類を含む灰が散在。焼くしまる。シルト粘土
3号 1975年発掘に油類を含む灰が散在。焼くしまる。シルト粘土
地山 1976年発掘に1974年油類を含む灰が散在。焼くしまる。シルト粘土。



第81図 繩文2号住居炉 (1/20) 繩文2号住居遺物出土状況 (1/20) および出土遺物 (1/2)

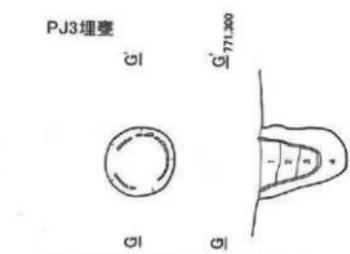


第82図 縄文3号住居 (1/40)

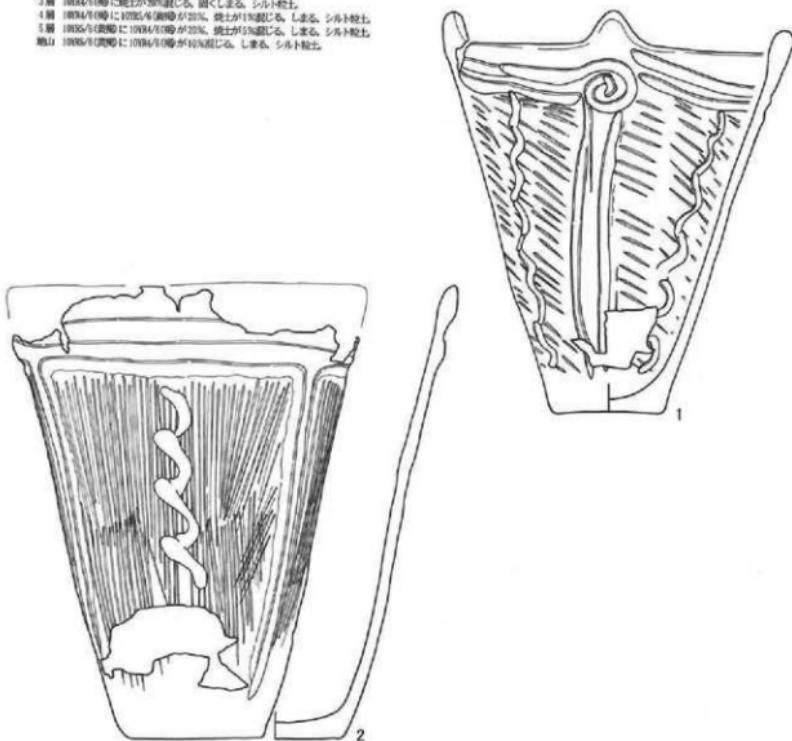


- 1号 100%の時に100%が10%、焼土・炭化物が10%混じる。しまる。シルト粘土。
2号 100%の時に100%が10%混じる。しまる。シルト粘土。
3号 100%の時に100%が10%混じる。しまる。シルト粘土。
4号 100%の時に100%が10%混じる。しまる。シルト粘土。
5号 100%の時に100%が10%混じる。しまる。シルト粘土。
地山 100%の時に100%が10%混じる。しまる。シルト粘土。

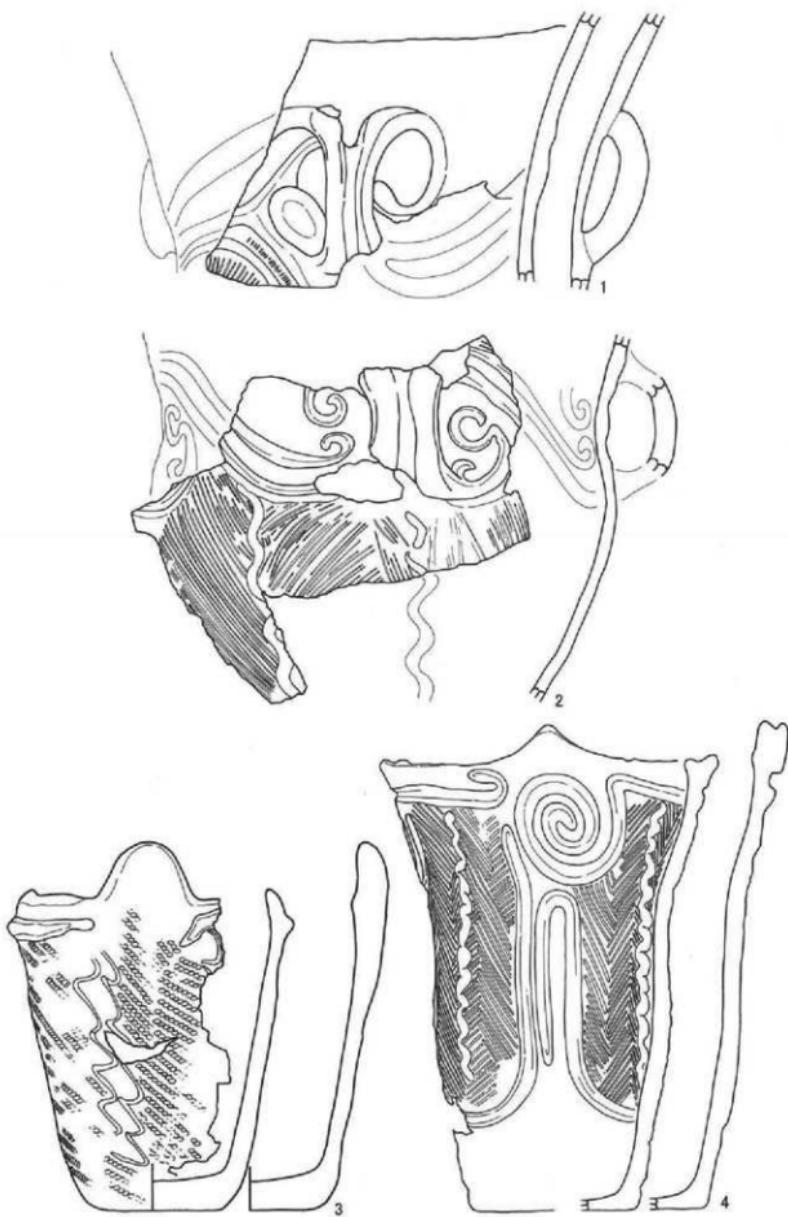
PJ3埋壺



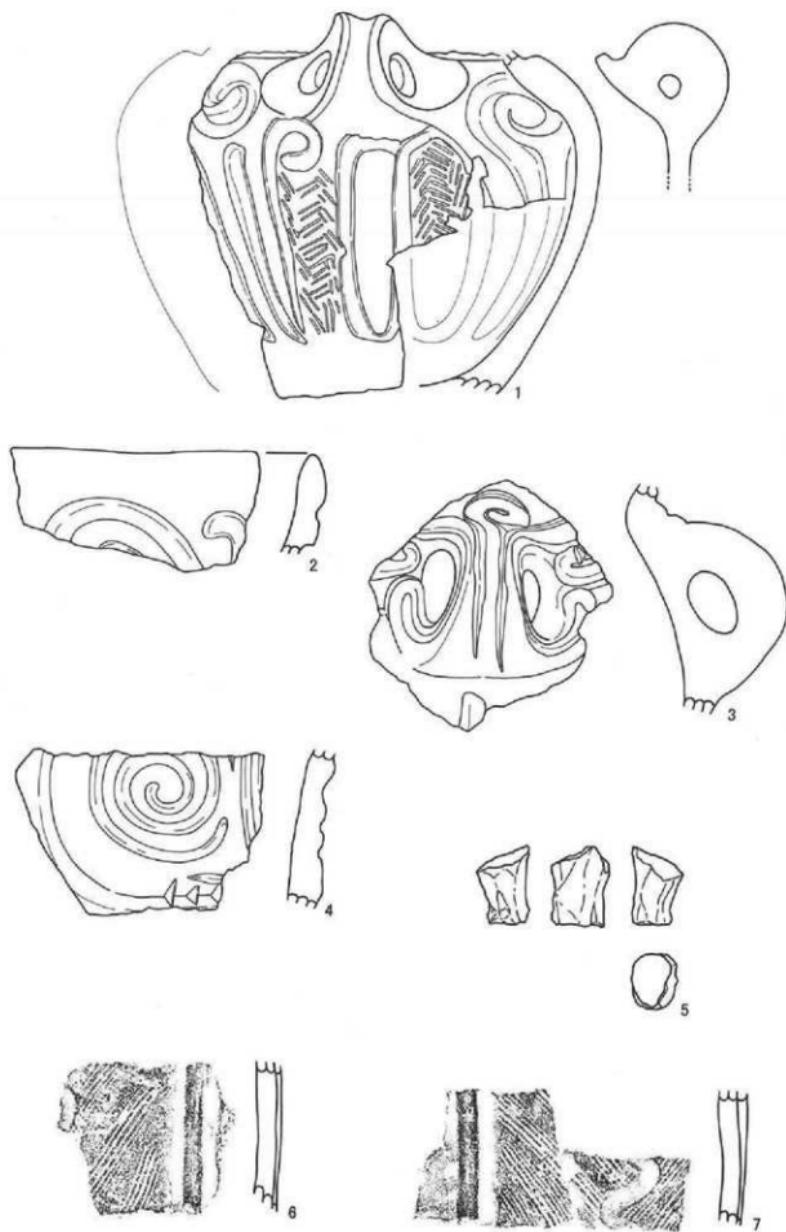
- 1号 100%の時に100%が10%混じる。しまる。シルト粘土。
2号 100%の時に100%が10%混じる。しまる。シルト粘土。
3号 100%の時に100%が10%混じる。井中で腐くしまる。シルト粘土。
4号 100%の時に100%が10%混じる。しまる。シルト粘土。



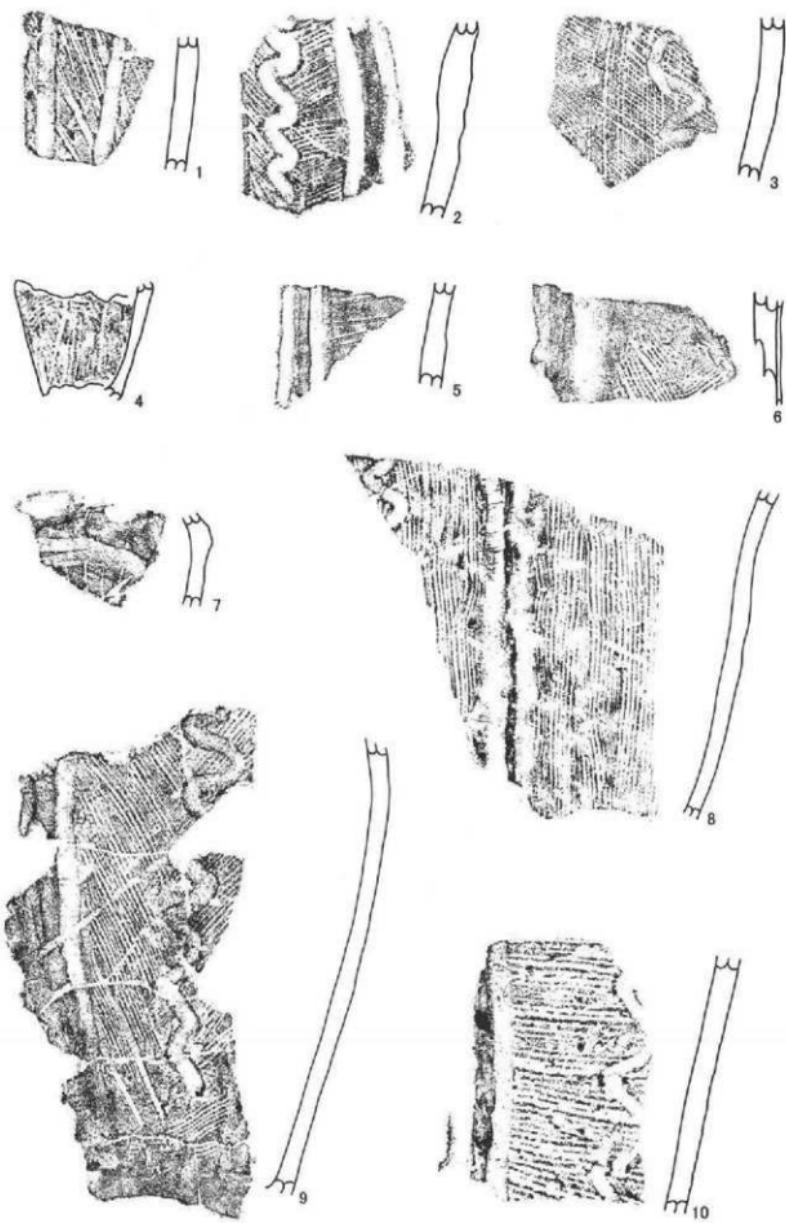
第83図 構文3号住居炉 (1/20) 埋壺 (1/20) 構文3号住居出土遺物 (1/3)



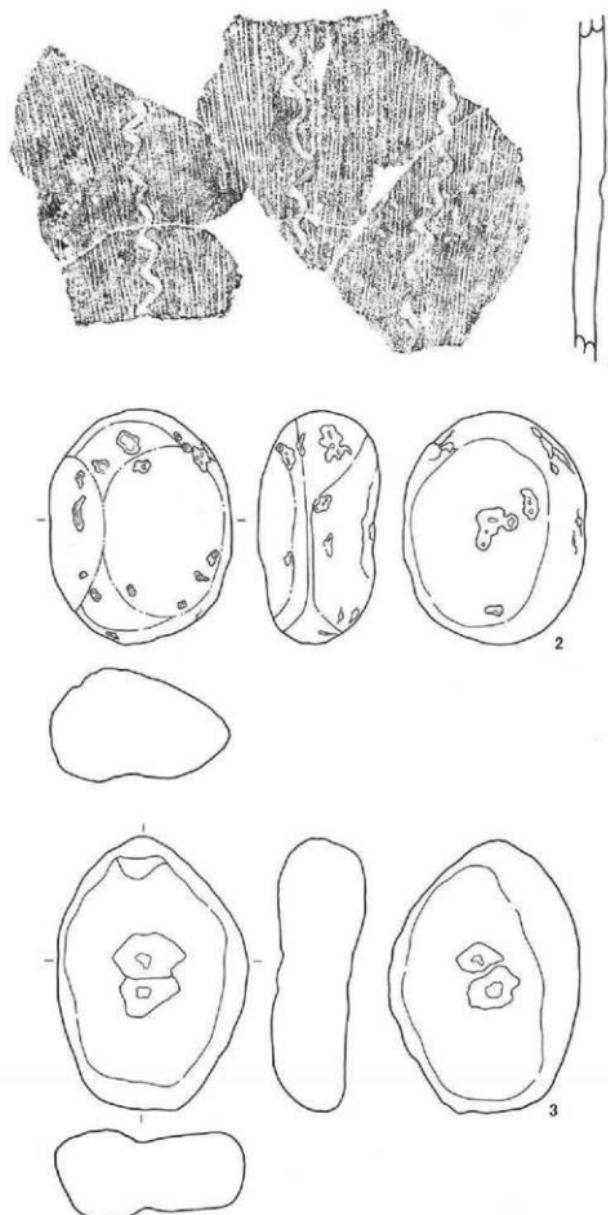
第84図 繩文3号住居出土遺物 (1/2、1・2 1/3)



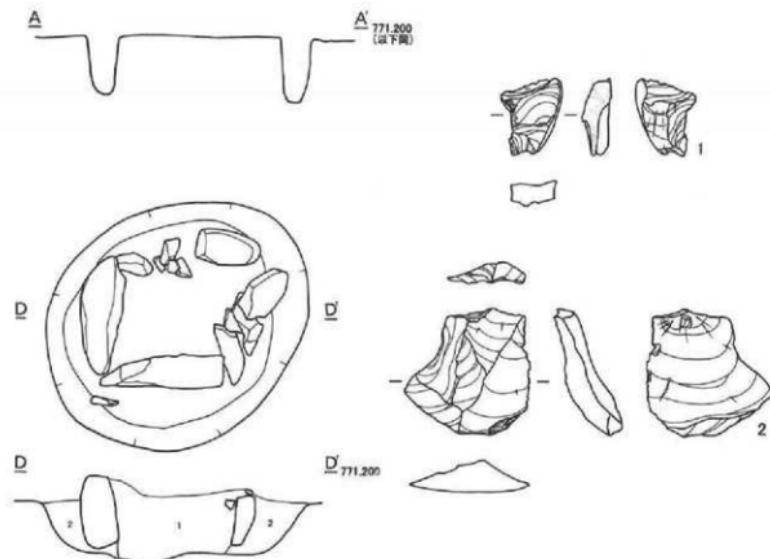
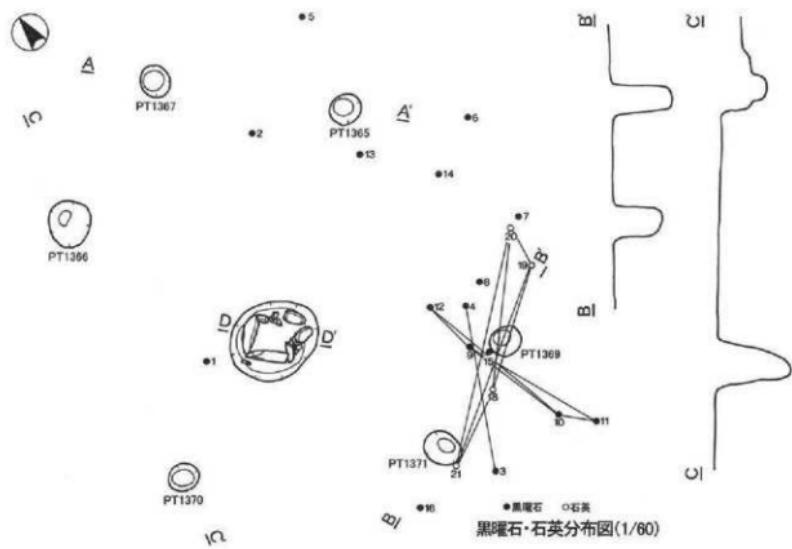
第85図 編文3号住居出土遺物 (1/2)



第86圖 紹文3號住居出土遺物 (1/2)

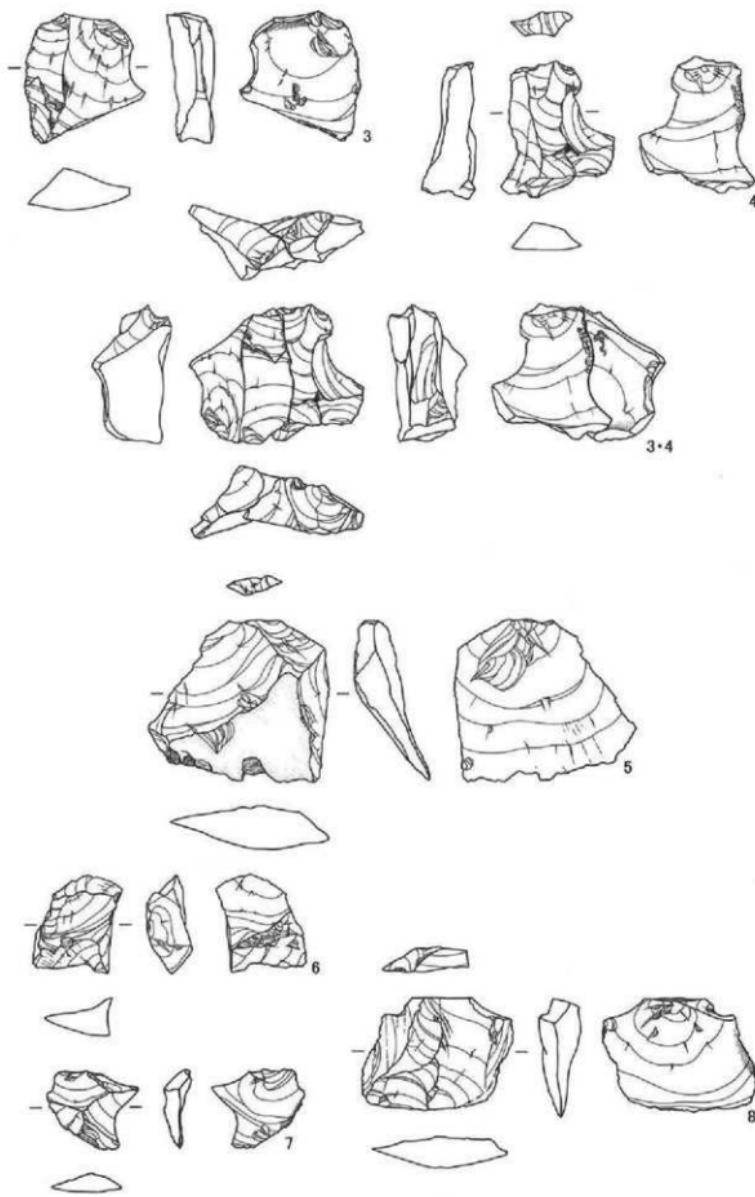


第87図 摺文3号住居出土遺物 (1/2)

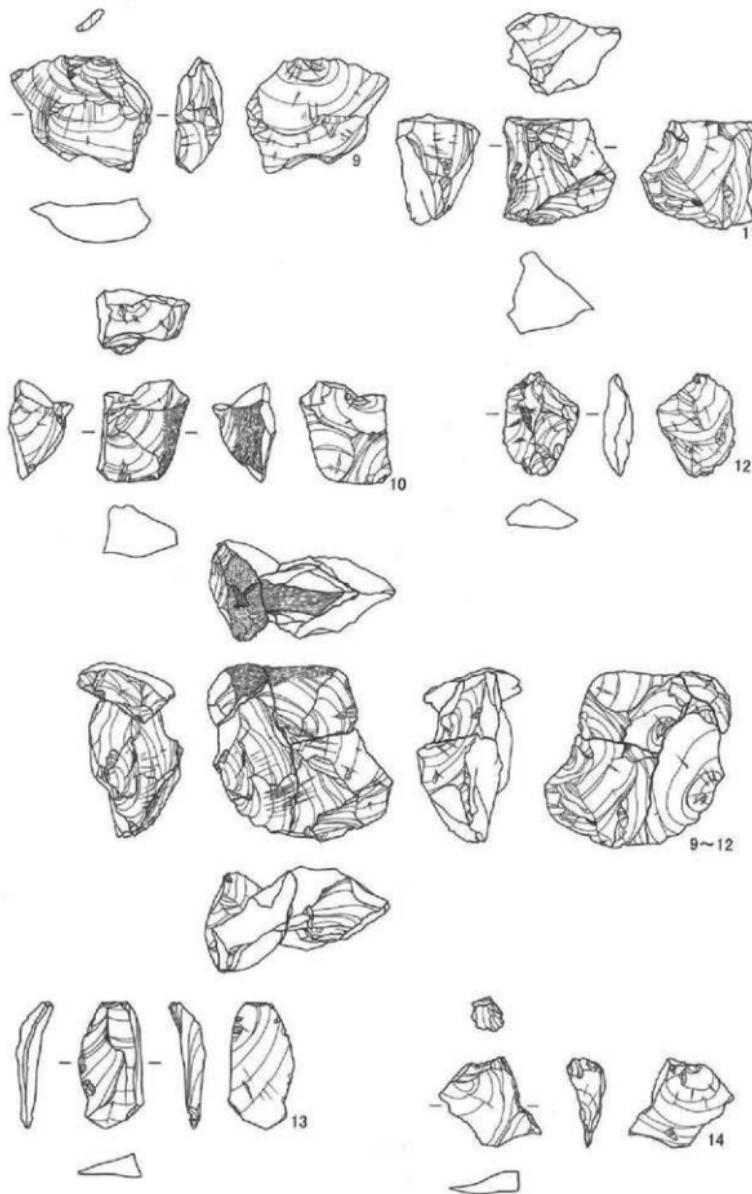


1層 地面4側面に10%の黒曜石が1%, 並びに固くしまる砂土が10%, 固化物が1%混じる。しまる, シルト粒土。
2層 地面4側面に10%の黒曜石が3%, 固化物が1%混じる。しまる, シルト粒土。
地盤 地面4側面, しまる, シルト粒土。

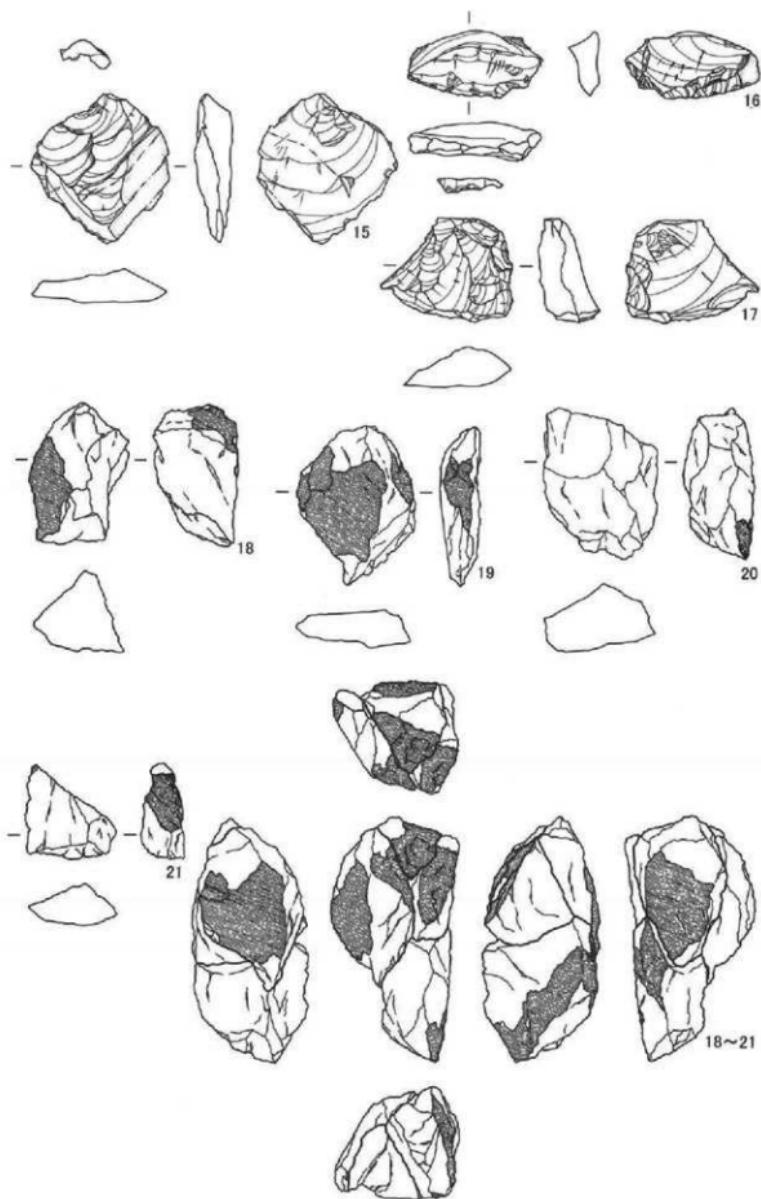
第88図 繩文4号住居(1/60) 繩文4号住居炉(1/20) 繩文4号住居出土遺物(1/2)



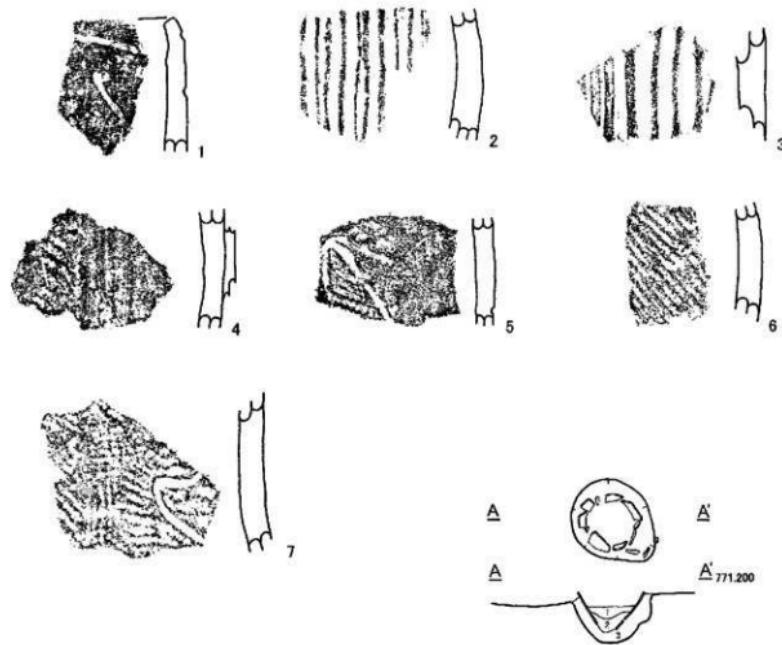
第89圖 漢文4號住居出土遺物 (1/2)



第90図 調文4号住居出土遺物（1/2）

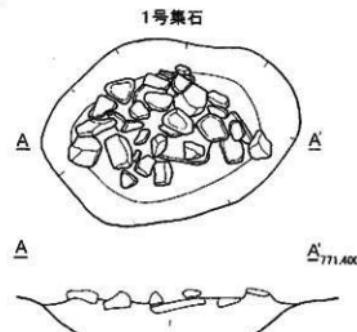
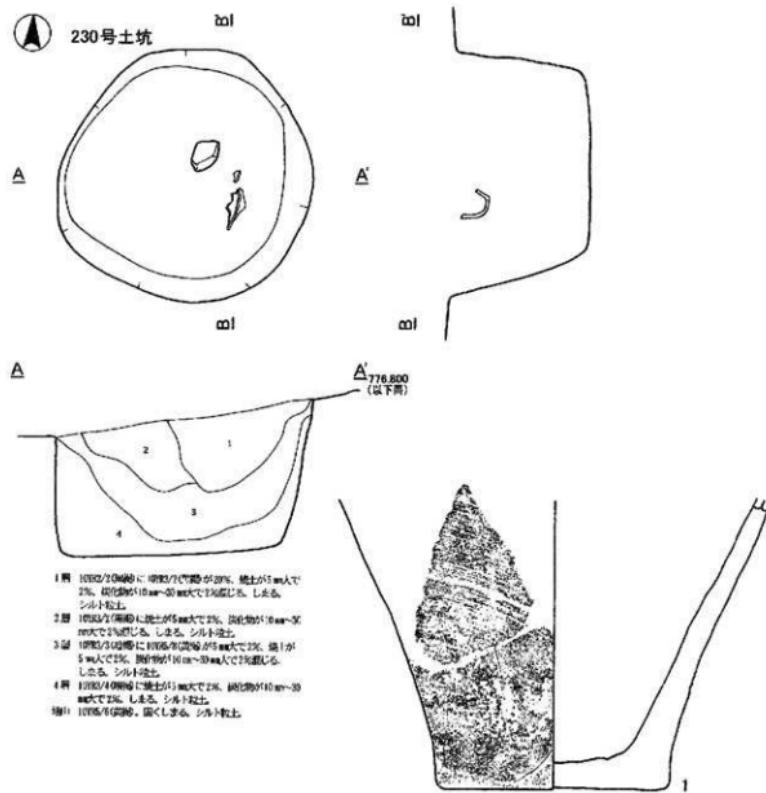


第91圖 繪文4號住居出土遺物 (1/2)

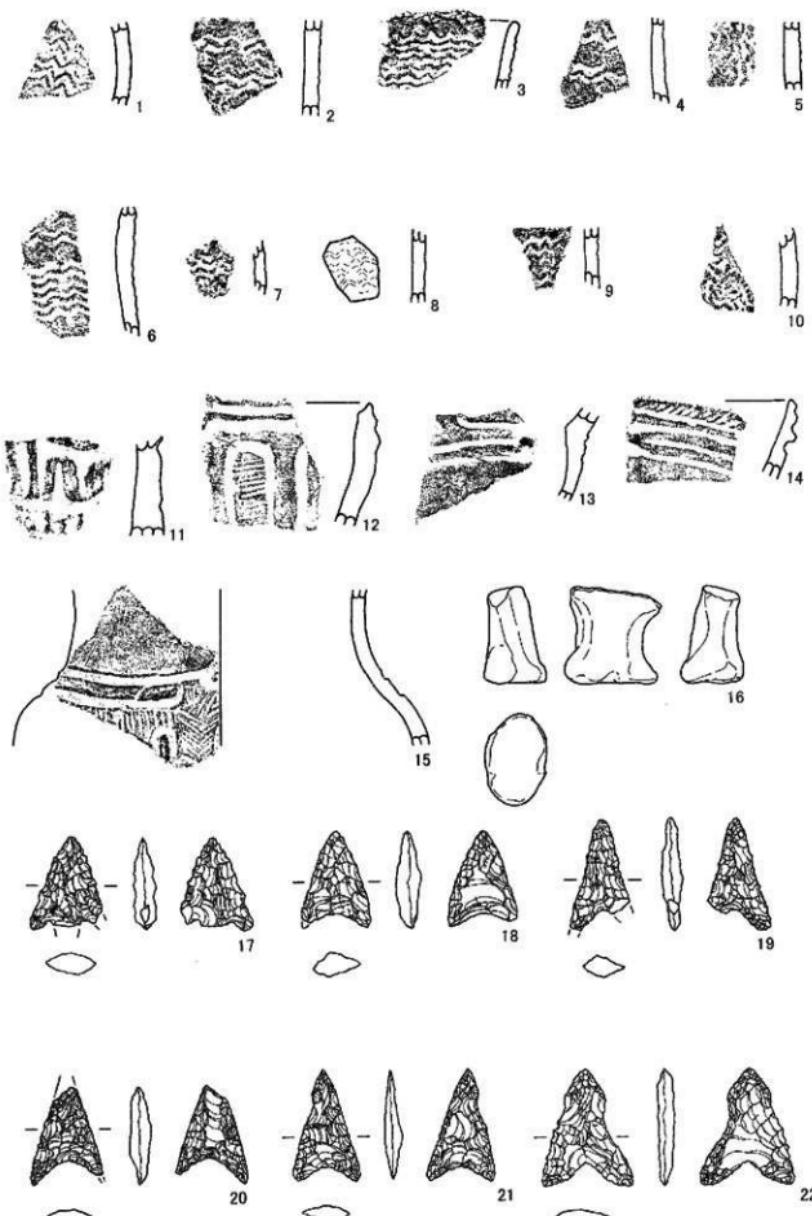


1号 1033/4埋設時に1092/196器が10%出る。しまる。シルト粘土
2号 1033/4埋設時に1092/196器が10%出る。しまる。シルト粘土
3号 1033/4埋設時に1092/196器が10%。粘土が10%出る。しまる。シルト粘土
地 1092/40器。しまる。シルト粘土。

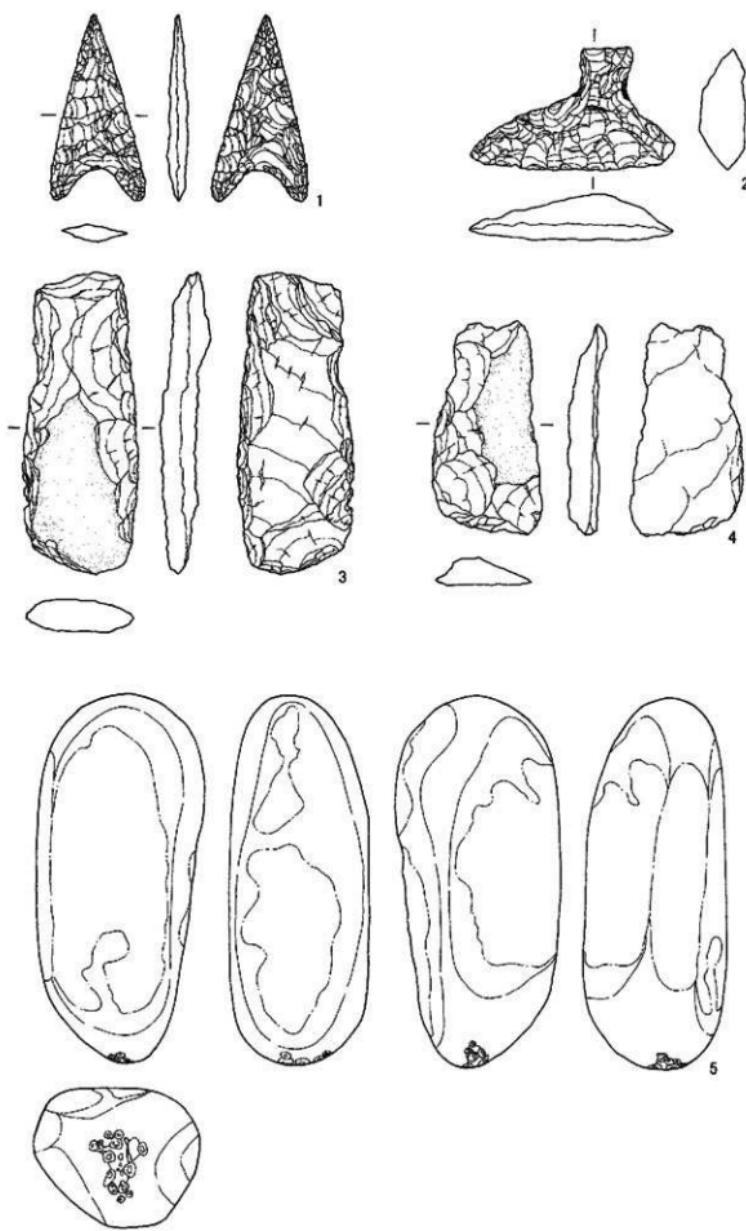
第92図 繩文4号住居出土遺物(1/2) 1号埋設土器(1/20)



第93図 230号土坑 (1/20) および出土遺物 (1/2) 1号集石 (1/20)



第94図 遺構外出土遺物 (1/2, 17~22 1/1)



第95図 遺構外出土遺物 (1/2、1・2 1/1)

第5章 弥生時代の遺構と遺物

弥生時代の遺構は土坑が5基検出された。このうち4基を図示した。時期不明の遺構には当該期のものも存在する可能性がある。

第1節 土坑と出土遺物

315号土坑（第96図、写真図版9）

位置 E 2区北側、117号住居に切られる。

規模・形態 長軸2.7m、短軸2.3mの不整橿円形。深さは1.6mを測る。

時期 弥生時代前期と思われる。

調査所見 117号住居の南西隅部に切られている。上層には2mm~10mm大の炭化物が混入しており、最下層の土は厚く堆積している。底面には人頭大以上の大形の縄が多數出土した。

318号土坑（第96図、写真図版9）

位置 E 2区北側、116号住居の北西隅に位置する。

規模・形態 長軸2.7m、短軸2.6mの円形。断面は擂鉢状を呈し深さは1.9mを測る。

時期 弥生時代前期と思われる。

調査所見 上層には10mm大の炭化物が混入しており、最下層の覆土は上層のものよりよりしおりがやや弱い。上器以外には奉人の縄が数点出土したのみである。

322号土坑（第97図、写真図版9）

位置 E 2区北端、縄文4号住居と重複する。

規模・形態 直径1.4mの円形。深さは28cmを測る。

時期 弥生時代前期と思われる。

調査所見 覆土は褐色土が混じる暗褐色土の單一のもので、人为的に埋め戻されたと推測される。覆土上層から中層で扁平な縄2点が、中層から下層にかけて条痕文上器片が出土している。

327号土坑（第97図、写真図版9）

位置 E 2区北端、117号住居の東に位置する。

規模・形態 突口部の長軸1.1m、短軸0.9m。最大幅の長軸1.2m、短軸1.1m。深さは44cmを測る。

時期 弥生時代前期と思われる。

調査所見 断面はフラスコ状を呈している。最下層には地山起源と思われる褐色土が堆積し、これは崩落した壁上と推測される。上層から中層の覆土は水平に堆積している。

第2節 遺構外出土遺物

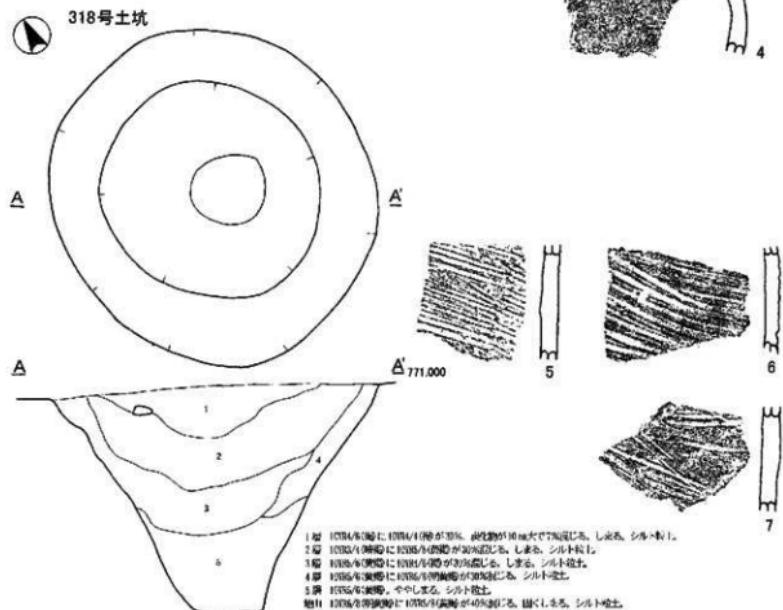
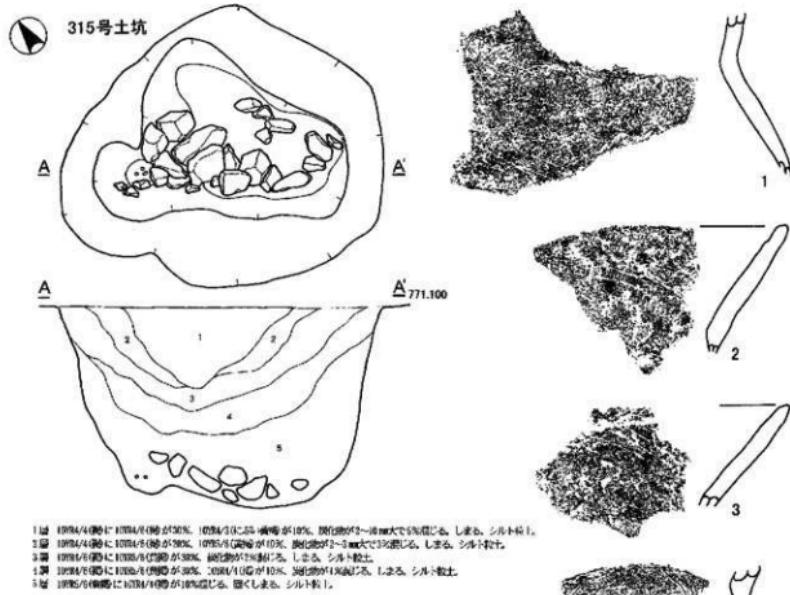
遺構外から条痕文土器が出土している。平安時代の住居覆土からの出土もあることから、後世の遺構により失われた遺構も存在していた可能性がある。

第3節 遺物観察表

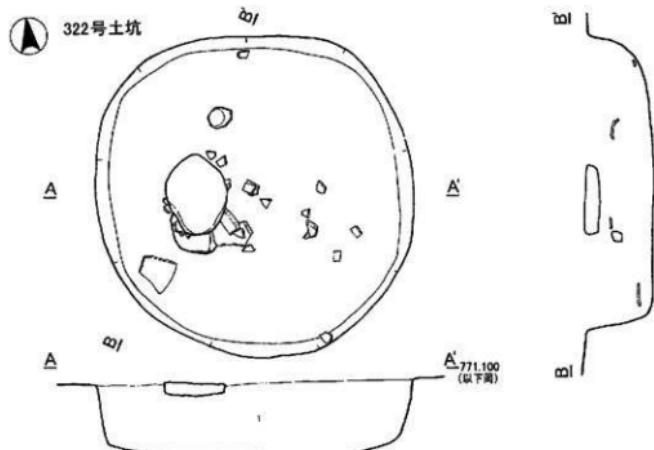
第5章第1節までに報告した出土遺物の観察所見を報告する。観察表は以下のとおりである。

第8表 縄文時代・弥生時代・その他の時代の土器・土製品一覧

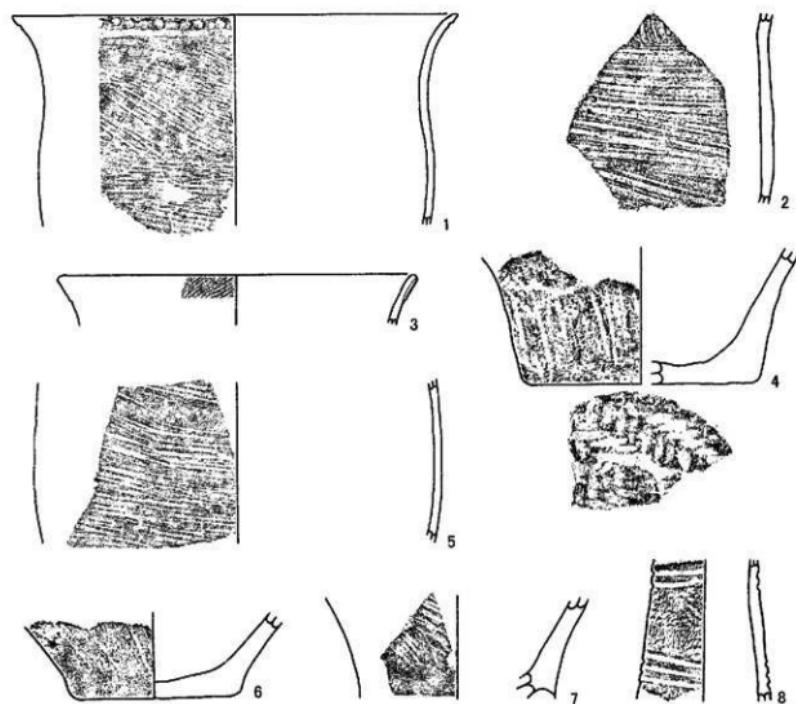
第9表 縄文時代・弥生時代の石器・石製品一覧



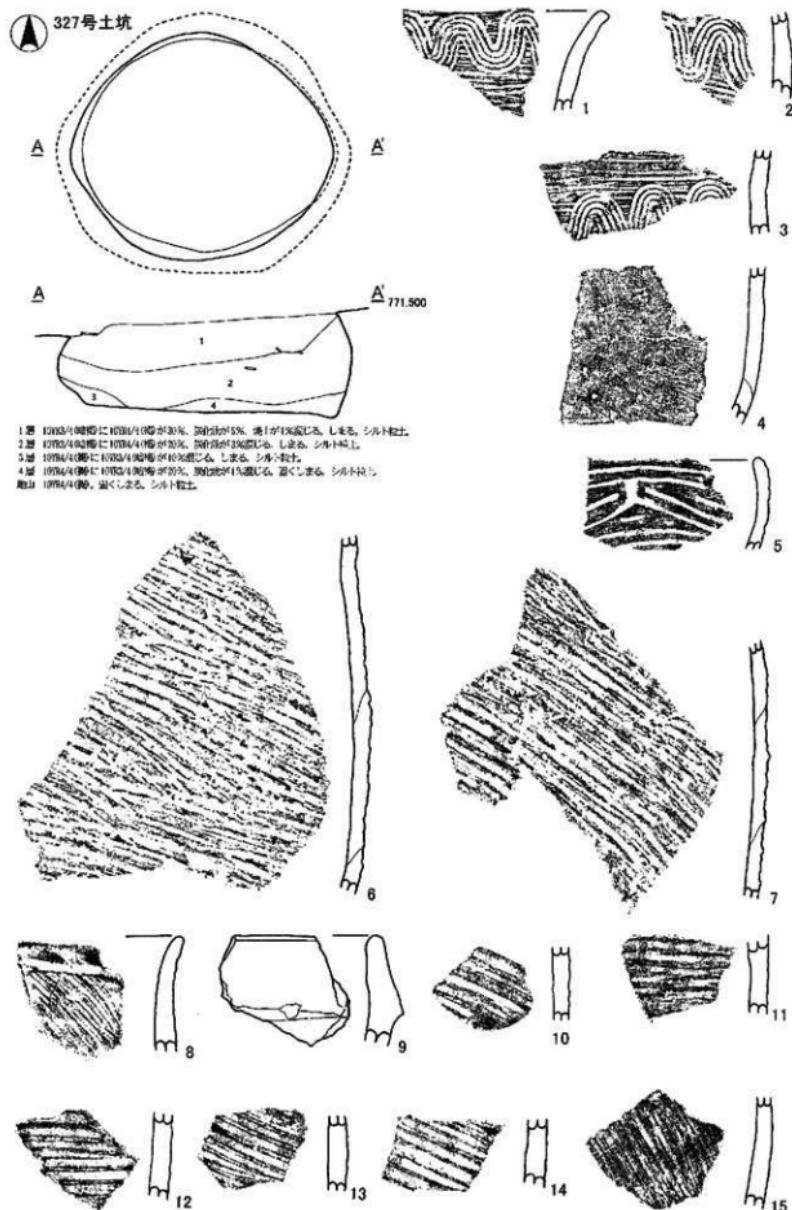
第96図 315号・318号土坑 (1/40) および出土遺物 (1/2)



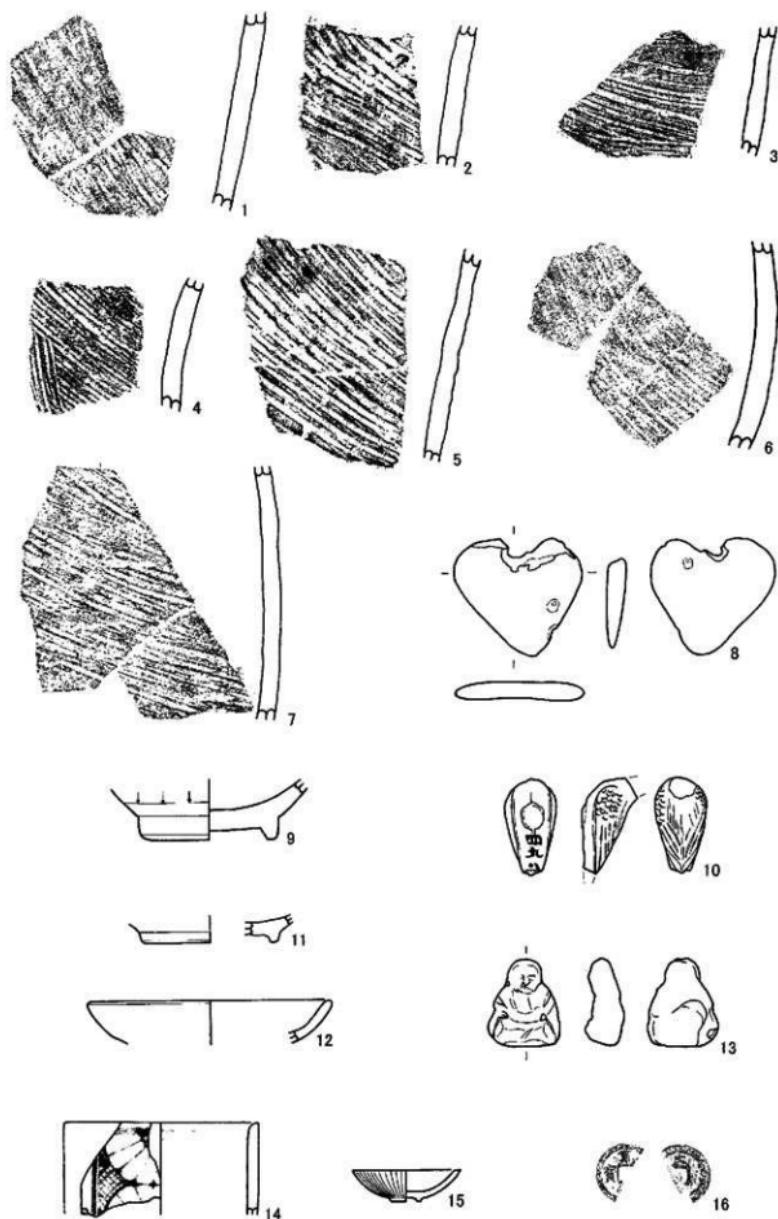
上図 322号土坑 (322 Pit) の概観。出土・検出物を示す縦断面。矢印は北。
底面 771.100。中央に2点。シルト粘土。



第97図 322号土坑 (1/20) および出土遺物 (1/2, 1-3-5 1/4)



第98図 327号土坑 (1/20) および出土遺物 (1/2)



第99図 遺構外出土遺物 (1/2, 8+13 1/1)

第8表 純文時代・弥生時代・その他の時代の土器・土製品一覧

図版番号	種別	胎土色調	残存度	重量(g)	特徴、出土位置、胎土質など
79 ⁵ 1	縄文土器	7.5YR 5/6	1/3	492	縄文1号住居上より出土。出土位置から考へると複数か
79 ⁵ 2	縄文土器	10YR 5/6	小破片	21	縄文1号住居土より出土。曾利V式
79 ⁵ 3	縄文土器	7.5YR 3/3	小破片	26	縄文1号住居内より出土。曾利V式
79 ⁵ 4	縄文土器	7.5YR 5/6	小破片	33	縄文1号住居内より出土。曾利V式
79 ⁵ 5	縄文土器	10YR 5/4	小破片	29	縄文1号住居上より出土。曾利V式
79 ⁵ 6	縄文土器	5YR 4/6	小破片	28	縄文1号住居内より出土。曾利V式
79 ⁵ 7	縄文土器	7.5YR 4/6	小破片	89	縄文1号住居上より出土。加曾利E 4式
79 ⁵ 8	縄文土器	10YR 3/3	小破片	19	縄文1号住居土より出土。加曾利E 4式?
79 ⁵ 9	縄文土器	10YR 4/4	小破片	33	縄文1号住居内より出土。加曾利E 4式
79 ⁵ 10	縄文土器	10YR 3/3	小破片	112	縄文1号住居土より出土。加曾利E 4式
79 ⁵ 11	縄文土器	7.5YR 5/4	小破片	70	縄文1号住居上より出土。加曾利E 4式
81 ² 1	縄文土器	10YR 7/4	小破片	13	腹土中より出土。推定径4.6cm。ミニチュア土器
81 ² 2	縄文土器	10YR 6/4	ほぼ光沢	1,400	径約20.0cm。
83 ² 1	縄文土器	7.5YR 6/4	2/3	910	径19.8cm。器高24.8cm。底径6.9cm。曾利V式
83 ² 2	縄文土器	7.5YR 6/6	ほぼ光沢	1,800	径21.6cm。器高27.7cm。底径8.5cm。埋蔵。曾利IV式
84 ² 1	縄文土器	10YR 6/4	小破片	922	縄文3号住居上より出土。曾利IV式
84 ² 2	縄文土器	10YR 5/4	1/1	675	縄文3号住居土より出土。曾利IV式
84 ² 3	縄文土器	10YR 7/4	1/2	216	縄文11.2cm。器高15.1cm。底径5.2cm。曾利IV式
84 ² 4	縄文土器	10YR 5/3	ほぼ光沢	655	口径13.0cm。器高19.7cm。底径7.0cm。曾利IV式
85 ² 1	縄文土器	10YR 6/4	1/4	400	縄文3号住居上より出土。曾利V式
85 ² 2	縄文土器	5YR 5/6	小破片	80	縄文3号住居土より出土。曾利V式
85 ² 3	縄文土器	7.5YR 6/4	小破片	250	縄文3号住居上より出土。曾利I式
85 ² 4	縄文土器	7.5YR 6/4	小破片	118	縄文3号住居土より出土。曾利I式。
85 ² 5	縄文土器	7.5YR 7/6	小破片	15	縄文3号住居上より出土。土偶の脚か
85 ² 6	縄文土器	7.5YR 7/6	小破片	45	縄文3号住居土より出土。曾利IV式
85 ² 7	縄文土器	10YR 7/6	小破片	58	縄文3号住居土より出土。曾利IV式
86 ² 1	縄文土器	10YR 5/4	小破片	37	縄文3号住居土より出土。曾利IV式
86 ² 2	縄文土器	7.5YR 6/6	小破片	81	縄文3号住居土より出土。曾利IV式
86 ² 3	縄文土器	7.5YR 6/6	小破片	51	縄文3号住居土より出土。曾利IV式
86 ² 4	縄文土器	7.5YR 6/6	小破片	25	縄文3号住居土より出土。ミニチュア土器
86 ² 5	縄文土器	10YR 4/4	小破片	22	縄文3号住居上より出土。曾利IV式
86 ² 6	縄文土器	10YR 6/4	小破片	39	縄文3号住居土より出土。曾利IV式
86 ² 7	縄文土器	7.5YR 6/6	小破片	23	縄文3号住居上より出土。曾利IV式
86 ² 8	縄文土器	10YR 5/4	小破片	164	縄文3号住居土より出土。曾利IV式
86 ² 9	縄文土器	10YR 6/4	小破片	200	縄文3号住居土より出土。曾利IV式
86 ² 10	縄文土器	7.5YR 5/4	小破片	136	縄文3号住居上より出土。曾利IV式
87 ² 1	縄文土器	10YR 7/4	小破片	324	縄文3号住居土より出土。曾利IV式
92 ² 1	縄文土器	7.5YR 6/6	小破片	20	縄文4号住居上より出土。曾利III式
92 ² 2	縄文土器	7.5YR 7/6	小破片	44	縄文4号住居土より出土。曾利III式
92 ² 3	縄文土器	10YR 7/4	小破片	29	縄文4号住居土より出土。曾利III式
92 ² 4	縄文土器	10YR 7/6	小破片	44	縄文4号住居上より出土。加曾利E 3~E 4式
92 ² 5	縄文土器	10YR 7/6	小破片	33	縄文4号住居土より出土。加曾利E 3~E 4式
92 ² 6	縄文土器	7.5YR 4/4	小破片	25	縄文4号住居上より出土。加曾利E 3~E 4式
92 ² 7	縄文土器	10YR 7/6	小破片	54	縄文4号住居土より出土。加曾利E 3式
92 ² 8	縄文土器	7.5YR 5/4	1/2	1,230	曾利V式
93 ² 1	縄文土器	5YR 7/6	小破片	308	曾利IV式
94 ² 1	縄文土器	7.5YR 6/4	小破片	7	山形押型文、113号住居土より出土。縄文時代早期
94 ² 2	縄文土器	10YR 7/4	小破片	11	山形押型文、117号住居土より出土。縄文時代早期
94 ² 3	縄文土器	7.5YR 6/6	小破片	8	山形押型文、117号住居土より出土。縄文時代早期
94 ² 4	縄文土器	5YR 4/6	小破片	8	山形押型文、縄文時代早期
94 ² 5	縄文土器	10YR 6/6	小破片	6	山形押型文、縄文4号住居土より出土。縄文時代早期
94 ² 6	縄文土器	10YR 2/1	小破片	13	山形押型文、縄文4号住居上より出土。縄文時代早期
94 ² 7	縄文土器	10YR 5/3	小破片	3	山形押型文、縄文時代早期
94 ² 8	縄文土器	10YR 4/2	小破片	4	山形押型文、117号住居土より出土。縄文時代早期
94 ² 9	縄文土器	10YR 7/4	小破片	12	山形押型文、117号住居土より出土。縄文時代早期
94 ² 10	縄文土器	7.5YR 5/4	小破片	6	山形押型文、縄文時代早期
94 ² 11	縄文土器	10YR 7/4	小破片	28	117号住居土より出土。曾利I式
94 ² 12	縄文土器	10YR 5/6	小破片	35	[120]号住居土より出土。縄文時代中期
94 ² 13	縄文土器	5YR 5/4	小破片	19	117号住居土より出土。縄文時代中期の上器か
94 ² 14	縄文土器	5YR 1/6	小破片	21	外側削制、117号住居土より出土。
94 ² 15	縄文土器	7.5YR 7/6	小破片	35	118号住居土より出土。縄文時代後期の上器か
94 ² 16	縄文土器	7.5YR 6/4	小破片	35	縄文十把の把手。もしくは土偶の脚と思われる
95 ² 1	弥生土器	10YR 6/6	小破片	59	縄面に条痕文
95 ² 2	弥生土器	10YR 5/4	小破片	32	口縁部破片、縄面に条痕文
95 ² 3	弥生土器	10YR 5/4	小破片	29	口縁部破片、縄面に条痕文
95 ² 4	弥生土器	10YR 5/3	小破片	25	縄面に条痕文
95 ² 5	弥生土器	5YR 3/1	小破片	25	縄面に条痕文
95 ² 6	弥生土器	10YR 7/4	小破片	29	縄面に条痕文
95 ² 7	弥生土器	5YR 1/4	小破片	21	縄面に条痕文
97 ² 1	弥生土器	10YR 7/4	1/4	436	口縁部に折唇押注した突起1条、底部に条痕文
97 ² 2	弥生土器	10YR 8/6	小破片	42	縄面に条痕文
97 ² 3	弥生土器	7.5YR 7/6	小破片	21	口縁部に縄文を施す。推定口径29.4cm
97 ² 4	弥生土器	10YR 8/4	小破片	77	底部に条痕文、底部に網代底
97 ² 5	弥生土器	10YR 7/6	小破片	100	縄面に条痕文
97 ² 6	弥生土器	7.5YR 7/6	1/4	120	底部に条痕文

図版番号	種別	胎土色調	残存状	重量(g)	特徴、出土位置、胎土質など
97回7	弥生土器	10YR 7/3	小破片	18	表面に条痕文
97回8	弥生土器	5YR 7/2	小破片	20	表面に網文、沈線
98回1	弥生土器	5YR 4/6	小破片	20	口縁部破片、表面に条痕文、波状文、水神平式土器
98回2	弥生土器	5YR 4/6	小破片	12	表面に条痕文、波状文、水神平式土器
98回3	弥生土器	5YR 4/6	小破片	25	表面に条痕文、波状文、水神平式土器
98回4	弥生土器	7.5YR 6/6	小破片	32	表面に条痕文
98回5	縄文土器	10YR 3/3	小破片	15	口縁部破片、縄文時代晚期末I式の土器か
98回6	弥生土器	5YR 5/6	小破片	118	春山に条痕文
98回7	弥生土器	5YR 5/6	小破片	79	表面に条痕文
98回8	弥生土器	7.5YR 5/4	小破片	21	118号住居土中より出土。口縁部破片、表面に沈線、条痕文
98回9	弥生土器	10YR 7/4	小破片	32	縄文4号住居土より出土。口縁部破片
98回10	弥生土器	10YR 7/4	小破片	11	春山に条痕文
98回11	弥生土器	7.5YR 6/6	小破片	15	表面に条痕文
98回12	弥生土器	10YR 5/2	小破片	19	春山に条痕文
98回13	弥生土器	10YR 6/4	小破片	15	春山に条痕文
98回14	弥生土器	10YR 5/2	小破片	14	春山に条痕文
98回15	弥生土器	7.5YR 5/6	小破片	21	春山に条痕文
99回1	弥生土器	7.5YR 5/6	小破片	47	118号住居土中より出土。表面に条痕文
99回2	弥生土器	10YR 7/6	小破片	36	春山に条痕文
99回3	弥生土器	7.5YR 5/6	小破片	26	118号住居土中より出土。表面に条痕文
99回4	弥生土器	7.5YR 5/4	小破片	29	118号住居土中より出土。表面に条痕文
99回5	弥生土器	10YR 7/6	小破片	63	春山に条痕文
99回6	弥生土器	7.5YR 5/4	小破片	48	118号住居土中より出土。表面に条痕文
99回7	弥生土器	7.5YR 5/4	小破片	78	縄文4号住居土より出土
99回8	陶器	10YR 8/4	底部	1/2	35 黒土・美濃系丸窓、推定底径5.6cm、16世紀後半
99回9	土製品	2.5YR 8/2	頭部欠損	12	腹部に露窓「四九八カ」、型合せ成形、中実、京都系
99回10	陶器	10YR 7/4	4	小破片	5 漏戸・美濃系丸窓、推定口径10.0cm、16世紀後半
99回11	陶器	5YR 7/3	小破片	4	漏戸・美濃系丸窓、推定口径10.0cm、16世紀前半
99回12	土製品	7.5YR 6/6	穿孔	1	木製 芥子舟、長さ1.8cm、幅1.4cm、厚さ4mm
99回13	土製品	3Y 8/1	小破片	9	漏戸・美濃系筒型窓、推定口径7.9cm、腹膨中央
99回14	鉢器	7.5Y 8/1	1/3	5	凹前斜面、堅打ち成形、推定口径4.2cm

第9表 縄文時代・弥生時代の石器・石製品一覧

図版番号	種別	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	石質	重量(g)	特徴、出土位置など
80回1	磨石	10.7	7.3	4.6	砂岩	580	表裏、両側面に磨削
87回2	磨石	9.6	4.9	4.8	砂岩	466	表裏に磨削、表面に凹み、縄文3号住居土より出土
87回3	磨石	11.3	7.8	3.6	砂岩	184	表裏両面に凹み、縄文3号住居土より出土
88回1	剥片	3.2	2.5	1.1	黒曜石	7	
88回2	剥片	6.2	4.9	1.6	黒曜石	34	右側縫部に微細剝離
88回3	剥片	5.3	4.9	1.7	黒曜石	39	左側縫部に微細剝離
88回4	剥片	5.6	4.6	1.1	黒曜石	31	左側縫部に微細剝離
89回5	剥片	6.6	7.4	1.9	黒曜石	69	
89回6	剥片	4.0	3.7	1.6	黒曜石	19	
89回7	剥片	3.2	3.3	1.2	黒曜石	7	
89回8	剥片	4.6	6.2	1.7	黒曜石	35	
90回9	剥片	4.7	5.8	1.9	黒曜石	44	
90回10	石核	4.2	3.7	2.1	黒曜石	30	
90回11	石核	4.5	4.6	3.4	黒曜石	56	
90回12	剥片	4.2	3.1	1.2	黒曜石	12	
90回13	剥片	5.2	2.7	1.0	黒曜石	10	左側縫部に微細剝離
90回14	剥片	3.7	4.2	1.7	黒曜石	11	
91回15	剥片	6.1	5.7	1.6	黒曜石	35	左側縫部に微細剝離
91回16	剥片	2.8	5.5	1.2	黒曜石	17	下縫部に微細剝離
91回17	剥片	4.3	5.4	1.7	黒曜石	39	左側縫部に微細剝離、117号住居土より出土
91回18	石尖片	5.9	4.1	3.4	石尖	73	
91回19	石尖片	6.5	4.9	1.7	石尖	51	
91回20	石尖片	6.2	4.7	2.8	石尖	86	
91回21	石尖片	3.9	3.7	1.7	石尖	21	
94回17	石礫	(1.9)	(1.5)	0.4	黒曜石	1	有茎錐、基部及び右脚部欠損、遺構外より出土
94回18	石礫	2.0	1.4	0.5	チャート	1	左脚部欠損、遺構外より出土
94回19	石礫	(2.3)	(1.3)	0.4	黒曜石	1	右脚部欠損、遺構外より出土
94回20	石礫	(2.0)	(1.4)	0.4	黒曜石	1	先端部、右脚部欠損、遺構外より出土
94回21	石礫	2.3	1.4	0.4	黒曜石	1	遺構外より出土
94回22	石礫	2.3	1.8	0.3	黒曜石	1	遺構外より出土
95回1	石底	3.8	1.9	0.4	チャート	2	遺構外より出土
95回2	石底	1.9	1.9	0.4	チャート	1	石底未製品、遺構外より出土
95回3	石底	12.4	4.6	1.4	ホルンフェルス	120	遺構外より出土
95回4	打製石斧	8.8	4.6	1.2	ホルンフェルス	51	106号住居内P1257より出土
95回5	石底	15.2	6.8	5.6	瑪瑙岩	870	下縫部に解釈地、110号住居土より出土
95回6	石底	2.5	4.2	0.9	チャート	7	遺構外より出土
95回8	不明	2.4	2.6	0.4	砂岩	2	上部に穿孔、直錐石錐か

第6章 まとめ

第1節 遺構について

1. 各時期の遺構分布

梅之木痕跡で検出された平安時代集落の時期ごとの変遷をまとめてみたい。(第100図～第101図)。まず各時期の遺構分布状況を確認する。遺構の時期は出土遺物により推定した。出土遺物がなく時期が推定できない遺構は除外した。

第1期(9世紀第3四半期～9世紀第4四半期)

宮ノ前VII期に該当する。この時期より漸る遺物の出土する住居はみられない。調査区東端で検出された住居は本期のものだけである。本期に属するとと思われる遺構は竪穴住居9軒である。上坑はみられない。

竪穴住居 96号、97号、98号、107号、108号、110号、113号、114号、117号

第2期(9世紀第4四半期～10世紀第1四半期)

宮ノ前VI期に該当する。住居数は第1期から大幅に減少する。調査区東端に住居は見られなくなり、前期の住居の集中する地区に重複はせずに設けられている。本期に属するとと思われる遺構は、竪穴住居2軒である。

竪穴住居 109号、115号

第3期(10世紀第2四半期～10世紀第3四半期)

宮ノ前IX期に該当する。住居数は第3期と変化はないものの、102号住居は前期や本期の住居が集中する地区とは離れた地点に位置している。住居の重複はなく、やはり前期とは異なる地区に建設されている。本期に属すると思われる遺構は、竪穴住居2軒である。

竪穴住居 102号、116号

第4期(10世紀第3四半期～10世紀第4四半期)

宮ノ前X期に該当する。前期までの住居が集中する地区とともに住居が設けられていない調査区の南北側にも3軒の竪穴住居が現れる。本期に属するとと思われる遺構は、竪穴住居5軒、土坑1基である。

竪穴住居 99号、100号、101号、105号、106号

土坑 249号

第5期(10世紀末～11世紀前葉)

宮ノ前XI期に該当する。前期までの住居が集中する地区的東端に住居が設けられている。本期に属すると思われる遺構は、竪穴住居3軒である。いずれの住居も1辺5m以上と本遺跡内では大型の規模をもつ。118号と120号住居は多量の鉄滓が出土する鍛冶遺構であるが、鍛冶遺構は本期にのみ確認された。

竪穴住居 112号、118号、120号

2. 鍛冶遺構について

今回の調査では118号住居と120号住居の2軒の鍛冶遺構と考えられる竪穴住居が検出された。

118号住居では鉄滓が多量に出土した他に鉄分の付着した扁平な礫が出土し、また住居の床面の一部が被熱し非常に硬くしまっていたことからこれらを金床石、地床鍛冶炉と考え、また鉄滓の付着した土器片が出土していることから鍛冶遺構と判断した。焼土と炭化材が床面上から出土している点も鍛冶遺構に関連するものと考えられる。また鍛冶遺構と直接結びつくものではないが、東壁に張り出しをもつ、床面に周溝とは異なる浅い溝が2条検出される、カマドの主軸が対角線を向いているなど本遺跡における他の住居とは異なる特徴を有している。120号住居は多量の鉄滓の他に羽口と思われる土製品が出土していることから鍛冶遺構と判断した。118号住居

と同様に床面上から焼上と炭化材が出上している。鍛冶炉は検出されなかったが302号土坑は底面が硬くしまり、焼没途中の覆土が瓦状に被熱していることからあるいはこの土坑が鍛冶炉ではないかとも考えられる。壁沿いに土坑が設けられている、覆土中から漆紙と思われる付着物のある土師器小皿が出土するなどの特徴をもっている。この2軒の住居はどちらも南壁の立ち上がり部に2本、床面中央北寄りに2本の柱穴を持つという構造の共通点を持つ。

以上のような特徴を保坂康夫氏の鍛冶遺構の分類（保坂 1992）にあてはめると、118号住居は竪穴住居内に鍛冶関連施設をもつ「地床鍛冶が型」と考えられる。120号住居では住居内に明確な鍛冶施設は確認されなかったが、遺構は調査区外まで及んでいるためここで分類は保留しておきたい。

保坂氏は金床石や地床炉などの鍛冶施設を持つ鍛冶遺構が甲斐型Ⅶ期に出現し、Ⅷ期に消滅するとしており、「地床鍛冶炉型」の消滅時期を平成型Ⅸ期頃と想定している。118号、120号住居の時期はともに甲斐型Ⅸ期消滅以後、宮ノ前Ⅹ期と考えられることから「地床鍛冶炉型」は本期まで存続するという可能性が指摘できる。

3. 挿立柱建物・土坑について

今回の調査で挿立柱建物は7棟検出されている。規模は2間×2間が2棟、3間×2間が1棟、1間×2間が1棟、1間×1間が1棟ではかに規模の不明なものが2棟ある。構造は規模不明の2棟を含めて全てが側柱建物である。遺物の出土はほとんどなく、他の遺構との切り合いもないため時期の特定はできなかったが、複数の挿立柱建物がまとまっているという分布状況から考えると各時期の竪穴住居2~3軒に1棟の挿立柱建物という組み合わせが想定できる。

平安時代の土坑は竪穴住居の屋内で機能していたと思われるものを除くと12基が検出されている。そのうちの11基がE1区西側南寄りに集中している。これらの土坑は横円形もしくは円形で、覆土が酷似していたが遺物の出土がほとんどなく、時期ごとの分布は明らかにできなかった。横円形の土坑は7基検出されており、規模は長軸が1.4mから2.0mの間、短軸は0.8mから1.3mの間に収まる。深さは8cmから20cmの間に収まるが、221号土坑のみ28cmとやや深い。円形の土坑は3基検出されており、規模は直径が0.7mから1.1mの間に、深さは12cmから16cmの間である。

土坑の深さから考えると上面はかなり削平されているものと思われるが、削平を受けた深さが均一であると仮定すれば、平面形・深さとともに近い数字を示していることから土坑構築時の規模はほぼ一定のものであったと考えられる。11基の土坑が集中する地区には竪穴住居が分布していない点とあわせて、特定の機能を持った土坑が一定の範囲に設けられ、そこには住居を設けないという規制が集落内には作用していたと考えられる。しかし土坑の時期が不明であるため、土坑が集落の存続期間中絶え間なく構築されたものか、それとも特定の時期に設けられたものなのかは不明である。

第2節 遺物について

1. 墓書・刻青上器

本遺跡では10軒の竪穴住居から27点の墨書き、刻書き器が出土した。それらを第10表に整理し、その出土位置を第102図に示した。

第1期では97号住居から「山」・「陵」、107号住居からは「十」2点、108号住居からは「山」・「十カ」と判読不可能の墨書きが1点、110号住居からは「月」・「金カ」、113号住居からは「金カ」・「田カ」と判読不可能の墨書きが3点、114号住居からは「丈」・「十カ」・「金カ」と判読不可能の墨書き1点が出土している。第2期の住居は109号住居の「乙」1点だけである。第3期は102号住居から「仁(刻書)」が出土している。116号住

岩からは判読不可能の墨書5点が出土している。第4期では判読不可能の墨書が106号住居から1点出土している。第5期の住居からは墨書土器は出土していない。

こうして見てみると多数の墨書土器が出土する第1期では共通の墨書が複数の住居から出土していることがわかる、97号と110号住居で「目」墨書土器が、107号、108号、114号住居で「十」、110号、113号、114号住居で「金方」が出土している。

また1軒の住居内で同一内容の複数の墨書土器が出土している例は107号住居出土の「十」墨書土器2点だけである。ともに甲斐型の高台丕に墨書きされている2点の文字は筆跡はよく似ているが107a号住居の覆土中から出土した「十」墨書土器(36図6)の文字ははっきりとしているのに対し、床面で検出された277号土坑覆土から出土した「十」墨書土器(36図7)の文字はかすれているように薄くなっている。

107号住居は壁面を共有する新旧2枚の床面を持つ堅穴住居である、向住居間に時期の大きな違いは認められない。277号土坑が検出されたのは107号住居107b号の床面であることから両者は(107b号住居の)床面の埋め戻しにより、一方は新住居の床面の下に、もう一方は床面の上に存在していたと考えられる。また土器を観察してみると、107a号住居覆土中出土の墨書き土器の口縁部が平坦なのに対し、既に埋められている277号土坑出土墨書き土器のほうは口縁部が玉縁化しており新しい印象をうける。

これらの点から、277号土坑出土のものは長期間使用された後に埋められ、107a号住居覆土出土のものは使用された期間が短かったため墨痕の濃淡に違いが現れたと考えられないだろうか。また文字のはっきりした107a号住居出土の口縁部がやや古手の特徴をもっていることから、文字のかされることのない長期間の行為ということも考えられるが、土器の製作時期と墨書きのなされる時期が必ずしも一致しないので断定はできない。

第3節 明野村・梅之木遺跡出土の墨書き土器「目」と「倭」について

原 正人

明野村教育委員会による、今年度の梅之木遺跡の発掘調査で、堅穴住居97号住居から発見された「目」「倭」と記された2つの墨書き土器について、甲斐国、ことに巨摩郡の古代史を考える上での重要な文字資料の新出であるという見地から、若干のコメントを述べたい。

【土器の年代】2つの墨書き土器のうち、「倭」と記された方は所謂「甲斐型皿」とよばれる上脚器で、官ノ前編年(第7期、安年代で9世紀第3四半期から9世紀第4四半期に相当する時期にあたると推定される。一方、「目」の墨書き土器は、内面に黒色処理を施す別種の环であるが同一住居内の同一地表面から出土していることから判断して、ほぼ同時期の土器とみなしてよいと思われる。

【墨書きの書体】一日見て気付くのは、両者とも極めて勢いのある筆遣いで、字画の整った楷書体は、相当筆弱れた人の字に見られる点である。あるいは、同一人の手になるものかもしれない。こうした官衙風の書体を持つ墨書きは、公權力につらなる役人——例えば、郡司か郷長のような在地の有力層か、国衙の中下級官人かが想定される——が配主である可能性を想像させる。なお、この住居内から石製の持帯が出土していることも、一般民衆とは区別された何らかの指導的な立場にあった人物に間わるものらしいことを示唆する。

【「目」「倭」の意味するもの】梅之木遺跡からは、昨年度の調査区からも多量の墨書き土器が出土しており、同時期の北巨摩郡下の平安集落遺跡と比較しても、其の規模や墨書き土器の濃密さなどからして、換点的な集落のひとつであること、遺跡立地からみて、後院牧の「小笠原牧」もしくは御牧の「藤坂牧」に隣接する牧経営集団に關係する集落ではないかと推定される。その上で、「目」「倭」の墨書きは、それぞれ1点ずつであり、これまで判明している県内遺跡からの墨書き土器に類例を見ないものである点で注目される。

たった1文字の、しかも1例しかない墨書きの文字から、特定の意味を推測することは危険であり、即断はさら

に憲まなければならないが、ひとつの可能性として文献資料に知られる当該期の歴史的状況から、次のような仮説を提示しておきたい。

「目」は、国司の四等官「守・介・掾・目」のうちの「目（さかん）」ではあるまい。

これまでに県内で「守」2点（長坂町深草遺跡、一宮町国分尼寺）「介」1点（蓮崎市宮ノ前遺跡）の報告事例があり、それらが国司の守・介を指すものとの確証はないものの、今回新たに加わった「目」も含めて、国司の四等官を意味する事例として検討の俎上にあげてみたい。

先述の当墨書土器の年代推定とも偶然の一一致を見るのだが、「日本文德天皇実錄」仁寿二年（852）二月己未（22日）条に、「近江 甲斐國目一員。」の記録がみえ、「類聚三代格」卷五所収の同年同月日付の太政官符では、さらに詳しい格文全体が知られ、甲斐國に目一員を置くことの理由として、「衆務斯多。從・事人少」と述べられている。この辺の経緯についてはすでに述べたことがある⁽¹⁾が、目一員の署置が御牧の發展・拡充と密接に関わるものではないかとする説もあって、国司が扱う「衆務」の一つに御牧經營のことがあったという推測は十分に首肯できる。大目・少目の二貯制となったのち、そのうちの一人が御牧の寺当となつたという解釈もなりたちうるのではなかろうか。

「倭」は、甲斐國巨摩郡の式内社の一つ「倭文神社」に關係するものではない。

この「倭」の墨書も、従来の報告事例にはなかった新出の文字資料で貴重である。

「倭」は一般に、その一字で「わ」または「やまと」と割りられるが、甲斐國の古代史にひきつけてその用例を探すならば、「延喜式」神名帳（神名式）に登録されている甲斐國二十座のうちの巨摩郡五座に「倭文神社」（訓名は「しずり」、または「しどり」）の名がみえ、「延喜式」段階よりも少し遅って9世紀後半には、すでに幣帛の対象と朝廷に認知されていたことが推測される。同社は、現在の三崎市穗坂町宮久保に鎮座する同名社に比定されて、とくに論社がないことから、「穗坂牧」の地に居住した集団により奉斎された神（現在の祭神は、天羽稚雄命・櫛機姫命の二神）であるとみられる。ちなみに、巨摩郡五座のうちのもう一社「宇波刀神社」を明野村上手に鎮座する同名社に当てるのが通説であり、やはりある程度の伝統的な集落とその奉斎集団の存在が式内社選定の前提になっていたことを物語っている。倭文神社・宇波刀神社とともに、穗坂牧または小笠原牧の經營集団との何らかの関係をもつ神社ではなかつたかという見通しを指摘しておきたい。

註

(1)『須玉町史』第一卷、第二章の当該史料の解説参照

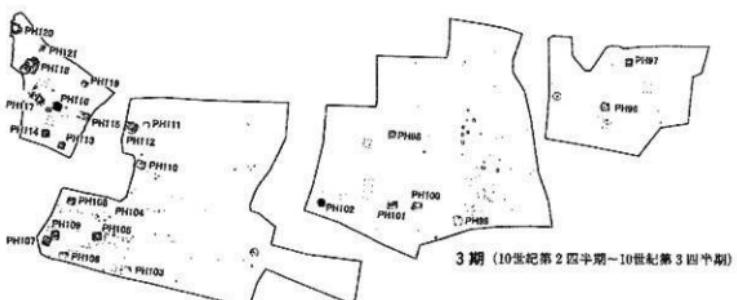
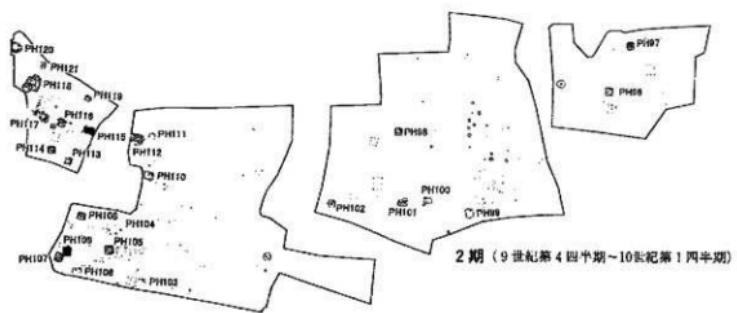
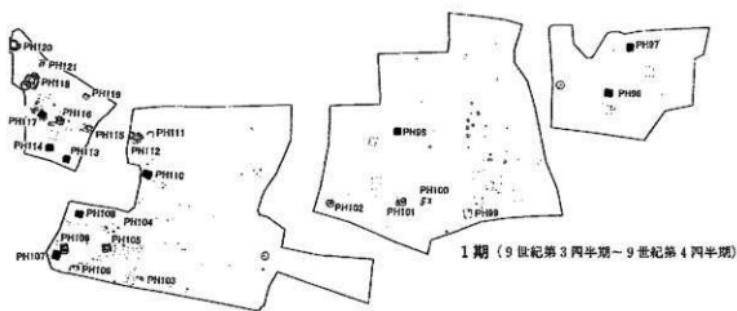
参考文献

- 伏山 敏 2001 「文献からみた古代・中世の小笠原」『山梨考古第81号』山梨県考古学協会
明野村教育委員会 1990 『「野木」・「II遺跡・池の下遺跡・躊躇石II遺跡・中村遺跡」』
明野村教育委員会 1991 『宮後遺跡』
明野村教育委員会 1995 『村之内II・III・高台・中谷井』
明野村教育委員会 1997 『下大内遺跡・星敷添第2遺跡・中原遺跡』
明野村埋蔵文化財センター 1999 『中前遺跡調査概要』
明野村埋蔵文化財センター 2000 『中前遺跡見学会パンフレット』
南宮正樹 1998 『湯沢遺跡』『山梨県史資料編I 原始・古代・考古（遺跡）』
岡小範之 1990 『平安期における甲斐國巨摩郡の動向』『山梨県考古学協会論第3号』山梨県考古学協会
甲斐型土器研究グループ 1992 『甲斐県土器—その編年と年代—』山梨県考古学協会
上ノ原遺跡発掘調査団 1999 『上ノ原遺跡』

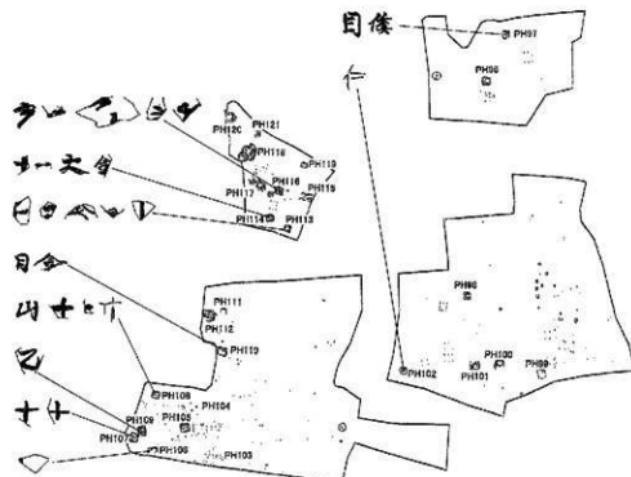
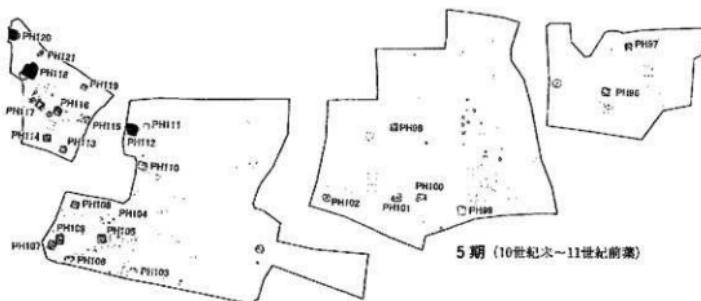
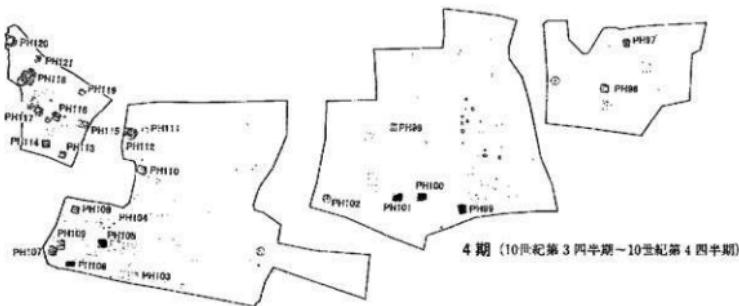
- 瀬田正明 1992 「山梨県内出土の漆器具について」『山梨県考古学協会誌第5号』山梨県考古学協会
- 中山誠二 1993 「半斐弥生上器編年と黒陶 時間軸の設定-」『研究紀要9』山梨県立考古博物館
- 足寄市遺跡調査会 1995 「宮ノ前遺跡」
- 藤原三雄 1986 「八ヶ岳南麓における半安集落の展開」『山梨考古学論集I』山梨県考古学協会
- 原 正人 2002 「律令制変容期の半斐団と巨摩郡」『須玉町史通史稿第1卷』
- 平野 修 1992 「山梨県内出土の墨書きと線刻土器」『帝京大学山梨文化財研究所研究報告第4集』
- 保坂康夫 1992 「山梨県下の平安時代銀治遺構の様相」『山梨県考古学協会誌第5号』山梨県考古学協会
- 武川村教育委員会 1988 「宮間田遺跡」
- 森原利廣 1994 「山梨県地域における古代末期の土器様相」『丘陵第14号』甲斐丘陵考古学研究会
- 山梨県教育委員会 1987 「寺所遺跡」
- 山梨県教育委員会 1987 「柳坪遺跡」
- 山梨県教育委員会 1988 「金生遺跡II (漢文時代編)」

第10表 墨書き・刻書き土器一覧

図版番号	遺構番号	墨書き・刻書き	種別	器種	記銘部位	記銘状態	墨痕濃淡	時期
10図1	97号住	日	大小久保型	坏	体部外面	正位	濃	宮ノ前VII期
10図2	97号住	倭	甲斐型	皿	体部外面	正位	濃	宮ノ前VII期
25図1	102号住	仁(刻青)	甲斐型	坏	体部外面	逆位		宮ノ前IX期
32図5	106号住	□	甲斐型	坏・皿	体部外面	不明	淡	宮ノ前X期
36図6	107号住	十	土師器	坏	体部外面	正位	濃	宮ノ前VII期
36図7	107号住	十一	土師器	坏	体部外面	正位	淡	宮ノ前VII期
39図1	108号住	山	甲斐型	皿	体部外面	逆位	濃	宮ノ前VIII期
40図2	108号住	□	大小久保型	坏	体部外面	不明	一	宮ノ前VII期
40図5	108号住	口	甲斐型	坏・皿	体部外面	不明	淡	宮ノ前VII期
40図6	108号住	十カ	土師器	坏	体部外面	正位	淡	宮ノ前VII期
43図8	109号住	乙	甲斐型	坏・皿	体部外面	不明	濃	宮ノ前VII期
46図1	110号住	金カ	大小久保型	坏	体部外面	逆位	淡	宮ノ前VII期
46図2	110号住	目	大小久保型	坏	体部外面	正位	淡	宮ノ前VII期
51図1	113号住	金カ	甲斐型	皿	体部外面	逆位	淡	宮ノ前VII期
51図9	113号住	□	甲斐型	坏・皿	体部外面	不明	淡	宮ノ前VII期
51図10	113号住	□(田カ)	甲斐型	坏・皿	体部外面	不明	淡	宮ノ前VII期
51図11	113号住	口	甲斐型	坏	体部外面	不明	淡	宮ノ前VII期
51図12	113号住	□	甲斐型	坏・皿	体部外面	不明	淡	宮ノ前VII期
54図1	114号住	火	甲斐型	皿	体部外面	逆位	濃	宮ノ前VII期
55図5	114号住	□(十カ)	大小久保型	坏	体部外面	正位	淡	宮ノ前VII期
55図7	114号住	金カ	大小久保型	坏	体部外面	逆位	淡	宮ノ前VII期
55図13	114号住	口	甲斐型	坏・皿	体部外面	不明	濃	宮ノ前VII期
61図1	116号住	□	甲斐型	坏・皿	体部外面	不明	淡	宮ノ前IX期
61図2	116号住	□	甲斐型	坏・皿	体部外面	不明	淡	宮ノ前IX期
61図3	116号住	□	土師器	坏	体部外面	不明	濃	宮ノ前IX期
61図4	116号住	□	甲斐型	坏・皿	体部外面	不明	淡	宮ノ前IX期
61図5	116号住	口	甲斐型	坏・皿	体部外面	不明	淡	宮ノ前IX期



第100図 時期別遺構分布図



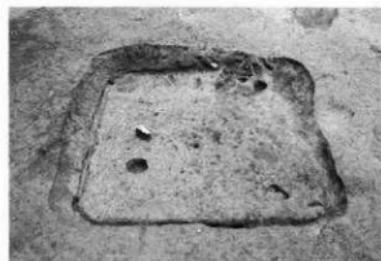
第101図 時期別遺構分布図(上段)・墨書き土器出土位置図



梅之木遺跡全景と金ヶ岳



梅之木遺跡E1・E2区全景



96号住居・100号住居（左下）・97号住居（右）



97号住居カマ下・墨書き器出土状況（左下）・腰帶具出土状況（右上）・完掘（右下）



98号住居・カマド（右上）・103号住居（右下）



101号住居・258号土坑遺物出土状況（右上）・完掘（右下）



102号住居・カマド（左下）・カマド遺物出土状況（右上）・104号住居カマド（右下）



105号住居・カマド（右上）・106号住居（右下）



107a号住居・カマド（左下）・107b号住居（右上）・カマド（右下）



108号住居・カマド（左下）・110号住居（右上）・カマド（右下）



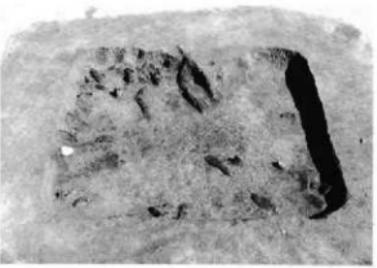
109号住居・カマド（左下）・完掘（右上）・111号住居（右下）



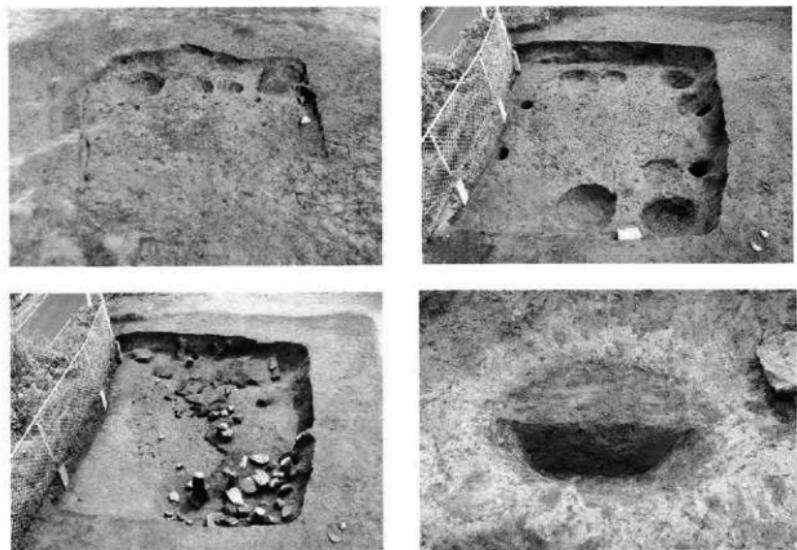
112号住居・カマド（左下）・113号住居（右上）・カマド（右下）



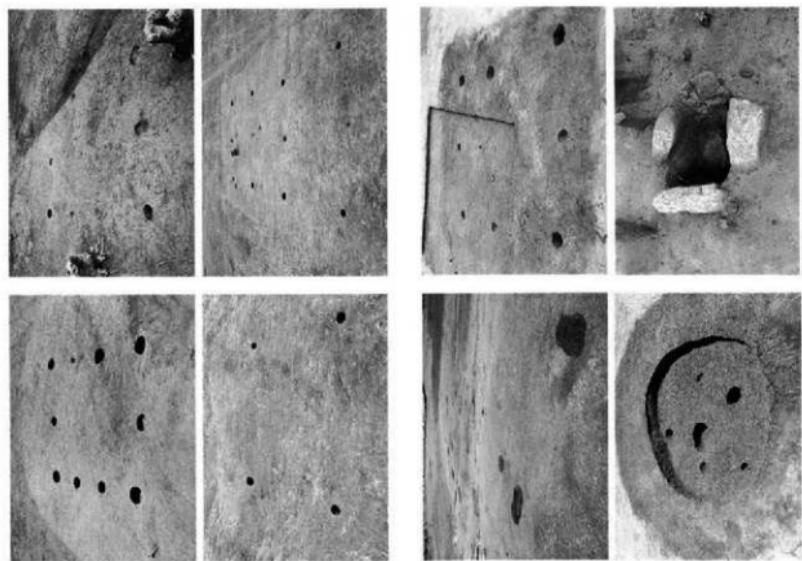
114号住居・カマド (左下)・116a号住居 (左上)・116b号住居 (右下)



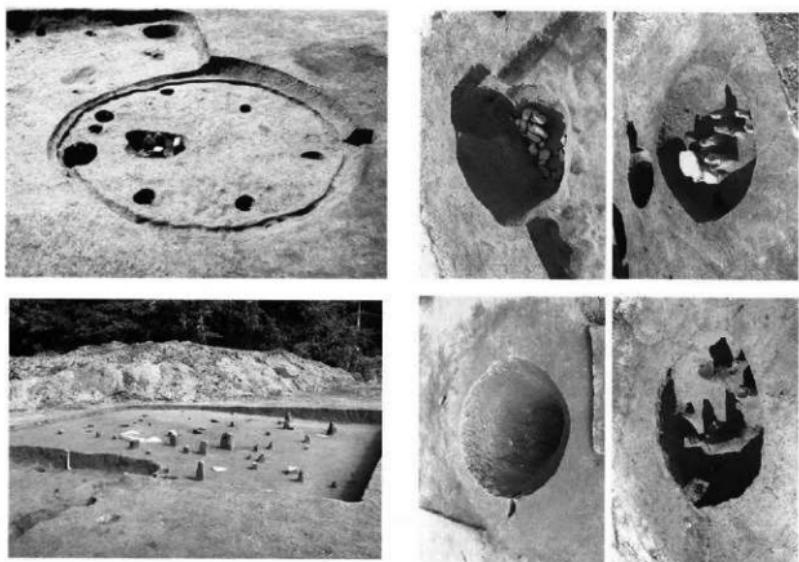
118号住居・カマド (右上)・117号住居 (右下)



119号住居・120号住居（左下）・完掘（右上）・302号土坑（右下）



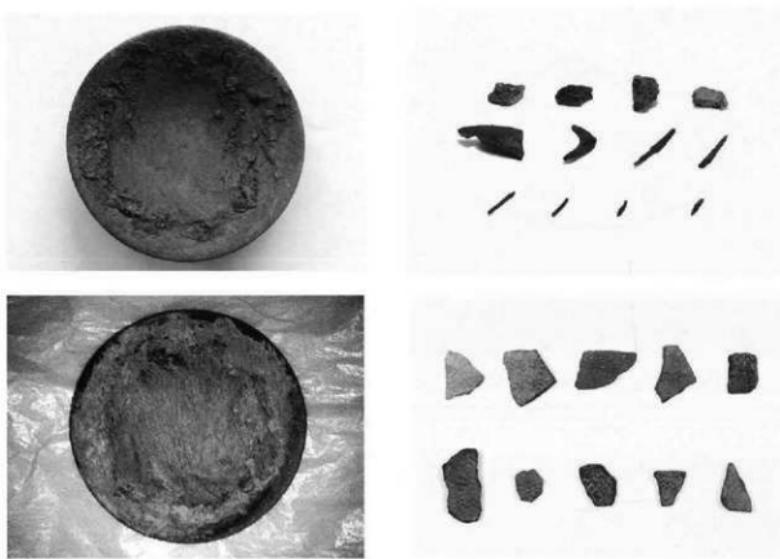
掘立柱建物（左上から22号、23号、24a・b号、27号）・P.J.1炉・土坑群・P.J.2



P J 3 (左上)・P J 4 遺物出土状況・弥生時代の土坑 (右上左から315号、318号、322号、327号)



9世紀後半の出土品・9世紀末から10世紀初頭の出土品(左下)・10世紀前半から後半の出土品(右上)10世紀末から11世紀初頭の出土品



120号住居出土土師器内面状況・赤外線写真（左下）・主な金属製品・押型文土器



縄文時代中期後半の出土品・縄文4号住居出土接合資料（左下）・同接合資料（右上）・弥生時代前期の土器

報告書抄録

ふりがな	うめのきいせきに
書名	梅之木遺跡II
調査施	黒岩畠地番総合整備事業にともなう平安時代遺跡の発掘調査報告
シリーズ名	明野村文化財調査報告 15
著者	大山祐喜 原正人
発行機関	明野村教育委員会
編集機関	明野村埋蔵文化財センター
所在地／電話	〒407-0201 山梨県北巨摩郡明野村上手8310 TEL (0551) 25 2019
印刷所	株式会社 ぎょうせい
発行日	平成15年(2003)年3月31日

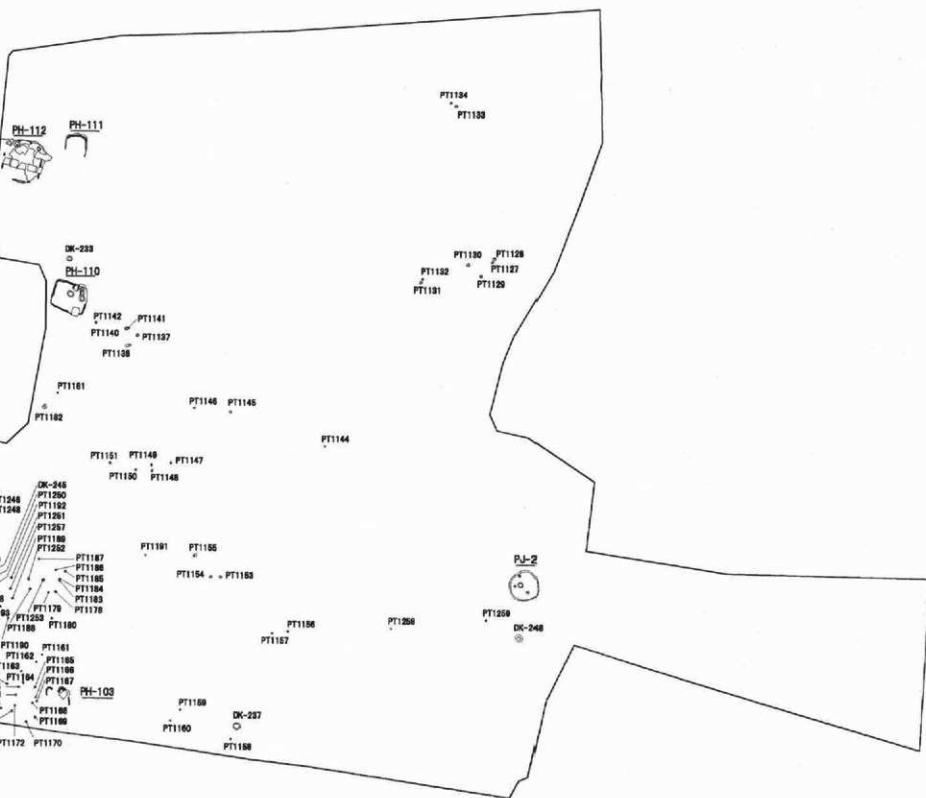
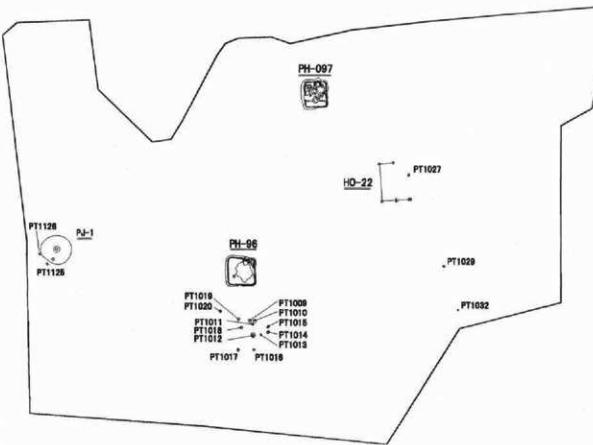
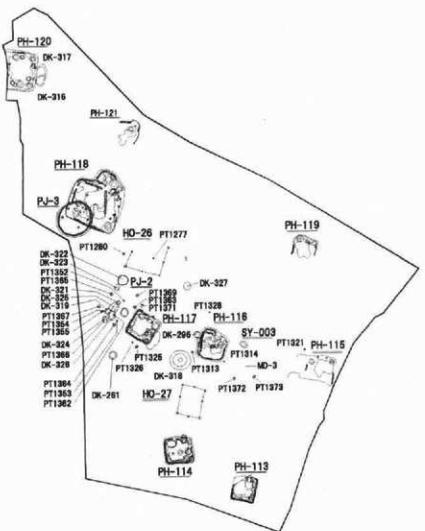
ふりがな	やまなしけんきたこまぐんあけのむらあさおあざうめのき
所在地	山梨県北巨摩郡明野村浅泥字梅之木
位透	北緯35°47' 東経138°27'
調査原因	明野地区黒岩畠地番総合整備事業
調査期間	平成14年5月14日～平成15年3月31日
調査機関	明野村埋蔵文化財センター
調査面積	22,500m ²
時期	縄文時代、弥生時代、平安時代
主な遺構	縄文時代の竪穴住居4軒、土坑1基、弥生時代の土坑5基、平安時代の竪穴住居26軒、据立柱建物7棟、土坑102基、ピット347基
主な遺物	绳文土器、弥生土器、平安時代の三師器、須恵器、灰陶陶器、石製品(腰帶具)、金銀製品(刀子、鉄網)、鐵鏟、羽I、石器
特記事項	「日」、「倭」などの墨書きが出土した。茅ヶ崎西麓では規模が大きい9世紀後半から10世紀後半の集落跡。御牧「摺坂牧」、後院牧「小谷原牧」に開拓した集落の可能性あり。

明野村文化財調査報告 15

梅之木遺跡 II

2003. 3. 31発行

発 行 明野村教育委員会
岐北地域振興局農務部
印 刷 株式会社 もようせい



梅ノ木遺跡II 遺構配置図

